



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25~29年度)
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成28~31年度)

長岡大学COC+事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成28年度報告書



H28地域活性化プログラム
成果発表会



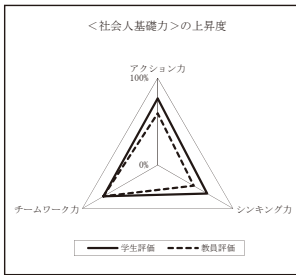
権ゼミ: 地域活性化プログラム
成果発表会



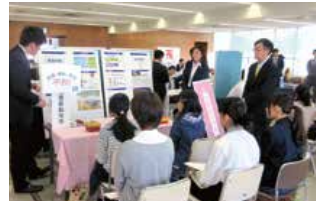
村山ゼミ: HP改善提案
企業見学



新学長 村山光博
(平成28年4月1日就任) 記者会見



H28地域活性化プログラム
参加学生の社会人基礎力上昇度



5/14 インターンシップ
マッチングフェア



2/25 第4回 悠久山・東山フォーラム
「お雛さまとお茶会」



12/6 高齢者と社会政策
「認知症サポーターについて」



11/17 [2016地域連携研究センター
シンポジウム]



10/29 「ボランティアフォーラム」
実施報告



10/30 「子育てシンポジウム」
プラレール

平成25~29年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」 報告 地(知)の拠点

長岡大学 COC
(Center of Community)

長岡地域<創造人材>養成プログラム

長岡市等と連携して地域課題の解決を図る専門的能力を身につけた学生・社会人=<創造人材>を養成!

地域志向の
教育 研究 社会貢献を
推進し、**地域のための大学**を
めざします!

長岡大学 連携 長岡市



8/25 起業家塾集合写真



文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成 25～29 年度）

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成 28～31 年度）

はじめに

—長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進
事業（COC+）」平成 28 年度報告書刊行にあたって—

長岡大学学長 村山 光博



長岡大学の取組み＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラムは、平成 25 年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業＝大学COC事業」（平成 25～29 年度）に採択されましたが、平成 28 年度から、政府の地方創生事業の一環である文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成 28～31 年度）に参加することになりました。内容的には、COC助成期間である平成 28・29 年度はCOC事業を継続展開することになっております。本報告書は、平成 28 年度の事業をとりまとめたものであります。

この大学COC事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。つまり、「地域のための大学」づくりを促進し、大学の機能別分化を進めようとする政策（文部科学省）を反映した事業です。

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、長岡市（平成 25 年度から）および新潟市・新潟県（平成 28 年度から）と連携し、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、3つの地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つ）に応えようとするものです。この事業を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指します。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、一般に専門的職業従事者（科学者等）を指しますが、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされています。

本プログラムでは、長岡大学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指す人材と考えております。

本学申請の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、平成 25 年 8 月に、文部科学省の大学COC（center of community）事業に採択されました。平成 25 年度の採択率は、全国の大学等総申請数ベースで、17.6%（採択 51 件／総申請数 289 件）、私立大学ベースでは、8.3%（15 件／180 件）と非常に低い状況でした。新潟県内では、長岡大学が唯一の採択大学でした。

本学は、採択後、地域連携研究センターおよびCOC事業推進本部を設立し、事業の全学的推進体制を形成し、いわゆるP-D-C-Aサイクルをまわして、事業を推進してきました。本報告書は、その報告でもあります。

最後に、私は平成 28 年 4 月に、長岡大学第 4 代学長に就任しました。前学長の内藤敏樹先生の遺志を継ぎ、本COC+事業を全力で推進する決意であります。

平成 29 年 3 月

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業」（平成 25～29 年度）

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（平成 28～31 年度）

平成 28 年度報告書

・ ・ ・ 目 次 ・ ・ ・

はじめに

－長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

平成 28 年度報告書刊行にあたって－

長岡大学学長 村山 光博

I 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要

- 1 「地（知）の拠点整備事業」（平成 25 年度採択）の概要 …………… 1
- 2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」 …………… 1
- 3 対象地域と地域課題 …………… 2
- 4 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み …………… 3

II 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加

- 1 平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の開始 …… 5
- 2 平成 28 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加 …… 5

III 事業推進体制と平成 28 年度経過報告

- 1 平成 28 年度助成（補助金） …………… 8
- 2 推進体制 …………… 8
- 3 平成 28 年度経過報告 …………… 10

IV ＜教育＞における事業展開

- 1 諸専門能力の養成－教育①－ …………… 15
- 2 地域志向・学修科目－教育②－ …………… 26
- 3 現場感覚・知識の養成－教育③－ …………… 28
- 4 ボランティア・スキルの養成－教育④－ …………… 36
- 5 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）－教育⑤－ …………… 41
- 6 社会人基礎力の養成（インターンシップ）－教育⑥－ …………… 58
- 7 学生起業人材の養成－教育⑦－ …………… 66
- 8 学生満足度調査等の実施－教育⑧－ …………… 77

V ＜研究＞における事業展開

- 9 新潟・長岡地域＜ボランティア活動＞調査研究の実施－研究①－ …………… 94
- 10 ＜新潟県内自治体の将来人口動向＞調査の実施
（平成 27 年度の続編）－研究②－ …………… 112
- 11 地域との共同研究（地域志向教育研究）－研究③－ …………… 115

VI ＜社会貢献＞における事業展開

- 12 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進－社会貢献①－ …………… 119

13	市民向け公開講座・セミナーの開催－社会貢献②－	130
14	企業人向けセミナーの開催－社会貢献③－	143
15	起業人材養成セミナーの開催－社会貢献④－	150
VII	＜全体＞における事業展開	
16	推進体制の整備－全体①－	156
17	推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－	166
18	本事業の広報の充実－全体③－	169
VIII	＜COC事業の各年度評価＞（文部科学省への提出文書）	
19	平成25年度	197
	（1）平成25年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）	197
	（2）平成25年度フォローアップ	200
	（学長としての事業総括及び採択の際に通知した別紙における対応状況）	
20	平成26年度	201
	（3）平成26年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）	201
	（4）平成26年度長岡大学「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業 大学独自調査結果・全体とりまとめ	206
21	平成27年度	209
	（5）平成27年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）	209
	（6）平成27年度長岡大学「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業 大学独自調査結果・全体とりまとめ	214
	（7）平成27年度フォローアップ （選定時の申請書における達成目標の進捗状況）	217
IX	＜平成28年度評価＞	
22	－書面審査資料①－平成28年度進捗状況報告書	218
	書面審査資料②－平成28年度進捗状況報告書別添資料	240
	面接審査資料③－面接評価事前質問票・ご回答	246
	評価結果資料④－平成28年度評価 評価結果及び評価要項	249
	評価結果資料⑤－COC事業「平成28年度評価」結果について	256

I 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要

1 「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要

長岡大学が平成25年度に採択された「地（知）の拠点整備事業」の概要は、次の通りである。

大学名	長岡大学
事業名	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
申請者	内藤敏樹 学長
連携する自治体	長岡市
企業等各種団体・機関	長岡商工会議所、日本政策金融公庫長岡支店、一般社団法人全国信用組合中央協会、公益社団法人中越防災安全推進機構、株式会社北越銀行、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、NPO法人市民協働ネットワーク長岡
学部等	経済経営学部
申請経費	平成25～29年度（5年間、年補助上限5,800万円）
事業概要（400字以内）	<p>本プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この地域課題に答えようとするものである。</p> <p>教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。</p> <p>研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。</p> <p>社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。</p> <p>以上の事業の推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【398字】</p>

2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」

(1) 長岡大学の「地域志向」の位置づけ

本学の「地域志向」は、次の2つの＜建学の精神＞に位置づけられている。

＊幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

＊地域社会に貢献し得る人材の育成

より具体的には、次の理念・目標に表現される。

☆経済経営系の大学として、地域産業の人材ニーズに応えた実践的な能力を身につけた若者人材をおくりだし、地域経済の発展に貢献する。

☆大学の知的資産の活用により、市民・企業人向け講座により学習機会を提供するとともに、地域課題研究成果の還元や地域活性化に積極的に取り組む。

この基本的観点が、教育、研究、社会貢献に貫かれている。「地域志向」の内容は次の通りである。

(2) 教育・研究・社会貢献の「地域志向」

★教育面・・・本学の教育（産学融合教育プログラム）は、大きく、専門教育（資格対応型専門教育プログラム）とキャリア教育（ビジネス展開能力開発・産学連携キャリア開発教育プログラム＝社会人基礎力養成）から構成されている。平成 18～21 年度に選定された 2 つの文部科学省・現代 G P 教育プログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム」および「学生による地域活性化提案プログラム」）は、主として、後者のプログラムであり、地域志向の教育（地域の企業との連携により、企業講師、現場・企業体験、地域課題解決授業等）を導入し、成果をあげた（こうした実践的能力形成により、就職内定率は向上、平成 25 年 3 月卒業生の就職内定率は 99.0%）。

今回は、これまでの成果の上にたち、地域課題解決をより明確に意識したく地域連携型キャリア教育として発展させ、将来の地域社会の発展を担う＜創造人材＞（課題解決型・価値創造型専門人材）の育成をめざす。

★研究面・・・地域課題解決（主として新潟・長岡地域）に関する本学教員の調査・研究は、国（科学研究費等）や自治体（受託調査研究等）等の研究資金を確保して展開されてきた（教員個人、地域研究センター等）。個々の教員の県内地域課題の調査研究（産業等）成果の地域への還元は、情報発信等（公開シンポジウム、研究年報等）の形で毎年行っている。同時に、地域課題解決型の受託調査研究（国の M O T 人材育成教育、新潟県の起業家教育等競争的資金）が、新たな社会貢献事業（社会人学び直しイノベーション人材養成講座、地域若者起業家塾）の開始につながり、継続し、企業の専門人材育成に役立っている。

今回は、この成果の上に立ち、長岡市等との問題意識の協議を経て地域課題解決研究テーマを設定する＜地域課題対応型連携研究＞を展開し、その成果を教育と地域社会に還元する。とくに、創造人材育成や人口減少への対応、産業競争力強化など、地域の発展に不可欠な課題解決テーマに取り組む。

★社会貢献面・・・本学独自の社会貢献組織（地域研究センター、生涯学習センター）により、地域の課題・ニーズに対応した自主研究、受託研究、人材育成講座及び情報発信（公開シンポジウム、講演会、研究年報等）を継続的に行い、高い評価を得てきた（大学の地域貢献度ランキング調査で全国上位にランクされる）。

今回は、まず、地域研究センターと生涯学習センターを再編・一本化した「地域連携研究センター」を設立し、社会貢献事業の推進組織面での強化、拡大を図る。その上で、上記の＜連携研究＞による地域還元の推進のほか、市民、企業人の＜創造人材＞育成に注力するとともに、本学総体での、様々な地域活性化の活動領域への積極的参加をめざすことで、＜地域活性化と人材育成＞を推進する。

3 対象地域と地域課題

当プログラムの対象地域は、新潟県長岡市である。長岡市は、平成 17～22 年の間に 11 市町村の合併により誕生した（長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、川口町の 11 市町村）。

本学の人的資源（経済経営系学部の人材）やこの間の地域活性化の取り組み実績を踏まえ、今回の申請による解決を図ろうとする長岡地域の課題を整理すると、次の通りである。

★まず第1の課題として、産業の活性化による地域経済の発展をあげなくてはならない。経済のグローバル化に伴う国内外の企業・産業大競争における生き残りをめざして、長岡地域の企業・産業の競争力の向上により、地域の就業機会を維持・拡大し、産業空洞化を回避しなければならない。同時に、創業・起業活性化による新産業を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の発展を図る必要がある。その鍵は、価値を生む人材育成にあり、そこに焦点を絞って、産官学の連携で強力に推進する必要がある。

★第2は、市民協働による社会課題の解決である。少子高齢化や環境問題等に伴う市民生活上の社会諸課題の改善・解決である。高齢社会の進展に伴う健康（スポーツ等）、医療、福祉（介護制度等）の問題、地域社会活性化をリードする教育・文化（祭り、イベント等）、国際交流の促進、さらに深化する環境問題（3R、環境教育、環境経営、自然環境等）など、多様な市民生活上の課題解決への取り組みが求められている。行政の施策と連携した市民協働（ボランティア活動等）の広がりによる対応が不可欠であり、そうした課題解決を担う人材の育成が重要になる。

★第3に、地域・コミュニティの活性化をあげなくてはならない。少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の劣化が見られる。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、喫緊の大きな課題となっている。各地の地域資源（歴史・文化・産業等）の発掘や地域間交流の活発化等による〈脱衰退・新しい活性化〉が、里山地域から中山間地域まで、求められている。市民協働活動の充実・拡大とボランティア人材の養成により、地域・コミュニティの活性化を推進する必要がある。

4 長岡大学「長岡地域〈創造人材〉養成プログラム」の全体の枠組み

本学の「長岡地域〈創造人材〉養成プログラム」の全体の概要は、図表1-4-1に示す通りである。

(1) 地域課題と創造人材

地域課題は、産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つに設定している。本プログラムは、こうした地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝〈創造人材〉の養成を通して、この3つの地域課題に応えようとするものである。

★〈創造人材 Creative Talents〉とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指す。近年の研究（R. フロリダ等）で、〈創造人材〉が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされた。本申請では、本学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指すものとする。

(2) 教育面（地域連携型キャリア教育）

3つの地域課題に対応できる教育として、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目（キャリア教育）における社会人基礎力（社会人として通用する能力）等の養成、

の3つを行う。①は上級の情報や専門資格取得による専門人材育成、②は19科目から33科目に拡大、③は、ボランティア活動への参加（社会貢献）を通じたボランティア・スキルの養成、課題解決提案（社会貢献）を通じた社会人基礎力の養成などを行う。産業活性化の課題にたいしては、④学生起業人材の養成を行う。これにより、起業家予備人材の輩出と地域の学生の起業家精神の涵養をめざす。

教育面では、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

（3）研究面（地域課題対応型連携研究）

研究面では、①地域への研究成果の還元、②地域との共同研究、に取り組む。①は、3つの地域課題解明・解決に関する、創造人材・人口減少・ボランティア活動等の3つの共同研究、及び、産業活性化に資する産業競争力研究、にそれぞれ取り組み、その成果の地域還元（公開シンポジウム等）を行う。②は、本学教員の地域志向型教育研究による共同研究であり、これも活発化し、地域課題解決に資する。

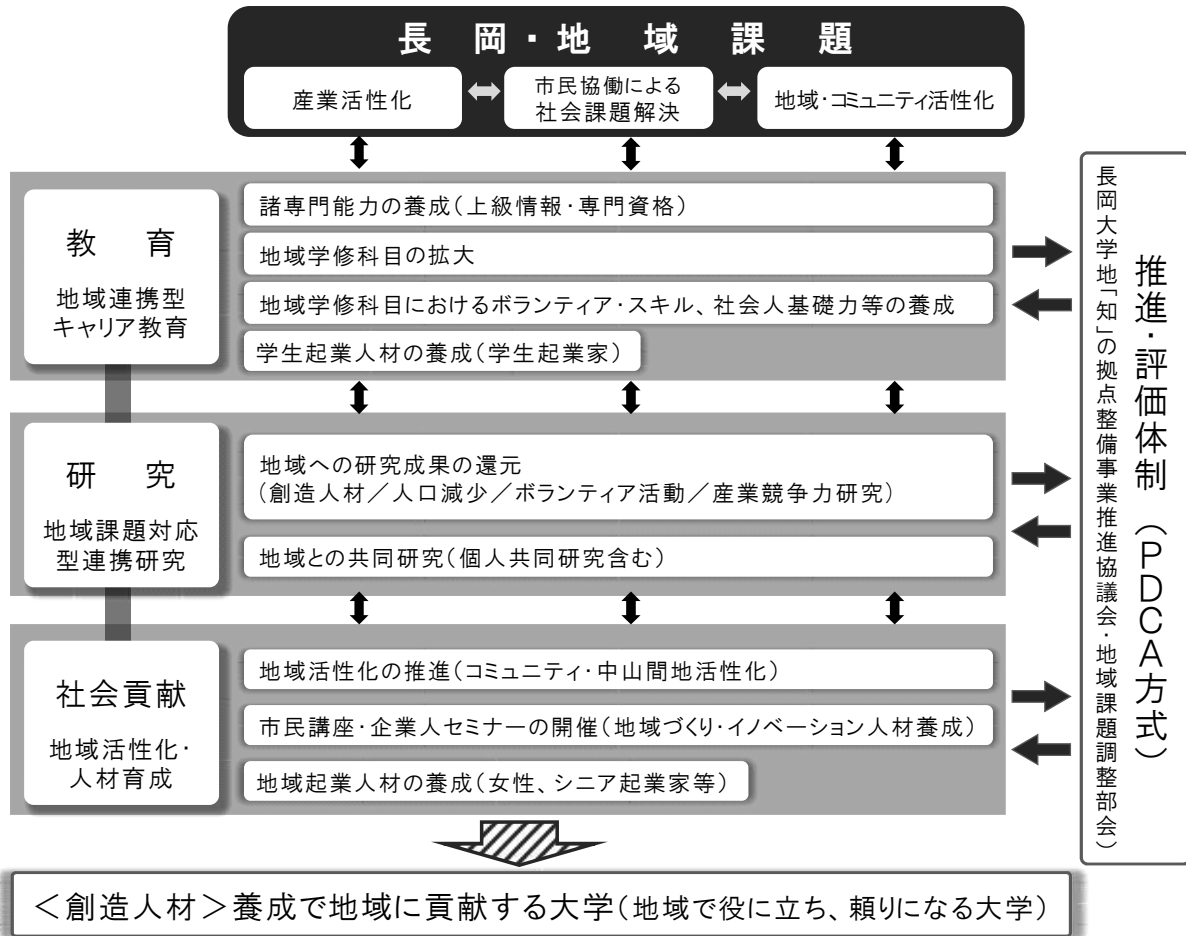
（4）社会貢献（地域活性化と人材育成）

社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民公開講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、の3つの事業に取り組む。①は3地域課題に対応して、教育面の学生の地域活性化・ボランティア活動と連携するとともに、本学立地地区（悠久山地区）の活性化等から他の地域活性化に拡大して、取り組む。②は、市民公開講座で課題解決をめざした地域づくり人材・ボランティア養成、企業人セミナーでイノベーション人材を養成し、企業価値創造・企業競争力強化に取り組む。③は女性・シニア含む起業家育成による創業・起業、ソーシャルビジネス起こしを促進し、新産業育成に資する。

（5）大学改革の方向

以上の事業の着実な推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと改革する。「地域に役立つ大学」は、長岡の伝統である＜米百俵の精神＞の現代における継承・実現でもある。そのため、カリキュラムの見直し・改革（地域学修科目、とくにボランティア科目、地域活性化科目、起業家塾の拡大・充実）の推進、地域連携（長岡市等）の強化、さらに、地域志向事業全般の推進・評価体制（地域連携研究センター設立等とPDCAの徹底）の確立を図る。

図表 1-4-1 長岡地域<創造人材>養成プログラム 全体図



II 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加

1 平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の開始

政府の地方創生政策の一環として、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が開始され、新潟県では、新潟大学の申請事業<「ひと・まち・しごと」創生を循環させるN I I G A T A人材の育成と定着>が申請し、採択された。

2 平成 28 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加

長岡大学は、文部科学省の指示を受けて、平成 28 年度から、新潟大学のCOC+事業<「ひと・まち・しごと」創生を循環させるN I I G A T A人材の育成と定着>に参加することになった。

参加報告に関する資料は、図表 2-2-1 に示す通りである。

具体的には、①平成 28・29 年度は、大学COC事業として継続する（助成も）、②COC+としては、インターンシップ事業および企業経営・産業振興に繋がる地域イノベーティブな人材の育成（社会人の学び直し）など参加する、ことになる。

.....

平成28年3月29日

文部科学省高等教育局大学振興課 御中

国立大学法人新潟大学
新潟大学長 高橋 姿

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）における
事業協働機関追加等に伴う事業計画の変更について

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 取組名称

「ひと・まち・しごと」創生を循環させるNIIIGATA人材の育成と定着

2. 変更する事業協働機関の内容

(1) 参加大学

平成25年度COC採択大学であり、本事業の協力大学でもある「長岡大学」をCOC+参加大学として事業協働機関に加え、事業目標の達成を目指す。

(2) その他

本事業の協力大学として、「新潟経営大学」を追加する。

2. 変更する実施内容、実施方法等

(1) 役割分担（コストシェア）の変更内容

<p>「長岡大学」をCOC+参加大学として事業協働機関に加える。</p> <p><関連事業1>新潟県内の地域特性や特色を理解するための体系的インターンシップ</p> <p>新潟県内でも特に長岡地域を中心として、地域特性や産業の理解、地元企業の認知度を高めるインターンシップを、学士課程のカリキュラムに位置付ける取組みに参加する。</p> <p><関連事業2>地域活性化／産業振興：社会人の学び直し</p> <p>企業経営・産業振興に繋がる地域イノベティブな人材を育成するプログラムに参加する。</p>

<p>「新潟経営大学」を COC+協力大学に加える。</p> <p><関連事業2>地域活性化／産業振興：ブランディングによる新潟の魅力開発と地域活性化</p> <p>観光経営学部をもつ「新潟経営大学」は、地域の産業と観光をコーディネートする視点から、新潟県全域を対象とした「新潟の潜在的な魅力の発掘」、「ブランド化の提案」、「国内外への情報発信」に協力する。</p>

(2) 事業規模（補助金申請額及び大学負担額）の変更内容

「長岡大学」は平成 25 年度<地(知)の拠点整備事業>に採択されており、平成 29 年度末までの事業計画に沿って長岡地域を中心に事業を展開する。

本 COC+事業は長岡地域を包含する新潟県を事業協働地域としているので、「長岡大学」が参加大学として加われば、中越地域の重要な拠点大学として事業規模の拡大に大きく寄与する。

COC 大学として実施するインターンシップ事業と、公開講座の充実による社会貢献事業については、COC+事業と協働して実施できるよう密接に連絡調整を行うことで、COC+参加大学としての役割を果たし、効率的な事業経費の運用により、COC+事業経費として平成 28 年度と平成 29 年度の配分が節約できる。

平成 30 年度以降は COC 採択大学としての補助金事業が終了するが、本 COC+事業へは継続して参加し、新潟県下全域での人口減少の阻止、雇用創出、人口流入策について、参加大学として事業協働して実施し、参加大学として事業経費の配分をうける。

「新潟経営大学」は本 COC+事業の一部（ブランディング）に加わり協力する。事業規模に変更はない。

(3) 各年度の実施計画の変更内容

「長岡大学」は長岡地域におけるインターンシップ授業科目等の開発を行うとともに、社会人学びなおし「地域創生講座」等の課題設計に参加する。

4. 変更について事業協働機関で合意した時期

「長岡大学」の参加大学への追加については、平成 27 年 1 月 16 日開催の COC+連携協議会（協議の場）で合意した。

「新潟経営大学」の協力大学への追加については、新潟県の仲介で平成 28 年 2 月 10 日に COC+大学（本学）と新潟経営大学で合意した。直近の COC+連絡協議会（協議の場）で報告後了承を得る。

.....

Ⅲ 事業推進体制と平成28年度経過報告

1 平成28年度助成（補助金）

平成28年度の文部科学省からの助成（補助金）は、23,400千円である。なお、平成25年度の助成（補助金）は、32,231千円、平成26年度は47,542千円、平成27年度は45,439千円であった。

2 推進体制

(1) 事業担当部門

- ・1次事業担当・・・COC事業は17事業（教育7、研究3、社会貢献7）からなるが、この事業の直接の推進担当は、教員＋事務の2名が担う。
- ・事業担当事務組織・・・この1次担当を支援する事務組織は、教育事業は教務学生課＋地域連携室、研究は総務課＋地域連携室、社会貢献は地域連携室とした。
- ・地域連携研究センター・・・地域連携研究センターはCOC事業以外の事業も担うので、COC事業については、市民公開講座分野を市民講座部会、研究分野を調査研究部会、社会貢献分野を地域連携部会で担うこととした。当センターの事務は地域連携室が担う。
- ・推進本部・・・地（知）の拠点整備事業推進本部は、OC事業全体企画・推進・点検（PDCAサイクル）を担う全学組織である。事務は地域連携室が担う。
- ・COC関連広報機能は、広報会議（教員＋事務担当者）を立ち上げ、学務・総務課と連携して地域連携室が担う。

(2) 地域連携研究センター

- ・同センター所長－学長（村山光博）、総括マネージャー－原田誠司。
- ・地域連携研究センター運営委員会・・・次の陣容で構成した。月1回開催。運営委員長－原田、市民講座担当運営委員－山川、牧野、調査研究担当運営委員－小松、西俣、地域連携担当－米山、広田、無任所運営委員－栗井、鈴木、地域連携室長－品川、地域連携室－小田原、山田（書記）。
- ・各部会・・・市民講座部会：部会長＝山川、副部会長＝牧野、部会員＝兒嶋、品川、小田原（書記）。調査研究部会：部会長＝小松、副部会長＝西俣、部会員＝米山、松本、栗井、鈴木、原田、小田原（書記）。地域連携部会：部会長＝米山、副部会長＝広田、部会員＝小松、栗井、鈴木、原田、品川、山田、小田原（書記）。情報共有のため、必ず、議事要旨をセンター運営委員およびCOC推進事務局員に送信する。
- ・センター独自業務・・・論叢、年報、受託調査等、NAZE等連携、その他の各業務は担当者と地域連携室で担う。

(3) COC事業推進本部

- ・平成28年度地（知）の拠点整備事業推進本部・・・平成28年度は次の委員で構成し、月1回の会議で、進捗状況をチェックする。本部委員（各事業の事務＋教員の担当者）は次の通り。

*推進本部長・村山光博（学長）、推進副本部長・鯉江康正（副学長）、原田誠司（地域連携研究センター総括マネージャー）

*推進本部委員・中村大輔（教務委員長／資格／現場）、米山宗久（ボランティア／ボランティア調査／地域活性化）、西俣先子（インターンシップ等／満足度調査等／FD）、小松俊樹（学生起業人材／企業人セミナー／地域起業人材セミナー）、栗井英大（地域志向研究／地域起業人材セミナー／NAZE）、広田秀樹（学生委員／地域活性化）、鈴木章浩（企業人セミナー／NAZE）、山川智子（就職委員／市民公開講座／資格）、松本和明（図書館委員長／論叢）、牧野智一（学生委員長／市民講座）、兒嶋俊郎（市民公開講座／まちキャン）、吉川宏之（就職委員長）、関義夫（自己点検）、品川十英（事務局長／地域連携室長）、井比亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、笠井万里加、近藤弘康、長谷川雅英、高梨由紀子（以上、教務学生課）、浜松大輔（就職支援室）、小田原弘貴、山田満智子（書記）（以上、地域連携室）、以上26名。

（4）COC運営事務局会議

・運営事務局会議・・・次のメンバーで、毎週火曜日に会議をもち、その結果を事務局会議通信として、全教職員に発信し、情報共有を図る。

座長：原田誠司（副本部長）、メンバー：米山宗久（地域連携部会長・准教授）、品川十英（事務局長・地域連携室長）、井比亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、小田原弘貴（地域連携室長）、山田満智子（書記）。オブザーバーとして村山学長参加。

（5）推進協議会

・長岡市を始めとする地域連携機関との連携により、長岡大学COC事業の企画・展開・点検（PDCA）を推進する場として、「長岡大学地（知）の拠点整備事業推進協議会」を設置する。年1～2回開催。メンバーは次の通り。

会長／議長 村山光博 長岡大学学長／教授

<連携機関等委員（敬称略）>

佐藤 実 長岡市地方創生推進部政策企画課長

深澤寿幸 長岡市商工部工業振興課長

長谷川和明 長岡商工会議所事務局次長

松田勝彦 日本政策金融公庫長岡支店長

横澤正直 株式会社北越銀行コンサルティング営業部副部長

山田哲也 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE事務局長

渡辺美子 NPO法人市民協働ネットワーク長岡センター長

諸橋和行 公益社団法人中越防災安全推進機構業地域防災力センター長

中村英樹 公益財団法人山の暮らし再生機構専務理事

<大学側委員>

*上記の推進本部委員が大学側協議会委員を務める

・地域課題調整部会

地域連携機関との連携を密にし、協同で事業推進を図るため、月1回、月末の月曜日に調整部会を開催する。メンバーは、次の通りである。

倉部和典 長岡市地方創生推進部政策企画課係長

名塚正和 長岡市商工部工業振興課工業振興係長

渡邊 聡 長岡商工会議所営業推進部産業課工業係長

原田誠司、米山宗久、小田原弘貴（長岡大学側メンバー）

(6) 「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進組織

村山光博（学長） 新潟地域創生協議会（平成28年4月1日より）

原田誠司（総括マネージャー） 教育プログラム開発委員会（平成28年4月1日より）

事業評価検証部会（平成28年11月16日より）

品川十英（事務局長） 企画調整部会（平成28年4月1日より）

浜松大輔（就職支援室職員） インターンシップ改革WG（平成28年度 12月20日より）

3 平成28年度経過報告

<平成28（2016）年>

実施日	事業内容
4月1日（金）	長岡市主催平成28年度ものづくり支援事業説明会講師派遣
4月8日（金）	平成27年度大学改革推進等実績報告書提出
4月19日（火）	平成28年度第1回推進本部（平成28年度COC推進体制・事業方針・予算・文科省アンケート実施について、平成27年度実績報告等）
4月25日（月）	・平成28年度第1回地域課題調整部会 ・新潟大学主催：地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+）第1回COC+企画・調整部会に出席
4月26日（火）	平成28年度地域連携研究センター第1回運営委員会
5月3日（火）	平成28年度地域連携研究センター第1回市民講座部会
5月10日（火）	平成28年度地域連携研究センター第1回地域連携部会
5月11日（水）	平成28年度地域連携研究センター第1回調査研究部会
5月14日（土）	インターンシップマッチングフェア長岡に参加
5月17日（火）	平成28年度第2回推進本部（平成28年度事業計画作成、地域志向教育研究募集、主なスケジュール）
5月21日（土）	インターンシップマッチングフェア新潟に参加
5月24日（火）	平成28年度地域連携研究センター第2回運営委員会
5月26日（木）	平成27年度COCフォローアップ・アンケート提出
5月30日（月）	平成28年度第2回地域課題調整部会
6月6日（月）	市民公開講座「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」～7/4（月）：5回

実施日	事業内容
6月7日(火)	平成28年度地域連携研究センター第2回市民講座部会
6月8日(水)	平成28年度地域連携研究センター第2回調査研究部会
6月9日(木)	平成28年度新潟県内国立大学法人新採用職員研修に参加：長岡技術科学大学
6月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度第3回推進本部（事業進捗、平成27年度フォローアップ報告、平成27年度COCアンケートとりまとめ、平成28年度事業計画修正・補強、平成28年度COC+推進協議会、主なスケジュール） 平成28年度地域連携研究センター第2回地域連携部会
6月17日(金)	第1回ボランティア調査研究会
6月21日(火)	平成28年度地域連携研究センター第3回運営委員会
6月22日(水)	平成28年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会
6月23日(木)	市民公開講座「記紀神話を読む：前編」～7/21(木)全3回
6月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度第3回地域課題調整部会 第2回ボランティア調査研究会
7月5日(火)	平成28年度地域連携研究センター第3回市民講座部会
7月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度地域連携研究センター第3回地域連携部会 平成28年度長岡大学講演会「目指せ！学生起業家」
7月13日(水)	平成28年度地域連携研究センター第3回調査研究部会
7月14日(木)	女性のための起業セミナー～8/10(水)全5回
7月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度第4回推進本部（平成28年度事業進捗、平成28年度COC+事業、平成28年度書面評価、長岡市創生事業の委託、当面のスケジュール） 平成28年度地域連携研究センター第4回運営委員会
7月20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」平成28年度評価進捗状況報告書提出 ボランティア・アンケート調査票発送
7月25日(月)	平成28年度第4回地域課題調整部会
7月27日(水)	第1回職員FD／SD研修会「学習の動機付けと資格取得について」
7月28日(木)	新潟大学主催：地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+） 第2回新潟地域創生協議会に出席
7月30日(土)	教育IRセミナーに参加：京都市
8月2日(火)	平成28年度大学改革推進等補助金（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）交付決定
8月5日(金)	簿記指導者セミナーに参加：東京都
8月22日(月)	「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」シンポジウム —地域の未来創生に向けた新潟の魅力発見—
8月29日(月)	平成28年度第5回地域課題調整部会
8月29日(月) ～30日(火)	第6回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラムに参加

実施日	事業内容
8月31日(水)	第2回職員FD/S D研修会「長岡大学中期計画」「ハラスメント防止対策について」
9月9日(金)	市民公開講座「メンタルヘルス・マネジメント」～10/7(金)全5回
9月13日(火)	・平成28年度第5回推進本部(平成28年度事業進捗、平成28年度COC+事業、平成28年度面接評価、長岡市創生事業の委託、当面のスケジュール) ・平成28年度地域連携研究センター第4回地域連携部会 ・イノベーション人材養成講座「実践!商品企画講座」～10/11(火)全8回
9月16日(金)	平成28年度地域連携研究センター第4回調査研究部会
9月18日(日)	キャリア教育実践講習会に参加:新潟市
9月20日(火)	・平成28年度地域連携研究センター第5回運営委員会 ・市民公開講座「初級簿記講座」～11/17(木)全15回
9月26日(月)	平成28年度第6回地域課題調整部会
9月29日(木)	平成28年度評価 面接審査
10月4日(火)	平成28年度地域連携研究センター第5回市民講座部会
10月11日(火)	平成28年度第6回推進本部(平成28年度事業進捗、平成28年度COC+事業、平成28年度面接評価を受けて、長岡市創生事業の委託、当面のスケジュール)
10月12日(水)	平成28年度地域連携研究センター第5回調査研究部会
10月18日(火)	平成28年度地域連携研究センター第5回地域連携部会
10月19日(水)	市民公開講座「近代東アジアの日本—批判的検討—」～11/23(水)全6回
10月22日(月)	アクティブラーニングワークショップ「タクナル」に参加
10月25日(火)	平成28年度地域連携研究センター第6回運営委員会
10月26日(水)	第3回職員FD/S D研修会「職員力とは何か—戦略的大学の職員養成—」
10月29日(土)	ボランティアフォーラム「ボランティア活動で自分発見!」
10月30日(日)	子育てシンポジウム「子育ては、親育ち、人育ち!」
10月31日(月)	平成28年度第7回地域課題調整部会
11月1日(火)	・市民公開講座「外山脩造の足跡と活動」～11/29(火)全5回 ・平成28年度地域連携研究センター第6回市民講座部会
11月2日(水)	新潟大学主催:地(知)の拠点大学による地方創生推進協議会(COC+)第3回企画・調整部会に出席
11月6日(日)	平成28年度長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」開催
11月8日(火)	平成28年度地域連携研究センター第6回地域連携部会
11月9日(水)	イノベーション人材養成講座「実践!中小企業の事業承継プラン作成講座」～11/24(木)全3回
11月10日(木)	市民公開講座「記紀神話を読む:後編」～11/24(木)全3回

実施日	事業内容
11月15日（火）	平成28年度第7回推進本部（平成28年度事業進捗、平成28年度COC+事業、平成29年度地域志向科目、長岡市創生事業の委託、当面のスケジュール）
11月16日（水）	平成28年度地域連携研究センター第6回調査研究部会
11月18日（金）	2016地域連携研究センターシンポジウム「ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！」開催
11月22日（火）	平成28年度地域連携研究センター第7回運営委員会
11月28日（月）	平成28年度第8回地域課題調整部会
11月30日（水）	第4回職員FD／SD研修会「災害にいかに向き合うか」
12月1日（木）	イノベーション人材養成講座「管理会計講座」～2/9（木）全5回
12月3日（土）	学生のための地域活性化プログラム成果発表会開催
12月5日（月）	新潟大学主催：地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+） 第1回事業評価検証部会に出席
12月6日（火）	平成28年度地域連携研究センター第7回市民講座部会
12月13日（火）	・平成28年度第7回推進本部（平成28年度事業進捗、平成28年度COC+当面の事業、平成29年度COC+事業報告書作成、当面のスケジュール） ・平成28年度地域連携研究センター第7回地域連携部会
12月14日（水）	平成28年度地域連携研究センター第7回調査研究部会
12月16日（金）	SD義務化対策セミナー参加：東京都
12月20日（火）	・平成28年度地域連携研究センター第8回運営委員会 ・新潟大学主催：地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+） 第4回企画・調整部会、第3回事業プロジェクト推進部会に出席
12月22日（木）	学生満足度調査実施（約2週間）

<平成29年（2017）年>

1月10日（火）	・平成28年度地域連携研究センター第8回地域連携部会 ・平成28年度地域連携研究センター第8回市民講座部会
1月11日（水）	平成28年度地域連携研究センター第8回調査研究部会
1月17日（火）	・平成28年度第9回推進本部（事業進捗、COC+、当面する事業、平成28年度COC事業広告書の作成） ・平成28年度地域連携研究センター第8回運営委員会
1月21日（土）	創業セミナー ～2/18（土）全5回
1月26日（木）	新潟大学主催：地（知）の拠点大学による地方創生推進協議会（COC+） 第5回企画・調整部会に出席
1月30日（月）	平成28年度第9回地域課題調整部会
2月7日（火）	・平成28年度第10回推進本部（事業進捗、COC+、当面する事業、平成28年度COC事業広告書の作成） ・平成28年度地域連携研究センター第9回運営委員会 ・平成28年度地域連携研究センター第9回市民講座部会
2月8日（水）	平成28年度地域連携研究センター第9回調査研究部会

実施日	事業内容
2月9日(木)	平成28年度地域連携研究センター第9回地域連携部会
2月15日(水)	第5回職員FD/SD研修会：「アカデミック・アドバイザー制度の点検と改善について」「授業アンケートの改善について」ラーニング・コモンズの展開について」「PROGの分析結果とその活用方法についての確認と意見交換」「(公財)内田エネルギー科学振興財団からの事業費助成及び長岡市市民活動補助金について」「長岡大学“三つの方針”(案)について」
2月16日(木)	新潟大学主催：地(知)の拠点大学による地方創生推進協議会(COC+)第6回企画・調整部会に出席
2月21日(火)	インターンシップフォーラム長岡に参加(学生発表)
2月22日(水)	平成28年度地域志向教育研究成果発表会開催
2月24日(金)	インターンシップフォーラム新潟に参加
2月25日(土)	第4回 悠久山・東山フォーラム「お雛さまとお茶会」
2月27日(月)	平成28年度第10回地域課題調整部会
3月3日(金)	新潟大学主催：地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)第3回地域創生協議会に出席
3月4日(土) ～3月5日(日)	2016年度第22回FDフォーラム「大学の教育力を発信する」に参加：京都市
3月6日(月) ～3月7日(火)	平成28年度COC/COC+全国シンポジウムに参加：高知市
3月8日(水)	第6回職員FD/SD：「SD義務化について」「長岡大学“三つの方針”(案)について」「満足度調査等の結果共有と意見交換」「COC+の進捗状況と意見交換」
3月13日(月)	新潟大学主催：地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)COC+事業・外部評価委員会に出席
3月14日(火)	平成28年度第11回推進本部(事業進捗、COC+、平成28年度COC事業報告書の作成)

IV <教育>における事業展開

1 諸専門能力の養成－教育①－

(1) 方針（申請時）

・資格対応専門教育プログラムにおいては、学卒生に求められる上級情報処理能力（ITパスポート、Excel/Word 1・2級等）と専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級等）の取得を、正規授業に加えて、対策講座の充実により推進する。学生SAも十分に活用する。

(2) 目標（申請時）

・平成25年度→情報資格取得者各学年20%、専門資格取得者各学年10%。
・平成29年度→同情報資格の取得目標－卒業生数の60%
→同専門資格の取得目標－卒業生数の40%

(3) 平成25年度実績と評価

（上級資格受験結果・総数ベース）

・上級情報資格：受験総数78名、合格者数43名、合格率55.1%（43名/78名）
・上級専門資格：受験総数37名、合格者数18名、合格率48.9%（18名/37名）

（資格直前対策講座実施結果）

・講座受講総数57名、検定受験割合：63.2%（36名）、検定合格率：58.3%（21名/36名）
（評価）

・総数ベース（資格直前対策講座受講者以外の受験者も含めた総数）で見ると、上級情報資格、上級専門資格ともに、合格率は50%前後でまあまあであったが、在籍学生数に占める割合は低い。平成25年度目標値（20%、10%）に達しなかった。

・上級資格直前対策講座の実施結果については、検定受験割合は60%台で、検定合格率も60%弱で、対策講座の効果はあったと言える。

・今後の課題は、大学全体の上級資格受験者数を増やすことである。そのためには、直前対策講座の受講者数を増やすことがポイントになる。そのために、ゼミ教員の指導、講座・受験情報の周知、そして何よりも学生の動機付けが重要になる。一段の工夫が求められる。

(4) 平成26年度実績と評価

（上級資格受験結果・総数ベース）

・上級情報資格：受験総数74名、合格者数33名、合格率44.6%（33名/74名）
・上級専門資格：受験総数31名、合格者数8名、合格率25.8%（8名/31名）

（資格直前対策講座実施結果）

・講座受講総数38名、検定受験割合：39.5%（15名）、検定合格率：53.3%（8名）

＊内訳→上級情報資格受験者7名、検定合格率71.4%（5名/7名）

上級専門資格受験者8名、検定合格率37.5%（3名/8名）

（初級～上級資格全体の受験結果）

・情報資格：受験総数132名、合格者数65名、合格率49.2%（65名/132名）
・専門資格：受験総数108名、合格者数30名、合格率27.8%（30名/108名）

(評価)

- ・平成 26 年度は資格取得支援センター C O S をスタートさせ、年間の学生利用者数は 1500 名を超え、盛況であった。資格以外の授業、学生生活に関する相談も多かった。
- ・資格取得状況を総数ベースで見ると、上級情報資格は、受験総数は前年度水準だが、合格者数・率ともにやや低下した。これに対し、上級専門資格は受験総数、合格者数・率ともに大幅に低下した。
- ・資格直前対策講座については、講座受講者数、検定受験割合が前年度より低下したが、検定合格率はほぼ同水準を維持した。講座受講者の内訳をみると、総数ベースの合格率と比べ、上級情報資格、上級専門資格の合格率はいずれも高い。
- ・初級から上級資格全体の受験状況をみると、情報資格は、受験者 132 名、合格者 65 名、合格率約 50% (49.2%) であった。専門資格は、受験者 108 名、合格者 30 名、合格率 30%弱 (27.8%) であった。
- ・初級資格受験状況をみると、1 年生の受験実績が圧倒的に大きい。初級情報資格では、1 年生受験者 45 名、合格率 66.7% (30 名) と高い。初級専門資格も、1 年生受験者 31 名、合格率 31.3% (10 名) である。1 年生で、初級の資格取得が重要である。
- ・以上から、次年度は、ゼミ資格取得支援センターの連携を密にして、初級～上級の資格取得へのチャレンジをさらに拡大すること、< 1 年生 = 初級資格、2～3 年生 = 上級資格取得 > の推進、直前対策講座の充実 (とくに専門資格)、学生の受講しやすい講座時間・講座の仕方などをより具体化する必要がある。
- ・平成 26 年度の目標の達成度については、4 年生はまあまあであったが、3 年生以下は目標との乖離が大きい。4 年生 (卒業生) の目標は、「上級 I T 資格保有者 40%、同専門資格保有者 15%」であったが、図表 4-1-1 に見るように、それぞれ、34.7%、15.2% であった。しかし、平成 29 年度の達成目標 (上級 I T 資格保有者 60%、同専門資格保有者 40%) とはかなり差がある。今後目標達成に向けた方策を十分検討する必要がある。

図表 4-1-1 平成 26 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	34.7% (32/92)	15.2% (14/92)
3 年生	31.7% (20/63)	6.3% (4/63)
2 年生	25.9% (15/58)	5.1% (3/58)
1 年生	0% (0/85)	1.1% (1/85)

(注) 計算方法 = 各年次の資格保有者数 (実質人数) ÷ 各年次の在籍者数

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

(上級資格受験結果・総数ベース)

- ・上級情報資格：受験総数 82 名、合格者数 46 名、合格率 56.1% (46 名/82 名)
- ・上級専門資格：受験総数 25 名、合格者数 8 名、合格率 32.0% (8 名/25 名)

(資格直前対策講座実施結果)

- ・講座受講総数 53 名、検定受験割合：50.9% (27 名)、検定合格率：59.3% (16 名)
 - *内訳→上級情報資格受験者 21 名、検定合格率 71.4% (15 名/21 名)
 - 上級専門資格受験者 6 名、検定合格率 16.7% (1 名/6 名)

(初級～上級資格全体の受験結果)

- ・情報資格：受験総数 135 名、合格者数 75 名、合格率 55.6% (75 名/135 名)
- ・専門資格：受験総数 108 名、合格者数 30 名、合格率 27.8% (30 名/108 名)

【評価】

- ・まず、COC事業の最終年度=平成 29 年度の目標 (卒業生上級情報資格取得 60%、同専門資格取得 40%) を視野に入れた平成 27 年度目標は、「4 年生 (卒業生) 上級情報資格保有者 40%、同専門資格保有者対 20%」であった。この目標との関係でみると、図表 4-1-2 に見るように、上級情報資格保有者割合約 35%、上級専門資格保有者割合約 8% でいずれも未達であった。とくに、上級専門資格割合が前年度に比べ、低下してしまった。

図表 4-1-2 平成 27 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	34.8% (23/66)	7.5% (5/66)
3 年生	30.7% (20/65)	6.1% (4/65)
2 年生	19.7% (17/86)	5.8% (5/86)
1 年生	0.8% (1/112)	1.7% (2/112)

(注) 計算方法=各年次の資格保有者数 (実質人数) ÷ 各年次の在籍者数

- ・これは、3 年間の傾向を見た図表 4-1-3 から明らかなように、情報系は受験者数、合格者数ともに一定のレベルを保ち、合格率も 50% 台を維持している。しかし、専門系は、総数ベースの受験者、合格者が低下しており、検定対応講座の受験者、合格者も減少している。3 年生以下の学年別の上級資格保有割合も横ばい気味で、向上してはいない。専門系が低くなっている。

図表 4-1-3 3 年間の上級資格取得状況 (全学年ベース)

		上級総数ベース			上級講座受講者ベース			講座受講者の割合	
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数
2013年	情報系	78	43	55.1%	12	9	75.0%	15.4%	20.9%
	専門系	37	18	48.6%	21	5	23.8%	56.8%	27.8%
	計	115	61	53.0%	33	14	42.4%	28.7%	23.0%
2014年	情報系	74	33	44.6%	7	5	71.4%	9.5%	15.2%
	専門系	31	8	25.8%	8	3	37.5%	25.8%	37.5%
	計	105	41	39.0%	15	8	53.3%	14.3%	19.5%
2015年	情報系	82	46	56.1%	21	15	71.4%	25.6%	32.6%
	専門系	25	8	32.0%	6	1	16.7%	24.0%	12.5%
	計	107	54	50.5%	27	16	59.3%	25.2%	29.6%

- ・資格取得支援センターCOSを中心に、資格取得等の相談、動機付け、受験者・合格者の拡大をめざした次のような支援の取組が行われた。資格ハンドブック『資格取得のすすめ』の刊行、直前対策講座の実施 (情報系=ITパスポート、Word1・2級、Excel1級、パワポプレゼン上級、専門系=経済学検定・マクロ・ミクロ、経営学、販売士1・2級、日商簿記2級、eco 検

定、福祉住環境2級、医療事務、消費生活)、学生の資格目標管理、簿記・販売士等資格勉強会の実施、学習ペースメーカーの構築。学生の相談件数は年間1500件にのぼった。しかし、上記の実績データでみると、これらの取組が十分な成果をあげたとは言えない。

- ・支援取組の効果を検討するとともに、情報系の取得割合の一層の向上を図るとともに、専門系の受験者数の増加、合格者数の拡大の方策を早急に検討し、平成28年度に具体化する必要がある。

(6) 平成28年度方針・目標

【方針】

・諸専門能力の養成・・・上級の情報(Excel/Word1・2級、PowerPoint上級、ITパスポートの6資格)および専門能力(日商簿記1・2級、販売士1・2級、経済学検定、経営学検定、福祉住環境コーディネーター2級、ECO検定、医療事務、消費生活相談員等の11資格)の資格取得のための対策講座を受講生の拡大可能な時間帯を工夫して、開催する。各資格対策講座1回(10時間)とするが、受講生のニーズに対応して柔軟に設定する。

【目標】

・平成29年度目標(卒業生上級情報資格取得60%、同専門資格取得40%)を視野に入れ、平成27年度実績=目標未達を踏まえて、平成28年度目標は、前年度の目標を据え置くこととする。

*4年生(卒業生)	上級情報資格保有者40%、同専門資格保有者20%
3年生	上級情報資格保有者35%、同専門資格保有者20%
2年生	上級情報資格保有者35%、同専門資格保有者20%
1年生	上級情報資格保有者10%、同専門資格保有者10%

(7) 平成28年度計画

- ・大方針・・・次の諸点を検討し、資格取得がしやすい仕組みを構築し、取得者・率の拡大をめざす。
- ・計画の柱・・・次の諸点を検討し、具体化する(資格取得支援センター・運営部会)。
 - a COSの業務・・・資格取得環境の整備、資格取得等相談・指導、上級資格対策勉強会・講座の開講、結果のとりまとめ、年度の支援リーフレット作成の5点を柱に行う。
 - b 資格取得環境の整備・・・各資格の受験情報案内、資格相談教員リスト・勉強会・講座掲示、参考書の取り揃え、閲覧デスク等の整備など。
 - c 資格取得等相談・指導・・・資格取得ニーズの把握(アンケート等)、資格取得等相談票に記入、記入事項に対応した相談実施(事務・教員への取次ぎ)、同相談結果報告作成、結果報告の検討・改善等(毎月のCOS会議。結果は担当教員・ゼミ教員に報告)の流れを構築する。
 - d 上級資格対策勉強会・講座の開講・・・上級資格日程をにらみ、かつ学生が参加しやすい対策勉強会・講座を開催する。前年度のような直前対策講座に学生参加が少なかった点を考慮して、学生が参加・学習しやすい勉強会/講座を開催・開講する。講師・指導は、外部講師も含めて設計する。また、学生の資格学習サークルの形成も追及する。

- e 結果のとりまとめ・・・前年度までの資格関係データを再検討し、活用しやすいデータを体系的に作成、整備する。事例：資格取得個人データ（学年別取得）、資格取得4年生・学年別データ、勉強会・講座・相談等年度のまとめ・改善方向
- f 年度の支援リーフレットの作成・・・上記を検討の上、学生向けの毎年度の資格取得に関する制度・方針・計画を記載したリーフレットを作成し配布する。また、常時、学生向けに、資格取得関連の講座等情報の広報（パネル、ポスター、チラシ等）の充実を図る。

(8) 平成 28 年度展開

a COSの業務

平成 28 年度計画のとおり、資格取得環境の整備、資格取得等相談・指導、上級資格対策勉強会・講座の開講、結果のとりまとめ、年度の支援リーフレット作成を中心に業務を行った。

b 資格取得環境の整備

「平成 28 年度長岡大学検定スケジュール」および、各資格の担当教員、担当科目・関連科目をまとめたリーフレット「長岡大学カリキュラム対応資格・検定」を作成し、ゼミナールの時間を利用し全学生へ配布、および学内掲示を行なった。また、各検定の参考書や過去問題集等を取り揃え、学生に案内した。

c 資格取得等相談・指導

資格取得支援センターCOSをラーニングcommonsとしても位置づけ、利用しやすい環境を整えた。また、教務学生課を資格取得支援センターCOSと隣接した場所に移動させ、教務学生課職員が常駐することにより、センター利用者に対し、より充実した相談・指導を行なう環境が整えられた。

d 対策講座実施（実績）

図表 4-1-4 平成 28 年度資格直前対策講座実施実績一覧

講座名	担当講師	開講日程	実績			
			学年	受講	受験	合格※
ERE（経済学）検定対策講座 ※目標試験日：H28.12.4 注1) Bランク以上を合格と見なす。	牧野 智一	H28.11.8、11.9、 11.10、11.17、 11.22、11.23、 11.24、11.25 11.28、11.29、12.1 12.2、12.3	1年	0名	0名	0名
			2年	1名	1名	0名
			3年	1名	1名	1名
			4年	1名	1名	1名
経営学検定対策講座 ※目標試験日：H28.12.4	鈴木 章浩	H28.11.17、11.21 11.24、12.1	1年	1名	1名	1名
			2年	3名	3名	2名
			3年	0名	0名	0名
			4年	0名	0名	0名
リテールマーケティング（販売士）検定1級 対策講座	小松 俊樹	受験者なしのため不開講。				
リテールマーケティング（販売士）検定2級 対策講座 ※目標試験日：H29.2.15 注1)3級志望者の受講も可とした。	小松 俊樹	H29.2.15 試験日（3名）に対し、個別対応とした				

日商簿記検定 1 級対策講座	中村 大輔	受験者なしのため、不開講。				
日商簿記検定 2 級対策講座 ※目標試験日：H28. 11. 20 注 1) 3 級志望者の受講も可とした。	中村 大輔	H28. 11. 9、11. 11 11. 16、11. 18、 11. 19	1 年 2 年 3 年 4 年	5 名 1 名 2 名 0 名	0 名 1 名 1 名 0 名	0 名 0 名 0 名 0 名
IT パスポート対策講座	吉川 宏之	受講者ゼロのため不開講				
Word 文書処理技能認定試験 1 級対策講座 ※目標試験日：H29. 2. 28	吉川 宏之	H29. 2. 8、2. 9、 2. 16、2. 17	1 年 2 年 3 年 4 年			
Word 文書処理技能認定試験 2 級対策講座 ※目標試験日：H29. 2. 28 注 1) 1 級志望者の受講も可とした。	吉川 宏之	H29. 2. 8、2. 9、 2. 16、2. 17	1 年 2 年 3 年 4 年			
Excel 表計算処理技能認定試験 1 級対策講座 ※目標試験日：H29. 2. 28 注 1) 2 級志望者の受講も可とした。	吉川 宏之	H29. 2. 8、2. 9、 2. 16、2. 17	1 年 2 年 3 年 4 年			
Excel 表計算処理技能認定試験 2 級対策講座 ※目標試験日：H29. 2. 28 注 1) 2 級志望者の受講も可とした。	吉川 宏之	H29. 2. 8、2. 9、 2. 16、2. 17	1 年 2 年 3 年 4 年			
PowerPoint プレゼン技能認定試験上級対策 講座 ※目標試験日：H29. 2. 4	高梨 俊彦	受講者ゼロのため不開講。				
福祉住環境コーディネーター2 級対策講座 ※目標試験日：H28. 11. 27 注 1) 3 級志望者の受講も可とした。	米山 宗久	H28. 11. 22、 11. 23	1 年 2 年 3 年 4 年	0 名 0 名 0 名 1 名	0 名 0 名 0 名 1 名	0 名 0 名 0 名 0 名
医療事務管理士（医科）対策講座 ※目標試験日：H28. 11. 26	山川 智子	H28. 11. 9、11. 16 11. 23、12. 17、 1. 21	1 年 2 年 3 年 4 年	0 名 0 名 1 名 0 名	0 名 0 名 1 名 0 名	0 名 0 名 0 名 0 名
医療事務管理士（医科）対策講座 ※目標試験日：H29. 1. 28	山川 智子	H29. 1. 17、1. 19 1. 20	1 年 2 年 3 年 4 年	0 名 0 名 1 名 0 名	0 名 0 名 1 名 0 名	0 名 0 名 0 名 0 名
eco 検定直前対策講座 ※目標試験日：H28. 12. 18	西俣 先子	受講者 0 名のため、不開講とした。				
消費生活アドバイザー直前対策講座 ※目標試験日：H28. 10. 2	橋長真紀子	受講者 0 名のため、不開講とした。				

※合格欄は当該検定試験の“上級ランク（主に 2 級以上）” 合格者数を集計したもの

e 結果のとりまとめ

学生の資格検定の受験状況については、学生名、検定名、検定日、合否、点数、取得学年等をデータベース化し一元管理を行なっている。今後はこのデータを元に各種資格取得のタイミングや指導方法、勉強会の開催時期など、各学生の資格取得プランニングのアドバイスなどに活かしていきたい。

f 年度の支援リーフレットの作成

年度初めに「資格取得支援センターCOS利用案内」を作成し、全学生に配布した。資格取得支援センター（COS）の機能を紹介するとともに、資格取得の必要性や学習方法について明記し、全学生はもちろんのこと、特に新入生がスムーズに資格取得に取り組めるように努めた。

（9）まとめ—成果と課題—

平成28年度の資格受験結果は図表4-1-4～8のとおりとなった。

まず、第1に平成28年度の資格試験受験結果を総数ベースでみると（図表4-1-5）、IT全体では受験者136名、合格者83名、合格率61.0%であった。専門資格は、受験者132名、合格者39名、合格率29.5%で、IT資格より低水準であった。特に専門資格については昨年度と比較し、受験者は多少増加したが、合格率を向上させることはできなかった。

第2に平成28年度の上級資格試験受験結果を総数ベースでみると（図表4-1-6）、IT全体では、受験者99名、合格者56名、合格率56.6%であった。専門資格は、受験者45名、合格者8名、合格率17.8%であり、目標数値には大きく届かない結果となった。なお、平成28年度の上級資格保有状況は、図表4-1-8のとおりである。

第3に平成28年度の初級資格試験受験結果を総数ベースでみると（図表4-1-7）、IT全体では受験者37名、合格者27名、合格率73.0%であった。専門資格は、受験者87名、合格者31名、合格率35.6%と上級資格同様に低水準であった。

第4に平成28年度は諸事情により前期に対策講座を実施することができなかった。後期に専門資格対策7講座、IT系資格対策4講座を開講したが、図表4-1-6のとおり、上級専門資格においては、講座受講者が7名、うち合格者が4名であった。上級IT資格についてははまだ合否が出ていない。各講座別の実績は図表4-1-3のとおりである。昨年度、対策という位置付けでの講座開講では十分な効果が得られない可能性があるという判断から、今年度は、直前に限定せず講座を開講することで、モチベーションの維持、アップに努めるように見直し、中・長期的スタンスでの資格取得を意識した。しかし、相変わらず受講者が増加しなかったことは残念である。

第5に平成28年度の目標達成度については、図4-1-8のとおり、上級専門資格の目標との乖離が大きい結果となった。簿記検定の難易度が上がっていることも原因の一つといえるが、上級IT資格は堅調に推移していることから、平成29年度においては、いかに上級専門資格保有者を伸ばすことができるかが課題である。

第6に、以上の結果を踏まえて、課題を解決し資格取得率を向上させるためには、現在の目標設定や仕組みを見直す必要があろう。その参考資料として、第5回推進本部会議（平成28年9月13日）に提起された文書（「資格取得支援等の仕組みについて（再検討メモ）」）を添付しておく（図表4-1-9）。

図表 4-1-5 平成 28 年度資格受験結果 (総数)

	I T 資格全体			専門資格全体		
	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率
4 年生	13	4	30.8%	9	3	33.3%
3 年生	19	13	68.3%	27	12	44.4%
2 年生	74	45	60.8%	52	12	23.1%
1 年生	30	21	70.0%	44	12	27.3%
合計	135	82	61.0%	132	39	29.5%

(注) 受験者数及び合格者数＝初級資格＋上級資格である

図表 4-1-6 平成 28 年度上級資格受験結果

	上級 I T 資格						上級専門資格					
	受験者数		合格者数		合格率		受験者数		合格者数		合格率	
	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座
4 年生	12	0	3	0	25.0%	0.0%	2	2	1	1	50.0%	50.0%
3 年生	12	0	9	0	75.0%	0.0%	11	3	4	2	36.4%	66.7%
2 年生	71	0	42	0	59.2%	0.0%	30	2	3	1	10.0%	50.0%
1 年生	4	0	2	0	50.0%	0.0%	2	0	0	0	0.0%	0.0%
合計	98	0	55	0	56.6%	0.0%	45	7	8	4	17.8%	57.1%

(注 1) 上級 I T = Word・Excel 1～2 級、PowerPoint 上級、I T パスポート

(注 2) 上級専門 = 日商簿記 1～2 級、販売士 1～2 級、福祉住環境 1～2 級、eco 検定、消費生活アドバイザー、経済学検定 (ミクロマクロ) S～B、経営学検定中級、医療事務

(注 3) 総数 = 直前講座を受講しない者も含む、講座 = 直前講座を受講し、上級資格を受験した者を示す

図表 4-1-7 平成 28 年度初級資格受験結果

	初級 I T 資格			初級専門資格		
	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率
4 年生	1	1	100.0%	7	2	28.6%
3 年生	7	4	57.1%	16	8	50.0%
2 年生	3	3	100.0%	22	9	40.9%
1 年生	26	19	73.1%	42	12	28.6%
合計	37	27	73.0%	87	31	35.6%

(注 1) 初級 I T = Word・Excel 3 級、PowerPoint 初級、ドットコムマスターベーシック、EC 実践能力検定 3 級

(注 2) 初級専門 = 日商簿記 3 級、販売士 3 級、福祉住環境 3 級、FP 技能検定 3 級、経済学検定 (ミクロマクロ) C～D、経営学検定初級

図表 4 - 1 - 8 平成 28 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	32.8% (22/67)	7.5% (5/67)
3 年生	21.8% (19/87)	8.0% (7/87)
2 年生	24.8% (28/113)	3.5% (4/113)
1 年生	2.4% (2/82)	0.0% (0/82)

(注) 計算方法 = 各年次の資格保有者数 (実質人数) ÷ 各年次の在籍者数

資格取得支援等の仕組みについて（再検討メモ）

2016/09/13 C O C 推進本部（原田）

1 資格取得の目標設定と現状

- ・ C O C 事業では、「上級情報資格（Word／Excel 1・2 級、IT パスポート等）の取得率＝卒業生の 60%」、「上級専門資格（簿記／販売士 1・2 級等）の取得率＝卒業生の 40%」と設定した。
- ・ 平成 27 年度 F U（フォローアップ）によれば、ここ 3 年間、＜情報資格は 30% 超、専門資格は 20% 未満＞という結果であり、平成 29 年度での目標達成は困難である。

2 取得率向上の仕組み

- ・ 上記の目標達成の仕組みは、概ね、次のように展開した。
 - * ①年度当初の資格取得案内作成（リーフレット等）→②ゼミ・授業（情報・専門・キャリア科目等）で説明→③事務局・C O S で相談受付・支援→④担当教員の個別指導→⑤研究会・サークルでの学修→⑥受験対策講座開講→⑦受験
 - * ただし、③、④、⑤は常時

3 上級資格取得率が向上しない要因

上級資格取得率が向上しない要因は、上記の仕組みのどこに問題があったと見るか。

- ・ ①～②の資格取得情報の伝達は行われたが、学生の資格取得意欲向上には直結したとは言えないのではないか。どのような方法で、学生の資格取得意欲向上をはかればよいか。
- ・ ③の相談・支援は、資格だけでなく、学習、学生生活全般にわたっており、C O S の機能・位置づけが狭すぎたと言える。資格関係の支援はできたが、他の支援の仕組みはできなかった。
- ・ ④の教員による指導は、学生のニーズにはそれなりに応えられていたと思われる。ただし、その際の問題等のフィードバックはどうか。
- ・ ⑤は、学生による自主的な学習の場であるが、これがうまくできない、できても継続できない等、どう解決すればよいか、不明の状況にある。大手私大では、この文系勉強サークルが基盤になって、資格取得が行われているので、本学でも、改善策を考えなくてはならない。
- ・ ⑥は、通常、昼間の授業時間外、つまり、夜間、土・日で行われているが、本学では、これが成功しなかった。5 限以降の夜間、土・日はアルバイトがあり、参加学生はほぼ皆無という状況であった。昼間の授業時間帯での受験対策講座開講も、授業があるので受講学生を一定時間帯に集めるのはできない。

以上から、明らかなように、⑤研究会・サークルでの学修と⑥受験対策講座開講がうまく行かなかったため、学生の資格取得意欲向上、受験学生数の拡大、合格するだけの実力の養成、合格率の向上に結び付けることができなかった。

4 今後の方向について

では、今後どうするか。次のように構想したらどうか。

- ・資格対応型専門教育プログラムについて→この名称は継続するが、工夫すれば到達できそうな次の目標に変更する。
 - *従来の延長の目標設定→「初級情報資格（Word／Excel 3級等）の卒業生取得率 70%、初級専門資格（簿記／販売士 3級）の卒業生取得率 50%」、および「上級情報資格（Word／Excel 1・2級、IT パスポート等）の卒業生取得率 50%」、「上級専門資格（簿記／販売士 1・2級等）の卒業生取得率 30%」。
 - *新しい目標設定の考え方→学生への推奨／意欲を引き出す観点からは、情報特化型（Word／Excel 1級+IT パスポート）、専門特化型（簿記・販売士 1級等専門上級、経済学、経営学、環境等）、情報・専門両輪型（Word／Excel+簿記・販売士・経済学・経営学等）の大きく3分野で設定するのも良いかも
- ・その目標達成の仕組みをどう変えるか。次のように構想したい。
 - *①年度当初の学生支援案内作成（リーフレット等）→②ゼミ・授業等（情報・専門・キャリア科目等）で説明→③事務局・学生支援センターで相談受付・支援→④授業での初級資格準備→⑤事務局・担当教員の個別指導→⑥研究会・サークルの活発化→⑦学生ニーズに沿った上級資格対策講座の開講→⑧学生支援活動のとりまとめ
 - ・①は、上記3の③の実態を反映した「資格」に限定しない学生支援案内（リーフレット等）を後述の「学生支援センター」が作成する。学生支援は、主として、資格、学習（大学での勉強の悩み）、学生生活（サークル等）の3分野とする。
 - ・②は、学生支援の内容を各所で説明し、マンツーマン面談が仲介機能を果たすものと位置づける。学生－教員－学生支援センターの情報伝達サイクル形成。
 - ・③は、COSに替わって、資格、学習、学生生活の3つの相談・支援機能を持つ「学生支援センター」を設立し、学生相談・支援、教員等関係者への情報伝達を担う。
 - *学生支援センターは、センター長＝教務学生課長、メンバーは教務学生課職員で構成。教授会にはセンター長が報告。
 - *資格に関しては、方針作成等、必要に応じて、担当教員の会議（資格担当教員会議）を開催する（常設委員会とはしない）。
 - *同センターは、教務委員会、学生委員会の共管とする。
 - ・④は、初級資格は、情報、専門系授業で、取得指導を行う。
 - ・⑤と⑥の個別指導は、担当教員（資格、サークル）にお願いする。ただし、⑥は、学生の自主性に拠ることとする。学生（担当教員）が希望すれば、外部専門家（資格、謝金用意）も可とする。
 - ・⑦は、参加学生3名などの一定の基準を満たした場合は、上級資格講座を開講可とする。講師は、授業時間中の昼間開講の場合は外部専門家、それ以外は本学教員、外部専門家どちらでも可とする。
 - ・⑧は、学生支援センターが、当年度の活動全般を報告書としてまとめる。

2 地域志向・学修科目－教育②－

(1) 方針（申請時）

- ・新たな地域学修科目を大幅に拡大して、学生の現場感覚・知識の養成、社会人基礎力の充実をめざす。
- ・各コースの代表科目に地域学修を加え、地域学修科目を拡大する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→19 科目、履修学生 680 人（延べ）
- ・平成 29 年度→33 科目、履修学生 1,000 人（延べ）

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度に開講した科目は 8 科目、履修学生 1068 人（延べ）であった。
- ・後期から当事業が開始されたため、申請時の目標科目数（19 科目）を下回ったが、履修学生数は目標（680 人）を大きく上回った。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度は、地域志向科目を再検討し、次の 35 科目を地域志向・学修科目として設定し、各科目平均 3 限分を企業講師・現場体験等授業にあてることとした。
- * 1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会 2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論
- * 2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習 2、生活経済論 1、2、会計学 1、プレゼン利用技術、
- * 3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析
- * 4 年次＝ゼミナールⅣ
- ・実績を見ると、企業講師等実施科目は 22 科目、総時限数は 71 時限で、目標（35 科目、105 時限）をかなり下回った。但し、履修学生数は 1959 人と前年からほぼ倍増した。学年共通の企業見学バスツアーを 2 回実施し、計 32 人が参加した。
- ・参加学生の評価としては、企業講師授業は理解度、役立ち度ともに 90%超が「わかった」、「役に立った」と答えており、非常に高い評価であった。企業見学ツアーも同様の評価であった。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(6) 平成 28 年度方針・目標

- ・平成 29 年度からのリニューアルをめざして、地域志向科目の見直しを行う。
- ・上記以外は、【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(7) 平成 28 年度計画

- ・前期に、全教員対象の地域志向科目に関するアンケート調査を実施し、後期に平成 29 年度以降の同科目を決定する。
- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(8) 平成 28 年度展開

a 地域志向科目の見直し

7 月に全教員対象にした「平成 29 年度地域志向科目に関するアンケート調査」（実施主体＝推進本部＋教務委員会）を行い、11 月の推進本部で報告し、12 月に、教務委員会から最終的な平成 29 年度地域志向科目が公表された。具体的には、次の通り。

★地域志向科目 A（科目の目的・性格から、地域志向の授業内容を内包しており、地域志向科目とし適切であると思われる科目）

- ・キャリア科目 6 科目→1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、キャリア開発Ⅱ－2、3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、キャリア開発Ⅲ－2
 - ・教養科目 4 科目→1 年次＝高齢者と社会政策、日本事情、ボランティア論、ボランティア体験
 - ・基礎科目 2 科目→1 年次＝経済・経営の現場を知る 1、経済・経営の現場を知る 2
 - ・特別科目 4 科目→2 年次＝起業家塾、地域活性化プログラム、現場体験プログラム、3 年次＝インターンシップ
- 以上、地域志向科目 A＝16 科目

★地域志向科目 B（上記以外の専門科目等）

- ・専門科目 6 科目→2 年次＝企業経営研究、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、3 年次＝医学概論、地域福祉論
- ・ゼミナール→3・年次＝4 ゼミナールⅢ・Ⅳの 15 ゼミ（すべてのゼミが地域志向の取組みが可能な上限数。経験的には 10 ゼミ程度）

一以上、地域志向科目 B＝21 科目

★平成 29 年度地域志向科目→上記の A と B の合計＝37 科目（上限）

b その他の展開

【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(9) まとめ－成果と課題－

- ・全教員の同意を得て、平成 29 年度地域志向科目を決定することができた。科目数は平成 28 年度までの 36 科目から平成 29 年度 37 科目（上限）にやや増えたが、3・4 年ゼミナール担当教員のゼミ計画内容に依存するので、地域志向科目総数は年度ごとに変動することになる。
- ・上記以外は、【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ。

3 現場感覚・知識の養成—教育③—

(1) 方針 (申請時)

- ・地域学修科目において、3課題(産業活性化、社会課題解決、地域活性化)に対応した、企業講師授業や現場体験学修等の体験型授業を行い、学生の現場感覚・知識の養成を促進する。

(2) 目標 (申請時)

- ・平成25年度→14科目(後期)で、3限分の体験型授業(2限分企業講師、1限現場体験学修)実施—体験型授業数42回、履修学生680人(延べ)
- ・平成29年度→33科目で、3限分の体験型授業99回実施、履修学生1,000人(延べ)

(3) 平成25年度実績と評価

- ・地域学修14科目、42限(回)分授業での企業講師等授業を目指したが、8科目、33限(回)授業に留まった。但し、履修学生は1,068人。目標実現に至らなかった要因としては、年度開始当初に具体的な招聘スケジュールの確定ができなかったことが挙げられる。
- ・学生の授業評価としては、理解できた94%、ためになった90%と非常に高い評価であった。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・地域志向・学修35科目、105限(回)分授業での企業講師等授業を目指したが、22科目、71限(回)授業に留まった。実施科目数、回数ともに、目標達成割合は60%台にとどまった。但し、履修学生数は、1,959人(延べ)に達した。
- ・学生の企業講師授業の評価としては、理解できた94%、ためになった92%と非常に高い評価であった。
- ・科目横断で実施した企業現場見学バスツアーは好評であった。
- ・活動評価(まとめ・課題)・・・企業講師授業は学生の評価が非常に高く、今後も、継続して実施していく必要がある。しかし、地域志向科目35科目のうち22科目しか実施できなかったことは、同科目の内容も含めて、再検討が必要である。1年かけて検討し、平成28年度には、地域志向科目の再編の姿を明確にしたい。第3に、企業見学バスツアーについては、学生が現場に出かけていくことが重要であることを再認識する必要がある。平成27年度は、課題解決型インターンシップ授業として、「現場体験プログラム」(2年生科目)を新たに地域志向科目として開講し、他の科目とも連携して、この現場体験を充実させる。

(5) 平成27年度実績と評価

【実績】

- ・地域志向・学修36科目において、各2限分を企業講師等授業(各分野の専門家等による地域理解等を深める授業)として実施した。実施科目数21、総時限数62時限で、目標(36科目2限分=72時限)の約60%、86%レベルにとどまった。履修学生数は、1,652人(延べ)であった。
- ・また、1科目あたり平均2時限の企業講師授業計画であったが、キャリア科目に実施時限数が偏ってしまった。
- ・企業見学バスツアーについては、平成28年1月に、4社(諸長、第一合繊、日産プリンス新潟、

スポット)に18名の学生が参加した。

【評価】

- ・企業講師等授業について、受講学生は、「わかった」が94.4%、「ためになった」が90.7%と、理解度、役立ち度ともに、非常な高評価であった。
- ・企業見学バスツアーの参加学生の評価も、「わかった」、「ためになった」とともに100%と、全員が理解度、役立ち度ともに、非常な高評価であった。

以上から、成果と課題をまとめると、第1に、これまでの事業展開から、企業講師授業は学生の評価・支持が大きく、目標を達成できた。目標とした学生の高満足（「理解できた」「役に立った」がともに90%以上）は、維持、達成できた。今後とも引き続き改善を図り展開していく。

第2に、企業見学バスツアーへの参加学生の評価も非常に高く、今後もさらに工夫して、実施する必要がある。

第3に、地域志向科目の再検討が出来なかったこと。上記のように、企業講師授業はキャリア科目に偏っている傾向が強く、再検討が必要であることを示す。企業見学ツアーが高評価なのも含めて、地域志向科目の再編を検討する。この3年間の実績を踏まえつつ、教養科目、履修モデルと専門科目、求められる能力・資質の3点を再検討し、地域志向科目の体系を構築することを目指す必要がある。

（6）平成28年度方針・目標・予算

【方針】

- ・現場感覚・知識の養成・・・地域志向36科目（1年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論、2年次＝キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、現場体験プログラム、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習2、生活経済論1、2、会計学1、プレゼン利用技術、3年次＝キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析、4年次＝ゼミナールⅣ）で、各科目平均2限分を企業講師等授業や現場学習にあて、現場感覚・知識の養成を図る。また、地域志向科目の総括を行い、次に向けた新たな展開方向を検討する。

【目標】

- ・36科目2限分（72時限）を確実に実施し、昨年度に引続いて学生の高満足（「理解できた」「役に立った」共に90%以上）を維持する。
- ・現場体験プログラムをベースに企業現場見学を数回実施して、学生の現場理解を深める。
- ・この3年間の実績を踏まえつつ、教養科目、履修モデルと専門科目、求められる能力・資質の3点を再検討し、地域志向科目の体系の再構築を目指す。

（7）平成28年度計画

- a 地域志向・学修36科目において、各2限分を外部・企業講師等の授業にあてて、授業を実施し、学生の地域・現場への理解を深める。また、外部・企業講師招聘の仕組み（教員の申請書からアンケート実施・集計まで）の改善を図り、円滑な推進を図る。

- b 現場体験プログラムをベースに企業現場の見学・学修を数回実施する。
- c 外部・企業講師等の活用状況、教員へのアンケート（地域志向科目希望と授業ポイント）および本学の位置づけ（地方創生を担う地（知）の拠点大学）などの検討を通して、地域志向科目の性格・授業内容、さらには授業科目の新設等など総合的に検討を行い、平成 29 年度以降の地域志向科目の方向性を明確にする。平成 28 年 10 月末までにとりまとめ、平成 29 年度シラバスに記載する。

（8）平成 28 年度展開

平成 28 年度の企業講師授業は、次の通り実施した。

a 企業講師等授業の概要

平成 28 年度の外部・企業講師等の授業（各分野の専門家による地域理解を深める授業）を実施した。その概要は、図表 4-3-1 に示すとおりである。

図表 4-3-1 平成 28 年度外部・企業講師授業一覧

No.	日付	教員	科目名	テーマ	外部講師
1	平成 28 年 4 月 26 日(火)	米山	米山ゼミⅢⅣ	長岡市子育て・育ちあいプランについて	長岡市教育委員会 子ども未来部 部長 波多文子氏 子ども家庭課 主事 小黒駿也氏
2	5 月 17 日(火)	米山	米山ゼミⅢⅣ	子育ての駅及びコンシェルジュ活動について	長岡市教育委員会 子ども未来部 子育て家庭課 総括コンシェルジュ 金山由美子氏 甲野春美氏
3	5 月 24 日(火)	米山	米山ゼミⅢⅣ	赤ちゃん抱っこ体験	菅沼恵莉・大雅 親子 中村百合子・穂乃香 親子 高野美乃莉・恭弥 親子 山口采・大和 親子
4	5 月 25 日(水)	高梨	プレゼンテーションソフト利用技術	顧客をつかむ営業プレゼンテーションにするための考え方と進め方	エクセルホーム有限会社 建築設計事務所、土地家屋調査士 古寺久徳氏
5	5 月 26 日(木)	米山	ボランティア論	ボランティア活動の貢献活動	フードバンクにいがた長岡センター 山崎一雄氏
6	5 月 31 日(火)	米山	社会福祉概論	地域包括支援センターの活動内容	地域包括支援センター なかじま 業務推進員 丸山千代子氏
7	6 月 2 日(木)	米山	ボランティア論	ボランティア活動の貢献活動	個人ボランティア 伊部登氏
8	6 月 7 日(火)	栗井	経済・経営の現場を知る 1	新潟清酒の現状と朝日酒造の酒造り	朝日酒造株式会社 田村博康氏
9	6 月 15 日(水)	高梨	プレゼンテーションソフト利用技術	良い企画をより魅力的に見せる編集デザイン	株式会社コンセント アートディレクター 高梨裕子氏
10	6 月 15 日(水)	西俣	インターンシップ	ビジネスマナー	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 大期豊子氏
11	6 月 16 日(木)	米山	地域福祉論	民生委員・児童委員の活動実態	栖吉地区民生委員児童委員協議会 中澤博氏 外 2 名
12	6 月 20 日(月)	栗井	地域経営	統計を活用した地域の現状分析	(一財)新潟経済社会リサーチセンター 主管研究員 小林雄介氏 主管研究員 江口知章氏

No.	日付	教員	科目名	テーマ	外部講師
13	6月21日(火)	米山	社会福祉概論	介護支援専門員(ケアマネジャー)の活動について	社会福祉法人長岡福寿会居宅介護支援事業所まちだ園 管理者 高橋直樹氏 副主任介護支援専門員 佐藤恵子氏
14	6月21日(火)	栗井	経済・経営の現場を知る1	新潟鉄工業の歩み	長岡歯車資料館 館長 内山弘氏
15	6月23日(木)	高橋	キャンパスライフ入門	PROGテスト説明会	株式会社リアセック 谷川雅之氏
16	6月23日(木)	米山	ボランティア論	ボランティア活動の貢献活動 傾聴ボランティアを理解する	長岡傾聴ボランティアサークル 代表 田所典子氏
17	6月29日(水)	高梨	プレゼンテーションソフト利用技術	デザイナーの視点から見たプレゼン資料作成のヒント	ビジョン代表 桑原州司氏
18	6月29日(水)	西俣	インターンシップ	ビジネスマナー	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 大期豊子氏
19	6月30日(木)	米山	ボランティア論	ボランティア活動の貢献活動 傾聴ボランティアを理解する	長岡傾聴ボランティアサークル 代表 田所典子氏
20	6月30日(木)	米山	地域福祉論	ボランティアの活動や事業内容	栖吉地区ころばん隊 代表 武樋喜美子氏 外3名
21	7月1日(金)	広田	キャリア開発Ⅱ-1	流通業界での仕事	AOKI長岡川崎店 店長 坂田淳氏 副店長 保高真理氏
22	7月4日(月)	栗井	地域活性化論	松之山温泉の事例を通して学ぶ観光地活性化の進め方	(一財)新潟経済社会リサーチセンター 主管研究員 江口知章氏
23	7月5日(火)	米山	社会福祉概論	児童厚生員の活動について	長岡市山通児童館 涌井節子氏 大淵朋子氏 殖栗百合子氏
24	7月7日(木)	米山	ボランティア論	ボランティア活動の貢献活動 防災ジャパンダ・プロジェクトを理解する	損保ジャパン日本興亜長岡支社 渡邊裕氏 他12名
25	7月14日(木)	米山	ボランティア論	ボランティアコーディネーターの役割と活動内容	長岡市社会福祉協議会栃尾支所 阿部奈津実氏
26	7月15日(金)	広田	キャリア開発Ⅱ-1	金融機関の仕事	新潟県労働金庫長岡支店 渉外次長 田中彰裕氏 お客様相談係 原田沙織氏
27	7月21日(木)	栗井	キャンパスライフ入門	OB・OGが語る大学生活	(有)覚張書店 覚張良太氏
28	10月10日(月)	鈴木	経営学	マーケティング戦略について	日立オートモティブシステムズ株式会社 橋本浩樹氏
29	10月13日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	就職市場と問われる若者の力	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏
30	10月20日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	賃金・労働諸制度のポイント	株式会社パートナーズプロジェクト 取締役 高野洋子氏
31	10月26日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	企業研究①ー事業と組織ー	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏
32	10月27日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	キャリアデザインの考え方②ー社会人ー	キャリアカウンセラー 米田睦美氏
33	11月2日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	企業研究②ースピーチー	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏
34	11月3日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	キャリアデザインの考え方③ースピーチー	キャリアカウンセラー 米田睦美氏
35	11月3日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	自己PR・一分間スピーチ	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏
36	11月7日(月)	栗井	企業経営研究	大学生向け「日経ビジネス」活用法 働きがいのある会社の共通点とは	日経BPマーケティング・ 日経トップリーダー 経営者クラブ事務局 荒武麗氏
37	11月10日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	自己分析①ー社会人基礎力ー	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
38	11月10日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	ビジネスマナー①ー動作・話し方ー	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏

No.	日付	教員	科目名	テーマ	外部講師
39	11月16日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	営業とは何か	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣清勝氏
40	11月17日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	自己分析②ー性格ー	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
41	11月17日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	ビジネスマナー②ー文章・メールー	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏
42	11月23日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	マナー実習①(あいさつ)	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
43	11月24日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	自己分析③ー自己評価ー	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
44	11月24日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	個人面接①	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 他2名
45	11月30日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	マナー実習②(電話)	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
46	12月1日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	自己PR①ー強みー	キャリアカウンセラー 米田睦美氏
47	12月1日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	個人面接②	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 他2名
48	12月6日(火)	米山	高齢者と社会政策	認知症サポーターについて	長岡市高齢者基幹包括支援センター 認知症地域支援推進員 河鱈和美氏 他4名
49	12月6日(火)	米山	山川ゼミナールⅢⅣ	温泉と地域資源を活用した健康づくり	新潟大学 教育学部保健体育・スポーツ科 学講座 准教授 村山敏夫氏
50	12月7日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	履歴書・自己紹介書の書き方	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏
51	12月8日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	自己PR②ースピーチー	キャリアカウンセラー 米田睦美氏
52	12月8日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	グループディスカッション①	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 他2名
53	12月14日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	グループディスカッション	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 他2名
54	12月15日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	グループディスカッション① -学生時代をどう過ごすか-	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 他2名
55	12月15日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	グループディスカッション②	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 他2名
56	12月21日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	面接実習	企業教育ファシリテーター 朝日由香氏
57	12月22日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	グループディスカッション② -強みを知る-	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策氏 他2名
58	12月22日(木)	西俣	環境社会演習2	環境に対する企業の取り組み -原信・ナルスの事例-	株式会社アクションリテイリング 執行役員 TQMCSR部長 丸山将範氏
59	12月22日(木)	吉川	キャリア開発Ⅲ-2	グループ面接①	三洋産業株式会社 スクール事業部 代表 宮原晋策氏 他2名
60	平成29年 1月5日(木)	原田	キャリア開発Ⅰ	社会人基礎力を鍛えるー現場を知るー	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣清勝氏
61	1月11日(水)	原田	キャリア開発Ⅱ-2	現場の意義ーインターンシップー	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣清勝氏
62	1月20日(金)	山川	公務員試験対策講座1	ふくしとわたし~これからの生き抜くために 大事な「伝えること」~	有限会社銀座堂 社会福祉士事務所 宗村 憲氏
63	1月20日(金)	山川	公務員試験対策講座2	成年後見人制度をわかりやすく~自分 らしい毎日を~	有限会社銀座堂 社会福祉士事務所 宗村 憲氏
64	1月23日(月)	西俣	環境と社会2	長岡市の環境政策	長岡市環境部環境政策課 主事 松浦仁氏 トキと自然の学習館 解説員 鈴木義春氏
65	1月24日(火)	松本	経済・経営の現場を知る2/Ⅱ	新聞記者から見る新潟県の現状と今後	株式会社新潟日報 広・編集局報道部記者 横山志保氏
66	1月24日(火)	松本	松本ゼミナールⅢ・Ⅳ	新聞記者から見る新潟県の国際交流	株式会社新潟日報 広・編集局報道部記者 横山志保氏

総括すると、実施科目数 23 科目、総時限数 66 時限（回）、総受講者数（アンケート回答総数）4,049 人となった。



米山宗久ゼミナールⅢⅣ(5/17)
「子育ての駅及びコンシェルジュ活動について」



プレゼンテーションソフト利用技術(6/15)
「良い企画をより魅力的に見せる編集デザイン」



地域活性化論(7/4)
「松之山温泉の事例を通して学ぶ観光地活性化の進め方」



高齢者と社会政策(12/6)
「認知症サポーターについて」



環境社会演習2(12/22)
「環境に対する企業の取り組み」



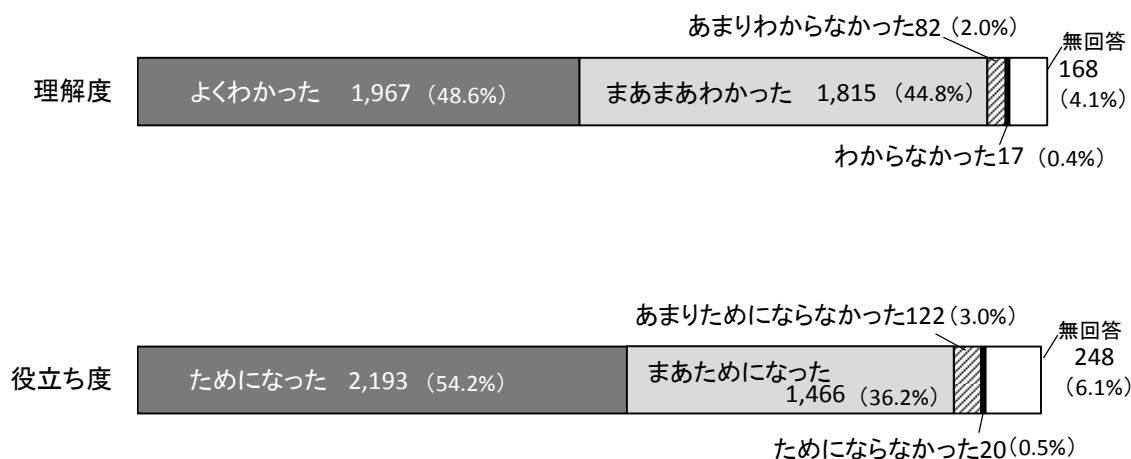
キャリア開発Ⅲ-2(12/22)
「グループ面接①」

b 評価

・企業講師等授業の理解度と役立ち度

企業講師授業についての学生のアンケートの回答結果は次の通りである。理解度（「よくわかった」＋「わかった」）は 93.4%、役立ち度（「ためになった」＋「まあためになった」）は 90.4% といずれも高評価となっている。また、学生の自由記述からもためになったことがよく伺え、次のステップへつながるような意識が高まった授業も多くあった。

図表 4-3-2 平成 28 年度企業講師授業に対する受講学生の評価（回答総数ベース n=4,049）



・企業講師等授業の自由記述（一部抜粋）

ボランティア論「ボランティア活動の貢献活動 フードバンクにいがた」(5/26)

フードバンクは、子供の貧困が6人に1人であることや生活保護者が増えているなどの深刻な社会だからこそ始めた事業で、食べ物を通じて人とのつながりを感じることができるとわかった。もっとフードバンクの活動を知ってもらうことが必要。

経済・経営の現場を知る I 「新潟清酒の現状と朝日酒造の酒造り」(6/7)

地域によって売れるお酒の種類が違うので、統計を見る大切さを知った。ただお酒を造るだけではなく、環境へも目を向け、地域住民と協力しながら一心同体になってお酒を造っていることがわかった。

プレゼンテーションソフト利用技術「良い企画をより魅力的に見せる編集デザイン」(6/15)

「バラバラ見ただけでも内容がわかる」というのは、色々な発表の場面でも重要だと思い、とてもためになった。時には主張したことを削るのも大切であり、伝えたいことに対して道筋を作ることが大事だとわかった。

地域福祉論「民生委員・児童委員の活動実態」(6/16)

民生委員の活動内容や関係機関と連携していることが分かった。地域住民に幅広い関係者とのネットワークが大事。ボランティアをやってみたいと思った。

長岡大学のある栖吉地区の
民生委員の皆様



ボランティア論「傾聴ボランティアを理解する」(6/23)

傾聴を行うことで助けになる人がいることを知り、話下手な私でも真剣に話を聴くことで、助けになることが分かりためになりました。

地域活性化論「松之山温泉の事例を通して学ぶ観光地活性化の進め方」(7/4)

松之山温泉の位置、活性化に向けてのエピソードが分かりやすく、楽しく知ることができた。自己紹介文を作成する際は、結論、エピソード、締め順に書くと、相手に分かりやすく伝わる。

キャリア開発Ⅲ「個人面接（自己紹介書ベース）」(12/22)

他の人の面接風景を見ることで、自分の何が出来ていないか、何を直したら良いかを知ることが、今後面接練習を重ねていく上でとてもためになった。

環境と社会演習2「環境に対する企業の取り組み 原信・ナルスの事例」(12/22)

低酸素社会実現のためや資源の有効活用のために、省エネ対策に力を入れたり、レジ袋削減に力を入れていることがわかった。自分の環境に対する意識が高くなった。

(9) まとめー成果と課題ー

企業講師授業は学生の評価・支持が大きく、目標である高満足（「理解できた」「役に立った」ともに90%以上）を維持、達成できた。引き続き改善を図りながら展開していく。

地域志向科目については、平成28年7月に行った全教員対象のアンケートをベースに、再検討を行い、平成29年度の地域志向科目を決定した。詳細は、【2 地域志向・学修科目ー教育②ー】に示したとおり、37科目（上限）にリニューアルされた。

4 ボランティア・スキルの養成—教育④—

(1) 方針（申請時）

- ・3課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。
- ・〈ボランティア大学〉のイメージを定着させる。

(2) 目標（申請時）

- ・平成25年度→ボランティア体験Ⅰ授業等で、ボランティア・スキルや学生リーダーを養成する。ボランティア・アドバイザーを配置する。単位取得学生数20名。
- ・平成29年度→ボランティア体験Ⅰ、Ⅱどちらか履修学生割合目標—卒業生の80%

(3) 平成25年度実績と評価

- ・実績—ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は33%で、目標の30%（20名）を上回った（ただし、前期科目）。1泊2日のリーダー研修をサークル等責任者に対して2回（9月・3月、各回約20名参加）実施した。また、コーディネーターによる地域活性化等のボランティア・活動の指導、支援を毎週（2～3回）行った。平成26年度のボランティア体験科目を具体的実施するための地域ボランティア情報、ネットワークを形成できた。
- ・評価—学生へのリーダー研修やボランティア・活動の指導・支援により、学生の部活や地域活動の活性化を促進するとともに、担い手の拡大を図ることができた。また、次年度のボランティア科目等の円滑な推進を図る条件を整えられた。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・1年生のボランティア科目（1年配当のボランティア論とボランティア体験のどちらか）の単位取得者割合は50.6%（1年生単位取得者数43名／1年次学生数85名）で、目標の40%を上回った。
- ・ボランティアデスクの開設によりボランティア情報の周知が行われた。
- ・地域へのボランティア活動への参加学生はイベント参加が約70名、継続参加が約20名であり、地域の催しを支えると共に学生のボランティア力が向上した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・ボランティアデスクが稼動し、実際に活動に参加する学生の裾野が広がった。展示、メール配信、ロコミを活用した結果、「ボランティアに参加しよう」という雰囲気がすこしずつ浸透し始めている。また、実際にボランティア活動に参加した学生が「ボランティア＝楽しい」という切り口で語ることによって、新規参加者につながっている。しかし、ボランティア体験履修者を増やす工夫が必要であり、また、ボランティアリーダーの養成をめざした学生のボランティア団体の形成に注力する必要がある。授業だけでなく、恒常的なボランティア活動を展開・拡大するためには、学生のボランティア団体の形成が不可欠である。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・学生ボランティアサークル<ぼぷら>が、4月末に設立した。「学生とのも一れ」や「新潟県災害学生ボランティアフォーラム」などにも参加する。またネパール地震被害者の募金活動も展開した。
- ・ボランティアリーダー合宿等への参加し、ボランティア活動やボランティア先との調整などについて必要な知識を習得した。
- ・新潟県内全域（新潟県内学生ボランティアネットワーク）や長岡市3大学1高専に企画段階から参加して、学生ボランティアネットワークで情報共有ができた。

【評価】

- ・平成 27 年度のボランティア論、ボランティア体験の単位取得割合（29.5%）が低下した。学生アンケートにも示されているが授業方法の不十分さが表れた。
- ・また、学生ボランティアサークルの活動周知が不足していたため、1年生や2年生の部員の加入がなかった。ボランティア論における活動紹介を企画する必要があった。
- ・ボランティアリーダー研修内容をメンバーに周知する取り組みも必要であった。
しかし、ボランティア以外の麻雀部がコミュニティセンターや福祉施設とタイアップをして健康マージャンを展開し、地域への貢献も実現している。

(6) 平成 28 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・ボランティア・スキルの養成・・・ボランティア・デスクを中心に、最新のボランティア情報の提供や学生のボランティア活動への参加を促進する。また、ボランティア・リーダーの合宿研修を行い、リーダー養成を行う。

【目標】

- ・ボランティア活動への参加促進・・・学生のボランティアサークルの設立を支援し、自主的に参加する土壌を作る。そのためボランティア論において活動紹介を行う。
- ・ボランティア情報の提供・・・県外・県内他大学との情報共有の場づくり（ネットワークの形成）を進めるとともに、長岡・県内地域のボランティア情報を集め、発信する。さらに学内のボランティアサークル間の情報共有をする。
- ・災害時のボランティア活動の支援・・・災害ボランティアの支援を行う個人ボランティア登録を行う。
- ・ボランティアリーダーの研修・・・ボランティアコーディネーターを招聘し、ボランティアリーダーの養成を行う。
- ・ボランティア推進体制の確立

(7) 平成 28 年度計画

a 学生ボランティアサークルの設立

- ・ボランティア論やボランティア体験の履修者を中心に、高齢者・子ども・コミュニティなどの目的別にサークル活動へと指導を行う。（4月から）

- ・すでにボランティア活動を行っている実践事例として、ボランティア論で講師として活動紹介をしてもらう。(前期)
- b ボランティア情報の提供
 - ・ボランティア求人やボランティア活動をマッチングするため、ボランティア・デスクを引き続き設置するとともに、情報発信掲示板としてボランティアボードを設ける。(4月)
 - また、マッチングをより効率化するためにボランティア支援フローチャートを作成する。(4月)
- c 県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成
 - ・県内外大学のボランティアサークル等と交流を行い、情報交換をする(4月から)。
- d 災害ボランティア活動の支援
 - ・災害時における様々なボランティア活動への参加を呼びかけるとともに、個人のボランティア登録制度を図る。(6月)
 - ・災害時のボランティア活動の学修を長岡市社会福祉協議会の指導のもと実施する。
- e ボランティアリーダー研修
 - ・ボランティアリーダーとしての基礎学修として、ボランティアコーディネーターを招聘する。(10月)。
- f ボランティア推進体制の整備
 - ・ボランティア活動への推進を図るため、体制整備を図る。

(8) 平成 28 年度の展開

- a 学生ボランティアサークルの設立
 - ・ボランティア論やボランティア体験(前期)において、ボランティアを積極的に取り組んだ学生(名)からサークル立ち上げの意向が示されたが、十分な準備を行い(サークル部屋等)、次年度立ち上げることとなった。
 - ・そのサークル立ち上げの準備活動として、ボランティア団体(長岡傾聴ボランティアサークル)の活動紹介と実践、ボランティア体験報告会での活動報告(本学学生のボランティアサークル「びゅう」の活動)などを行った。
- b ボランティア情報の提供
 - ・ボランティア求人やボランティア活動と学生のマッチング情報を円滑に提供するため、ボランティアボードの設置(1号館3階フロア)、ボランティア適性判断テストのボードへの掲示、マッチング効率化のためのボランティア支援フローチャートの作成など、を行った。
- c 災害ボランティア活動の支援
 - ・災害ボランティア活動支援については、平成28年7月7日(木)に、本学体育館において、<防災ボランティア特別講義(防災ジャパンダプロジェクト)>を開催した。損害保険ジャパン日本興亜株式会社の社員の方15名をお招きし、学生50名(ボランティア体験受講学生中心)が災害から身を守るための知識や技術を体験したり、みんなで協力して救助するためのチームワーク行動を行った。加えて、身近にある買い物袋、ネクタイ、新聞

紙を使った応急手当も行った。災害時における自助や互助を習得することができ、ボランティア活動の有意義な一助となった。

d ボランティアリーダー研修

- ・ボランティアリーダーとしての基礎学修として、ボランティア論の授業以外に、特別養護老人ホームまちだ園における高齢者支援のボランティア活動を行った。9回参加して延べ20名の学生（ボランティア論・体験の受講者）が研修した。10月29日（土）のボランティアコーディネーター講師の研修には、 名の学生が参加した。

e ボランティア推進体制の整備

- ・ボランティア活動を推進するため、ボランティア支援フローチャートも作成し、教員と職員との役割分担を明確にした。

(9) まとめ—成果と課題—

- ・平成28年度の事業については、県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成以外の学生ボランティアサークルの設立、ボランティア情報の提供、災害ボランティア活動の支援、ボランティアリーダー研修、ボランティア推進体制の整備などをほぼ全ての活動を前進させることができた。
- ・学生ボランティアサークルについては、活動しているのは3団体のうち1団体（「びゅう」）のみで、「ぼぷら」は会員がすべて4年生で後継者ができず、今年設立した「アウトドア部」は準備不足等で活動ができなかった。情報提供（ゴミ拾い、雪かき、災害ボランティアなど）を行ったが、学生側の意欲に結びつかなかった。リーダーの養成が大きな課題として残った。
- ・ボランティア情報の提供は、ボランティア支援フローチャートがうまく活動し（担当者がボランティアボードを活用）し、また、授業（ボランティア論やボランティア体験）でも求人情報の提供を行った。情報提供は、円滑に始動したと言えよう。
- ・災害ボランティア活動の支援は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協働して行い、成果をあげた。長岡市総合防災訓練にも、3名の学生（ボランティア論・体験受講者）が参加した。
- ・ボランティアリーダー研修は、特別養護老人ホームまちだ園と協働して行い、延べ20名（ボランティア論・体験受講学生）がボランティアの心構えや配慮すべき事項を研修できた。
- ・授業方法（ボランティア論、ボランティア体験）も、実際にボランティアをしている個人・団体やボランティアコーディネーターを招聘してより実践に基づいたものとした。
- ・以上の活動の結果、昨年度低下したボランティア論、ボランティア体験の単位取得割合も改善できた（単位取得者95名（ボランティア論54名＋ボランティア体験41名）／履修登録者115名（ボランティア論61名＋ボランティア体験54名）＝82.6%）。
- ・また、学年別のボランティア論・ボランティア体験科目の単位取得率も図表4-4-1に示すように、向上した。両科目は1年生対象科目であり、2年生（昨年度は1年生）の単位取得率は35.4%であったが、今年度の1年生の取得率は45.9%と10ポイント向上した。
- ・活動全般について、ボランティア情報の提供を積極的に行い、個人や団体でのボランティア活動の促進につながった。しかし、1年生のボランティア活動への意欲をリーダー研修等でさらに高め、次年度のボランティアサークル設立につなげることが期待される。なお、次年

度は、県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成にも課題である。

図表 4-4-1 平成 28 年度のボランティア論・ボランティア体験の
単位取得者数と取得割合

	在籍者 ①	ボランティア論		ボランティア体験		どちらかを単位取得	
		取得者 ②	割合 (②/①)	取得者 ③	割合 (③/①)	取得者 ④	割合 (④/①)
1年生	85	39	45.9%	12	14.1%	39	45.9%
2年生	113	32	28.3%	9	8.0%	40	35.4%
3年生	88	41	46.6%	22	25.0%	58	65.9%
4年生	64	31	48.4%	14	21.9%	36	56.3%

※在籍者は、1年生：学籍番号 16K、2年生：学籍番号 15K、3年生：学籍番号 14K、4年生：学籍番号 13EM の人数。

※どちらかを単位取得は、ボランティア論とボランティア体験の単位取得者合計から、重複者を除いた実人数。

5 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）－教育⑤－

（1）方針（申請時）

- ・ 3・4年ゼミ等の地域活性化プログラムの充実・拡大を図り、卒業後も通用する社会人基礎力の養成を推進する。
- ・ <社会人基礎力養成大学>のイメージを定着させる。

（2）目標（申請時）

- ・ 平成 25 年度→3・4年ゼミナール（2年生希望者含む）の地域活性化プログラムで、地域課題の調査・分析・提言等実施－8ゼミ8課題、参加学生割合 40%（81名）
- ・ 平成 29 年度→ゼミ数・参加卒業生数割合目標－3・4年ゼミ 14、参加学生割合 80%。「社会人基礎力育成グランプリ」決勝大会入賞をめざす。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・ 平成 25 年度は、7ゼミと1チームの計8取組を実施した。従来の中間発表会に代わるものとして、ゼミ単位で中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして、成果発表会に臨んだ。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇については、学生の評価はアクション力、シンキング力の上昇度は共に60%、チームワーク力は70%となっている。教員の評価は、それぞれ約50%で、全体的に学生の評価が教員のそれを上回っている。1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけ伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

（4）平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度は、9ゼミ1チームの計10取組みが地域活性化プログラムの活動に参加した。取組みごとに中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして成果発表会で成果を発表した（参加者は約190名で盛況であった）。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇度については、学生の自己評価ではアクション力が65%、シンキング力が55%、チームワーク力は58%となっている。教員の評価はアクション力が59%、シンキング力が52%、チームワーク力が68%となっている。アクション力とシンキング力では学生の自己評価が、チームワーク力では教員の評価が高くなっている。教員の評価の方がおそらく客観的評価と思われるが、学生の自己評価が高いのはプログラム評価としては、大変望ましいと言ふべきであろう。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）・・・当プログラムは今年度も好結果を得て終了したが、今後は、参加ゼミ数（学生数）の拡大、プログラムの質的評価を検討する必要がある。後者については、アドバイザー、担当教員、発表会参加者の投票等により優秀賞の表彰等を行なうことも検討すべきであろう。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・平成 27 年度は、9ゼミ9取組みが地域活性化プログラムの取り組みに参加した。中間レビューは、学内だったり、アドバイザーの企業等に直接出向いて行ったりと、取り組みごとに工夫して実施した。アドバイザーからの評価、指摘事項、意見等を参考に、成果発表会に臨むことができた。
- ・発表会の参加者は 195 名で、アンケートでは、「テーマとの」整合性」89.7%、「地域活性化の役立ち度」77.0%、「取組の評価」82.5%、「発表の仕方」82.0%と、高い評価を得た。
- ・社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後）については、アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで、教員の評価より学生の自己評価が高い。3つの力の中では、シンキング力とアクション力の上昇度が、学生、教員ともに評価が低い。シンキング力とアクション力の向上方策が課題と言える。
- ・3月には「平成 27 年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」（全ゼミの活動をまとめた合冊とゼミごとの活動をまとめた分冊）を刊行した。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）・・・地域活性化プログラムの取組みゼミ（3・4年の8ゼミ）活動について、中間レビュー（9～11月）と最終報告会（12月）を開催する。このレビュー・報告会でのアドバイザーの評価を受け、評価指標の検討も行う。また、社会人基礎力のコンテスト等があれば、応募する。

【目標】

- ・地域活性化プログラムの取り組みは、自治体との連携が拡大し、地域・企業活性化との深まりが期待できる。
- ・学生の社会人基礎力の向上が期待できる。

(7) 平成 28 年度計画

- a. 取組ゼミ・・・平成 28 年度は、7ゼミ7取組で、取組テーマは検討中である。
- b. 年間スケジュールは次のとおりである。
 - 4月 参加ゼミを募集し、月1回部会を開催する。以後、毎月開催し、進捗、問題点を確認する。
 - 5月 ゼミテーマ、概要、アドバイザーを選出する。
 - 6月 第1回推進協議会を開催する。
 - 7～10月 活動の進捗に合わせて中間レビューを開催し、アドバイザーから意見をいただく。
 - 10月 悠久祭で活動を報告する。
 - 12月 成果発表会、第2回推進協議会を開催する。協議会では、発表会の評価、報告書作成に向けてのアドバイス、ご意見をいただく。
 - 1月 活動報告書提出（学生）
 - 2月 活動報告書提出（教員）
 - 3月 活動報告書の刊行

(8) 平成 28 年度展開

a. 平成 28 年度地域活性化プログラム参加ゼミ

平成 28 年度地域活性化プログラム参加ゼミは以下の 7 ゼミ 8 取組である。

図表 4-5-1 学生による地域活性化プログラムの取組ゼミとテーマ

ゼミ名	テーマ
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を盛り上げよう！ *参加学生 7 人（4 年 1、3 年 3、2 年 2）
村山 光博 ゼミ	企業ホームページの改善による効果の確認 *参加学生 10 人（4 年 7、3 年 3）
橋長真紀子ゼミ	未来の農業革新Ⅲ～地産地消を通じた循環型社会への貢献～ *参加学生 13 人（4 年 7、3 年 6）
高橋 治道 ゼミ	地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕 165 周年を記念する活動～ *参加学生 7 人（4 年 4、3 年 3）
山川 智子 ゼミ	長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 *参加学生 10 人（4 年 2、3 年 3、2 年 5）
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバル化～ ～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～ *参加学生 7 人（4 年 3、3 年 4）
権 五景 ゼミ	酒粕で長岡を盛り上げよう！ *参加学生 7 人（4 年 1、3 年 3、2 年 2）
鯉江 康正 ゼミ	「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献 *参加学生 16 人（4 年 3、3 年 12、2 年 1）

b. 平成 28 年度地域活性化プログラムの実施経過

平成 28 年度地域活性化プログラムは、次の日程で実施した。

図表 4-5-2 平成 28 年度地域活性化プログラムの実施経過

実施日	内 容
4 月 28 日（木）	平成 28 年度第 1 回地域活性化プログラム運営部会開 （以後毎月 1 回開催）
5 月 26 日（木）	平成 28 年度第 2 回地域活性化プログラム運営部会開催
6 月 23 日（木）	平成 28 年度第 3 回地域活性化プログラム運営部会開催
6 月 29 日（水）	平成 28 年度第 1 回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
7 月 28 日（木）	平成 28 年度第 4 回地域活性化プログラム運営部会開催
8 月 24 日（水）	平成 28 年度第 5 回地域活性化プログラム運営部会開催
9 月 28 日（水）	平成 28 年度第 6 回地域活性化プログラム運営部会開催

実施日	内 容
10月11日（火）	高橋ゼミ：中間レビュー
10月18日（火）	広田ゼミ：中間レビュー
10月27日（木）	平成28年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
10月29日（土）～30日（日）	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
10月31日（月）	橋長ゼミ：中間レビュー
11月1日（火）	山川ゼミ：中間レビュー
11月7日（月）	村山ゼミ：中間レビュー
11月19日（土）	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月22日（火）	権ゼミ：中間レビュー
11月24日（木）	平成28年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
11月29日（火）	権ゼミ：中間レビュー
12月3日（土）	平成28年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月14日（水）	平成28年度第2回地域活性化プログラム推進協議会・交流会開催 於：長岡大学
12月22日（木）	平成28年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
1月26日（木）	平成28年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
2月23日（木）	平成28年度第11回地域活性化プログラム運営部会開催
3月21日（火）	平成28年度地域活性化プログラム活動報告書発行（合冊並びに各ゼミごと8分冊）



権ゼミ：成果発表会



高橋ゼミ：高橋九郎生誕 165
周年記念シンポジウム



鯉江ゼミ：悠久祭

c. 推進体制

平成 28 年度地域活性化プログラム推進体制は、次のとおりである。

図表 4-5-3 平成 28 年度地域活性化プログラムの推進体制

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
長岡市地方創生推進部政策企画課	課長	佐藤 実
株式会社パルメソ	代表取締役	松原 亨

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
長岡歯車資料館	館長	内山 弘
長岡市青少年育成センター	所長	渡辺 茂
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE	事務局長	山田 哲也
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
長岡市農林水産部 農水産政策課	課長	五十嵐 智行
山古志こだわり屋	代表	諏訪 弥須雄
長岡市神谷区	区長	白井 湛
NPO法人ながおか生活情報交流ねっと	理事長	桑原 眞二
越路もみじの会	ボランティアガイド隊長	廣川 篤
新潟大学 人文社会教育科学系	准教授	村山 敏夫
よもぎひら温泉 和泉屋	常務	金内 智子
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク	代表	大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なぷう	オーナー	若井 由佳子
越銘醸株式会社	取締役製造部長	浅野 宏文
特定非営利活動法人まちなか考房	事務局長	大沼 広美
まちの駅里山ログハウス	駅長	中川 一男
長岡市市民協働推進部市民協働課	主査	岩嶋 雄人

<学内推進委員>

ゼミ担当教員	准教授	権 五景	ゼミ担当教員	教 授	山川 智子
ゼミ担当教員	教 授	村山 光博	ゼミ担当教員	教 授	広田 秀樹
ゼミ担当教員	講 師	橋長真紀子	ゼミ担当教員	教 授	鯉江 康正
ゼミ担当教員	教 授	高橋 治道			

d. 各ゼミの取組み概要・・・7ゼミ8取組概要は、次のとおりである。

図表 4-5-4 十分杯で長岡を盛り上げよう！

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

十分杯で長岡を盛り上げよう！

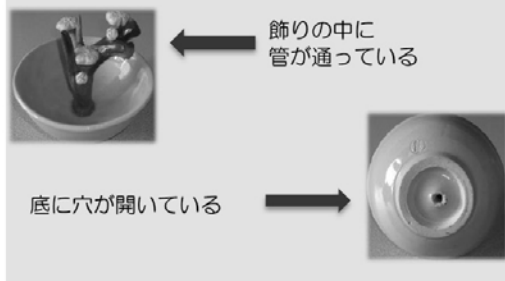


【参加学生】 4 年生 中澤司
3 年生 大滝皓史 小布山大喜 早川裕章
周 天奇
2 年生 佐野毅 水落柊哉

【アドバイザー】 長岡歯車資料館 館長 内山 弘氏
長岡市青少年育成センター 所長 渡辺 茂氏

ほかの杯と大きく異なる4つの点

- ① 杯なのに底に穴がある。
- ② 杯の中に「飾り」という突起がある。
- ③ 飾りの中は管が通っている。
- ④ この杯に一定の量(8分目程度)を超えて注ぐと中に入っていたすべてのお酒が底の穴から漏れてしまう。



長岡と十分杯の関わり

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡ります。忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていました。ところが、元禄時代(1688-1704 年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになりました。長岡藩も例外ではなかったのですが、高田城二の丸請取のための出費、度重なる水害で藩の財政が悪くなっていました。そこに、塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に忠辰公が感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになりました。忠辰公は、十分杯が持つ「満つれば欠く」という処世訓を藩士に示すことで、財政を引き締める一方で、武士としての戒めを大事にしたと思われます。

まちキャン
十分杯講座
での活動風景



酒の陣と観光列車
越乃 Shu * Kura
での活動風景



図表4-5-5 企業ホームページ改善による効果の確認

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

村山光博
ゼミナール

企業ホームページの改善による 効果の確認



【参加学生】

4年生 内山絵美 河村信太郎 佐々木圭太 福崎秀一郎
山田和弥 山田里津子 山本幸之介
3年生 尾木和磨 菊地紘基 宋超

【アドバイザー】

NPO法人長岡産業活性化協会NAZE 事務局長 山田哲也 氏
株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹 氏

取組みの目的

企業の自社ホームページにおいて、各社のターゲット（対象者）に合わせた情報をより効果的に発信できるように改善を図ることで、ホームページへのアクセス数の増加から問い合わせや引き合いの増加へとつなげ、地域企業の活性化を目指す。

取組みの意義

- ・ 自社ホームページの改善に向けて企業の業務内容、得意な技術、製品の特徴等を整理することにより、他社との違いや強みを明らかにすることができる。
- ・ 企業のホームページを学生グループが第三者的な立場から評価することで、いろいろな視点からわかりやすいホームページを目指す。
- ・ ヒアリング調査やホームページ情報の調査等を通して企業研究を行うことで、学生の調査能力や社会人基礎力の向上を図る。

活動の枠組みと方法

- ・ 本取組みは、NPO法人長岡産業活性化協会NAZEの「企業ホームページ改善支援事業」との連携事業である（平成22年度より）。
- ・ これまでの活動では、NAZEの会員企業からホームページを改善したいという意欲のある企業を募集し、各年度で2～3社を対象として学生グループが各企業のホームページに対する改善提案を行ってきた。
- ・ これまでは改善提案にとどまっていたが、今後はリニューアル（改善）後の効果の確認や評価にも取り組んでいきたい。

活動の概要

- ・ NAZE事務局を訪問し、NAZEの事業内容等についてヒアリング調査を行った。
- ・ ホームページ改善対象企業の3社をそれぞれ訪問し、業務概要やホームページの運用状況等のヒアリング調査と工場見学を行った。
- ・ 各社に対するヒアリング調査の結果と学生によるホームページの診断結果に基づいてホームページ改善案の策定を行った。
- ・ リニューアル後のNAZEのホームページを閲覧し、改善による効果の確認を行った。

取組みの成果

- ・ NPO法人長岡産業活性化協会NAZEの会員企業である小川コンベヤ株式会社、有限会社シンエー木型工業、株式会社タカハシの3社に対する自社ホームページの改善案を策定し、各社に提案した。
- ・ 昨年度の活動で改善提案を行ったNAZEのホームページが7月にリニューアルされたことから、リニューアル後のホームページの評価をゼミ内で行い、その結果を8月に開催されたNAZEの広報部会において発表した。



図表 4—5—6 未来の農業革新Ⅲ
—地産地消を通じた循環型社会の貢献—

長岡大学

文部科学省採択
平成 25～27 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

文部科学省
地(知)の拠点

平成 28 年度「学生による地域活性化プログラム」 橋長ゼミナール

未来の農業革新Ⅲ — 地産地消を通じた循環型社会の貢献 —

研究目的

若者の就農率を上げるため、農業の魅力や楽しさを発信していくこと。若者に農業の楽しさを伝えるため、地産地消の取り組みを通じ長岡市の循環型社会への貢献に寄与する農業のあり方を検討することを研究目的とした。

研究方法

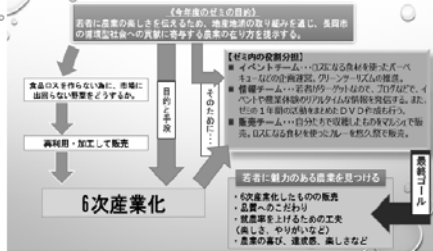
この 6 次産業化の事例を少しでも多くの人を知ってもらうため、農業の魅力や楽しさを発信できたらと考えた私たちは今年度、ゼミ内で「イベントチーム」、「情報チーム」、「販売チーム」の 3 つのチームに分けて活動を進めてきた。

橋長ゼミナール
メンバー

橋長真紀子 講師、繪面伊央璃、金子雅人、齋藤拓海、佐藤裕貴、鈴木敢、長谷川嵩、三村勇貴、五十嵐嵩生、須田混介、薮澤雄樹、森本拓也、山崎隼斗、周天奇

研究の背景

今年度は、昨年度の提言内容を受け、若者の就農率を上げるためには、農業の魅力や楽しさを発信していくことが大切だと考えた。そこで、「若者に農業の楽しさを伝えるため、地産地消の取り組みを通じ、長岡市の循環型社会への貢献に寄与する農業のあり方を検討する」ことを研究目的とした。そこで、私たちが「循環型社会に貢献できる方法」として考えたのが、農作物の B 級品など市場に出回らないような廃棄物を再利用し、加工して販売する「6 次産業化」を行うことである。



2016 年度 活動内容

- 4 月：長岡市農水産政策課へヒアリング
- 6 月：山古志こだわり屋 収穫作業の手伝い
- 7 月：木沢ハウスで農家民宿体験
- 9 月：ゼミ合宿
- 6 月～9 月：山古志こだわり屋でのインターンシップ
- 10 月：悠久祭でカレーの販売
- 11 月：農業イベント
- 12 月：成果発表会

<各ゼミ生のインターンシップ活動>

- ・かぐら南蛮の生産、加工
かぐら南蛮の手入れ、収穫の手伝い
加工では南蛮みそのラベル貼の手伝い
- ・ばくばくマルシェでの販売
アオーレで行われる市場で販売の手伝い
- ・山古志開牛祭での販売
山古志で行われた開牛イベントの手伝い



<他県の 6 次産業化事例>

全国農業 地域 都道府県	農業生産 関連事業 の実経営 体数	事業種類別 (複数回答)							
		農産物 の加工	消費者 に 直接販売	貸農園 体験 農園等	観光 農園	農家 民宿	農家 レストラン	海外へ の輸出	その他
北海道	5,286	882	4,597	296	291	219	140	48	153
新潟	8,127	687	7,760	77	109	61	33	51	48
長野	12,618	2,644	11,044	210	592	242	77	45	101
高知	3,948	262	3,822	14	15	24	14	7	20
富山	2,435	352	2,207	21	22	13	19	2	4

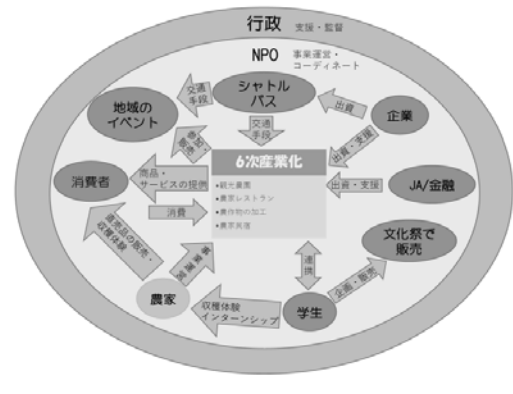
出典：農林水産省「2015 年農業センセス結果の概要」より一部抜粋著者作成

<山古志地区の SWOT 分析>

		外部環境	
		機会	脅威
内部環境	強み	・地方創生 ・中核企業の影響でホームパ リアーの向上 ・山古志に来て人々の温か さに触れよう ・国産風を売ってもら ・高級旅館を利用した体験型 農作業の推進 ・観光客が世界的ブ ランド ・観光客が世界的不 動産 ・観光客が少ない ・生産に必要不可欠な ・人手不足、高齢化が少 ない(スーパー、病院 など) ・道路の整備が行き 届いていない	・人口減少による過疎化 ・TPP ・かてら農産物など有名な 食品を大消費地に発信 する ・人々が旅行に訪れたい なるように地域の魅力を 高める
	弱み	・観光客が少ない ・生産に必要不可欠な ・人手不足、高齢化が少 ない(スーパー、病院 など) ・道路の整備が行き 届いていない	・観光客が少ない ・生産に必要不可欠な ・人手不足、高齢化が少 ない(スーパー、病院 など) ・道路の整備が行き 届いていない

山古志の
住民と自然に
触れることが
できる農
泊が必要

<6 次産業化の事業スキーム>



図表4—5—7 地域の文化と伝統をつなぐ
～高橋九郎翁生誕165周年を記念する活動～



文部科学省採択
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度 学生による地域活性化プログラム

高橋治道
ゼミナール

地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕165周年を記念する活動～



【参加学生】

4年生 板谷千紀 今井練 高野奏翔 山田大智
3年生 黒田陽一 周文 中村涼平

【アドバイザー】 神谷区長 白井 湛氏

NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと 理事長 桑原真二氏
越路もみじの会 代表 廣川篤氏

取り組みの目的

長岡市神谷地区における7年間の取り組みを通して、明治時代後半に生きた高橋家の10代目当主高橋九郎が現在の神谷やもみじ園の基礎を作ったことを知った。しかし、亡くなってから95年が過ぎ、神谷や地域の人たちの間からその史実が忘れ去られようとしている。そこで、地域のために尽くした氏の功績を神谷の人達やもみじ園を訪れた人たちに知らせ、後世に伝え残すことを目的として、本年が氏の生誕165年目の節目の年であることから、資料展示と講演のための生誕165周年記念事業を企画した。

取り組みの意義

高橋九郎が行っていた様々な試みは非常に先駆的なものであり、今で言う地方創生に相当するものである。明治時代に地域復興に力を注いだ氏の存在と業績は神谷地区を初め旧来迎寺村一帯の大きな財産であり、その人物像や業績を地域住民や関心を持つ人々に伝えていくことは地域の伝統と誇りを後世に伝え残すことにつながり、地域に活力をもたらし、地域の活性化につながる非常に意義深いものである。

取り組みの成果

越路観光協会様、越路もみじの会様、長岡市役所越路支所産業建設課様をはじめとする多くの皆様、団体のご協力で、11月6日に高橋九郎ゆかりのもみじ園において「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」を開催した。長岡大学教授松本和明による講演の後、「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」というテーマで6人のパネリストで活発な討論を行った。また、このシンポジウムに合わせて、11月5, 6, 12, 13日の4日間、神谷の「歴史・文化の会」や市内在住の収集家からご協力いただいた写真や古文書の資料展示展を開催した。この資料展では、ゼミ生が展示資料の説明を行った。訪問者からは、高橋九郎のことを知ることができたなどの意見が寄せられた。またこれをきっかけに、高橋九郎に関する常設展示場設置の計画が検討されている。

シンポジウムの様子



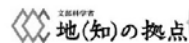
ゼミ学生による展示資料の説明



図表 4-5-8 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信
—温泉☆ドキドキプロジェクト—



文部科学省採択
平成 25～27 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度 学生による地域活性化プログラム

山川智子
ゼミナール

長岡周辺地域の温泉資源の 現状分析と情報発信 温泉☆ドキドキプロジェクト



【参加学生】 4 年生 丸山貴樹
3 年生 安仲諒人 藤田春樹
2 年生 高山汐音 永井想 武士俣大智

【アドバイザー】 よもぎひら温泉和泉屋 常務 金内智子氏
新潟大学 教育学部保健体育・スポーツ科学講座 准教授
村山敏夫氏

今年度の取り組みの目的と狙い：「長岡の温泉を、楽しむ・伝える・掘り下げる」
長岡の温泉をもっとよく知り、「地の宝」である温泉の良さを情報発信するのが狙いである。

長岡市及びその周辺地域にある温泉・入浴施設が、その地域においてどのような役割を担っているのかを実地調査することで、それぞれの強みや魅力をより深く掘り起こし情報発信することを目指している。

今年度の主な活動内容

- ①長岡周辺地域にある日帰り温泉や入浴施設に行き実地調査する。
- ②調査した各施設の特色や気づきをまとめる。
- ③気づきをもとに温泉施設の魅力を掘り下げて紹介パネルを作成する。
- ④悠久祭で施設紹介パネルの展示を行う。
- ⑤実地調査やヒアリングをもとに発表や報告書として、学生の視点から長岡市や周辺地域の温泉施設・入浴施設の現状の情報発信を行う。

今年度の活動で学生が実地調査をした施設

『麻生の湯』、『桂温泉』、『よもぎひら温泉和泉屋』、『えちご川口温泉』、『寺宝温泉』、『喜芳』、『アクアレー長岡』、『太古の湯』、『さくらの湯』、『長岡かまぶろ温泉』、『いい湯らてい』、『ごまどう湯つ多里館』、『花の湯館』、『秋葉温泉花水』、『ホテル丸松』、『しらさき荘』、『桂の関温泉ゆ〜む』、『カーブドッチヴィネスパ』、『よりのなれ』、『ナステビュウ湯の山』、『よもやま館』、『福引屋』、『おいらこの湯』、『ホテル飛鳥』などの 24 施設。昨年度よりも充実した内容に。

寺宝温泉、えちご川口温泉、蓬平温泉 和泉屋、花みずき温泉 喜芳、麻生の湯、桂温泉、太古の湯、アクアレー長岡、灰下の湯 東栄館、志保の里荘、おいらこの湯、長岡かまぶろ温泉、秋葉温泉 花水、ソルト・スパ潮風、いい湯らてい、松之山温泉 ひなの宿ちとせ、かわら亭、竜神の館、あまやち会館、養楽館 延命の湯、エコトピア寿、越後長岡ゆらいや など昨年度作成した 22 施設に加えて、新規に花の湯館、ごまどう湯つ多里館、桂の関温泉ゆ〜む、カーブドッチヴィネスパ、ナステビュウ湯の山、ホテル丸松と 6 施設を作成して、合計 28 点の施設紹介パネルを悠久祭で展示し、温泉への理解を深めた。



図表 4-5-9 グラスルーツグローバルゼーション
～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～



文部科学省採択
平成 25～27 年度「地(知)の拠点整備事業」
平成 28～31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度 学生による地域活性化プログラム

広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバルゼーション

～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～



【参加学生】

4 年生：高野誉、Nyam Tsedensodnom、長谷川翔栄
3 年生：王 吉、川村拓也、土井健太、吉田綺璃

【アドバイザー】

コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表 大出恭子氏
フェアトレードショップら・なぶうオーナー 若井由佳子氏

取り組みの目的

「グローバルゼーションと地域の関係」という問題意識を中心に多様なアクションに挑戦する。

活動の枠組みと方法

- ・ Study (グローバルゼーションに関する学習)
- ・ Invite (外国人の方等を招待しての交流)
- ・ Visit (グローバルゼーションに関する場所への訪問)
- ・ Donate (学園祭に出店しユニセフに寄附) という 4 つの活動フェーズを展開

取り組みの意義

グローバルゼーションを平和的にラウンディングさせることへの貢献



活動の概要

Study・Invite・Visit・Donate の 4 つの活動フェーズを進める中で、LSG (Learn by Stimulation of Globalization: グローバリゼーションの刺激をきっかけにした学習) として、各ゼミ生が自身の選択したグローバルゼーションに関する個別テーマで研究・調査を進めた。

悠久祭でフェアトレードの販売



フェアトレード (Fair Trade) とは発展途上国の人々とフェアなトレード、すなわち適正な条件で取引するというビジネス。



外国人をお招きしてヒアリング



取り組みの成果

グラスルーツグローバルゼーション (草野の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進) という独自コンセプトを確立し、それを地域に広めることができた。



平成 28 年度学生による
地域活性化プログラム成果発表



平成28年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

酒粕で長岡を盛り上げよう！



【参加学生】 4年生 中澤司
3年生 大滝皓史 小布山大喜 早川裕章
周 天奇
2年生 佐野毅 水落柊哉

【アドバイザー】 越銘醸株式会社 取締役・製造部長 浅野宏文氏
NPO 法人まちなか考房 事務局長 大沼広美氏

《取組概要》

長岡は醸造のまちです。その中心は日本酒であり、多くの蔵元を擁する長岡にとって、「酒粕」は地域資源と言えます。しかし、その活用法については、まだ可能性を秘めていると思います。そこで、私たちは、地域企業と連携して酒粕の新たな商品化を目指します。

— 権ゼミの基本姿勢 —

「有から有の経済発展」
「地域資源の活用」



私たちは、「十分杯」一筋に5年間取り組んで参りました。その中で、「無から有を生む経済発展は難しい」ということを実感しました。「地域の発展のためには多額の投資をすれば良い」という時代は終わったと考えます。では、どうすればよいのか…

私たちは、「有から有」の経済発展に活路を見出したいと思います。すなわち、その地に有るもの(土地・気候・地元企業・文化財など)を活用・磨きをかけることで更なる発展・新たな展開を目指します！

共に取り組む皆様(敬称略)

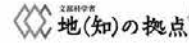
- ・越銘醸株式会社
- ・TOCHIO no BAR
- ・nature farm しまだ
- ・NPO 法人 まちなか考房
- ・ながおか・若者・しごと機構



図表4-5-1-1 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献



文部科学省採択
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献



- 【参加学生】 4年生 新保祐輝 小林川子 趙清宇
3年生 池田諒馬 江口枝里子 片桐湧太 木島俊久
小松綾乃 陈奥 田源一 中島なつ美
中曽根湧 楊婉蘭 横田百合江 鷲尾創太
2年生 鹿島大輝
- 【アドバイザー】 まちの駅里山ログハウス 駅長 中川一男氏
長岡市市民協働推進部市民協働課 主事 岩嶋雄人氏

今年の合い言葉は『GO!』 活動は楽しく、やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

＜取組1＞新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動

県内のまちの駅 129 駅のうち 126 駅とアポを取ることができ、62 駅のパネル更新（ヒアリングに伺ったまちの駅は 37 駅、電話や fax による更新が 25 駅）を行いました。数年ぶりに模擬店も行いました。



＜取組2＞まちの駅全国フォーラム in TOKYO への参加

国立オリンピック記念青少年総合センターで2日間にわたって行われた全国大会に参加して、「まちの駅のビジネス力」に関する分科会と地域の魅力を発信する「マップづくり講座」に参加しました。また、「新潟県内まちの駅交流会」を本学で実施しました。「越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議」にも参加しました。



＜取組3＞地域活性化活動への参加

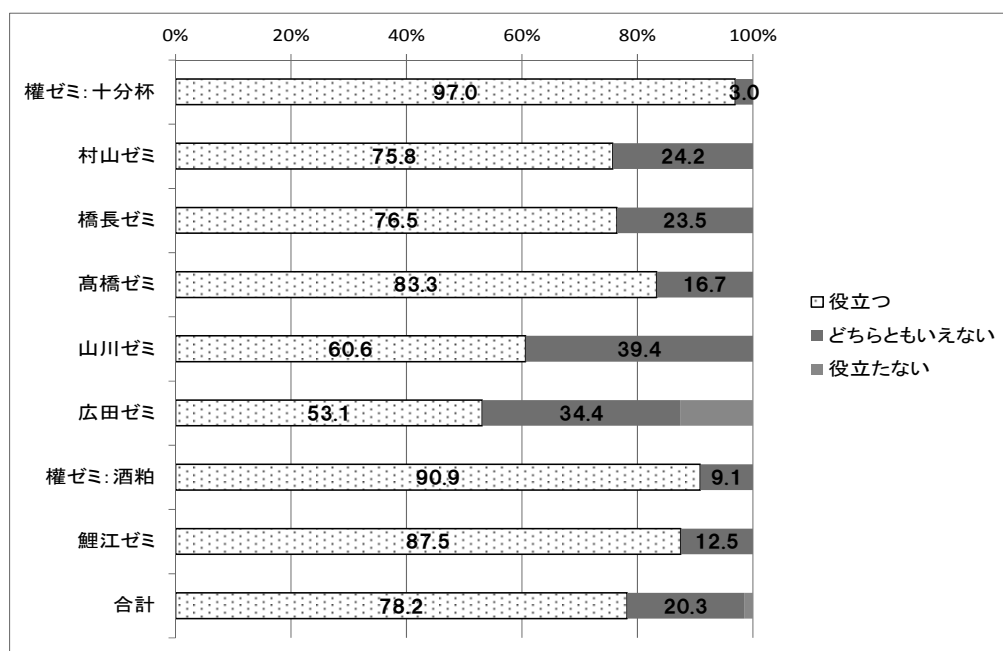
「ハロウィンみつけ」、「とうきび観音祭り」、「今町まちなかマルシェ」へも参加しました。とりわけ、ハロウィンでは実行委員として企画段階から参加しました。右のリーフレットは学生がデザインしたものです。



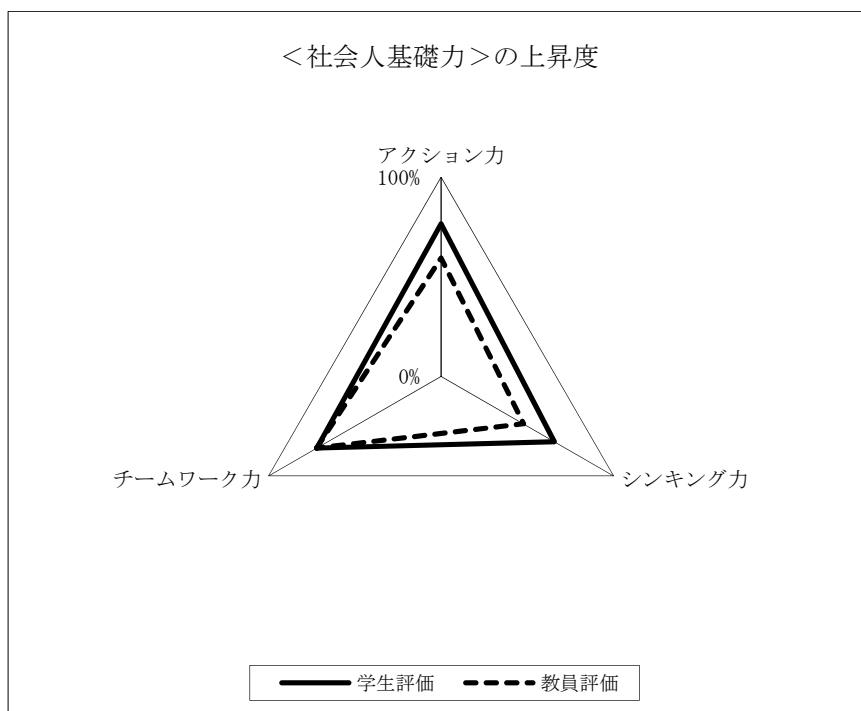
(8) まとめ—成果と課題—

- ・参加ゼミ・・・参加ゼミは7ゼミ、8取組みで、前年とほぼ同じ規模であった。3・4年の参加学生数は61人で、参加率38.4%であった。(他に2年生8人参加)
- ・成果発表会・・・平成28年度地域活性化プログラム成果発表会は、249名(一般参加者47名、アドバイザー18名、本学学生145名、本学教職員39名)と盛大であった。
- ・成果発表会参加者のアンケート評価・・・成果発表会参加者のアンケートを実施した。回収率88.8%(249名中、221名が回答)。一般参加者のアンケート結果は、「テーマとの整合性」88.1%(全体93.1%)、「地域活性化の役立ち度」78.2%(全体77.5%)、「取組への評価」89.2%(全体92.4%)、「発表の仕方の卓越性」90.2%(全体90.8%)と、ともに高い評価を得た。一般参加者による「地域活性化の役立ち度」は、図表4-5-12を参照されたい。
- ・社会人基礎力の上昇度(取組前と取組後の比較)・・・学生の自己評価と教員評価は図表4-5-13~16に示す通りである。アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで概ね学生評価の方が高く、教員の評価は低くなっている。また、3つの力のなかでは、学生評価では、アクション力→チームワーク力→シンキング力の順に上昇度が低くなっている。教員評価では、チームワーク力→アクション力→シンキング力の順に上昇度が低くなっている。シンキング力の向上方策が課題であると言えよう。
- ・社会人基礎力の上昇度は、学生の自己評価ではアクション力が76.6%、シンキング力が65.6%、チームワーク力は71.9%である。なかでもアクション力の上昇度は高い。教員の評価はアクション力が59.4%、シンキング力が47.8%、チームワーク力が72.1%である。チームワーク力は上昇しているが、シンキング力は十分ではない。<同じ活動、同じ学生>での評価ではないので、優劣比較は適当ではないが、シンキング力の向上方策が課題であると言えよう。
- ・なお、成果発表会は、図表4-5-17のとおり開催され、3月に「平成28年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」(全ゼミの活動をまとめた合冊と各ゼミの活動をまとめたゼミごとの分冊)を発行した。

図表4-5-12 「地域活性化の役立ち度」に対する一般参加者の評価



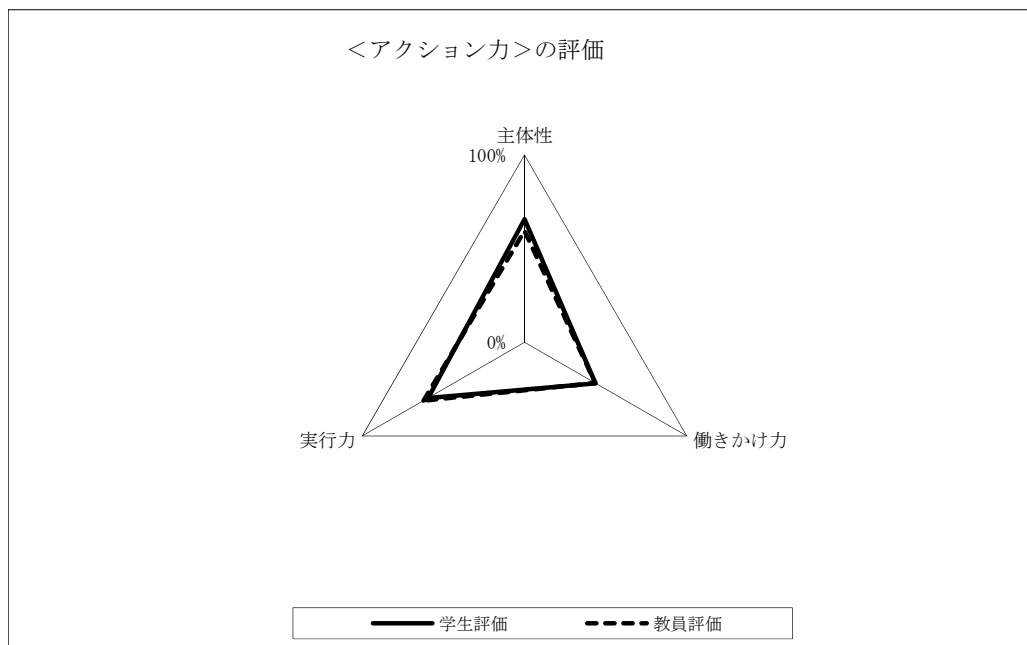
図表4-5-13 社会人基礎力の上昇度



＜社会人基礎力＞の上昇度

		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	76.6%	59.4%
シンキング力	上昇した学生の割合	65.6%	47.8%
チームワーク力	上昇した学生の割合	71.9%	72.1%

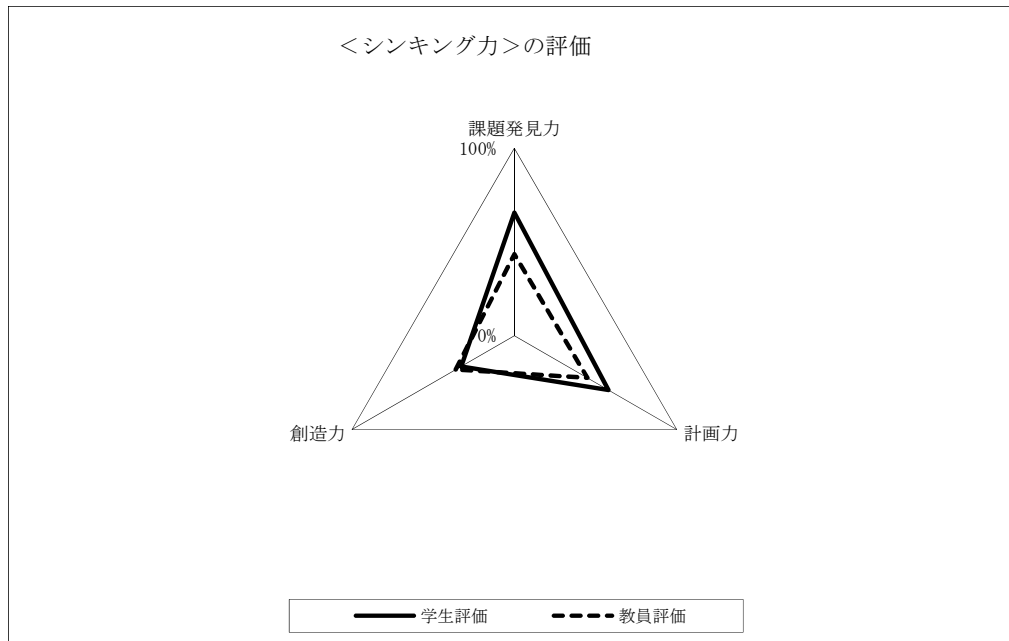
図表4-5-14 アクション力の評価



＜アクション力＞の評価

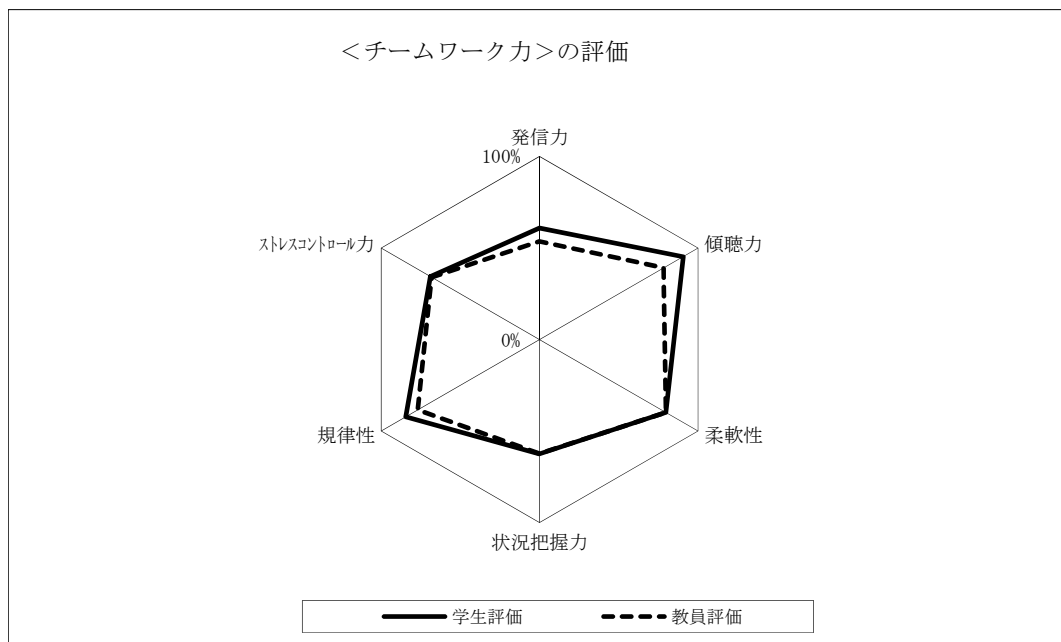
		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	65.6%	59.4%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	43.8%	43.5%
実行力	確実に実行できた学生の割合	59.4%	62.3%

図表4-5-15 シンキング力の評価



＜シンキング力＞の評価		学生評価	教員評価
課題発見力	明らかにできた学生の割合	65.6%	43.5%
計画力	準備できた学生の割合	57.8%	44.9%
創造力	十分出せた学生の割合	32.8%	36.2%

図表4-5-16 チームワーク力の評価



＜チームワーク力＞の評価		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	60.9%	53.6%
傾聴力	十分聞けた学生の割合	90.6%	78.3%
柔軟性	十分理解した学生の割合	79.7%	79.7%
状況把握力	十分理解した学生の割合	62.5%	62.3%
規律性	守った学生の割合	84.4%	76.8%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	68.8%	68.1%

学校法人 中越学園
長岡大学

長岡地域(創造人材)育成プログラム
平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」採択
平成28～31年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」参加

文部科学省
地(知)の拠点

平成28年度 学生による地域活性化プログラム 成果発表会

日時 平成28年 **12/3日**
13:00～16:30(受付開始12:30)

定員 **200名**

**入場
無料**

会場 ホテルニューオータニ長岡
「NCホール」

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

地域の課題に対して、学生が調査研究を通して解決策を提案し、
社会人基礎力を身につける長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は
10年目を迎えました。皆様のご来場お待ちしております。

プログラム

■	十分杯で長岡を盛り上げよう!	権五景ゼミ(1)
■	企業ホームページの改善による効果の確認	村山光博ゼミ
■	未来の農業革新皿～地産地消を通じた循環型社会への貢献～	橋長真紀子ゼミ
■	地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕165周年を記念する活動～	高橋治道ゼミ
■	長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信	山川智子ゼミ
■	グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～	広田秀樹ゼミ
■	酒粕で長岡を盛り上げよう!	権五景ゼミ(2)
■	「まちの駅」をフィールドとした活動等による 地域活性化への貢献	鯉江康正ゼミ

【総評】 長岡市地方創生推進部 政策企画課長 佐藤 実氏
株式会社ハルメノ 代表取締役 松原 亨氏






◆主催/長岡大学
◆後援/長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所・NPO法人長岡産業活性化協会NAZE・
公益財団法人にいがた産業創造機構

(お問合せ先:お申込み)
長岡大学教務学生課 担当 笠井
TEL:0258-39-1600(代)
FAX:0258-39-9566
〒940-0828 長岡市御山町80-8
http://www.nagaokauniv.ac.jp
E-mail:kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

お申込方法
お電話、EメールまたはFAXにてお申し込みください。 申込締切は11月25日(金)



6 社会人基礎力の養成（インターンシップ）－教育⑥－

（１）方針（申請時）

- ・従来の就業体験型インターンシップに加えて、課題解決型インターンシップを新設し、社会人基礎力の一層の充実養成を図る。

（２）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→平成 26 年度に、課題解決型インターンシップ＝インターンシップⅡ（従来はⅠ）科目を新設（2 単位）。商店街等で職場体験しながら、活性化提案等を行う。
- ・平成 29 年度→インターンシップⅡ（課題解決型）学生参加率 20%、インターンシップⅠ（就業体験型）参加率 60%をめざす。

（３）平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度の実業体験型インターンシップは 8～9 月の集中（10 日間、2 単位）で行われた（23 人履修、参加率 26.7%、在籍 3 年生 86 人）。これに加えて、課題解決型インターンシップの平成 26 年度実施に向けた計画づくりを計画したが、成案を得るに至らなかった。
- ・課題解決型インターンシップの仕組みを検討したが、成案を得られず、次年度の課題となった。

（４）平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の実業体験型インターンシップ（8～9 月の 10 日間、2 単位）参加者は、16 人（3 年生）、研修実施事業所は 17 事業所であった。
- ・しかし、インターンシップ参加率（在籍 3 年生 63 人）は 25.4%で、かつて（平成 21～23 年度）の 30%後半のレベルと比べ 5 ポイント以上低下した。これは、今年度から実施したほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できずに履修登録したが、インターンシップに不参加の学生が 7 名にのぼったことが影響していると思われる。今後、準備授業を実施して参加率をあげる必要がある。
- ・また、学生の応募がなくやむなく辞退した受入承諾事業所は 22 にのぼった。
- ・今年度は、初のインターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 3 名を表彰した。好評であった。
- ・課題解決型インターンシップについては、次年度に新科目「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生配当）を設置して、実施することとした。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、就業体験型インターンシップについては、事前・事後のフォローと成果発表会の実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。次年度以降も、この方式を継続することが望ましい。

第 2 に、その反面、履修・受講学生の規模・率はともに低下したが、これを大幅にアップする対策を検討する必要がある。次年度の大きな課題である。

第 3 に、次年度には、新しい現場・就業体験の仕組みを幅広く（新潟大学の広域・連携型インターンシップ・マッチング等）構築する方策を検討する必要がある。1 年次（キャリア開発Ⅰ）からの現場・就業体験参加の認知度の向上、2 年次の新設・現場体験プログラムに

よる、1日企業見学、短期集中型就業体験、課題解決型インターンシップ（数名グループ）を多様に展開し、実践的な就業意識の形成を図る。3年生はこの上に立って、10日間のインターンシップに参加し、主体的な職業選択意識と就職活動への意欲向上を目指す。

（5）平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・平成 27 年度の就業体験型インターンシップ（8～9月の 10 日間、2 単位）参加者は、20 人(男 16、女 4)、参加率（在籍 3 年生 65 人）は 30.8%であった。
- ・平成 26 年度から実施したほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できずに履修登録したが、インターンシップに不参加の学生が若干名生じた。
- ・平成 27 年度、インターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を表彰した。
- ・課題解決型インターンシップは、「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生担当）を設置して、実施した。履修登録学生は 4 名(男)で、研修参加者は 2 名であった。
- ・就業体験型・課題解決型インターンシップのいずれも、事前・事後のフォローと成果発表会（11 月 18 日（水））実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。

【評価】

- ・就業体験型インターンシップ（3 年生対象、10 日間、2 単位）の参加率は依然として低く、平成 29 年度目標の 60%までは程遠い。参加率向上策が必要である。
- ・科目開設初年度の課題解決型インターンシップ（現場体験プログラム、1 単位）の参加学生は 2 名であり、学生に対する認知度を上げる必要がある。
- ・インターンシップ等授業の進め方は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施→研修レポート作成→成果発表＞という流れで実施する方式がほぼ確認できた。
- ・インターンシップの取組みは、学生の社会人基礎力の向上に直接つながる事業であり、他のプログラム（地域志向科目や地域活性化プログラムなど）との関連を明確にして、能力・資質向上の仕組み（能力評価方法も含めて）として構築する必要がある。

（6）平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（インターンシップ）・・・平成 27 年度開講の現場体験プログラム、インターンシップ（集中型、課題解決型）を多様な現場体験・就業体験・課題解決体験のプログラムとして組立て、学生の現場・仕事感覚の醸成と社会人基礎力の向上を図る。

【目標】

- ・3 年次のインターンシップ（10 日間、2 単位）については、履修者数、参加率ともに前年度以上（参加率は 30%台）をめざす。
- ・2 年次の現場体験プログラム（5 日間、1 単位）の課題解決型インターンシップの参加学生の倍増を目指す。

- ・多くの教職員・学生に現場体験プログラムとインターンシップの成果を広め、参加学生の増加につなげる。
- ・広域的インターンシップの取組（新潟大学等）に参加・連携し、学生の選択肢を広げるとともに、学生の実践的能力向上を図る。

（７）平成 28 年度計画

平成 28 年度のインターンシップの充実・拡大を次のように進める。

- ・ 3 年生の就業体験型インターンシップについては、毎週の授業の充実－就業体験（10 日間）－修了レポート－成果発表の流れで進め、社会人基礎力の向上を図る。
- ・ 2 年生については、課題解決型インターンシップ（グループをつくって参加）を実施する。
- ・ 1 年次（キャリア開発Ⅰ）、2 年次（キャリア開発Ⅱ、現場体験プログラム）などを活用して、早い時期での現場見学・体験・就業体験を経験し（数回の企業現場見学会実施）、実践的な就業意識の形成と主体的な職業選択のあり方を学び、就職活動への意欲向上を目指す。
- ・ 広域的インターンシップの取組（新潟大学中心の関越大学）にも参加・連携して、学生の選択肢を広げるとともに、学生の実践的能力向上を図る。

（８）平成 28 年度の展開

a インターンシップ授業の展開

- ・平成 28 年度のインターンシップ等授業（2 年対象の現場体験プログラムと 3 年生対象のインターンシップ）は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施→研修レポート作成→成果発表＞の方式で実施した。授業は、2・3 年合同で、毎週水曜日のⅣ限に開講した（教授会開催日除く）。
- ・平成 27 年度は、履修登録したがほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できず、インターンシップ不参加学生が若干名生じたが、平成 28 年度は、企業研究シートの記入例などを作成配布するなど対応策を講じたことにより、研修課題の検討、企業研究シート作成に適応できない学生をなくすことができた。インターンシップ不参加の学生も出たが、企業とのマッチングや受け入れ先の事情などであり、準備に適応できなかったためではない。

b インターンシップ・マッチングフェア

- ・参加学生の拡大をめざして、平成 28 年度は、インターンシップ・マッチングフェア（新潟大学を中心に長岡大学も参加して開催した COC+事業）を 5 月 14 日（土、於・長岡商工会議所）、5 月 21 日（土、於・新潟日報メディアシップ）に学生を参加させ、企業の担当者と直接話してインターンシップ先の選択に生かすことを試みた。

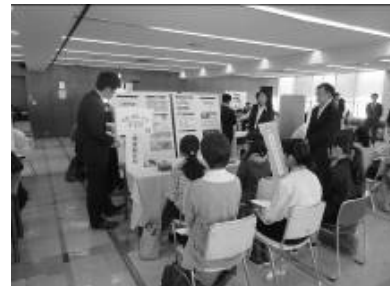
図表 4-6-1 によれば、年度当初の履修登録者は 28 人（2 年生 8 人＋3 年生 20 人）であったが、マッチングフェア参加後追加履修希望者が 18 人（2 年生 2 人＋3 年生 16 人）にのぼり、計 46 人がインターンシップ履修希望者に増加した。マッチングフェア参加学生は、74%（マッチングフェア参加者 34 人／インターンシップ履修希望者 46 人）

にのぼり、そのうち74%（履修決定者25人／マッチングフェア参加者34人）がインターンシップに参加することを決めた。フェアに参加しなかった学生も含めて、合計35人、76%（インターンシップ参加者35人／インターンシップ履修希望者46人）の学生がインターンシップに参加した。3年生のインターンシップ履修者は前年度を大きく上回って、26人に増加した。

インターンシップ・マッチングフェアに参加した学生の数名にインタビューを行ったところ、「企業を知ることができた」「直接企業の担当者の方と話をすることで、インターンシップのイメージがわき、インターンシップ先の選択に生かすことができた」との回答があった。マッチングフェアの開催は本学にとっては、大きな成果をあげた。

図表4-6-1 平成28年度インターンシップ・マッチングフェア参加状況等

		学生数	フェア		フェア参加者		フェア不参加者		合計	
			参加	不参加	履修	不履修	履修	不履修	履修者	不履修
3年生	履修登録	20	11	9	10	1	9	0	19	1
	追加履修	16	14	2	7	7	0	2	7	9
	小計	36	25	11	17	8	9	2	26	10
2年生	履修登録	8	7	1	6	1	1	0	7	1
	追加履修	2	2	0	2	0	0	0	2	0
	小計	10	9	1	8	1	0	0	9	1
2・3年生	履修登録	28	18	10	16	2	10	0	26	2
	追加履修	18	16	2	9	7	0	2	9	9
	合計	46	34	12	25	9	10	2	35	11
3年生	履修登録	100.0%	55.0%	45.0%	50.0%	5.0%	45.0%	0.0%	95.0%	5.0%
	追加履修	100.0%	87.5%	12.5%	43.8%	43.8%	0.0%	12.5%	43.8%	56.3%
	小計	100.0%	69.4%	30.6%	47.2%	22.2%	25.0%	5.6%	72.2%	27.8%
2年生	履修登録	100.0%	87.5%	12.5%	75.0%	12.5%	12.5%	0.0%	87.5%	12.5%
	追加履修	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	小計	100.0%	90.0%	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	90.0%	10.0%
2・3年生	履修登録	100.0%	64.3%	35.7%	57.1%	7.1%	35.7%	0.0%	92.9%	7.1%
	追加履修	100.0%	88.9%	11.1%	50.0%	38.9%	0.0%	11.1%	50.0%	50.0%
	合計	100.0%	73.9%	26.1%	54.3%	19.6%	21.7%	4.3%	76.1%	23.9%
3年生	履修登録	100.0%	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—
	追加履修	80.0%	127.3%	—	70.0%	—	0.0%	—	36.8%	—
	小計	180.0%	227.3%	—	170.0%	—	100.0%	—	136.8%	—
2年生	履修登録	100.0%	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—
	追加履修	25.0%	28.6%	—	33.3%	—	0.0%	—	28.6%	—
	小計	125.0%	128.6%	—	133.3%	—	0.0%	—	128.6%	—
2・3年生	履修登録	100.0%	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—	100.0%	—
	追加履修	64.3%	88.9%	—	56.3%	—	0.0%	—	34.6%	—
	合計	164.3%	188.9%	—	156.3%	—	100.0%	—	134.6%	—
(注)履修登録は、平成28年4月時点で履修登録した学生、追加履修は、平成28年5月14日、21日のインターンシップ・マッチングフェア参加経て追加履修の希望学生。										



c インターンシップ研修実績

- ・現場体験プログラム（課題解決型、5日間、1単位、2年生対象）とインターンシップ（就業体験型、10日間、2単位、3年生対象）の研修実績は、次の通りであった。

図表4-6-2 平成28年度インターンシップ研修実績

業種等	インターンシップ研修先企業							
製造業等	一正蒲鉾	越後製菓	サンカ	ナノテム	久保誠電気	サンシン	美松	小柳建設
	*5日、2人	*5日、4人	*5日1人、10日1人	*5日、2人	*5日、2人	*5日、1人	*6日、3人	*5日、1人
卸・小売業	アキアル・リテイリング	ドラッグトップス	レオパレス21	スズキ自動車販売	パール金属	三越伊勢丹	タシケント	
	*10日、3人	*5日、2人	*5日、2人	*5日、1人	*5日、2人	*5日、1人	*5日、1人	
サービス業	ホテルニューオータニ長岡	ホテル清風苑	長岡グランドホテル	マナーズ	NCT	グローバルマーケティング		
	*5日、2人	*5日、1人	*5日、1人	*10日、1人	*5日、1人	*5日、2人		
金融業	第四銀行							
	*5日、1人							
医療福祉	まちだ園							
	*5日、1人							
JA	ながおかJA	柏崎JA						
	*5日、4人	*5日、1人						
経済団体	長岡商工会議所							
	*5日、1人							
NPO法人	グリーンツーリズムとやま							
	*7日、1人							
公務	長岡市役所	村上市役所	三条市役所					
	*5日、1人	*10日、1人	*10日、1人					



ホテルニューオータニ長岡



小柳建設株式会社



三条市役所

d 成果発表会

- ・平成28年度インターンシップ成果発表会を、次の通り、11月16日（水）に開催し、最優秀賞1名、優秀賞3名を表彰した。発表者が前年度に比して多かったため、2時間を要した。
- ・インターンシップ成果発表会への対応として、学生にパワーポイントを提出させた。その際にパワーポイントの作成例を配布した。その結果、インターンシップに最後まで参加し

たすべての学生からのパワーポイント提出があり、パワーポイントを利用した成果発表を皆が実施することができた。

名称：平成 28 年度インターンシップ成果発表会

進行：担当教員 西俣 先子

日時・会場：平成 28 年 11 月 16 日（水）14：40～17：20、於・226 教室

次第：開会あいさつ（西俣）、発表要領、審査委員紹介、表彰について

成果発表（34名） 14:45～17:05 *発表3分、質問1分

審査 17:05～17:15

審査委員長 村山 光博 長岡大学長

審査委員 小松 俊樹 長岡大学教授

同 松本 和明 同

同 栗井 英大 長岡大学准教授

同 品川 十英 長岡大学事務局長

表彰 17:15～ 最優秀賞1件、優秀賞2件 *優秀賞は3件の拡大した

総評 17:20 審査委員長

・最優秀賞、優秀賞は、次の4名の学生が受賞した。おめでとう。

★最優秀賞 金子玲奈（3年） 研修先：JA柏崎（5日間）、ホテルニューオータニ長岡（5日間）

★優秀賞 大滝皓史（3年） 研修先：村上市役所（10日間）

★優秀賞 安達清志（2年） 研修先：株式会社サンシン（5日間）

★優秀賞 栗原泰武（2年） 研修先：グローバルマーケティング株式会社（5日間）



最優秀賞：金子玲奈（3年）



優秀賞：大滝皓史（3年）



優秀賞：安達清志（2年）



優秀賞：栗原泰武（2年）

e 平成 28 年度インターンシップ・フォーラム長岡

- ・また、平成 29 年 2 月 21 日（火）に開催された平成 28 年度インターンシップ・フォーラム長岡で、株式会社美松のお菓子の新商品づくりの上記インターンシップに参加した 2 年生の女子学生 3 人チーム（江崎広美、川上明里、保科レイナ）がプレゼンテーションを行い、好評を博した。

進行：新潟工科大学

日時・会場：平成 29 年 2 月 21 日（火）13：00～16：30、於・アオーレ長岡

次第：開会あいさつ（長岡大学学長 村山光博）、

インターンシップ取り組み成果と効果（長岡大学教授 原田誠司）

受入事業所取り組み事例（グローバルマーケティング㈱）

COC+インターンシップの取り組み（新潟大学）

学生発表（5 大学） 発表 15 分

事例発表（インターンシップ研究会・ながおか若者しごと機構）

質疑応答

表彰式

閉会あいさつ（新潟大学 門脇副学長）



株式会社 美松のお菓子づくりインターンシッププレゼンテーション

（9）まとめー成果と課題

- ・平成 28 年度のインターンシップ（就業体験型、2 単位、3 年生対象）参加者は、26 人（男 19、女 7）で、参加率（在籍 3 年生 87 人）は 29.8%であった。前年度とほぼ同水準であり、マッチングフェア参加で参加者・率は上昇したが、平成 29 年度目標の 60%とは大きな差があるのが現状である。2 年生の現場体験プログラムの参加者は増えてはいるが、始まったばかりの授業なので、卒業生が出るまで評価は待たざるをえない。
- ・インターンシップ参加者・参加率向上の方策は引き続き検討する必要がある。マッチングフェアは次年度も継続開催・参加が望ましい。インターンシップ・マッチングフェアに参加した学生の数名にインタビューを行ったところ、「企業を知ることができた」「直接企業の担当者の方と話をすることで、インターンシップのイメージがわき、インターンシップ先の選択に生かすことができた」との回答があった。今後も、企業を知ることができるマッチングフェアの開催と参加を継続させる必要がある。今後希望があれば 1 年生から参加させることも検討する必要がある。

また、学内では、例えば、成果発表会で優秀な成績であった学生の発表を2～3年次のオリエンテーション等の時にも行い、質問に対応してもらうなどこれから履修する学生に、参加することで得られる成果を広く知らせる試みなども検討すべきである。

- ・インターンシップ等授業の進め方は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施（研修日誌作成）→研修日誌にもどづき研修レポート作成→研修レポートにもどづきパワーポイント作成→成果発表＞という流れで実施する方式がほぼ確認できた。なお、企業研究シート、成果発表用パワーポイントの記入例配布も今後継続することが望ましい。
- ・美松のインターンシップ事例をインターンシップ・フォーラムで発表して好評を博したが、成果発表会のプレゼンスキルの向上につとめ、どの事例でも、外部で発表できるレベルを目標にすることが望ましい。
- ・インターンシップの取組みは、学生の社会人基礎力の向上に直接つながる事業であり、他のプログラム（地域志向科目や地域活性化プログラムなど）との関連を明確にして、能力・資質向上の仕組み（能力評価方法も含めて）としてさらに進化させる必要がある。

7 学生起業人材の養成－教育⑦－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の起業家塾（夏期集中、2単位）を基礎に、通年の長岡地域の学生起業家塾へと発展させ、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。
- ・〈学生ベンチャーの長岡〉のイメージを定着させる。

(2) 目標（申請時）

- ・平成26年度→通年の長岡地域の学生起業家塾を開講する。参加学生30名（従来25名）、「ビジネスグランプリ in 新潟」（学生部門=キャンパスベンチャー、にいがた産業創造機構ほか主催）優勝。
- ・平成29年度→長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。年間参加学生数100名、全国のビジネスプラン・コンテストに応募・入賞。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・8月19日～22日の4日間、「起業家塾」を開講。本学より9名、長岡工業高等専門学校より3名の計12名の学生が参加、4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にオリエンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。そのうちの1チームが新潟県のキャンパスベンチャーに応募したが、受賞を逃した。また、別の1チームはトオコン（十日町ビジネスコンテスト、十日町市主催）に応募、県予選3位にとどまった。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・8月18～21日の4日間、「起業家塾」（夏季集中2単位科目）を開講。本学より10名の参加（3年生7名、4年生3名）で、他大学・高専からの参加学生はゼロであった。4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。4社のうち、2社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い（小松教授指導）、「トオコン season5（新潟県十日町市主催）」に応募したが、1社は新潟県予選3位、本選4位で受賞を逃した。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず第1に、起業家塾は長岡市内3大学1高専の学生が参加する開かれたビジネスプラン講座（3大学の単位互換科目）として毎年開講しているが、今年は長岡大学生のみ10名の参加にとどまった。参加学生数が前年を下回ったこと（前年は12名）、他の2大学だけでなく毎年参加いただいていた高専が不参加だったことは大いに反省しなければならない。ポスター等掲示時期を前倒しして、社会人基礎力の養成に役立ち就職力向上になること、夏期休暇の有効利用に繋がる等を広く長期に広報していく必要がある。
- ・第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く社会人基礎力3項目全てにおいて向上しており、当プログラムの有用性が明らかになっている。
- ・第3に、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストが今年度より廃止になり、「トオコン season5（十日町市主催）」へ前年同様応募したが受賞を逃し残念な結果となった。今後も応募を継続するとともに、全国的なコンテストにも積極的にチャレンジする必要がある。
- ・第4に、学生ベンチャーサークルの立ち上げ等で起業意識・風土を盛り上げて参加学生を拓

大する必要がある。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・ 8月17～20日の4日間、「起業家塾」(夏季集中2単位科目)を開講。本学より18名の参加(2年生7名、3年生6名、4年生5名)があり、他校からは2名の参加(長岡技術科学大学1名、長岡造形大学1名)があった。5社に分かれてそれぞれビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。5社のうち3社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い(小松教授指導)、2社が長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア部門】」で優秀賞を受賞、1社が十日町市主催「トオコン2015」で本選に進出したが、受賞は逃した。

【評価】

- ・ 第1に、起業家塾は長岡地域の学生(大学、高専、高校等)を対象とした地域に開かれたビジネスプラン講座(3大学の単位互換科目)として毎年開講している。今年は3大学の学生20名での開講となり、参加学生数が前年を大きく上回った(前年は10名)が、ほぼ毎年参加していた高専を含めた他の長岡地域の学生の参加がなかったことは今後の課題である。ポスター等掲示方法を改善して、社会人基礎力養成が就職力向上になること、夏季休暇の有効利用に繋がること等を広く長期的に広報していく必要がある。
- ・ 第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く、社会人基礎力3項目(アクション、シンキング、チームワーク)全てで開始前と比較して向上していることから当プログラムの有用性は明らかである。
- ・ 第3に、今年から開催された長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」における【起業アイデア部門】で2チームが優秀賞を、【いいね!アイデア部門】で起業家塾参加学生が優秀賞を獲得した。また、十日町市主催「トオコン2015」では昨年同様に予選を通過し、本選に進出した(惜しくも受賞は逃した)ことから当プログラム(ブラッシュアップ含む)の有用性は明らかである。今後もこの2つのコンテストへの応募を継続し、優秀賞獲得を目指すとともにさらに全国的なコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ」、「学生ビジネスプラン・コンテスト」等にも挑戦し、受賞を目指す。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。
- ・ 第4に、本学は長岡地域の学生起業家輩出の拠点には至っていないので、起業家塾(ブラッシュアップ含む)以外でも起業意識・風土を盛り上げて起業への日常的な活動拠点の創出を図ることが課題である。国の「地方創生」の基本理念に地域の特性を生かした創業の促進とあり、長岡市の「ながおか・若者・しごと機構」の活動の柱に起業・創業の支援とあることが取組における追い風となっているので、長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げをしていくこと等が必要である。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・学生起業人材の養成・・・長岡地域の3大学1高専学生の参加拡大をめざし、夏季起業家塾（8月）の充実を図る。事前・事後セミナー開催、起業家塾でのビジネスプランのブラッシュアップによる多様なビジネスプラン・コンテストへの応募（10月）、地域連携による若者起業セミナー等を多様に展開し、学生起業人材の養成を図る。

【目標】

- ・起業家塾等講座（ブラッシュアップ含む）参加学生数50名、起業家塾として7チーム（35人）程度の参加を目指す。ビジネスプランのブラッシュアップにより、長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」における【起業アイデア部門】に3チーム以上、十日町市主催「トオコン2015」に2チーム以上、全国的学生ベンチャー・コンテストにも2チーム以上が応募し、優秀賞等獲得を目指す。また、長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携すること、社会人創業セミナー等と融合すること、他大学と起業について交流すること等で個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。

（7）平成28年度計画

- ・長岡市地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携する等をして、次のように長岡地域の学生（特に3大学1高専）の起業家塾への参加拡大、講義後のコンテスト応募拡大とブラッシュアップによる受賞を図る。また、個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。
 - a 広報活動
5月に、担当教員、教務学生課が起業家塾ポスターを作成し、6月に担当教員、地域連携室、教務学生課が3大学1高専やまちなかキャンパス等を訪問し、ポスターを掲示する等の広報を開始する。単位互換校には追加履修を募集する案内も送る。
 - b 事前セミナー
7月12日に、参加学生を中心にした自由参加の事前セミナーを本学にて開催する。慶応義塾大学の学生を中心とするYoung Entrepreneurs運営委員会の代表による講演で学生に興味を持ってもらうことで追加履修に繋げる。講演後、担当教員による説明会を実施する。
 - c 起業家塾
8月22日～25日（4日間）に、集中型の学生起業家塾を開講する。1日目に企業創業者の講演、その後ビジネスプラン作成、最終日にビジネスプランのプレゼンテーションを行い、外部有識者の審査員による審査・評価・表彰を行う。
 - d ブラッシュアップ
9月から10月に、起業家塾で作成したビジネスプランを担当教員指導によりさらに洗練されたプランになるようにブラッシュアップを行う。
 - e ビジネスプラン・コンテスト
ビジネスプランのブラッシュアップを経て、長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」や十日町市主催「トオコン（仮称）」、さらに全国的なコンテストへ応募し、入賞を目指す。

f 起業人材創出

平成 28 年度中に、事後セミナーを開催して長岡地域学生ベンチャーサークル（3 大学 1 高専中心）を結成し、社会人創業セミナー等と融合することで創業・起業への日常的な活動拠点の創出を図る。

(8) 平成 28 年度の展開

a 起業家塾参加学生の追加公募・・・平成 28 年 6 月に 3 大学 1 高専（長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校）にポスターを掲示し、4 月時点の履修登録に追加登録する形で起業家塾への参加学生の募集を実施した（図表 4-7-1）。

b 起業家塾事前セミナー・説明会・・・次の通り実施した（図表 4-7-2）。

日時：平成 28 年 7 月 12 日（火）16:30～18:00 *217 教室

講演：「若者世代で社会を動かす！」

講師：一般社団法人 CYE 代表理事/任意組織 Young Entrepreneurs 運営委員会代表

大森 裕貴 氏（慶應義塾大学環境情報学部 2015 年卒業）

一般社団法人 CYE 理事/任意組織 Young Entrepreneurs 運営委員会副代表

福田 恭子 氏（慶應義塾大学総合政策学部 4 年）

説明：起業家塾担当教員 小松 俊樹

c 起業家塾プログラム・・・次の通り実施した。

平成 28 年度長岡大学「起業家塾」プログラム 担当：長岡大学教授 小松 俊樹

<第 1 日>8 月 22 日（月）

I 開講にあたって

*225 教室

・起業家塾開講にあたって

9:30～ 9:45

・社会人基礎力事前評価

9:45～10:00

・プログラムの進め方について

10:00～10:30

II プログラム展開

*225 教室

1. チーム編成と役割検討

10:40～12:00

2. ビジネスプランとその作成方法

13:00～16:10

*特別講演・夢の実現をめざしてー創業とはー

(15:00～16:10)

マコー創業者/株式会社パルメソ社長 松原 亨 氏

<第 2 日>8 月 23 日（火）

*225 教室

3. アイディア出し

9:00～12:00

4. アイディア 2 案の中間発表と 1 案への絞り込み

13:00～16:10

*誰に（顧客）、何を（商品・サービス）、どのようにして提供するか（提供方法）の 3 つ（ビジネスモデル）を明確に

<第 3 日>8 月 24 日（水）

*225 教室

5. 絞り込み案のニーズ等調査

9:00～12:00

6. ビジネスプランのとりまとめ

13:00～16:10

<第 4 日>8 月 25 日（木）

*225 教室、226 教室

7. 発表用ビジネスプランの作成（図解）

9:00～12:00

8. ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価 13:00～16:30

* 審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰します。

株式会社パルメソ社長 松原 亨 氏
 長岡技術科学大学教授 田辺 郁男 氏
 長岡造形大学教授／造形学部長 馬場 省吾 氏
 長岡工業高等専門学校教授 菅原 正義 氏
 長岡大学長 村山 光博

d チーム編成・・・参加学生 18 名が次の 5 チームの編成で、ビジネスプランを作成した。

会社名	事業名	役割	氏名	大学名	学年
株式会社乾杯！	十日町着物のペット産業への活用	社長	阿達 慶弘	長岡大学	3年
		総務部長	須田 滉介	長岡大学	3年
		部長	岩崎 奈津美	長岡大学	3年
		部長	内藤 淳志	長岡大学	3年
		秘書	武士俣 大智	長岡大学	2年
		宴会部長	外石 直輝	長岡大学	2年
ハロー・ジャパン株式会社	来県海外観光客へのおもてなし	社長	周 天奇	長岡大学	3年
		副社長	孔 祺	長岡大学	3年
株式会社ホイッスル	スポーツ BAR	社長	殖栗 卓	長岡大学	2年
		営業部長	永井 想	長岡大学	2年
		平社員	渡邊 友貴	長岡大学	2年
株式会社ちょんまげ	古民家活用高級旅館プロジェクト	社長	横田 百合江	長岡大学	3年
		総務部長	小松 綾乃	長岡大学	3年
		経理部長	青木 洸	長岡大学	2年
		営業部長	ヴォ ティ フオン タオ	長岡大学	4年
RG ナカノシマ	れんこんで中之島を元気に！	社長	小林 拓史	長岡大学	3年
		副社長	水落 柊哉	長岡大学	2年
		副社長	山口 尊広	長岡大学	2年

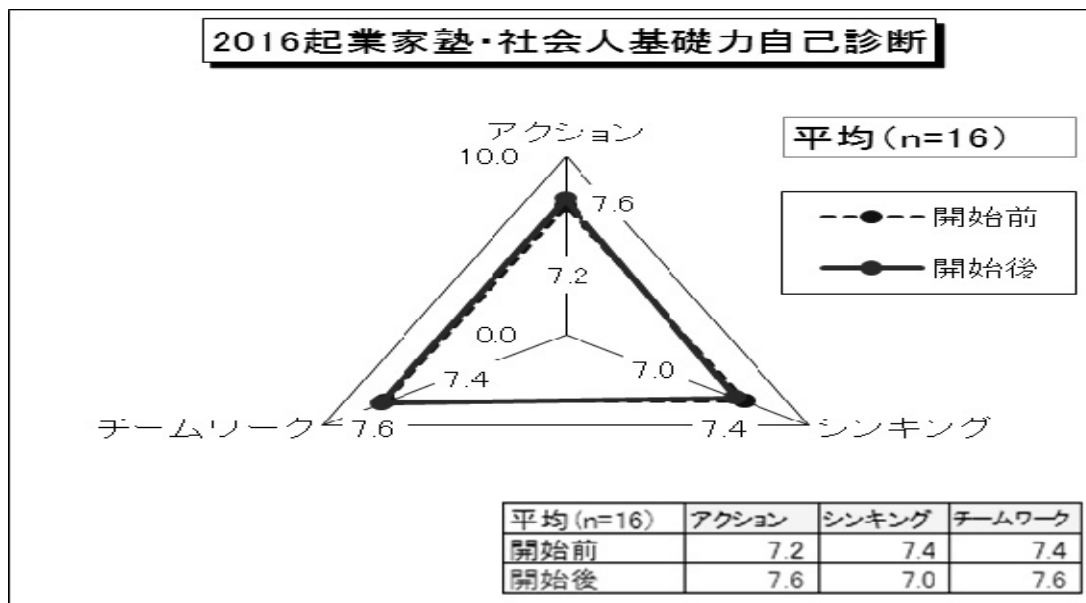
e プレゼンテーション・表彰・・・各チームは図表4-7-3にあるビジネスプランを作成し、最終日にプレゼンテーションを行った。厳正な審査、次のような表彰を行った。

賞	会社名
*最優秀賞	RG ナカノシマ
優秀賞	株式会社ちょんまげ
社会貢献賞	株式会社乾杯！
盛り上げま賞	株式会社ホイッスル
クールジャパン賞	ハロー・ジャパン株式会社

* <RG ナカノシマ>のアイデア→「れんこんで中之島を元気に！」は、長岡市中之島地域の特産物である大口れんこんを使用した地域活性化への取組として高く評価され、最優秀賞を獲得した。どのプランも短期間の中でよく練り上げられた、地域活性化に資するものだった。

f 社会人基礎力の向上・・・4日間のビジネスプラン作成と発表を終えて、社会人基礎力自己診断は、3項目(アクション・シンキング・チームワーク)の内、シンキング以外が開始時より向上した。起業家塾受講を通してシンキングが足りないと感じた受講生が多く、この点に気づいたことは大きな成果であった。図表4-7-4をご覧ください。

図表 4-7-4 社会人基礎力自己診断結果（開始前と開始後の比較）



g 各種ビジネスプランコンテストへの応募・・・これらビジネスプランのブラッシュアップ作業（担当教員：小松俊樹指導）を行い、株式会社ちよんまげ（代表：横田 百合江さん）とRGナカノシマ（代表：小林 拓史さん）が「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉【起業アイデア部門】」に応募し、両チームとも優秀賞を獲得した。図表 4-7-5 を参照されたい。

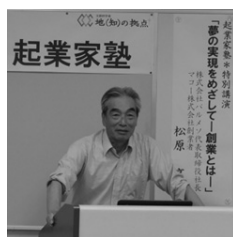
起業家塾履修者ではないが、コンテスト応募に際し、小松俊樹教授が指導した栗原泰武（長岡大学2年）が優秀賞を、高橋広守（同2年）が奨励賞を獲得した。

ながおかアイ・コンの【いいね！アイデア部門】には個人の応募で、横田百合江さん（長岡大学3年）が最優秀賞を、小松綾乃さん（同3年）が優秀賞を獲得した。

また、十日町市のコンテスト「トオコン2016」には「株式会社乾杯！」（代表：足立慶弘）が応募したが、惜しくも本選出場は逃した。



担当教員：小松 俊樹



特別講演：松原 亨氏



表彰後全体撮影

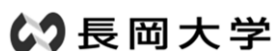
（9）まとめー成果と課題ー

- ・第1に、夏期集中講義である起業家塾は長岡地域の学生（大学・高専・高校）を対象にした地域に開かれたビジネスプラン作成講座（3大学単位互換科目）として毎年開講しているが、今年度は本学の学生のみ 18 名での開講となり、参加学生が前年度を若干下回った（前年度 20 名）。本学以外の参加者がいなかったことは大いに反省すべき今後の課題である。長岡地

域各大学等への訪問、ポスター掲示等広報に力を入れてきたが、来年度以降の参加者拡大を目指し、募集方法をさらに工夫していく必要がある。

- ・第2に、終了後の「起業家塾受講生アンケート」の結果、この講座は楽しかった(まあまあ楽しかった)と回答した学生が86%、ためになった(まあまあためになった)と回答した学生は93%と受講生の満足度は高いものであった。また、「社会人基礎力自己診断アンケート」の結果においては、3項目(アクション・シンキング・チームワーク)の内、シンキング以外が開始時より向上した。起業家塾受講を通してシンキングが足りないと感じた受講生が多く、この点に気づいたことは大きな成果である。社会人基礎力養成は「社会で生き抜く力」に繋がることから、参加した学生にはこの経験をこれからの大学生活は勿論、社会に出てからも活用していくことを期待する。
- ・第3に、起業家塾で作成したプランをブラッシュアップして臨んだ、「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」の【起業アイデア部門】では2チームが優秀賞を、起業家塾履修者ではないが担当教員が指導した本学の学生2名が優秀賞と奨励賞を獲得した。【いいね! アイデア部門】では起業家塾参加学生2名が最優秀賞と優秀賞を獲得した。この他に、「トオコン2016」にも応募したが本選出場を逃す結果となった。今後もこの2つのコンテストへの応募を継続し、最優秀賞の獲得を目指すとともに他の県内や全国的なビジネスプラン・コンテストにも挑戦し、受賞を目指す。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。また、起業家塾以外においても担当教員による相談会等を実施する必要がある。
- ・第4に、起業人材創出のために起業意識の醸成に努めながら起業への日常的な活動拠点の創出を図ることである。国の「地方創生」の基本理念には「地域の特性を生かした創業の促進」が掲げられ、長岡市においても「ながおか・若者・しごと機構」の活動の柱に起業・創業の支援が据えられていることが取組への追い風となっている。これまで以上に長岡市の地方創生事業＝若者の創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人の創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げを実現すること等が課題である。

図表4-7-1 起業家塾受講者追加募集



(文部科学省採択)
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



3つの力が社会を生き抜く強い味方になる

起業家塾



平成28年8月集中講義 追加募集

日程	8月22日(月)～25日(木) 各日とも9:00～17:00	対象	長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校等長岡地域の学生・高校生
プログラム	数名で会社を立ち上げ(チーム編成)、ビジネスアイデアを考え、調査を踏まえてアイデアを絞り込み、ビジネスプランを作成し、発表します。 ※長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア】部門」等 ビジネスプランコンテストに応募し最優秀賞等獲得を目指します。		
科目	起業家塾(2単位、3大学単位互換科目) 長岡大学225教室、226教室		
講師陣	長岡大学教授/経営コンサルタント 小松 俊樹、長岡大学准教授 栗井 英大		
特別講演	夢の実現をめざしてー創業とはー 松原 亨 氏 マコー創業者/株式会社パルメソ社長		
ビジネスプラン審査員	松原 亨 氏 株式会社パルメソ社長 田辺 郁男 氏 長岡技術科学大学教授 馬場 省吾 氏 長岡造形大学教授 菅原 正義 氏 長岡工業高等専門学校教授 村山 光博 氏 長岡大学長		
参加申込:7/29(金)まで	[]		で受付中

主催:長岡大学

平成28年度長岡大学講演会

目指せ！学生起業家

社会に向けて新しいチャレンジを始めたい人にオススメ！

【日時】7月12日(火) 16:30~18:00

【会場】長岡大学 217教室

【対象者】参加自由 無料(事前申込必要)

※起業家塾履修者は必ず参加してください。また、講演内容や履修に興味がある長岡地域の学生、高校生もぜひ参加してください。

第1部 起業家塾事前セミナー

「若者世代で社会を動かす！」

自らの行動で社会を変える

講演

日常生活の中で解消したい不満がある、自分の故郷を盛り上げたい、ニュースで見たあの社会課題は解決するべきだ、自分の町の素晴らしい商品を世界に広めたい。若者独自の着眼点や思いには非常に価値があります。若い今だからこそエネルギーを注いで新しいことを始めたいと思いませんか？

勇気を持って一步を踏み出せば、今までの自分に出来なかったような挑戦が出来る世界が広がってきます。この機会を有効活用して挑戦者としての一步を踏み出そう！

大森 裕貴氏

一般社団法人CYE代表理事
任意組織YoungEntrepreneurs運営委員会代表
慶應義塾大学環境情報学部2015年卒業

講師

福田 恭子氏

一般社団法人CYE理事
任意組織YoungEntrepreneurs運営委員会副代表
慶應義塾大学総合政策学部4年



第2部 起業家塾説明会

「起業家塾の進め方について」

小松 俊樹

長岡大学教授(起業家塾担当)

8月22日(月)~8月25日(木)に長岡大学にて開講する「起業家塾」の説明になります。起業家塾への参加申込や詳細内容については、別ポスター「起業家塾」をご覧ください。



参加申込:7月8日(金)まで受付中 長岡大学地域連携研究センター TEL:0258-39-1600

主催:長岡大学 後援:長岡市、ながおか・若者・しごと機構

図表4-7-3 各チームのビジネスプラン概要

事業名：十日町着物のペット産業への活用 会社名： 株式会社乾杯！		※「社会貢献賞」受賞
社長	阿達 慶弘(長岡大学3年)	
総務部長	須田 滉介(長岡大学3年)	
部長	岩崎 奈津美(長岡大学3年)	
部長	内藤 淳志(長岡大学3年)	
秘書	武士俣 大智(長岡大学2年)	
宴会部長	外石 直輝(長岡大学2年)	
コンセプト：大切な家族と「和」をつむぐ 対象顧客：50代以上富裕層、独身、ペットにお金をかけている人等 提供価値：伝統技能と融合した高級ペット商品		
事業名：来県海外観光客へのおもてなし 会社名： ハロー・ジャパン株式会社		※「クールジャパン賞」受賞
社長	周 天奇(長岡大学3年)	
副社長	孔 祺(長岡大学3年)	
—	—	
—	—	
—	—	
—	—	
コンセプト：来日海外観光客へのおもてなし 対象顧客：来県する1人～4人の少人数観光客(中国・台湾・韓国) 提供価値：ネイティブなガイドによる特別サービス		
事業名：スポーツBAR 会社名： 株式会社ホイッスル		※「盛り上げま賞」受賞
社長	殖粟 卓(長岡大学2年)	
営業部長	永井 想(長岡大学2年)	
平社員	渡邊 友貴(長岡大学2年)	
—	—	
—	—	
—	—	
コンセプト：女性でも気軽に行けるSPORTS BAR 対象顧客：長岡市内のサッカー好きな女性、スポーツに興味がある人 提供価値：長岡市になかった盛り上がるSPORTS BAR		
事業名：古民家活用高級旅館プロジェクト 会社名： 株式会社ちよんまげ		※「優秀賞」受賞
社長	横田 百合江(長岡大学3年)	
総務部長	小松 綾乃(長岡大学3年)	
経理部長	青木 洸(長岡大学2年)	
営業部長	ヴォ・ティ・フォン・タオ(長岡大学4年)	
—	—	
—	—	
コンセプト：一日一組限定プレミアム古民家旅館 対象顧客：首都圏に住む年収1,000万以上の30～40代女性 提供価値：地元の魅力を存分に取り入れた高級宿泊体験		
事業名：れんこんで中之島を元気に！ 会社名： RG ナカノシマ		※「最優秀賞」受賞
社長	小林 拓史(長岡大学3年)	
副社長	水落 柊哉(長岡大学2年)	
副社長	山口 尊広(長岡大学2年)	
—	—	
—	—	
—	—	
コンセプト：れんこんの真価！おいでよ、れんこんの町なかのしま 対象顧客：中之島外の10代～50代女性、日本全国の女性 提供価値：大口れんこんの料理、イベント等		

図表4-7-5 平成28年度ながおかアイ・コンの受賞状況

【起業アイデア】部門

★優秀賞：古民家 de 古体験
提案者・横田百合江（3年）



★優秀賞：れんこんで中之島を元気に!
提案者・小林 拓史（3年）



★優秀賞：20歳1年に限定し日本酒
を無料で試飲させる居酒屋
『日本酒20』
提案者・栗原 泰武（2年）



★奨励賞：小規模限定のTV
CM活用支援事業
提案者・高橋 広守（2年）



【いいね!アイデア】部門

★最優秀賞：縄文カフェ
提案者・横田百合江（3年）



★優秀賞：ロケ地ツアー in 長岡
提案者・小松 綾乃（3年）



8 学生満足度調査等の実施—教育⑧—

(1) 方針（申請時）

- ・学生満足度調査を全学生対象に毎年1月に、実施する。報告は3月。
- ・但し、実施の前に、満足度調査に意義・位置づけ、調査項目の見直し・検討を行う。FD/SD会議等で検討する。

(2) 目標（申請時）

- ・学生の大学生活に関する満足度等の調査を、毎年1月に実施し、次年度の教育改善等に役立てる。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・平成26年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第9回長岡大生の生活と大学についてのアンケート」）を実施した。回収率は85.8%（283人/330人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成26年3月に取りまとめ、公表した。
- ・この満足度調査については、当初、文部科学省のCOCアンケート項目を加える形で、実施する予定であったが、文部科学省からの調査項目が間に合わなかったため、平成25年度は、本学の調査項目のみで実施した。平成26年度は、両調査項目を統合して、実施することが望ましい。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・8～10月FD研究会で調査項目を見直し、10月FD委員会で改定案を作成し、10月教授会にて調査票が決定した。
- ・平成27年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第10回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は85.9%（250人/291人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成27年3月に取りまとめ、公表した。
- ・平成27年度は、満足度調査に具体的な改善施策につながる詳細な設問項目を設け、実施することが望ましい。

(5) 平成27年度実績と評価

【実績】

下記の通り、学生満足度調査と学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを実施した。

a 学生満足度調査

- ・5～7月・・・FD部会で調査項目の見直しを行った（学修支援を目的とした施設の改善を実施するために、施設の改善点や施設に対する学生のニーズの把握を目的として、設問項目を見直した）。
- ・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り
 - 「問4 長岡大学の施設に満足しているか⇒問4 自主的に勉強するために改善してほしい場所、どのように改善してほしいか」
 - 「問5 諸施設で更に充実、整備して欲しいところ⇒議論しやすくするためにどのような

設備、機能が必要か」

「XI d) 出身地に「ベトナム」を追加」。

- ・ 7月21日 第4回FD部会で改定案作成・承認
- ・ 9月～10月 大学運営会議に学生満足度調査票提出・検討
- ・ 1月 調査票配布、回収（各ゼミで実施）
- ・ 2月～3月 集計・分析・調査報告書作成
- ・ 4月以降 諸改善点の集約と改善

b PROGテスト＝学生の能力測定テスト

- ・ 1年生にPROGテストを実施・・・新1年生（107人）に、平成27年4月30日2限「キャンパスライフ入門」で実施。
- ・ 集計・・・5月22日集計結果出来
- ・ 結果説明会・・・7月29日（水）16:30～17:45、第2回全体FD/SD会議でPROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等についての意見交換を行った（教員・職員向け）。
- ・ 1～2月・・・テスト実施（キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの最終2回で実施）。集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定
- ・ 2月・・・FD／SD研究会で結果共有
- ・ 4月・・・結果の分析と結果をいかす施策の検討

【評価】

- ・ 5～7月にFD研究会で学生満足度調査の調査項目を見直し、10月大学運営会議の承認を経て調査票が決定した。
- ・ 平成28年1月に、ゼミナールを通じて、学生満足度調査（「第11回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は89.2%（1年～4年：290人/325人）で、前年度を4ポイント上回った。但し、目標の「90%以上」にわずかに届かなかった。学生の状況を把握するために、90%以上の回収率を目指したい。
- ・ 満足度調査の結果を踏まえ、学修時間を増やす取組、学生の能力・資質向上手法として、ラーニング・コモンズの設置と授業におけるAL導入の強化策を講じた。
- ・ 学生満足度調査の集計結果は、平成28年3月に取りまとめ、発表した。
- ・ PROGテスト（社会人基礎力等コンピテンシー向上測定テスト）を1～3年の全学生対象に実施した。回収率は92.7%（1年～3年：241人/260人）で、前年度8をポイント上回り、目標の「90%以上」を達成できた。
- ・ PROGテストは、その結果を学生個人に返却し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて学生が社会人基礎力向上のための明確な目標を立てることができる仕組みとした。

（6）平成28年度方針・目標

【方針】

- ・ 学生満足度調査／PROGテストの実施・・・COC事業への評価も含めた学生満足度調査・社会人基礎力テスト「PROG」（社会人基礎力等コンピテンシー向上測定テスト）を1～3年の全学生を対象に行い（起業家塾等でも実施）、次年度への改善点を把握する。

【目標】

- ・学生満足度等の調査・PROGテストを実施し、調査結果をふまえた授業、施設、COC事業の改善を行う。
- ・具体的は、次の通り。
 - a 各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、ゼミナールを通じて満足度調査（「第12回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施する。回収率「90%以上」を目指す。
 - b 平成27年度の満足度調査の集計結果をもとに、大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。特に平成28年度は、学修支援の強化を目的として設置したラーニング・コモンズの利用状況を確認し、要望を踏まえた対策を実施する。また、平成27年度に新たに追加した設問「問5 諸施設で更に充実、整備して欲しいところ⇒議論しやすくするためにどのような設備、機能が必要か」の結果を確認し、設備についての改善を検討する。
 - c 各学生の情報を適切に把握するために、PROGテストの回収率「90.0%以上」を目指す。
 - d PROGテストの結果を学生個人に返却し、アカデミックアドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のために目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有する取組を継続する。
 - e PROGテストや授業アンケート（28年度改定予定）と満足度調査の調査内容の重複部分を確認し、調査票を見直す必要がある。

（7）平成28年度計画

平成28年度は、次のようなスケジュールで学生満足度調査、PROGテストを実施する。

a 学生満足度調査

- 8月～10月 FD研究会等でPROGテストや授業アンケート（28年度改定予定）と満足度調査の調査内容の重複部分を確認し、調査票を見直す。
- 11月 PROGテストの結果を学生に配布し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて目標設定を行う。
- 12月 調査票印刷
- 1月 調査票配布、回収
- 2月～3月 集計・分析・調査報告書作成
- 4月以降 諸改善点の集約と改善

b PROGテスト

- 1～2月 テスト実施
- 3月 集計結果出来
- 3月 集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定
FD/SD研究会で結果共有
- 4月 結果の分析と結果活用施策の検討

（8）平成28年度の展開

平成28年度は、下記の通り学生満足度調査と学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを実施した。

a PROGテスト、授業アンケート、満足度調査の調査票の見直し

- ・4月～11月・・・FD研究会等でPROGテスト、授業アンケート、満足度調査の調査内容を確認し、調査票を見直した。

b 学生満足度調査

- ・各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、ゼミナールを通じて満足度調査（「第13回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。
- ・4～11月・・・FD部会で調査項目の見直しを行った（学修支援を目的とした施設の改善を実施するために、学修支援の強化を目的として平成28年度から全面的に開始したラーニング・コモンズの利用状況をはじめとし、学生の施設の利用状況や設備に関するニーズの把握を目的として、項目を見直した。
- ・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り
 - 「表紙」・・・COCロゴ⇒COC+ロゴ
趣旨等を上部記載文章と統合
提出先を地域連携研究センターA事務室⇒教務学生課
 - 「I」・・・通学方法を「XI（1）あなた自身について」の質問項目に移動
 - 「問2」・・・質問項目：長岡大学の施設（教室以外）に「総務課・入学課・留学生室・LC1～4・2～3階学生ホール・教務学生課・資格取得支援センター・地域連携室・学生相談室・第3コンピュータ室・学生食堂前・アリーナ」を追加
質問項目：「図書館」を1号館の枠から独立
 - 「問3」・・・質問文：「1つだけでなく」を削除
 - 「問4」・・・質問文：より学生が活用しやすくなるよう改善することを考えています。自主的に勉強をするために、改善してほしい場所に○をつけてください。また、どのように改善して欲しいかも備考欄に記入してください⇒学生がより利用・活用しやすくなるよう改善することを考えています。改善してほしい場所に○をつけ、どのように改善して欲しいかも記入してください
質問項目：改善してほしい場所を「問2質問項目にある長岡大学の施設（教室以外）」と統一
 - 「問5」・・・質問文：「自主的に勉強」を追加
質問項目：「設備や機能がどの程度必要か」を削除
設置を希望する場所について具体的記入から記号記入に変更
 - 「問8e）」・・・質問項目：宿題⇒課題
 - 「問10」・・・質問文：学友会の活動に参加していますか⇒学友会執行部や学内外のサークル・同好会に所属していますか
選択肢：選択肢を学友会活動を問う3択から学友会執行部・大学内外サークル・同好会にそれぞれ所属しているかを問うものに変更
 - 「問11」・・・質問文：サークル・同好会に参加していますか⇒主に参加している所属サークル等への参加状況について
 - 「問12」・・・質問文：主に参加している所属サークル等の活動状況をどう評価していますか⇒学友会主催のイベント（民踊流し、球技大会等。ただし、学園祭（悠久祭）は除く）に参加していますか

「問 13」…質問文：主たる参加形態⇒主な参加形態として当てはまる

「問 17」…選択肢：やりたいことが見つからない⇒現在やりたいことがない

選択肢：他の学科に移りたいを削除

選択肢：就職活動がうまく行かないと進学先が決められない⇒卒業後の進路が不安だ

「問 19」…質問文：入学時と比べて①どの程度伸びたか、各能力が②どの程度身についたか⇒①現状評価と入学時と比べた②上昇程度

質問項目：①どの程度伸びたか②どの程度身についたか⇒①現状評価②上昇程度

「問 20」…質問文：教えてください⇒自己評価してください

質問項目：①どの程度伸びたか②どの程度身についたか⇒①現状評価②上昇程度

「問 21」…質問文：○を付けてください⇒○をつけ、自己評価してください

「XI（1）」…質問項目：通学方法を追加

選択肢：通学方法選択肢の乗用車⇒自動車、自転車・バイクを分離

「最終」…「集計後、結果を報告します。」を削除

※問番号等は平成 27 年度調査票の番号で、平成 28 年度調査票では変更となっております。

- ・ 11 月・・・11 月 15 日第 7 回 FD 部会で改定案承認
- ・ 1 月・・・調査票配布、回収（各ゼミで実施）
- ・ 2 月・・・集計・分析・調査報告書作成
- ・ 3 月 8 日・・・学生満足度調査票結果を集中 FD/SD 会議で確認
- ・ 4 月以降・・・諸改善点の集約と改善

c. PROGテスト＝学生の能力測定テスト

- ・ 4 月～5 月・・・1 年生（83 人）に PROG テスト実施（平成 28 年 4 月 28 日、5 月 5 日 2 限「キャンパスライフ入門」）。
- ・ 5 月・・・5 月 25 日集計結果出来
- ・ 6 月・・・1 年生（82 人）に㈱リアセックが結果説明会実施（6 月 23 日 2 限「キャンパスライフ入門」）。
- ・ 6 月・・・PROG テストの結果を学生に配布し、結果をもとにアカデミック・アドバイザー制度を通じて学生と教員が伸ばす能力の目標設定を行った。
- ・ 1 月・・・1～3 年生（277 人）に PROG テスト実施（キャリア開発Ⅰ・Ⅱ-2・Ⅲ-2 の最終 2 回で実施）。集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標設定
- ・ 2 月・・・FD/S D 会議で結果共有
- ・ 4 月・・・結果の分析と結果をいかす施策の検討

（9）まとめー成果と課題ー

- ・平成 28 年度の学生満足度調査（第 12 回長岡大生の生活と大学に関する調査）を平成 29 年 1 月の後期第 14～15 回の全ゼミナール（52）で、実施し、回収率は 95.7%（1 年～4 年：334 人/349 人）を達成した。
- ・満足度調査をもとに、次年度に大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。とくに、学修支援の強化をめざすラーニング・コモンズの利用状況を確認し、要望含め改善を図る。

- ・また、次年度の調査項目に、アカデミック・アドバイザー制度の評価（面談等に満足しているか）を把握する設問を検討する。
- ・各学生のリテラシー・コンピテンシーの能力向上を把握するPROGテストは、平成29年1月の1～3年生のキャリア開発の第14・15回授業で実施し、回収率は98.2%（1年～3年：277人/282人）を達成した。
- ・このPROGテスト結果を学生個人に返却し、アカデミック・アドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のために目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有する取組を継続する。
- ・同時に、学生の能力向上目標の達成方法、授業での教育方法の検討を行うとともに、PROGテスト以外の能力測定手法の検討も行う必要もある。
- ・満足度調査やPROGテストなどのデータを全関係者が活用できる情報共有システムの導入も引き続き、検討し、段階的にでも実現する、必要がある。

図表 4-8-1 学生満足度調査結果（調査票と単純集計結果）

*以下は、「第12回長岡大生の生活と大学に関する調査」の単純集計結果

I 利用施設・情報収集について

(n=334)

問1 長岡大学の施設（教室以外）でよく利用するところはどこですか。施設ごとに当てはまる番号に○をつけてください。

施設名		よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答	
1号館	1階	a) 事務室（総務課、入学課）	7.5	33.5	42.5	15.0	1.5
		b) 留学生室	5.7	12.3	6.9	73.4	1.8
		c) 就職支援室	6.0	26.0	33.2	32.9	1.8
		d) 保健室	0.9	3.3	15.9	77.5	2.4
	2階	e) 掲示板	44.3	39.5	9.9	4.2	2.1
		f) 2階学生ホール	47.3	29.0	18.0	4.2	1.5
		g) 売店	34.1	41.3	16.8	5.7	2.1
	3階	h) 学友会室	5.7	9.9	16.5	66.5	1.5
		i) 3階学生ホール	20.7	17.4	31.1	29.3	1.5
		j) 教務学生課	28.1	50.9	16.5	3.3	1.2
		k) 資格取得支援センター（COS）（LC1）	6.6	16.5	39.2	35.6	2.1
		l) LC2（地域連携研究センター横）	2.7	5.1	24.0	65.9	2.4
		m) 多目的室（LC3）	7.5	21.9	29.0	39.5	2.1
		n) 地域連携研究センター・地域連携室	3.0	6.9	23.7	63.8	2.7
		o) 教員研究室	5.7	43.1	31.1	18.0	2.1
	4階	p) 学生相談室	0.3	4.2	15.9	77.2	2.4
q) 図書館閲覧スペース		18.6	39.5	27.2	12.6	2.1	
図書館	2階	r) LC4（図書館2階奥）	9.3	17.1	28.7	43.1	1.8
2号館	3階	s) コンピュータ自習室（第2コンピュータ室）	30.5	43.7	16.5	7.2	2.1
3号館	1階	t) 学生食堂	52.7	21.0	17.4	8.1	0.9
		u) 地域交流ホール（学生食堂前）	8.1	18.6	39.5	31.4	2.4
		v) 部室	13.8	8.7	22.5	53.0	2.1
	2階	w) アリーナ	10.5	20.1	31.1	36.2	2.1
		x) トレーニングルーム	2.7	12.6	26.6	56.0	2.1
全体	y) 無線LAN	59.6	20.7	11.1	7.8	0.9	

(n=334)

問2 大学内での次の情報は主にどこで、集めていますか。情報を集めている場所を問1のa～xの記号で教えてください(いくつ記入しても結構です)。

授業関係の情報	結果については下表参照
資格取得関係の情報	結果については下表参照
部活・サークル関係の情報	結果については下表参照
アルバイト関係の情報	結果については下表参照
友達関係の情報	結果については下表参照
就職・進学関係の情報	結果については下表参照

	1階 事務室 (総務課、入学課)	1階 留学生室	1階 就職支援室	1階 保健室	2階 掲示板	2階 学生ホール	2階 売店	3階 学友会室	3階 学生ホール	3階 教務学生課	3階 資格取得支援センター(COS)(LO1)	3階 LC2 (地域連携研究センター横)	3階 多目的室(LC3)	3階 地域連携研究センター・地域連携室	4階 教員研究室	4階 学生相談室	図書館 図書館閲覧スペース	図書館 2階 LC4 (図書館2階奥)	2号館 3階 コンピュータ自習室 (第2コンピュータ室)	3号館 1階 学生食堂	3号館 1階 部室	3号館 1階 地域交流ホール (学生食堂前)	3号館 2階 アリーナ	3号館 2階 トレーニングルーム	全体 無線LAN	その他 (手段・経路等を回答、友達・ロコミ・情報誌:等)	無回答
授業関係の情報	4.2	2.1	0.9	0.3	63.8	10.8	0.9	0.9	3.3	10.8	0.3	0.0	0.6	0.0	3.9	0.0	2.1	0.9	3.9	0.0	0.0	0.6	0.3	0.0	4.5	1.8	16.5
資格取得関係の情報	3.3	1.2	0.6	0.0	31.1	5.4	0.3	0.0	1.2	26.9	18.6	0.3	0.6	0.3	2.7	0.3	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.8	27.8
部活・サークル関係の情報	1.2	0.3	0.0	0.6	16.5	6.6	0.3	5.1	3.0	7.8	0.3	0.3	2.7	0.3	0.0	0.6	0.3	0.0	0.6	0.3	0.9	7.8	1.8	0.9	2.7	1.2	51.2
アルバイト関係の情報	2.7	3.3	0.6	0.0	33.5	8.1	0.3	0.6	0.9	4.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	1.5	47.6
友達関係の情報	0.9	2.1	0.3	0.0	7.2	17.1	1.8	3.0	8.1	2.7	1.5	0.3	1.2	0.3	0.3	0.3	1.2	0.3	0.9	8.4	0.9	2.7	0.6	0.0	3.3	1.2	54.8
就職・進学関係の情報	2.1	2.7	32.0	0.0	17.4	4.2	0.0	0.0	0.9	11.4	2.4	0.3	0.3	0.3	4.2	1.2	1.5	0.0	1.2	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	2.1	2.4	36.5

(n=334)

問3 大学の施設を学生がより利用・活用しやすくなるよう改善することを考えています。改善してほしい場所に○をつけ、どのように改善して欲しいかも記入してください。

	改善して ほしい場所	どのように改善してほしいか記入してください
a) 事務室 (総務課、入学課)	1.2	自由記載設問のため割愛した。
b) 留学生室	2.4	自由記載設問のため割愛した。
c) 就職支援室	1.2	自由記載設問のため割愛した。
d) 保健室	2.4	自由記載設問のため割愛した。
e) 掲示板	2.1	自由記載設問のため割愛した。
f) 2階学生ホール	9.0	自由記載設問のため割愛した。
g) 売店	6.3	自由記載設問のため割愛した。
h) 学友会室	3.3	自由記載設問のため割愛した。
i) 3階学生ホール	3.0	自由記載設問のため割愛した。
j) 教務学生課	2.7	自由記載設問のため割愛した。
k) 資格取得支援センター (COS) (LC1)	3.6	自由記載設問のため割愛した。
l) LC2 (地域連携研究センター横)	0.6	自由記載設問のため割愛した。
m) 多目的室 (LC3)	0.6	自由記載設問のため割愛した。
n) 地域連携研究センター・地域連携室	0.3	自由記載設問のため割愛した。
o) 教員研究室	0.3	自由記載設問のため割愛した。
p) 学生相談室	0.3	自由記載設問のため割愛した。
q) 図書館閲覧スペース	1.8	自由記載設問のため割愛した。
r) LC4 (図書館2階奥)	1.2	自由記載設問のため割愛した。
s) コンピュータ自習室 (第2コンピュータ室)	5.7	自由記載設問のため割愛した。
t) 学生食堂	7.8	自由記載設問のため割愛した。
u) 地域交流ホール (学生食堂前)	0.6	自由記載設問のため割愛した。
v) 部室	3.0	自由記載設問のため割愛した。
w) アリーナ	4.2	自由記載設問のため割愛した。
x) トレーニングルーム	3.6	自由記載設問のため割愛した。
無回答	62.3	

(n=334)

問4 自主的に勉強をしたり、学生同士で議論しやすくしたりするために、どのような設備や機能が学内の施設のどこに必要ですか。設置を希望する場所を問3のa～xの記号で答えてください（いくつ記入しても結構です）。その他の設備・機能は具体的な設備・機能も答えてください。

パソコン	結果については下表参照
プリンタ	結果については下表参照
ホワイトボード	結果については下表参照
プロジェクタ	結果については下表参照
インターネット環境	結果については下表参照
その他の設備・機能 (具体的に：)	結果については下表参照

	a) 事務室 (総務課、入学課)	b) 留学生室	c) 就職支援室	d) 保健室	e) 掲示板	f) 2階学生ホール	g) 売店	h) 学生会室	i) 3階学生ホール	j) 教務学生課	k) 資格取得支援センター (COS) (LC1)	l) LC2 (地域連携研究センター横)	m) 多目的室 (LC3)	n) 地域連携研究センター・地域連携室	o) 教員研究室	p) 学生相談室	q) 図書館閲覧スペース	r) LC4 (図書館2階奥)	s) コンピュータ自習室 (第2コンピュータ室)	t) 学生食堂	u) 地域交流ホール (学生食堂前)	v) 部室	w) アリーナ	x) トレーニングルーム	教室・講義室等	無回答	
パソコン	0.9	0.3	0.6	0.3	0.3	9.0	0.6	0.6	3.0	0.6	1.8	0.6	5.1	0.3	0.3	0.3	2.7	0.9	5.4	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	76.6
プリンタ	1.2	0.3	0.6	0.3	0.3	8.4	2.1	0.9	5.4	1.8	3.0	0.9	2.4	0.3	0.3	0.3	3.0	0.9	5.1	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	74.9
ホワイトボード	0.3	0.3	0.6	0.3	0.9	4.5	0.6	0.9	3.9	0.6	1.2	0.6	1.5	0.3	0.3	0.3	0.9	0.6	0.9	1.5	0.6	0.9	1.2	0.6	0.3	0.3	85.3
プロジェクタ	0.6	0.6	1.2	0.6	0.6	3.0	0.9	1.5	1.5	1.2	0.6	0.9	3.9	0.6	0.6	0.6	0.6	0.9	1.8	0.6	0.9	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6	88.9
インターネット環境	5.4	5.4	5.7	5.7	5.7	13.8	6.9	6.3	8.4	5.7	6.0	5.4	8.1	5.4	5.7	5.4	7.2	6.3	7.8	8.7	5.4	6.9	6.9	6.3	5.4	5.4	75.4
その他の設備・機能	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	1.2	0.9	1.2	0.9	0.6	0.9	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.9	0.6	0.6	0.9	0.9	97.3

II 授業（学修）について

(n=334)

問5 次の主な科目群ごとに、どのように力を入れたか、当てはまる番号に○をつけてください。また右欄に特に力を入れた科目があれば、その科目名を番号（別紙参照）で記入してください。

	力を入れた	ある程度 力を入れた	あまり力を入 れなかった	全く力を入 れなかった	無回答	特に力を入れた科目
a) 教養科目	31.4	51.8	10.2	2.7	3.9	結果については下表参照
b) 語学科目	18.3	50.3	22.5	6.3	2.7	結果については下表参照
c) キャリア科目	18.9	57.2	15.6	4.5	3.9	結果については下表参照
d) 専門科目	30.5	58.1	7.8	0.9	2.7	結果については下表参照
e) ゼミナール	41.6	49.1	4.5	2.1	2.7	結果については下表参照

(n=334)

問6 情報系と専門系の資格取得についてお聞きします。次の当てはまる番号に○をつけてください。また、右欄に今年度で取得した資格があれば、資格名を略称（別紙参照）で記入してください。

	力を入れた	ある程度 力を入れた	あまり力を入 れなかった	全く力を入 れなかった	無回答	今年度取得した資格
a) 情報系資格	12.9	21.9	23.1	33.2	9.0	結果については下表参照
b) 専門資格	11.7	20.4	23.7	33.5	10.8	結果については下表参照

<今年度取得した資格>

a 情報系資格

	W 1	W 2	W 3	E 1	E 2	E 3	P 上	P 初	E C 3	ド B	I P	T (あなたの 点数)	そ 他	無 回 答
(n=334)	0.6	5.4	3.3	0.3	3.0	2.7	2.4	0.6	0.3	0.6	0.6	0.9	0.3	83.2

b 専門資格

	I P	E R E ・ B	福 2	福 3	M 初	リ 2	リ 3	簿 2	簿 3	F P 3	T (あなたの 点数)	そ 他	無 回 答
(n=334)	0.3	0.3	0.6	0.3	0.9	0.9	1.2	0.3	3.9	0.3	0.3	0.6	91.6

(n=334)

問7 授業に対する態度、姿勢について、どのように取り組んだか、当てはまる番号に○をつけてください。また、右欄に特に努力したことがあれば、具体的に記入してください。

	当てはまる	ある程度 当てはまる	あまり当て はまらない	全く当ては まらない	無回答	特に努力したこと
a) 授業に欠席しない	27.5	47.9	18.9	3.9	1.8	自由記載設問のため割愛した。
b) 授業に遅刻しない	50.3	34.7	9.3	3.9	1.8	自由記載設問のため割愛した。
c) 授業で質問・発言する	6.0	25.4	47.0	19.8	1.8	自由記載設問のため割愛した。
d) 予習・復習する	7.5	35.6	41.9	13.2	1.8	自由記載設問のため割愛した。
e) 課題等は必ず行う	39.5	44.9	12.3	1.2	2.1	自由記載設問のため割愛した。

(n=334)

問8 授業時間以外に学習した時間は1日どのくらいですか。当てはまる記号に○をつけてください。

19.8	ほとんどしない	45.8	1時間未満	18.6	1.5時間程度	10.2	2時間程度
3.0	2.5時間程度	1.5	3時間以上	1.2	無回答		

Ⅲ 学生生活について

(n=334)

問9 学友会執行部や学内外のサークル・同好会に所属していますか。当てはまる番号に○をつけてください。

a)	学友会執行部	15.3	所属している	77.2	所属していない	7.5	無回答
b)	大学内の	8.7	スポーツ・文化系両方に所属	17.7	スポーツ系のみ所属		
	サークル・同好会	29.3	文化系のみ所属	40.1	所属していない	4.2	無回答
c)	大学以外の	1.8	スポーツ・文化系両方に所属	5.4	スポーツ系のみ所属		
	サークル・同好会	3.3	文化系のみ所属	78.4	所属していない	11.1	無回答

(n=334)

問10 主に参加している所属サークル等への参加状況について、当てはまる番号に○をつけてください。

29.6	積極的に参加	27.8	たまに参加	36.8	参加していない	5.7	無回答
------	--------	------	-------	------	---------	-----	-----

(n=334)

問11 学友会主催のイベント（民踊流し、球技大会等。ただし、学園祭（悠久祭）は除く）に参加していますか。当てはまる番号に○をつけてください。

13.5	積極的に参加	28.7	たまに参加	55.7	参加していない	2.1	無回答
------	--------	------	-------	------	---------	-----	-----

(n=334)

問 12 学園祭（悠久祭、今年度 10 月）に参加しましたか。主な参加形態として当てはまる番号に○をつけてください。

9.6 実行委員で参加	32.9 模擬店で参加	14.1 展示・イベント等で参加
2.1 ライブ実施で参加	2.1 見に来た（自分ひとり）	9.6 友人と見に来た
1.5 家族と見に来た	25.1 見に来なかった	1.5 その他
1.5 無回答		

(n=334)

問 13 アルバイトをしていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

64.4 している → 問 14 へ	34.1 していない → 問 15 へ	1.5 無回答
--------------------	---------------------	---------

(n=214)

問 14 アルバイトをどの程度していますか。下欄に記入してください。

平均して大体、1 週間に（下表参照）日間、1 週間に約（下表参照）時間

1 週間当たりの平均日数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
	1.9	15.4	28.5	36.4	15.0	2.3	0.5	0.0

1 週間当たりの総時間	5 時間未満	10 時間未満	15 時間未満	20 時間未満	25 時間未満	30 時間未満	30 時間以上	無回答
	4.2	13.2	21.7	19.8	25.9	8.5	6.6	0.0

IV 大学在学中の目標について

(n=334)

問 15 長岡大学在学中の目標として重要だと思うことを、1 位から 3 位まで、下欄から選んで、回答欄に、その番号を記入してください。

1 位	2 位	3 位	
51.5	16.5	11.4	将来の方向をみつける
12.0	19.8	19.2	広い教養・ものの見方等を身につける
12.9	16.8	16.8	専門的知識・理解を身につける
6.0	13.5	14.1	社会人になるまでの時間を楽しむ
8.1	19.5	16.5	資格等を取得し、仕事に活かせる能力を身につける
4.8	8.7	16.2	有意義な友達（人間関係）を創る
2.1	0.0	0.3	その他
2.7	5.4	5.7	無回答

V 大学生活における心配事等について

(n=334)

問 16 現在の長岡大学における学生生活のなかで、心配事や悩みがありますか。下欄の心配事等から当てはまる番号を選んで○をつけてください（いくつでも結構です）。

19.2 生活に熱意がわかない	26.0 現在やりたいことがない	6.9 友達のことによって悩みがある
9.0 まわりの学生がやる気がない	4.2 先生のことによって悩みがある	17.1 授業に興味・関心がわかない
6.6 授業についていけない	31.7 進級や卒業ができるか心配だ	2.7 他大学・学校に入り直したい
1.8 大学を辞めたい	6.3 経済的に勉強するのが難しい	43.4 卒業後の進路が不安だ
6.0 その他	17.1 無回答	

VI 社会人基礎力等、大学で身につけた能力等について

(n=334)

問 17 あなたの人間性（基本的な生活習慣）を、当てはまる番号に○をつけ、自己評価してください。

	十分ある	まあ十分ある	やや不十分 と思う	不十分と思う	無回答
a) 倫理（道德観） （善悪の判断、思いやり、公共心）	37.1	54.8	6.6	1.2	0.3
b) 自己管理 （約束・ルールを守る、責任感あり）	26.3	54.2	15.9	3.3	0.3
c) 誠実さ （物事に誠実に取り組む、素直な態度）	30.8	53.6	13.2	1.8	0.6
d) マナー （あいさつ、服装、礼儀、話し方等）	32.9	54.2	10.5	1.8	0.6
e) 明るさ （明るくふるまうコミュニケーション）	31.1	41.3	21.6	5.7	0.3
f) 健康 （心身ともに健康）	34.4	38.0	20.1	7.2	0.3

(n=334)

問 18 社会人基礎力（職場・地域社会で活躍する上で必要な能力）について、①現状評価と②上昇程度（入学時と比べて）を、
当てはまる番号に○をつけ、自己評価してください。

	①現状評価					② 上昇程度(入学時と比べて)				
	十分	まあ十分	やや 不十分	不十分	無回答	上昇	ある程度 上昇	あまり 上昇して いない	上昇 して いない	無回答
a) 主体性 (物事に進んで取組む力。積極性)	11.1	53.9	30.2	4.2	0.6	14.4	54.5	22.2	5.1	3.9
b) 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力。リーダーシップ)	9.6	44.0	36.2	9.9	0.3	11.1	45.5	31.1	8.7	3.6
c) 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	13.2	52.7	29.9	3.0	1.2	13.2	50.9	25.1	6.3	4.5
d) 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	10.8	50.9	32.6	5.1	0.6	14.1	46.1	29.3	6.6	3.9
e) 計画力 (課題解決の過程を明示し準備する力。組み立て力)	12.9	44.6	35.0	7.2	0.3	12.6	45.2	30.8	7.8	3.6
f) 創造力 (新しい価値を生み出す力)	12.0	43.7	36.8	7.2	0.3	11.4	43.4	32.9	8.7	3.6
g) 柔軟性 (意見や立場の違いを理解する力。相手の立場理解)	26.0	50.6	20.1	2.7	0.6	19.2	51.5	20.7	5.1	3.6
h) 状況把握力 (自分と関係者の関係を理解する力)	24.3	57.2	15.6	2.4	0.6	19.5	53.3	18.0	5.1	4.2
i) 規律性 (社会のルールや約束を守る力)	29.9	55.4	12.6	1.8	0.3	19.2	50.3	20.4	5.7	4.5
j) ストレスコントロール力 (ストレス発生源に対応する力。忍耐強さ)	23.4	42.2	26.6	7.5	0.3	20.4	36.5	27.2	12.3	3.6
k) 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	9.3	41.6	37.7	10.8	0.6	11.7	44.0	29.3	11.1	3.9
l) 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	31.4	55.1	11.1	2.1	0.3	24.0	49.1	18.0	5.4	3.6

(n=334)

問 19 専門的知識等について、問 18 と同様の方法で、自己評価してください。

	①現状評価					② 上昇程度				
	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	無回答	上昇	ある程度上昇	あまり上昇していない	上昇していない	無回答
a) 情報処理の力	11.1	55.7	29.3	3.3	0.6	14.7	53.9	24.0	3.0	4.5
b) 専門分野の知識・理解 (専門分野の資格取得含む)	7.2	44.9	37.7	8.7	1.5	17.1	49.7	22.2	6.0	5.1
c) 幅広い知識やものの見方 (幅広い教養知識等の獲得)	10.8	52.4	31.7	3.9	1.2	16.2	53.3	23.1	3.0	4.5
d) レポート・論文等を書く力 (レポート、論文の書き方等)	9.9	43.4	38.0	7.2	1.5	23.7	49.4	17.7	4.2	5.1
e) 外国語の力 (英語、中国語、韓国語、日本語)	6.3	26.9	43.4	22.2	1.2	12.0	36.5	32.6	14.7	4.2
f) 職業・キャリア形成に関する 知識・ノウハウ・スキル	8.4	43.7	39.8	6.9	1.2	15.0	50.0	25.4	5.7	3.9

Ⅶ 建学の精神、教育目的及び満足度等評価について

(n=334)

問 20 長岡大学の建学の精神について知っていますか。当てはまる番号に○をつけてください。

☆ 幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

☆ 地域社会に貢献し得る人材の育成

61.7 知っている	37.1 知らない	1.2 無回答
------------	-----------	---------

(n=334)

問 21 長岡大学は、教育目的として、<学生に、充実感、達成感、満足感を>を掲げています。授業、学生生活、能力形成等総合的に判断して、①現状評価、②上昇程度（前年度と比べて）を評価し、当てはまる番号に○をつけ、自己評価してください。但し、1年生は現状評価のみ答えてください。

	①現状評価					②上昇程度 (2~4年生のみ)				
	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	無回答	上昇	ある程度上昇	あまり上昇していない	上昇していない	無回答
a) 授業、学生生活等を有意義に 過ごせているか	19.8	53.9	19.8	5.1	1.5	16.9	52.8	20.1	5.9	4.3
b) 資格取得、サークル活動等の 目標達成など	9.3	40.4	37.4	11.7	1.2	14.2	39.0	30.7	12.6	3.5
c) 授業内容や、能力向上に 満足しているか	8.4	58.1	27.2	5.1	1.2	12.6	54.7	23.6	5.5	3.5

Ⅷ 学生の皆さんのことについて

(n=334)

次の各質問について、当てはまる番号に○をつけてください。

(1) あなた自身について

a) 性別	68.6 男性	31.4 女性	0.0 無回答		
b) 学年	24.0 1年生	32.9 2年生	24.9 3年生	18.3 4年生	0.0 無回答
c) 出身高校等の学科	67.4 普通科	3.9 商業科	0.9 工業科	3.0 農業科	
	9.9 総合学科	5.4 定時制・単位制・通信制		6.6 その他	3.0 無回答
d) 出身地	78.1 新潟県内	2.1 新潟県外	11.7 中国	5.1 モンゴル	3.0 ベトナム
	0.0 その他	0.0 無回答			
e) 現在の住まい	65.3 自宅	34.7 自宅外	0.0 無回答		
f) 通学方法 (利用しているもの 全てに○を付けて ください)	26.3 電車	44.9 バス	41.0 自動車	2.1 バイク	32.9 自転車
	42.8 徒歩	3.3 無回答			
g) 現在の健康状態	43.4 良好	33.5 やや良好	15.6 やや不良	4.2 不良	3.3 無回答
h) 現在の体力	20.4 自信あり	29.0 やや自信あり	30.2 やや自信なし	17.1 自信なし	3.3 無回答

(n=334)

(2) 長岡大学に入学したことについて、どう思っていますか。

27.8 良かった	56.0 まあ良かった	9.9 やや後悔している	3.3 後悔している	3.0 無回答
-----------	-------------	--------------	------------	---------

(n=334)

(3) あなたは、「長岡大学の学生」であることに、誇りを持っていますか。

15.3 持っている	43.7 やや持っている	28.4 あまり持っていない	9.3 持っていない	3.0 無回答
------------	--------------	----------------	------------	---------

(n=61)

(4) 4年生のみお答えください。

A 就職が決まった方は、就職に満足していますか。

41.0 満足	36.1 やや満足	6.6 やや不満	3.3 不満	13.1 無回答
---------	-----------	----------	--------	----------

B 全ての4年生に聞きます。4年間の大学生活をどう評価しますか。

34.4 満足	47.5 やや満足	9.8 やや不満	6.6 不満	1.6 無回答
---------	-----------	----------	--------	---------

※質問は以上です。ご協力感謝いたします。

V <研究>における事業展開

9 新潟・長岡地域<ボランティア活動>調査研究の実施―研究①―

(1) 方針 (申請時)

- ・3課題に対応した調査研究を行い、その成果を提言、報告書、シンポジウム等の形で、地域に還元する。
- ・地域課題に対応した調査研究として、「長岡地域産業競争力に関する調査研究(平成25年度)」、「長岡地域<創造人材>の調査研究」(平成26年度)、「少子高齢化・人口減少の影響に関する調査研究」(平成27年度)、「ボランティア活動に関する調査研究」(平成28年度)を実施し、その成果を公開シンポジウムで公表して社会に還元するとともに、提言を行う。
- ・また、地域課題研究会を開催し、その成果を講演会・公開シンポジウム等の形で、社会還元を行う。

(2) 目標 (申請時)

- ・上記4研究を着実に実施し、シンポジウム等で社会還元を行う。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・平成25年度は、「新潟・長岡地域産業(製造業等)競争力に関する調査研究」を実施した。県内製造業企業820社にアンケート調査を実施し(平成25年9月)、平成25年11月22日に公開シンポジウムを開催し(約100名参加)、地域産業の競争力向上の提案を行った。
- ・調査結果は一定に、参考になるものであった。

(4) 平成26年度実績と評価

- ・3つの地域課題の1つの「産業活性化」課題に応える調査研究として、「新潟・長岡地域における<創造人材>に関する研究」を行った。
- ・主として、<創造人材>に関するアンケート調査を行った。新潟県内企業約2000社と長岡大学卒業生約790名を対象に、平成26年8月に行った。企業の回収率7.7%、個人回収率13.8%。
- ・創造人材＝「成果をあげるのに必要だと思う能力・資質」をとりまとめ、11月21日にシンポジウム(2014長岡大学地域連携研究センターシンポジウム)「企業競争力を支える<創造人材>の育成へ！―創造人材調査を中心にして―」を開催し、報告した。約100名の参加であった。
- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・<創造人材>は十分ではない、とくに、新事業開発を推進する人材とは非常に不十分という状況であると思われる。企業競争力を高めるためには、<創造人材>をどう確保するかがポイントであり、今後、この点への問題提起を強める必要がある。

第2に、本学の社会人向け講座(イノベーション人材養成講座等)の組立てと講師陣の充実をこの調査結果を踏まえて、具体化する必要があること。

第3に、創造人材の養成という点では、さらに具体化して、とくに後継経営者、起業家の養成へと進む必要がある。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・ 7～8月・・・全国の 1, 741 市区町村に対し、人口減少対策アンケート調査を実施した。
8月末現在で 543 件の回答があり、回収率は 31.2%であった。
- ・ 調査結果・集積を 10 月中に行った。
- ・ 2015 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム・・・11 月 20 日（金）に長岡グランドホテルで、シンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向－長岡地方創生への視点－」を開催した。本調査精勤者による結果報告（基調報告：長岡大学鯉江康正教授）をうけて、人口減少時代における長岡地域の創生・活性化をテーマに、活発なパネルディスカッションが行われた。約 100 名の市民、企業人等の参加をえて、盛況であった。
- ・ シンポジウムの基調報告をベースに全体的な調査研究報告書『人口減少に関する全国市区町村アンケート調査結果』（150 頁）をとりまとめ、ご回答いただいた市区町村に対し、送付し調査結果の報告とした（平成 28 年 3 月）。

【評価】

- ・ まず第 1 に、全国の市区町村の人口減少の実態と対策をまとめることができた。おそらく、全国初の調査と思われ、回答市区町村だけでなく、国、県にも報告書を送付し、参考にしていただけるようにする予定である。
- ・ 第 2 に、長岡地域においても地方創生の総合戦略が策定され地方創生・地域活性化が進みつつ現状において、人口問題の議論の参考資料とする。
- ・ 第 3 に、さらに、次年度は引き続き、新潟県内・長岡地域の人口問題に取組み、地方創生に貢献する計画である。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・ 新潟・長岡地域＜ボランティア活動＞調査研究の実施・・・新潟・長岡地域の NPO やボランティア組織、自治体、企業等へのアンケート調査をベースにして、ヒアリングも含めて、ボランティア活動の実態、課題および今後の発展方向を取りまとめる。また、シンポジウムでもその結果を議論し、地域への成果の還元を行う。

【目標】

平成 28 年度は以下の調査・研究活動を実施する。

- a 新潟・長岡地域のボランティア動向及び活動の促進に向けたアンケート調査を行い、活動活性化の方策の検討を行う。
- b 新潟県全体のボランティア動向については、新潟県ボランティアセンターの実態数値がある。長岡市については、長岡市ボランティアセンターや市民活動推進課で統計している数値の集計を行い、当該地域のボランティア活動の傾向を推計する。
- c 以上の調査研究を踏まえシンポジウムを実施し、報告書を作成する。

(7) 平成 28 年度計画

次のスケジュールで、＜ボランティア活動＞調査研究を行う。

- a ボランティア調査研究会打ち合わせ会（大学内準備会議・研究会）（5月）・・・アンケート項目検討・ボランティア動向集計
- b ボランティアに関するアンケート調査の実施（6月～7月）、集計（8月～9月）、取りまとめ（10月）
- c シンポジウムにて成果を公表する（11月18日（金））
 - ・最終報告書を作成する（2月～3月）

（8）平成 28 年度の展開

- a ボランティア調査研究会
 - ・大学内の研究会準備会を5月10日（火）、5月17日（火）に開催。①アンケート調査の目的、②ボランティア調査研究会要綱の確認、③アンケート対象者の検討、④アンケート項目の検討、⑤アンケート調査方法の検討、⑥ボランティア調査研究会開催スケジュールを検討した。
 - ・ボランティア調査研究会を6月17日（金）、6月27日（月）に開催。メンバーは、次の通り、長岡市、長岡市社会福祉協議会、NPO法人市民協働ネットワーク長岡のボランティア関係職員及び大学教職員とした。①ボランティア調査研究会要綱の確認、②アンケート目的・対象者・調査方法の確認、③アンケート項目の検討、④ボランティア連携フォーラム開催について協議を行った（アンケート調査票は図表5-9-1、5-9-2参照）。
 - ・ボランティア調査研究会メンバー（敬称略）

長岡市市民協働推進部市民協働課	安達 一啓
長岡市福祉保健部福祉総務課	内藤 藤樹
長岡市社会福祉協議会地域福祉課	宇佐美 信久
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	高橋 秀一
長岡大学教授 原田 誠司、長岡大学准教授 米山 宗久	
- b アンケート調査の実施
 - ・計画通りアンケート調査票を7月に発送し、8月10日締切で回収した。8月～10月に集計・分析を行った。
- c 2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム
 - ・2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム『ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！』を、平成28年11月18日（金）午後に、新規オープンした長岡市社会福祉センターで開催した（図表5-9-3参照）。約50名の参加を得て、基調報告を受け、活発な討論が繰り広げられた。
 - 名称：2016長岡大学地域連携研究センター・シンポジウム
 - テーマ：ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！
 - 日 時：平成28年11月18日（金）14:00～16:30
 - 会 場：長岡市社会福祉センター
 - 基調報告：「ボランティア・NPO活動の現状と課題」長岡大学准教授 米山宗久
 - パネルディスカッション：「ボランティア活動で人の輪をつくろう！」

パネリスト（敬称略）

長岡市社会福祉協議会ボランティアセンター	宇佐美 信久
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡	高橋 秀一
長岡傾聴ボランティアサークル	田所 典子
フードバンクにいがた長岡センター	山崎 一雄
長岡大学准教授	米山 宗久
コーディネーター 長岡大学地域連携研究センター運営委員長・教授	原田誠司



2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム
「ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！」

（9）まとめ—成果と課題—

- ・アンケートは、①長岡市内のボランティア団体（52団体）・NPO団体（73団体）の125団体を対象に組織・活動の現状・課題について伺い、②県内30の社会福祉協議会におけるボランティアセンター活動について、の2つ実施した。ボランティア・NPO団体は66件、回収率52.8%、社会福祉協議会は21件、回収率は70.0%であり、良好な結果であった。
- ・シンポジウムについては、新社会福祉センター（トモシア）が完成し、長岡市や社会福祉協議会と連携して地域連携研究センターシンポジウムを開催することが出来たことは大きな意義がある。
- ・シンポジウムの内容については、平成29年11月刊行予定の長岡大学地域連携研究センター年報に掲載する予定である。
- ・最終報告書については、新ボランティアセンター開設に伴うボランティア活動の現状調査を追加するため、次年度に取りまとめ、ボランティア研究会で検討することとした。

ボランティアグループ・NPOの 組織・活動に関するアンケート

ご協力をお願い

日頃から、大学教育にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
長岡大学では、地域で活動しているボランティアグループやNPOの現状を把握するとともに、ボランティア・NPO活動をされている団体の活動に対する意識と実情を把握し、今後のボランティア・NPO活動を推進するための道標にしたいと考えております。

この調査は、長岡市内のボランティアグループの一部及び市内に本拠地を置くNPOに回答をお願いしています。

調査は無記名のうえ、その結果については統計的に処理いたしますので、回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

なお本調査の回答につきましては、できる限り、代表者のご意見だけでなくメンバーの方々のご意見も踏まえた団体としてのご意向を記入いただきたいと思います。

平成28年7月

(調査企画・実施) 長岡大学ボランティア調査研究会

(調査協力) 長岡市社会福祉協議会

NPO法人市民協働ネットワーク長岡

長岡市

ご記入にあたってのお願い

- 1 このアンケート用紙は、封筒の宛名の方ご本人様がお答えください。
- 2 ご記入は、黒または青の筆記用具でお願いします。
- 3 回答は、あてはまるものの番号を○で囲んでください。
- 4 「その他()」や _____ には、具体的にご記入ください。

調査票のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、無記名のまま、
8月10日(水)までに投函してください。(切手は不要です。)

【調査についてのお問い合わせ先】

長岡大学 地域連携研究センター

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

電話：0258-39-1600 FAX：0258-39-9566

問1 貴団体は、どのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|-------|
| 1 ボランティアグループ | 2 NPO |
|--------------|-------|

問2 貴団体は創設(任意団体としての設立期間を含む)されてからの年数は、おおよそ何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 1年未満 | 2 1～3年未満 | 3 3～5年未満 |
| 4 5～10年未満 | 5 10～20年未満 | 6 20～30年未満 |
| 7 30年以上 | | |

問3 貴団体の会員数は何人ですか。(数値を記入)

_____人 ※賛助会員等がいる場合は、含めてください。

問4 貴団体は、事務所を設置していますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 専用の事務所を設置している | 2 事務所は設置していない |
| 3 他の団体と共同で事務所を設置している | 4 その他() |

問5 貴団体の事務所(事務局)の体制はどのようなものですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 有給スタッフだけで対応している | 2 無給スタッフだけで対応している |
| 3 特に事務所スタッフは置いていない | 4 その他() |

問6 貴団体の活動資金や運営資金の種類は、次のうちどれですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------|--------------|----------------|
| 1 会費 | 2 委託料(行政) | 3 委託料(民間) |
| 4 補助金 | 5 委託料以外の事業収入 | 6 公募による助成金や協賛金 |
| 7 寄付金 | 8 バザー等の売上 | 9 赤い羽根共同募金の配分金 |
| 10 その他() | | |

問7 貴団体の1年間の活動資金や運営資金の合計は、おおよそいくらですか。(数値を記入)

おおよそ _____万円 ※できる限り直近の年度で記入してください。

問8 貴団体はNPO法人格を取得していますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1 取得している(または現在 取得中) |
| 2 現在は取得していないが、今後取得したい |
| 3 現在は取得しておらず、今後も取得するつもりはない |
| 4 現在は取得しておらず、今後はわからない |

問9 貴団体では、どのような活動を行っていますか。(〇はいくつでも)

1	保健・医療・福祉の増進を図る活動	_____
2	社会教育の推進を図る活動	
3	まちづくりの推進を図る活動	
4	観光の振興を図る活動	
5	農山漁村または中山間地域の振興を図る活動	
6	学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動	
7	環境の保全を図る活動	
8	災害救護活動	
9	地域安全活動	
10	人権の擁護または平和の推進を図る活動	
11	国際協力の活動	
12	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	
13	子どもの健全育成を図る活動	
14	情報化社会の発展を図る活動	
15	科学技術の振興を図る活動	
16	経済活動の活性化を図る活動	
17	職業能力の開発、雇用機会の拡充を支援する活動	
18	消費者の保護を図る活動	
19	活動を行う団体の運営や活動に関する連絡・助言・援助の活動	
20	その他 (_____)	

〈問9で、1に〇をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問10 「保健・医療・福祉の増進を図る活動」の対象者はどのような方々ですか。(〇はいくつでも)

1	高齢者	2	障がい者	3	児童
4	限定していない	5	その他 (_____)		

〈問9で、1に〇をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問11 「保健・医療・福祉の増進を図る活動」の具体的な内容はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

1	対象者と直接接する活動(介助・介護・看護・保育など)
2	技術・技能を要する活動(手話・点訳・朗読・傾聴など)
3	イベントに関する活動(準備・演芸訪問など)
4	施設内外の環境美化活動(清掃・洗濯など)
5	配食活動(調理・配食など)
6	健康保健の活動(体操・料理など)
7	その他 (_____)

〈以下は全員の方がお答えください。〉

問 12 貴団体の活動場所はどこですか。(〇はいくつでも) ※保育園・児童館は福祉施設に含みます。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 コミュニティセンター・集会所 | 2 公民館 |
| 3 学校 | 4 アオーレ長岡 |
| 5 社会福祉センター | 6 福祉施設 |
| 7 図書館 | 8 公園・広場などの屋外 |
| 9 病院・診療所 | 10 対象者の家 |
| 11 団体の事務所 | 12 会員等の自宅 |
| 13 企業の施設等 | |
| 14 その他 () | |

問 13 貴団体は、どのようなきっかけで参加した会員が多いですか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1 自発的な意思で |
| 2 友人や知人に勧められて |
| 3 家族や親せきに勧められて |
| 4 学校で参加する機会を与えられて |
| 5 職場で参加する機会を与えられて |
| 6 町内会や子ども会等の地域活動で参加する機会を与えられて |
| 7 ボランティアに関する研修会、講習会、行事、イベントに参加して |
| 8 テレビ、インターネット、新聞、雑誌、ポスターなどを見て |
| 9 信仰上の理由で |
| 10 その他 () |

問 14 貴団体は、社会福祉協議会(ボランティアセンター)や市民協働センターをどのように活用していますか。
(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 活動や組織運営に関する相談 | 2 活動資金に関する情報提供 |
| 3 広報に関する相談 | 4 情報発信に関する相談 |
| 5 関係機関との連絡調整 | 6 資材、機材等の貸出 |
| 7 活動スペースの確保 | 8 事業・行事への参加 |
| 9 その他 () | |
| 10 特に活用したことはない | |

問 15 貴団体が活動する上で、(1)～(8)までの団体について、連携状況はどうですか。
(それぞれに○は1つ)

	現在、連携している	現在、連携していないが、今後連携したい	今後も連携するつもりはない
(1) 他のボランティア・グループ	1	2	3
(2) 他のNPO団体	1	2	3
(3) 地域団体 (自治会や老人会、校区ごとの地域福祉推進組織など)	1	2	3
(4) 当事者団体	1	2	3
(5) 事業者(企業や福祉施設)	1	2	3
(6) 学校や教育関係の機関	1	2	3
(7) 行政機関	1	2	3
(8) その他(商工会議所、青年会議所、民生委員児童委員協議会など)	1	2	3

〈問 15 で、1か2に○をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問 16 「連携している」「連携したい」内容について、具体的にお書きください。

〈以下は全員の方がお答えください。〉

問 17 貴団体は現在、団体としての目的をどの程度達成していると思いますか。(○は1つ)

1 十分に達成している	2 ある程度達成している
3 あまり達成できていない	4 ほとんど達成できていない

問18 貴団体は、活動や組織運営の面で困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- 1 会員が不足している
- 2 会員の層(年齢・性別など)が偏り、新たな会員の参加が得にくい
- 3 団体を運営するスタッフが不足している
- 4 リーダーを担ってくれる次世代の人がいない
- 5 事務所が確保できない(または負担が大きい)
- 6 活動の拠点が確保できない(または負担が大きい)
- 7 活動や組織運営に必要な機材や設備が確保できない(または負担が大きい)
- 8 活動資金や運営資金が不足している
- 9 活動に関する情報が得にくい
- 10 団体の地域住民に対する認知度が低い
- 11 サービスの利用やボランティアの要請が少ない
- 12 他の団体との連携が難しい(または負担が大きい)
- 13 現在行っている活動の負担が大きい
- 14 新たな活動への取り組みが難しい
- 15 活動のマンネリ化や縮小化の傾向がある
- 16 その他()
- 17 特に困っていることはない

問19 貴団体は、どうすれば活動の参加者を増やすことができると思いますか。(○は3つまで)

- 1 気軽に参加、活動できること
- 2 参加する仲間がいること
- 3 活動を通じて知識や技能が身につくこと
- 4 自分の能力を活かす場があること
- 5 とにかく楽しめること
- 6 多少の謝礼や特典が得られること
- 7 任命されるなど社会的な位置づけが明確になること
- 8 様々な分野の情報が集約され、容易に確認できること
- 9 活動に関して気軽に相談できる体制が整っていること
- 10 きっかけとなるイベントや講座が開催されること
- 11 その他()

問20 貴団体では、学生ボランティアの受け入れに取り組んだことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 取り組んでいる | 2 今後取り組みたい |
| 3 以前取り組んでいた | 4 取り組んだことがない |

〈問20で、1か3に○をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問21 貴団体では、学生ボランティアを受け入れた効果はありましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|------------------------|------------|
| 1 活動の活性化につながった | 2 行動が積極的になった | 3 会員に元気が出た |
| 4 新しい考えがもたらされた | 5 会員間のコミュニケーションが活発になった | |
| 6 その他() | | 7 効果がなかった |

〈問20で、1か3に○をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問22 学生ボランティアを受け入れるときの課題はありますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1 責任問題がある | 2 個人情報の管理が難しい | 3 人材に不安がある |
| 4 何をさせたらいいのかわからない | 5 専門的知識が必要である | 6 予算が必要である |
| 7 相談場所がわからない | 8 その他 () | |
| 9 特に問題はない | | |

〈以下は全員の方がお答えください。〉

問23 ボランティア団体やNPOが行政と協働して事業を行っていく上で、どのような取り組みが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1 行政と対等な立場で協議できる場づくり | |
| 2 行政からの情報提供や情報開示の充実 | |
| 3 行政と団体をコーディネートする機関や人材の設置 | |
| 4 協働で行う活動や事業に対する財政的な支援の充実 | |
| 5 その他 () | |
| 6 行政機関と協働して事業を行うつもりはない | |

問24 貴団体では、社会福祉協議会(ボランティアセンター)や市民協働センターにどのようなことを期待しますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 活動スペースの貸与 | 2 資材・機材等の貸出 |
| 3 活動資金の助成 | 4 活動の広報 |
| 5 活動に関する情報提供 | 6 活動や組織運営に関する相談 |
| 7 学習会・研修会の開催 | 8 新たな人材の養成 |
| 9 他団体等との交流の場の提供 | 10 関係機関等との連携・調整 |
| 11 様々な活動の情報集約 | |
| 12 その他 () | |
| 13 特に期待することはない | |

問25 その他、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

--

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

皆様からいただいた貴重な情報は、今後のボランティア・NPO活動の推進のために活用させていただきます。誠にお手数ですが、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いいただき、お近くの郵便ポストにご投函ください。

ボランティアセンター活動 に関するアンケート

ご協力をお願い

日頃から、大学教育にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
長岡大学では、地域の活動拠点であるボランティアセンターの現状を把握するとともに、ボランティア団体の活動支援に対する意識と実情を把握し、今後のボランティア活動を推進するための道標にしたいと考えております。
この調査は、新潟県内の市町村の社会福祉協議会に回答をお願いしています。
調査は無記名のうえ、その結果については統計的に処理いたしますので、回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはありません。
お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。
なお本調査の回答につきましては、できる限り、ボランティアコーディネーターのご意見だけでなく組織としてのご意向を記入いただきたいと思います。

平成28年7月

(調査企画・実施) 長岡大学ボランティア調査研究会
(調査協力) 長岡市社会福祉協議会
NPO法人市民協働ネットワーク長岡
長岡市

ご記入にあたってのお願い

- 1 このアンケート用紙は、封筒の宛名の方ご本人様がお答えください。
- 2 ご記入は、黒または青の筆記用具でお願いします。
- 3 回答は、あてはまるものの番号を○で囲んでください。
- 4 「その他()」や _____ には、具体的にご記入ください。

調査票のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、無記名のまま、
8月10日(水)までに投函してください。(切手は不要です。)

【調査についてのお問い合わせ先】
長岡大学 地域連携研究センター
〒940-0828 長岡市御山町 80-8
電話：0258-39-1600 FAX：0258-39-9566

問1 ボランティアセンターを設置していますか。

1 設置している	2 設置していない	3 今後設置する予定
4 設置する予定はない		

問1で、2、3、4に○をつけた方は、問16へ進んでください。

〈問1で、1に○をつけた方は、以下の問にお答えください。〉

問2 ボランティアセンターは創設からの経過年数は、おおよそ何年ですか。(○は1つ)

1 1年未満	2 1～3年未満	3 3～5年未満
4 5～10年未満	5 10～20年未満	6 20～30年未満
7 30年以上		

問3 ボランティアセンターが把握している団体はいくつですか。(数値を記入)

1 登録している団体	_____	団体
2 把握している団体	_____	団体
3 ボランティアを主としていない団体	_____	団体

問4 ボランティアセンターの体制はどのようなものですか。(○は1つ)

1 有給スタッフだけで対応している	2 無給スタッフだけで対応している
3 有給スタッフと無給スタッフの併用	4 その他 (_____)

問5 ボランティアセンターの活動資金や運営資金の種類は、次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 会費	2 委託料	3 補助金
4 共同募金	5 委託料以外の事業収入	6 公募による助成金や協賛金
7 寄付金	8 バザー等の売上	
9 その他 (_____)		

問6 ボランティアセンターを運営するにあたり、委員会等を設置していますか。(○は1つ)

1 設置している	2 今後設置する予定	3 設置する予定はない
4 その他 (_____)		

問7 ボランティアセンターでは、どのような活動を支援していますか。(〇はいくつでも)

- 1 保健・医療・福祉の増進を図る活動
- 2 社会教育の推進を図る活動
- 3 まちづくりの推進を図る活動
- 4 観光の振興を図る活動
- 5 農山漁村または中山間地域の振興を図る活動
- 6 学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動
- 7 環境の保全を図る活動
- 8 災害救護活動
- 9 地域安全活動
- 10 人権の擁護または平和の推進を図る活動
- 11 国際協力の活動
- 12 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- 13 子どもの健全育成を図る活動
- 14 情報化社会の発展を図る活動
- 15 科学技術の振興を図る活動
- 16 経済活動の活性化を図る活動
- 17 職業能力の開発、雇用機会の拡充を支援する活動
- 18 消費者の保護を図る活動
- 19 活動を行う団体の運営や活動に関する連絡・助言・援助の活動
- 20 その他 ()

問8 ボランティアセンターは、ボランティア団体の連携を推進するためにボランティア連絡協議会等を設置していますか。(〇は1つ)

- 1 設置している
- 2 今後設置する予定
- 3 設置する予定はない
- 4 その他 ()

〈問8で、1に〇をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問9 ボランティア連絡協議会の具体的な活動・事業の内容はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

- 1 ボランティア団体間の連絡・活動調整
- 2 ボランティア団体間での連携事業の実施
- 3 ボランティアの資質向上のための事業実施
- 4 ボランティア活動の広報・啓発
- 5 ボランティアの独自活動
- 6 ボランティアコーディネーターのサポート
- 7 ボランティアセンターの運営補助
- 8 その他 ()

問10 ボランティアセンターが活動する上で、(1)～(7)までの団体について、連携状況はどうか。
(それぞれに○は1つ)

	現在、連携している	現在、連携していないが、今後連携したい	今後も連携するつもりはない
(1) 他のボランティア活動支援団体	1	2	3
(2) 他のNPO団体 ※(1)を除く	1	2	3
(3) 地域団体 (自治会や老人会、校区ごとの地域福祉推進組織など)	1	2	3
(4) 当事者団体	1	2	3
(5) 事業者(企業や福祉施設)	1	2	3
(6) 学校や教育関係の機関	1	2	3
(7) 行政機関(地域包括支援センター含む)	1	2	3
(8) その他(商工会議所、青年会議所、民生委員児童委員協議会など)	1	2	3

〈問10で、1か2に○をつけた方は、次の問にお答えください。〉

問11 「連携している」「連携したい」内容について、具体的にお書きください。

問12 ボランティアセンターは現在、センターとしての目的をどの程度達成していると思いますか。(○は1つ)

1 十分に達成している	2 ある程度達成している
3 あまり達成できていない	4 ほとんど達成できていない

問13 ボランティアセンターは、活動や組織運営の面で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

- 1 登録団体が不足している
- 2 新たな団体の参加が得にくい
- 3 センターを運営するスタッフが不足している
- 4 活動や組織運営に必要な機材や設備が確保できない(または負担が大きい)
- 5 活動資金や運営資金が不足している
- 6 センターの地域住民に対する認知度が低い
- 7 団体との連携が難しい(または負担が大きい)
- 8 現在行っているセンター運営の負担が大きい
- 9 新たなセンター活動への取り組みが難しい
- 10 センターのマンネリ化や縮小化の傾向がある
- 11 その他()
- 12 特に困っていることはない

問14 「問13」に関して、その解決策はどのようなことが考えられますか。

問15 ボランティアセンターが行政と協働して事業を行っていく上で、どのような取り組みが必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

- 1 行政と対等な立場で協議できる場づくり
- 2 行政からの情報提供や情報開示の充実
- 3 行政からの人材派遣
- 4 協働で行う活動や事業に対する財政的な支援の充実
- 5 その他()
- 6 行政機関と協働して事業を行うつもりはない

〈以下は全員の方がお答えください。〉

問 16 どうすればボランティア活動の参加者が増えると思いますか。(○は3つまで)

- 1 個人だけで気軽に参加、活動できること
- 2 参加する仲間がいること
- 3 活動を通じて知識や技能が身につくこと
- 4 自分の能力を活かす場があること
- 5 とにかく楽しめること
- 6 多少の謝礼や特典が得られること
- 7 任命されるなど社会的な位置づけが明確になること
- 8 様々な分野のボランティア情報が集約され、容易に確認できること
- 9 活動に関して専門員へ気軽に相談できる体制が整っていること
- 10 きっかけとなるイベントや講座が開催されること
- 11 その他 ()

問 17 ボランティア団体が「ボランティアセンター」にどのようなことを期待していると思いますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 活動スペースの貸与 | 2 資材・機材等の貸出 |
| 3 活動資金の助成 | 4 活動の広報 |
| 5 活動に関する情報提供 | 6 活動や組織運営に関する相談 |
| 7 学習会・研修会の開催 | 8 新たな人材の養成 |
| 9 他団体等との交流の場の提供 | 10 関係機関等との連携・調整 |
| 11 福祉分野に限らず様々な分野の情報集約 | |
| 12 その他 () | |
| 13 特に期待することはない | |

問 18 その他、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

皆様からいただいた貴重な情報は、今後のボランティア・NPO活動の推進のために活用させていただきます。
誠にお手数ですが、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いいただき、お近くの郵便ポストにご投函ください。

図表5-9-3 2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム案内



学校法人 中越学園
長岡大学

(文部科学省採択)
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



文部科学省
地(知)の拠点

2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

ボランティア活動で 人の輪(和)をつくらう!

長岡大学はこの間、COC事業の一環として、産業競争力(平成25年度)、創造人材(平成26年度)、人口減少問題(平成27年度)の地域課題解明に取り組んできました。今年度は、さらに、地域におけるボランティア活動の現状を把握し、一層の活性化・発展をめざしてシンポジウムを開催します。長岡市内では、ジュニアからシニア世代まで幅広く、経験や技術を活かして様々なボランティア活動が行われています。しかし他方で、メンバーの高齢化や世代交代の難しさから、シニア世代のボランティア活動に困難も見えています。こうしたなかで、ボランティア活動を一層促進するためには、ボランティアセンターの役割がより重要になっています。

本シンポジウムでは、ボランティア活動に関する調査結果を報告するとともに、ボランティア活動を推進する方々をパネリストに迎えて、長岡地域におけるボランティア活動の活性化・発展の方向を議論したいと考えます。

長岡地域でボランティア活動を推進し、関心をお持ちの皆さんの参加をお待ちします。



平成28年

11/18

日時 **金**

14:00～16:30(13:30～受付開始)

長岡市社会福祉センター
ながおか町口御門内
(表町2-2-21) **入場無料**

第1部 基調報告

「ボランティア・NPO活動の現状と課題」

長岡大学准教授 …………… 米山 宗久

第2部 パネルディスカッション

**「ボランティア活動で
人の輪(和)をつくらう!」**

(パネリスト) ……………

長岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター 班長 …… 宇佐美 信久 氏

NPO法人市民協働ネットワーク長岡 …………… 高橋 秀一 氏

長岡傾聴ボランティアサークル会長 …………… 田所 典子 氏

フードバンクにいがた長岡センター …………… 山崎 一雄 氏

長岡大学准教授 …………… 米山 宗久

(コーディネーター) 長岡大学地域連携研究センター運営委員長 …… 原田 誠司



■主催 長岡大学地域連携研究センター

■後援 長岡市、長岡商工会議所、長岡市社会福祉協議会、NPO法人市民協働ネットワーク長岡

(お問合せ先)

長岡大学地域連携研究センター 担当 小田原、山田

〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL:0258-39-1600代

FAX:0258-39-9566 E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

10 <新潟県内自治体の将来人口動向>調査研究の実施（平成27年度の続編）

－研究②－

（1）方針（申請時）

- ・平成27年度実施予定の「少子高齢化・人口減少に関する調査研究」の準備作業を行う。

（2）目標（申請時）

- ・研究会等により、アンケート票作成等次年度に入り、調査が可能となるような事前準備を行う。

（3）平成25年度実績と評価

- ・講演「長岡市の地域課題について」（長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村健史氏）により、地域課題の認識を深めた（平成25年10月30日実施）。

（4）平成26年度実績と評価

- ・長岡地域人口問題研究会を設立し、調査研究の枠組みを検討した（メンバー：長岡市政策企画課、長岡商工会議所、ホクギン経済研究所＋本学7名）。
- ・研究会は、4回（11～3月まで）開催した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・以下を平成27年度の取組方向として確認できた。全国の市町村を対象に、人口減少問題等に関するアンケート調査を実施する。それをもとに、人口減少による影響把握および地域活性化策の個別研究（地域経済への影響分析、大学・専門学校卒業後の就職意識、子育て世代の地域居住に対する意識、食料品店の店舗数を用いた地域の利便性等）を行う。

（5）平成27年度実績と評価

【実績】

- ・全国の市区町村を対象に「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」を平成27年7月～8月にかけて実施した。
- ・その結果を、11月に実施したシンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向性」および平成28年3月に「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査 報告書」（94頁）をとりまとめ、ご回答いただいた市区町村および商工会議所等関連機関に送付し、調査結果の報告とした。

【評価】

アンケートの結果、以下のことが明らかとなった。詳細については上記報告書を参照されたい。

- ・人口が増加している市区町村の増加要因を探ると、人口規模別に要因に違いがあることがわかった。具体的には、小さな自治体では農地の有効転換や子育て支援、規模が大きくなるに従って商業や工業の産業振興の正否、更に大規模都市になれば環境や文化・歴史などの重要性が増すようである。
- ・人口減少の影響はほとんどの市区町村でマイナスの影響があるという結果が得られた。現在

顕在化している人口減少の影響としては、日常生活における不便さの増加が顕著な影響として現れている。今後重大な問題になると予想される問題としては、地域経済の維持管理が懸念される影響としてあがっている。

- ・多くの自治体が様々な対策を講じているにもかかわらず成果はそれ程実感できていないようである。「子どもの医療費助成」や「移住に興味がある方や希望される方への、住まいや雇用の情報等の発信」の効果が上がっているという意見もあるが、地域の実情を踏まえた上での対策の検討が必要であろう。

（６）平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・平成 27 年度の人口減少問題調査研究の続編として、新潟県内自治体の将来人口動向の調査研究を行い、人口減少下における県内地域の活性化の方向を取りまとめる。

【目標】

- ・平成 27 年の国勢調査結果が公表されるため、昭和 60 年以降の県内市町村の人口動向および将来推計人口を整理する。
- ・人口減少による県内市町村の社会経済への影響モデルを構築し、人口が大幅に減少した場合と人口減少対策が効果を発揮した場合のシミュレーションを実施する。

（７）平成 28 年度計画

次のスケジュールで、人口減少の影響を把握する。

- ・人口動向のとりまとめ（４月～６月）
- ・社会経済データの収集整理（５月～７月）
- ・人口減少による新潟県内市町村への影響予測モデルの構築（８月～１１月）
- ・人口減少の影響把握（１２月～１月）
- ・とりまとめ（２月～３月）

（８）平成 28 年度展開

「平成 28 年度計画」にしたがって作業を進め、３月に「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を発行した（本文 91 頁）。

（９）まとめ—成果と課題—

人口減少が新潟県内市町村の就業者数・従業者数・域内総生産・息民所得に及ぼす影響を、新潟県内市町村モデルを構築して、平成 37 年（2025 年）まで予測した。詳細な報告は「人口減少が新潟県内市町村に及ぼす影響分析」を参照されたい。

モデルによる予測の結果、以下の結論を得ることができた。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、全市町村で人口は減少することになる。それをもとに就業者数、従業者数、域内総生産、域民所得を予測するので、結果はかなり厳しいものになっている。とりわけ人口減少が著しい市町村では、就業者数や従業者数が大幅に減少することによって域内総生産が減少し、さ

らに就業者数が減少してしまうという負のスパイラルに陥る傾向が強い。

ただし、本調査研究の予測は、時系列データを用いた地域計量経済モデルによるものであり、いわば、現状の対策以上の対策は行われないというような仮定でのものである。過去の推移をみる限り県内市町村は生産性を伸ばしてきており、一定の成果は見られているが、このままでは生産性の上昇による地域の成長は限界にきているとも言える。高付加価値化はもちろん重要であり、それを否定するつもりはないが、そこには限界を感じざるを得ない。その点からも、人口の自然減を少しでも抑え、魅力的な雇用の場を確保し社会減のマイナスを減らす抜本的対策の検討が望まれるところである。

これを受けて、次年度は人口対策に関するシンポジウムを開催する予定である。

1 1 地域との共同研究（地域志向教育研究）－研究③－

（1）方針（申請時）

- ・上記の4地域課題研究以外に、地域志向教育研究（毎年5～6名教員参加）を推進する。

（2）目標（目標）

- ・平成25年度の教員の地域志向教育研究は5件、参加教員5名程度とする。テーマは、自治体環境報告書分析、中小企業承継計画、公共施設の老朽対策など。
- ・平成29年度は、年間6件、参加教員10名程度の地域志向教育研究をめざす。

（3）平成25年度実績と評価

- ・「地域志向教育研究の手引」を作成し、10月から、5名（件）の申請を公募した（対象教員＝常勤教員、1件当たり50万円、予算総額は2,500千円）。
- ・平成25年10月30日に、次の5名（件）を地域志向教育研究経費として選考した。経費総額は、5件、1,760千円（予算は2,500千円）。
 - a 「長岡市区域公共施設ビンテージのGISを活用したデータ分析」内藤敏樹、104千円
 - b 「新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探るための予備調査」西俣先子、404千円
 - c 「地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究－北越紀州製紙のケース－」松本和明、300千円
 - d 「中越地域の企業系譜と産業系譜作り」権 五景、452千円
 - e 「『ながおかバル街』による中心市街地・店舗活性化の研究」中村大輔、500千円
- ・3月に成果報告を受けたが、時間不足で、中間とりまとめのレベルにとどまった。次年度も継続して、成果をとりまとめる必要がある。

（4）平成26年度実績と評価

- ・平成26年度は、8件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に、を採択した。
- ・平成25年度の地域志向調査研究成果発表会を9月に開催した（平成25年度は研究期間が半年であったため成果発表ができなかったため）。
- ・平成26年度の地域志向調査研究成果発表会は3月に開催した。
- ・平成26年度の地域志向教育研究報告書を『長岡大学 地域志向教育研究ブックレット』（ISSN登録予定）シリーズとして、5件・人（各200部印刷）刊行し、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成26年度の取組件数が8件・人になり、前年度から増加したことは、望ましい成果であった。また、成果発表会を開催し、平成26年度の成果をブックレットとして5件・人が原稿化し、刊行できたことは、成果を地域に提供・公開する上で、大きな貢献となる。第3に、テーマについては、今後は、より地域で解決が望まれる課題について、取り組む方法を検討する必要がある。それにより、地域の産官学連携をさらに促進することに貢献できる。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・平成 27 年度は、7 件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に、を採択した。結果は、25 万円／件であった。
- ・平成 27 年度の地域志向調査研究中間報告会を 12 月 9 日（水）、成果発表会を平成 28 年 3 月 2 日に開催した。成果発表会での外部からの参加者は 2 名にとどまった。
- ・平成 27 年度の地域志向教育研究報告書（成果発表会発表報告）を『平成 27 年度長岡大学地域志向教育研究報告書』としてまとめた。また、平成 27 年度長岡大学地域志向教育研究ブックレット vol. 1 『新潟・長岡地域の産業界・起業における人材ニーズ等の現状と課題』（原田誠司）、vol. 2 『地域企業の経営発展と成長および企業者活動の研究—桜井督三と北越製紙の経営再建—』（松本和明）の 2 冊を刊行し（ISSN 登録、各 200 部印刷）、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成 27 年度の取組件数が 7 件・人になり、前年度から 1 件減であった。また、中間報告会、成果発表会を開催することができた。

しかし、ブックレットとして刊行できたのは、2 件・人であり、他の 5 件は次年度に継続となった。次年度は、申請研究はすべて、ブックレットとして刊行し、公開できるようにする必要があろう。

第 3 に、平成 28 年度から本学も COC+ に参加するが、COC+ には地域志向教育研究経費は計上されていない。本学は地域志向教育研究を継続できるので、より地域で解決が望まれる課題に取組み、COC 事業の残り 2 年間に成果をあげることを目指す必要賀ある。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・地域志向教育研究の実施・・・実施要領にもとづき本学常勤教員への公募を早期に実施し（4 月）、5～10 件程度を採択する。中間発表（11 月）を経て、2～3 月に成果発表を行う。成果論文等は、ブックレットや地域連携研究センター研究年報等に掲載する。

【目標】

- ・平成 27 年度の調査研究を継続して、成果をとりまとめるとともに、平成 28 年度新規教員の申請を促進し、前年度以上の調査研究結果（件数、内容ともに）をめざす。
- ・成果発表の方法（報告会・成果発表会、ブックレットの刊行）も前年度と同様に、行う。

(7) 平成 28 年度計画

- ・4 月 19 日（火）（第 1 回 COC 推進本部会議）に、平成 28 年度の地域志向教育研究経費について、「平成 28 年度長岡大学「地域志向教育研究」の推進について（改訂版）」（平成 28 年 4 月 19 日、学長）に則り、公募を開始した（締切：5 月 10 日）。

＊公募件数は、5～10 件、研究経費上限は 50 万円／件

- ・平成 28 年度地域志向教育研究経費の申請が応募件数を上回る場合は選考を行い、採択決定を行う。
- ・11～12 月に、同上調査研究の中間報告会を開催し、中間点検を行う。
- ・2～3 月に、成果発表会を開催し、の仕方等につき、最終的結論をうる。

- ・ 3月に、研究報告をとりまとめる。

(8) 平成 28 年度の展開

- ・ 平成 28 年度地域志向教育研究課題は図表 5-11-1 に示す 6 人・件に決定した。

図表 5-11-1 平成 28 年度地域志向教育研究一覧

教員名	教育研究課題	予算額 (円)
米山宗久	発達段階による「子育て」に関する親の意識変化	341,000
栗井英大	新潟県内中小企業における事業承継の現状と課題	430,000
西俣先子	新潟県の中小・地域金融機関による環境金融の現状と 県内企業の環境金融活用の現状を探るための調査	390,000
中村大輔	長岡市域の製造業における管理会計システムの普及 に関する研究 (継続)	500,000
兒嶋俊郎	新潟における戦争の記憶	271,500
山川智子	長岡市近郊及び新潟県内の温泉における地域資源と しての活用の傾向分析	430,000
合 計		2,362,500

- ・ 地域志向教育研究・中間報告会・・・中間報告会を、平成 28 年 12 月 14 日 (水) 14:40～、於・第 5 会議室で開催した。6 名の教員が順次、中間発表を行った。
- ・ 平成 28 年度<地域志向教育研究>成果発表会・・・平成 28 年度成果発表会を次の通り開催した。外部からの参加者は 4 名であった。

日時：平成 28 年 2 月 22 日 (水) 13:30～15:30

会場：長岡大学 2 2 6 教室

発表者：米山宗久、栗井英大、中村大輔、兒嶋敏郎

＊西俣先子、山川智子は他業務と重複のため欠席。

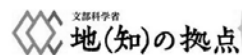
発表方法：発表 14 分+質疑 10 分+交代 1 分 (計 25 分) の時間配分で行った。

- ・ 平成 28 年度の成果については「地域志向教育研究ブックレット」として刊行した。なお、他の 2 名の教員からは、報告書が提出され、次年度更に深めて成果物を作成することとした。

(9) まとめ—成果と課題—

- ・ 平成 28 年度の地域志向教育研究の採択件数は 6 人・件で、前年度から 2 名・件減であったが、教員の地域志向教育研究の意欲が衰えたわけではない。個々のテーマ・取組みは意欲的である。例えば、子育て問題 (米山)、事業承継問題 (栗井)、中小製造業企業の原価管理問題 (中村)、環境金融問題 (西俣) など、いずれも新潟・長岡地域の課題解明をめざしている。次年度も同様のスタンスで継続することが期待される。
- ・ 『地域志向教育研究ブックレット』の刊行者は 2 名 (中村・兒嶋) であった。他の発表方法 (論叢や地域連携研究センター年報) も活用して、活字化を進める。

図表 5-11-2 平成 28 年度<地域志向教育研究>成果発表会



長岡大学COC+事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム
平成 28 年度<地域志向教育研究>成果発表会

日 時： 平成 29 年 2 月 22 日(水) 13:30~15:30
会 場： 長岡大学 226 講義室

<<< 次 第 >>>

総合司会

地域連携研究センター調査研究部会長 小松 俊樹

☆はじめにー地域志向教育研究についてー……………村山 光博 13:30~13:40

① 発達段階による「子育て」に関する親の意識変化……………米山 宗久 13:40~14:05

② 新潟県内中小企業における事業承継の現状と課題……………栗井 英大 14:05~14:30

③ 長岡市域の製造業における
管理会計システムの普及に関する研究(継続)……………中村 大輔 14:30~14:55

④ 新潟における戦争の記憶……………児嶋 俊郎 14:55~15:20

※他業務と重複のため本日欠席(報告書は作成)

新潟県の中小・地域金融機関による
持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点
県内企業の環境金融活用現状を探索するための調査(継続)……………西俣 先子

長岡市近郊及び新潟県内の温泉における
地域資源としての活用の傾向分析(継続)……………山川 智子

(参考) 発表時間について

1 課題につき、発表 14 分+質疑 10 分+交代 1 分(計 25 分)

1 鈴	発表終了 2 分前	12 分経過時
2 鈴	発表終了(質疑開始)	14 分経過時
3 鈴	質疑終了	24 分経過時

VI <社会貢献>における事業展開

1 2 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進―社会貢献①―

(1) 方針（申請時）

- ・高齢化・人口減少社会における地域・コミュニティの衰退状況の防止、再生のため、①まず本学所在の悠久山地区の活性化、②市内他地域（越路、山古志、栃尾等）の活性化にむけた貢献活動に取り組む。
- ・方法―上記研究成果の具体化の上に立ち、市活性化組織や他地域との連携・ネットワーク形成を追求する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→地域活性化の取組を「地域活性化研究会」を立ち上げて検討し、取組方針（本学の教育、大学の役割）を策定する。
- ・平成 29 年度→悠久山地区、東山地区での活性化の取組成果を確認できるレベルまで進める。また、中山間地（山古志、栃尾地区等）も含めて市内地区の活性化ネットワークづくりのめどをつける。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・実績―地域元気フォーラム（2月、100名参加）、悠久山・東山フォーラム（3月、70名参加）を開催し、次年度以降の地域活性化に向けた重要な一歩となった。長岡地域の地域活性化やボランティア活動の諸計画の取りまとめもできた。
- ・評価―悠久山・東山フォーラムなどで地域住民（団体）との連携が可能になり、次年度の地域活性化の方向が見えてきた。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の地域活性化活動は「栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくり」をめざして、多様な活動を展開した。まず、悠久山地域の暮らし現状調査実施（栖吉コミュニティセンター主催のお茶の間に参加して高齢者のくらしの実態把握、栖吉地区高齢者を対象に買い物動向アンケート実施・高齢者と一緒に買い物実施、地域マップ作成のための地域ヒアリング等）、地域住民・学生共同の栖吉・東山地区魅力再発見のバスツアー、住民・学生共同の東山・悠久山地区マップづくりなど一連の活動を行った。
- ・その上で、東山・悠久山マップの完成報告を兼ねて、第2回悠久山・東山フォーラム（3月、60名参加）を開催し、マップの活用と地域の魅力アップの方向を議論した。

＊なお、マップは、「栖吉おもひでMAP」(5,000部作成)、「悠久山おもひでMAP」(10,000部作成)、「東山自然体験マップ」(長岡造形大生がデザイン、10,000部作成)の3種類作成し、地域の全世帯に配布した。

- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、当初の目標である栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくりを完遂することができた。地図作りに積極的に参加していただいた住民の方々には、「住んでいても気づかなかった」という言葉が何度も聞かれ、発見があったと推測する。こうして制作されたマップが地域だけでなく全市的に配布され、当該地域の認知度

が高まり、来場者が増加すればさらに喜ばしい。

第2に、地域住民と大学生とが協働して事業を行うことで、長岡大学を身近に感じてもらうきっかけになった。また昨年度から2回にわたるフォーラムは、長岡大学に足を踏み入れる機会にもなり、実際にまちの駅として利用する住民も出てきた。地域に根差した大学のイメージを作り上げる一歩が踏み出された。

第3に、こうした活動を通じて、活動を担う学生ボランティア組織づくりにつながってほしい。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・ 栖吉地区の空き家調査を行って「高齢者の買い物支援の地域交流拠点」として活用の可能性を導き出した。また交流会（お茶の間：コミュニティセンター主催）への参加などを通して信頼関係を築いた。
- ・ 栖吉地区子ども支援として栖吉児童館を中心とした子育て支援の必要性を学修し、次年度への課題を発見できた。
- ・ 栖吉地区の住民と学生の交流会（七夕交流会、クリスマス交流会、健康麻雀交流会）や山通地区内の福祉施設利用者（ボランティア交流会、福祉施設利用者交流会）と学生の交流を開催した。
- ・ 平成 26 年度に作成したマップを活用した栖吉地区内の散策を開催した。空き家調査においてもマップを活用した。
- ・ 平成 27 年 10 月 24 日の長岡大学・悠久祭のイベントとして、「長岡市東部地域の活性化に向けて」をテーマにした東部地域活性化シンポジウムを開催した。当日は、約 50 名の方の参加をえて、活発な討論がかわされた。
- ・ 第3回悠久山・東山地区フォーラムを前年度に引き続き、3月5日（土）地域交流ホールにて、開催した。当日は地域住民の方々を中心に、約 50 名の方の参加を得て、活性化の方向について、活発な議論がたたかわされた。

【評価】

- ・ 地域交流会などを通じて、長岡大学と地域（主に地元である栖吉地区）が協働してできるものを探った。大学側が提供できる「情報」を伝えるだけのものについては参加率も高い実績が残ったが、自ら参加するものについては、参加数が限られている。
- ・ 年間通して、地域－大学（教育）の交流・連携のあり方を探ってきた。個々の催物はそれなりに成果をあげたといえる。その先の交流・連携のテーマ、方法をよく検討して、地域－大学（教育）が Win-Win の関係になるように、方向性を具体化する必要がある。次年度のボランティア活動や地域志向教育研究などの中身を検討して、有効な方策を見つけ出す必要がある。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・ 地域活性化の推進・・・第3回悠久山・東山地区フォーラムの成果を踏まえて、さらなる地

域交流・活性化事業の実施（文化・情報等交流、長岡大学教員による地元市民講座、地域ツアー等）、地域間ネットワーク形成、第4回フォーラム開催、本学施設活用事業（体力づくり等）等を実施し、多様な地域交流・活性化をめざす。

【目標】

- ・悠久山・東山地区マップを活用した地域交流・活性化事業を住民と学生がともに作り上げることで、隣接の山通地区にも地域活性化の活動を拡大する。
- ・具体的には、山通地区の高齢者実態調査（学生、住民共同）、子ども支援（栖吉・山通児童館中心）、地域交流会（栖吉・山通地区の住民と学生の交流会）、マップ活用イベントなどを地域住民、学生の協働で行う。
- ・第4回悠久山・東山地区フォーラムを開催する（3月、学生20名、子ども20名、一般参加者50名程度目標）。

（7）平成28年度計画

大学と地域が連携することで問題発見と実践を行い、地域の交流の活性化を図る。具体的には大学が果たす役割は、調査研究分野、その分析結果を大学と地域で検討し、地域は検討結果を実践に移し地域活性化の効果を実証する。

a 山通地区の高齢者実態調査

商店がない山通地区の一人暮らし高齢者の実態調査を民生委員の協力を得て実施する。

→実態把握・・・学生と地域住民による一人暮らし高齢者実態調査（7月～8月）

b 栖吉・山通地区子ども支援

栖吉及び山通児童館を中心としたボランティア活動を行い、学習支援や運動指導などに取り組む。（7月～3月）フットサルサークルなど

c 地域交流会

栖吉・山通地区の住民と学生の交流会や山通地区内の福祉施設利用者と学生の交流を開催する。（健康マージャン・はつらつ広場への参加）

d マップ活用イベント

平成26年度に作成したマップを活用した悠久山・東山ウォーキング（栖吉地区・山通地区の協賛）を開催する。（10月2日ポニーカーニバル開催時）

e ボランティア連携フォーラムの開催（10月悠久祭）

f 子育てシンポジウム

長岡市、ファミリーサポートセンター、子育ての駅、栖吉地区、山通地区で行われている子育て支援活動を推進するためにシンポジウムを開催する。（10月悠久祭）

子どもたちが遊べるプレイルーム「プラレールで遊ぼう」を開催するとともに、親へのアンケートを実施する。（米山ゼミ）

g 悠久山・東山地区フォーラム

地域住民と学生の協働による地域交流の取り組み発表、マップ活用のイベント効果、一人暮らし高齢者実態調査を行い、地域住民を中心に広く市民に向けて発信するとともに隣接の地域の活性化を促進する。→フォーラム開催（3月）

(8) 平成 28 年度の展開

- a 山通地区の高齢者実態調査・・・5月20日、山通福祉会会長及び山通地区コミュニティセンター主事に、米山准教授より、高齢者実態調査の趣旨説明を行った。民生委員や地域の福祉委員が中心となって高齢者実態を把握しており、新たな調査は必要ないとのことである。実態把握から一人暮らし高齢者への買い物支援サービスを新たに創設した。
- b 栖吉・山通地区子ども支援・・・8月～9月の間にボランティア体験を行った学生20名（米山准教授の呼びかけに応えた）が、10月以降も児童館の行事（クリスマス会、雪合戦大会など）に自主的に参加して、子ども達の成長に貢献できた。
- c 地域交流会
- ・健康マージャン・・・本学麻雀部学生（14名）が中心になり、7月2日は栖吉コミュニティセンター、10月29、30日は本学悠久祭で健康マージャンを実施した。多くの地域住民が来場し、交流を行った。
 - ・健康と生きがい・・・長寿健康教室「だんだん」（まちだ園：山通地区）が9回実施され、サポート役としてほぼ毎回学生が数名参加した。参加学生は合計約20名だった。
 - ・本学写真部学生（6名）が栖吉コミュニティセンターや山通コミュニティセンターの行事に参加して、奉納相撲大会、町内秋祭り、自転車ロードレースなどの地域の活動写真の撮影を行った。写真は、悠久祭や悠久山・東山フォーラムで展示した。
- d マップ活用イベント・・・5月21日に米山准教授が山通地区ウォーキングに参加し、本学作成の栖吉・悠久山マップの活用などを紹介した。参加者は地域住民30名だった。6月4日の栖吉地区ウォーキングでも、本学作成のマップを活用していただいた。



健康マージャン：悠久祭



山通ウォーキング

- e 悠久祭の一環として、ボランティア・フォーラムを開催（図表6-1-1参照）
- ボランティア体験学生（43名）の代表者発表を受けて、ボランティア受入先の方、会場の参加者から意見をいただき、活発な議論が展開された。最後に長岡市社会福祉協議会、市民協働ネットワークの方から講評をいただいた。（講評者敬称略）参加者は約20名であった。

名 称：ボランティア・フォーラム「ボランティア活動で自分発見！」

日 時：平成28年10月29日（土）13：00～15：00

会 場：長岡大学217教室

講 評：長岡市社会福祉協議会栃尾支所ボランティアコーディネーター 阿部 奈津実
NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 高橋 秀一

f 悠久祭の一環として、子育てシンポジウムを開催（図表6-12-1参照）

・子育て中の父親・母親、子育てコンシェルジュによるパネルディスカッションが行われた。当日は子育てをされている方や地域の方30名の参加があった。途中子供が騒ぐなどのハプニングはあったが、滞りなく終了することができた。同日開催の「プラレールで遊ぼう」（米山ゼミ主催）は大変好評で来場者数は約250名、アンケートは80名に対し実施。子供たちと学生が協力し楽しく遊んでいる姿が印象に残った。

名 称：子育てシンポジウム「子育ては親育ち、人育ち！」

日 時：平成28年10月30日（日）13：00～15：00

会 場：長岡大学217教室

話題提供：「子育ては楽しい」講師：本学准教授 米山 宗久

パネルディスカッション：「子育ては、親育ち！子育て！」

パネリスト（敬称略）統括子育てコンシェルジュ

金山 由美子

ファミリーサポートセンター・アドバイザー

遠藤 久子

子育て中のお父さん、お母さん、長岡大学学生



ボランティアフォーラム



子育てシンポジウム



プラレール



g 地域との連携によるシンポジウム・・・もみじ園に於いて、越路神谷地区、越路観光協会をはじめとする、越路地域との連携による「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」を開催した。これは、本学高橋治道ゼミナールが取り組んでいる「地域の文化と伝統をつなぐ」の活動がきっかけで、地域と本学との連携で開催することになったものである。

当日は約50名の参加を得て活発な討論が繰り広げられ、参加者からも熱心な意見や要望などが出された。（図表6-12-2参照）

名 称：「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～」

日 時：平成28年11月6日（日）13：00～16：00

会 場：もみじ園（越路町朝日）

講 演：「高橋九郎の足跡と活動」 講師 長岡大学教授 松本 和明

パネルディスカッション：「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」

パネリスト（敬称略）

越路神谷区長

白井 湛

長岡市役所越路支所産業建設課長

新保 浩一

越路もみじの会会長

廣川 篤

ながおか生活情報交流ねっと理事長

桑原 眞一

長岡大学教授

松本 和明

長岡大学高橋ゼミナール学生

今井 練

コーディネーター 長岡大学教授

高橋 治道



講演「高橋九郎の足跡と活動」



パネルディスカッション



もみじ園

h 第4回悠久山・東山フォーラム・・・「お雛さまとお茶会」をテーマに、2月25日（土）13：00～16：00 本学で開催した。元長岡藩牧野家17代当主牧野忠昌様ご一家をお迎えし、本学教授 小川幸代による講演「内裏様はどっち？」に引き続き、雛茶会を開催した。本学写真部による地域の写真展示、和室の雛飾りなども楽しんでいただいた。参加者は約60名で、同日開催した「プラレール」には約100名の親子が参加した。（図表6-12-3参照）



講演会
「内裏様はどっち？」



雛茶会



和室のお雛さま



写真展示

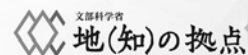
（9）まとめ—成果と課題—

- ・山通地区の高齢者実態調査は、地域の民生委員や福祉委員が個別に高齢者把握（個人情報）を行い、福祉サービスに結び付け、さらに自主的にボランティア活動につながっていった。
- ・栖吉・山通地区子ども支援は、各児童館のボランティア体験から継続して子ども支援を行っている学生が約20名いる。
- ・地域交流は、本学麻雀部14名による健康マーじゃんを通じて栖吉地区の高齢者とも交流を行った。栖吉コミュニティセンターで1回、大学で2回実施した。参加者からは継続した開催要望があった。新たに本学写真部6名が、地域の交流活動の写真撮影に参加した。
- ・マップ活用イベントは、コミュニティセンターとコラボした方法で開催した。ウォーキングの開催日の把握をする必要があった。
- ・悠久祭でのボランティア・フォーラムは、ボランティア受入先の方から久しぶりの再開を喜ぶ声が聞こえた。また、ボランティア活動中の学生の思いを知ることが出来る場として大変有意義であった。改善しつつ、このような機会を継続して続けて行きたい。
- ・子育てシンポジウムは、参加人数が少なく集客も問題があった。同時開催した「プラレールで遊ぼう」での集客は予想を上回っていたが、シンポジウムへの誘導ができなかった。
- ・「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」は地元地域の支援もあり、満員の会場は熱気に包まれた。今後も地域と連携した取り組みを継続したいと考えている。
- ・第4回悠久山・東山地区フォーラムは、日本の伝統文化を受け継ぐ、「お雛さまとお茶会」を開催した。同時開催した「プラレールで遊ぼう」ともども、大盛況であった。長岡開府400

年に向け、長岡市等と連携したフォーラムなども考えたい。

- 平成 28 年度の活動から、実態調査等も重要ではあるが、より地域の住民の方々のニーズと関心が高い催し＝健康マーじゃん、子育て・プラレール、雑茶会などに重点を置きつつ、地学連携型の地域活性化の新しい方向を探ることが今後のポイントとなる、と思われる。調査やシンポジウムは其中で位置づける必要があろう。

図表6-1 2-1 悠久祭：子育てシンポジウム案内



長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

ボランティア・フォーラム
ボランティア活動で
自分発見!

日時 **10月29日(土)** 13:00~15:00

会場 **長岡大学 217教室** **お申し込み不要 入退自由**



誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域を支えるボランティアやNPO等がどんな活動ができるかを理解する必要があります。悠久祭と同時開催するボランティアフォーラムで、学生が体験したこと、感じたことを通じて、地域のあり方を一緒に考えてみませんか。お子さんの遊び場を用意してあります。

※このフォーラムは、長岡大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として行っております。

科目「ボランティア体験」(担当:米山)を履修した学生の代表が、高齢者関係、子ども関係、環境関係、生活支援関係などの分野別に、体験の成果を発表します。

また、「自信を持ったこと」「悩んだこと」「発見したこと」などを全員が発表し、コメンテーターより講評をいただきます。

講評

長岡市社会福祉協議会栃尾支所
ボランティアコーディネーター **阿部 奈津実 氏**

NPO法人市民協働ネットワーク長岡
事務局長 **高橋 秀一 氏**

ボランティアに興味のある方もない方も、お気軽にお立ち寄りください。

子育てシンポジウム
子育ては、親育ち、
人育ち!

日時 **10月30日(日)** 13:00~15:00

会場 **長岡大学 217教室** **お申し込み不要 入退自由**



悠久祭と同時開催するフォーラムとシンポジウムのご案内です。お子さんの遊び場を用意してあります。ぜひ、ご家族連れでおいでください。

※このフォーラムは、長岡大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として行っております。

親が育ち、人が育つための子育てを、一緒に考えませんか。

話題提供

「子育ては楽しい」 長岡大学准教授 **米山 宗久**

パネルディスカッション

「子育ては、親育ち、人育ち!」

〈パネリスト〉 統括子育てコンシェルジュ **金山 由美子 氏**
ファミリー・サポート・センターアドバイザー **遠藤 久子 氏**
子育て中のお父さん、お母さん、長岡大学学生

子育て中の方、孫育て中の方、これからの方、そうじゃない方、皆さんご参加ください。

観あめ
プレゼント!!

米山ゼミ生による
プラレールで遊ぼう

【日時】10月29日(土)・30日(日) 10:00~16:00(両日)
【会場】長岡大学 1号館3階 多目的室

長岡大学祭 第15回
悠久祭 10/29(土)・30(日)

ETERNAL 悠久に続く...

●模擬店(カレー・クレープ・ベトナム料理、モンゴル料理、焼きそば、チャーハン、こんにゃく、お好み焼き、焼き芋、お茶会、ドリンクなどたくさんのお店が出ます。)
●学生による楽しいイベント企画
●ハロウィン学内スタンブラリー ●アーティストライブ(30日)

皆様のお越しをお待ちしています

主催：長岡大学地域連携研究センター

問合せ先：長岡大学地域連携研究センター(担当：小田原、山田)

〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL.0258-39-1600(代) FAX.0258-39-9566

平成28年度 長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウム

～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～

平成28年
とき **11月6日(日)** 13:00～16:00

場所 登録有形文化財 **もみじ園** (長岡市朝日600番地)

定員 **先着50名 入場無料**

近年多くの観光客が訪れる“もみじ園”をひらいた高橋九郎翁の生き方は、地方の時代と言われる現代に生きる私たちに何かを語りかけてくれるのではないのでしょうか。“もみじ園”は、国の登録有形文化財に指定されました。

なお、このシンポジウムは、長岡大学「地(知)の拠点大学地方創生推進事業(COC+)」として、地域の方々のご協力で開催するものです。

第1部/講演 13:00～14:00

「高橋九郎の足跡と活動」 講師：長岡大学教授 松本 和明

第2部/パネルディスカッション 14:30～16:00

「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」

(パネリスト)	越路神谷区長	白井 湛 氏
	長岡市役所越路支所産業建設課課長	新保 浩一 氏
	越路もみじの会会長	廣川 篤 氏
	ながおか生活情報交流ねっと理事長	桑原 眞二 氏
	長岡大学教授	松本 和明
	長岡大学学生	高橋ゼミナール学生
(コーディネーター)	長岡大学教授	高橋 治道

〈お申込〉

電話・FAXでお申込下さい。FAXでのお申込は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。

TEL: 0258-39-1600(代)
FAX: 0258-39-9566

長岡大学地域連携研究センター
担当：小田原、山田

〒940-0828 長岡市御山町80-8
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

■主催/長岡大学地域連携研究センター(企画・運営/長岡大学高橋治道ゼミナール) ■共催/越路観光協会

■後援/長岡市、越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、(株)北越銀行、JA越後さんとう

図表 6-1 2-3 第4回悠久山・東山フォーラム案内



学校法人 中越学園
長岡大学

文部科学省採択
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



文部科学省
地(知)の拠点



「お雛さまとお茶会」

第4回悠久山・東山フォーラム

— 日本の伝統文化を受け継ぐ —

長岡大学では、平成25年度から悠久山・東山フォーラムを開催しております。今年度は、地域の皆様と一緒にできることとして、「お雛さまとお茶会」を楽しむフォーラムを企画いたしました。

普段着でもお着物でも、お気軽にご参加ください。

なお、このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として行うものです。

日時 平成29年 **2月25日** **土**
13:00～16:00

会場 **長岡大学** **参加費 無料**

【講演】 13:00～14:00 217教室
「内裏様はどっち？」 長岡大学教授 小川 幸代

【雛茶会】 14:00～16:00 3階学生ホール
長岡大学茶道部 (茶席券300円、親子券500円)

※定員 **100名(先着順)** ※お申し込み方法は下記のとおり
◆長岡大学写真部による写真展示も行います。13:00～16:00(無料)あ

主催/長岡大学地域連携研究センター
共催/長岡市

<お申込方法・お問合せ先> 電話、mail、FAXでお申込下さい。
FAXの場合はこのチラシの下欄に記入し、下記FAX番号に送信してください。
〒940-0827 長岡市御山町80-8 長岡大学地域連携研究センター 担当:山田、小田原
TEL:0258-39-1600代 e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

<申込締切> 2月22日(水)です。当日参加も歓迎です。

FAX:0258-39-9566 参加されるものに○をお付けください。

代表者氏名		参加申込	1.講演()人 2.雛茶会()人
住所・連絡先	〒		
電話番号	FAX		

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

裏面もご覧下さい。

第4回 悠久山・東山フォーラム

プラレールで、

ママ友、パパ友

を作ろう!

平成28年度長岡大学悠久祭では、2日間とも大盛況でした。★
第4回悠久山・東山フォーラムでは、子供たちはもちろん、ママや
パパたちも楽しめるプラレール空間を企画いたしました。
奮ってご参加ください。
なお、このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学による地
方創生推進事業(COC+)」として行うものです。



日時 平成29年 2月25日(土)
13:00～16:00

会場 長岡大学 3階多目的室
申し込み不要 無料

長岡大学写真部による
写真展示も行います。
13:00～16:00(無料)

主催/長岡大学地域連携研究センター
共催/長岡市

<お申込方法・お問合せ先>
〒940-0827 長岡市御山町80-8
長岡大学地域連携研究センター 担当:小田原、山田
TEL:0258-39-1600代



写真:平成28年度 悠久祭にて

裏面もご覧下さい。

13 市民向け公開講座・セミナーの開催－社会貢献②－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の市民向け公開講座（情報、語学、文化等）を刷新して開講する。市民ニーズと本学教員のマッチングをはかり、地域づくり、ボランティア関係講座も含めて充実させる。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→市民ニーズと本学教員のテーマのマッチングを図り、開講方針を策定し、開講する（5テーマ、5教員程度）。
- ・平成 29 年度→テーマは 20 テーマに倍増し、毎年定番講座（5テーマ程度）と年度毎の特別講座（5テーマ）を組み合わせて、開講する。
- ・会場は、市民が集まる「まちなかキャンパス長岡」を主とし、担当教員数は 20 名程度。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（講師・中村大輔）の 1 講座開講にとどまった。目標の 5 講座は時期的に後期のみであったこともあり開講できなかった。次年度は年間を通して開講可能なので、5 講座をめざす。
- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通り開講することができた。次年度も継続する。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通りに 7 名の本学教員が講師として参加し、開講することができた。
- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（日商簿記 3 級対応）・「No.1 の国、アメリカが教えてくれるもの」・「映画で見る中国現代史」・「地域交通と中越地方の 100 年のあゆみ・越後交通を中心に」・「メンタルヘルスマネジメント」（メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種対応）の 5 講座を当初の計画通りに開講することができた。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・まず、まちなかキャンパスの市民講座はいずれも高い評価を受けることができた。市民の学習ニーズに応えるとともに、長岡市中心市街地の活性化にも寄与していると評価できる。

第 2 に、本学独自の市民公開講座は、当初の目標通り 5 講座を開講することができ、総受講者数も 87 名にのぼり、高く評価できる。

第 3 に、受講者の講座に対する評価も非常に高く（大部分が＜満足＞）、募集定員（10 名）を上回った講座も 3 講座にのぼり、市民ニーズに合った講座が重要であることを示した。

第 4 に、講座の広報期間を長くとれた講座は相対的に応募者が多かったことから、広報の充実が重要であることがわかった。次年度の教訓としたい。

(5) 平成 27 年度実績と評価

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、本学の松本和明、山川智子、西俣先子の 3 名の教員が講師として参加し、開講することができた。（開講予定であったが、公募者数定員未満で休止になった講座あり。）

- ・本学独自の市民公開講座は、「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」・「記紀神話を読む【前編】」・「初級簿記講座」（日商簿記3級対応）・「記紀神話を読む【後編】」・「渋沢栄一と長岡地域」・「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種ラインケアコース対策講座」・「セカンドライフプランニング講座」の7講座を当初の計画通りに開講することができた。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・第1に、まちなかキャンパスの講座について、本学教員の講座は集客力が非常に優れており、特に松本は延べ580人（うち講演会が250人）、山川は延べ90人の受講者を集めた。いずれも、市民の関心の高い（ニーズがあると思われる）テーマが高く評価されたものと思われる。今後の大きな教訓である。

第2に、本学独自の市民公開講座は7講座開講し、各講座とも定員をほぼ上回る受講者を確保でき、総受講者数も144名にのぼり、高く評価できる。上記まちなかキャンパスの講座と同様に、市民の関心の高いテーマを設定できたためと思われる。

第3に、本学独自の市民講座において受講者数を増やした要因は、市政だよりや独自の募集チラシ、ホームページ等を活用した広報を積極的に行った成果であるといえる。今後は、市政だよりや独自の募集チラシ、ホームページに加えて、年間講座計画リーフレットの発行など広報のさらなる充実を図る必要性が感じられた。

（6）平成28年度方針・目標・予算

【方針】

- ・市民公開講座の開講・・・平成27年度に引き続き、計画的に年間講座を開講し（年間講座計画公表）、本学教員の地域への知的還元を行う。情報、会計、日本文化、企業史、生活、メンタルヘルス等の7講座開講。次年度計画も作成する。

【目標】

- ・まちなかキャンパスの講座については、これまでと同様に本学教員も講師として積極的に参加し、貢献する。
- ・本学独自の市民公開講座については、情報・会計・日本文化・簿記などの予定している7講座すべての開講と受講者数の増加、受講者層の拡大などを目指す。
- ・過去の実績を踏まえ、次年度の本学独自の市民公開講座の年間計画を作成する。

（7）平成28年度計画

a まちなかキャンパスにおける市民公開講座

- ・松本和明教授と卒業生による「長岡の老舗本屋です」、山川智子教授による「天気が変われば景気も変わる？」、権ゼミによる市民プロデュース講座「十分杯で長岡を盛り上げよう！」が予定されている。

b 本学独自の長岡大学市民公開講座

本学独自の市民公開講座は、次のスケジュールで進める。

- * 4月 平成28年度公開講座日程の決定
- * 5月～10月 公開講座の広報
- * 6月～3月 公開講座の実施
- * 7月～3月 平成29年度公開講座年間計画立案・決定、案内チラシ作成準備

図表6-13-1 平成28年度市民公開講座計画一覧

講師	タイトル	場所	日程	回数・曜日・受講料
高橋治道 /吉川宏之	高齢者のためのスマ ホ・タブレット入門	まちなか キャンパス	2016/6/6～7/4	【全5回】月曜日 5,000円
小川幸代	記紀神話を読む 前編	長岡大学	2016/6/23～7/21	【全4回】木曜日 4,000円 テキスト代2,376円
山川智子	メンタルヘルスマネジ メント検定Ⅲ種・Ⅱ種 総合ストレスチェック	長岡大学	2016/9/9～10/7	【全5回】金曜日 5,000円
中村大輔	初級簿記講座	長岡大学	2016/9/20～11/17	【全15回】火・木曜日 15,000円 テキスト問題集1,890円
児嶋俊郎	近代東アジアの日本	長岡大学	2016/10/19～11/23	【全6回】水曜日 6,000円
松本和明	外山修造の足跡と活動	栃尾文化会館	2016/11/1～11/29	【全5回】火曜日 5,000円
小川幸代	記紀神話を読む 後編	長岡大学	2016/11/10～11/24	【全3回】木曜日 3,000円 テキスト代2,376円

(8) 平成28年度の展開

a まちなかキャンパス長岡における公開講座

- ・当初の目標通り、本学の松本和明（テーマ：「長岡の老舗本屋です！」卒業生の覚張良太氏と共に、日時：2016年10月11日19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者：17名）、山川智子（テーマ：「天気が変われば景気も変わる」気象予報士の高野哲夫氏と共に、日時：2017年03月09日19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者予定：17名）の2名の教員がまちなかカフェ及び支所での出張カフェという形で積極的に参加し、大いに貢献をした。特にこの年度の講座内容は、単独ではなく他のゲストの持ち味を引き出しつつ展開するファシリテーターとしての力量を要求される難易度の高いものばかりだった。
- ・出張カフェとしては、当初の予定に盛り込まれていなかったが、松本（テーマ：「長岡鉄道について」、日時：2016年06月28日、於・希望ヶ丘分校、参加者約50名）、同（テーマ：「コンビニおにぎりの秘密」、日時：2017年02月19日、於・栃尾分校、参加者約50名）、山川（テーマ：「連続ドラマの楽しみかた」、日時：2017年02月19日、於・山古志スキー場、参加者約10名）と3件を、まちなかキャンパス長岡や各分校の要請を受けて実施した。受講人数は流動的だが、アンケートからはおおむね好評を得ているようだ。
- ・市民プロデュース講座として、本学の権五景ゼミナールの「十分杯で長岡を盛り上げよう！」が3回（2016年05月11日・18日・25日、各回19:00～20:30、於・まちなかキャンパス長岡、参加者のべ人数：56名）に渡って、講座を開催した。

b 長岡大学独自の市民公開講座

当初の予定に従って以下の通りに開講した。案内は、図表6-13-2~9を参照されたい。

- ・「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」
講師：高橋治道教授（奇数回を主に担当） / 吉川宏之准教授（偶数回を主に担当）
開講日程：平成28年6月6日～平成28年7月4日（月曜日計5回、18：30～20：00）
会場：1回目・まちなかキャンパス長岡503会議室、2回目以降・同502会議室
受講料：5,000円、受講者：18名 *第3回目以降学生アシスタント3名を配置
- ・「記紀神話を読む 前編」
講師：小川幸代教授
開講日程：平成28年6月2、30日、7月14、21日（木曜日計4回、19：00～20：30）
会場：長岡大学、受講料：4,000円、受講者：29名 *テキスト代は別途徴収
- ・「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種・Ⅱ種総合ストレスチェック」
講師：山川智子教授
開催日程：平成28年9月9日～10月7日（金曜日計5回、19：00～20：30）
会場：長岡大学、受講料：5,000円、受講者：18名
- ・「初級簿記講座（日商簿記3級程度）」
講師：中村大輔准教授
開講日程：平成28年9月20日～11月17日（各火・木曜日計15回、19：00～21：00）
会場：長岡大学、受講料：15,000円、受講者：14名 *テキスト代別途徴収
- ・「近代東アジアの日本ー批判的検討」
講師：児嶋俊郎教授
開催日程：平成28年10月19日～11月23日（水曜日計6回、19：00～20：30）
会場：長岡大学、受講料：6,000円、受講者：16名
- ・「記紀神話を読む・後編」
講師：小川幸代教授
開講日程：平成28年11月10日～11月24日（木曜日計3回、19：00～20：30）
会場：長岡大学、受講料：3,000円、受講者：21名 *テキストは前編と同じ
- ・「外山脩三の足跡と活動」
講師：松本和明教授
開催日程：平成27年11月1日～11月29日（火曜日計5回、19：00～20：30）
会場：栃尾文化センター、受講料：5,000円、受講者：17名

(9) まとめ—成果と課題—

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、2名の本学教職員が講師として参画して開講することができた。今年度は市民プロデュース講座として、「十分杯で長岡を盛り上げよう！」講座は企画運営の段階から提案した新しい試みであった。権准教授の地域活性化ゼミ活動が発展を遂げて、市民からの学習ニーズに十分応え得る内容になった点は注目される。今後ともこうした地域における知の拠点としての発信が追及されるべきであろう。
- ・今年度はまちなかキャンパス長岡の講座でも本学独自の市民公開講座においても、定員超

過の受講者の参加を得ることができた。これは市民の関心が高いテーマを設定できた結果と見ることができる。また、広報の方法や開講時期の設定も功を奏したと考えられる。

- 広報の方法は、大きな進展があった。平成 28 年度に実施する講座概要と日程を紹介する年間計画リーフレットを 6 月上旬に発行し、長岡市内の各所に配布した。従来通り、講座ごとの募集案内も作成したが、リーフレットを見て講座の申し込みをした受講者も多く、早めに年間スケジュールや講座案内の刊行が大きな効果をあげたと言える。広報期間を長く取れた講座は相対的に応募者が多く、広報の充実が講座を成功させる重要な要因となった。本学からのお知らせやホームページ、情報便や新聞など、その他の方法も関連させて、一層の充実を図る必要がある。
- 本学独自の市民公開講座の総受講者数は前年より若干減ではあるが、前年同様 100 名を超えた。今後も、講座内容の充実等を図り、市民の学習意欲をかき立てる講座を実施したい。

平成 28 年度 長岡大学市民公開講座



高齢者のための
スマホ・タブレット入門



記紀神話を読む 前編・後編



メンタルヘルス・マネジメント



初級簿記講座
(日商簿記 3 級程度)



近代東アジアの日本



外山脩造の足跡と活動

図表6-13-2 平成28年度市民公開講座全講座案内

講座担当教員の紹介

 高橋 治道 教授 高橋 治道	 吉川 宏之 准教授 吉川 宏之
 小川 幸代 教授 小川 幸代	 山川 智子 教授 山川 智子
 中村 大輔 准教授 中村 大輔	 児嶋 俊郎 教授 児嶋 俊郎
 松本 和明 教授 松本 和明	



お申込み・お問合せ

申込書に必要事項をご記入の上、各講座初回日の1週間前までにTEL、FAX、E-mail、ホームページにて下記までお申込ください。
※お申込は原則として先着順となりますのでお早目にお申込ください。

宛先:長岡大学 地域連携研究センター
TEL:0258-39-1600内 FAX:0258-39-9566
E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp
長岡大学 URL:http://www.nagaokauniv.ac.jp
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
担当:小田原、山田

お申込み・受講に当たってのお願い

- ＜お申込み時の注意＞
 - ・受講の案内を送付する都合上、お申込みは、お一人様ごとにお願います。
- ＜講座当日のお願い＞
 - ・受講料は、初回講座時に現金にてお支払いいただきます。一旦お支払いいただいた受講料は、原則として返還いたしかねます。
 - ・開催場所がまちなかキャンパス長岡の場合、駐車場は有料となります。駐車料金は各自でご負担いただきます。



地(知)の拠点

長岡大学は、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(CO-C+)」(平成28~31年度)としての「長岡地域<創造人材>養成プログラム」を展開しています。

平成28年度
長岡大学
市民公開講座
オースクール
o-school
o-schoolは、長岡大学市民公開講座の略称です。

長岡大学の建学の精神
幅広い職業人としての人づくりと実学実務教育の推進
地域社会に貢献し得る人材の育成

平成28年6月
長岡大学

高齢者のためのスマホ・タブレット入門
教授:高橋 治道、准教授:吉川 宏之

スマートフォンやタブレットPCを安全に、楽しく利用するための基礎知識を学びます。

◆時間 18:30~20:00 ◆会場 まちなかキャンパス長岡
◆受講料 5,000円
※スマートフォン、タブレットPCをご用意ください。

開催日(予定)	テーマ
6月6日	スマホ&タブレットって何?
6月13日	電話とメール
6月20日	「調べる」を楽しむ~ネット検索とナビ検索~
6月27日	観る・聞く・読む・楽しむ
7月4日	つながりを楽しむ

メンタルヘルス・マネジメント
検定Ⅱ種・Ⅲ種総合ストレスチェック
教授:山川 智子

メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種ラインケアコースとⅢ種セルフケアコースの内容に沿って、メンタルヘルスをストレス対策の観点から学びます。

◆時間 19:00~20:30 ◆会場 長岡大学
◆受講料 5,000円

開催日(予定)	テーマ
9月9日	メンタルヘルスケアの意義とセルフケアの重要性
9月16日	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識
9月23日	管理監督者の役割と職場環境等の改善改善の方法
9月30日	個々の労働者への配慮と労働者からの相談の方法
10月7日	社外労働者との連携と心の健康問題をもちつづける支援

近代東アジアの日本-批判的検討
教授:児嶋 俊郎

近代における日中関係を「日・満州」に焦点を当てて考えます。今日の日中関係の歴史的背景理解の助けになればと思っています。

◆時間 19:00~20:30 ◆会場 長岡大学
◆受講料 6,000円

開催日(予定)	テーマ
10月19日	滿鉄 - 中国における帝国主義権益の柱
10月26日	満州事変 - 中国統一化への軍事対抗
11月2日	関東軍と満州国 - 軍事支配の日常化
11月9日	満州国下の労働 - 支配される人々の労働と生活について
11月16日	日本共産党満州地方支部 - 日本人の反帝国主義的闘い
11月23日	近現代の日本はどのような国だったのか

記紀神話を読む前編・後編
教授:小川 幸代

古事記と日本書紀の神話を比較しながら読みます。前編は天孫に大国主神が地上世界を譲る話から、後編は地上の佐久夜良光が生んだ天孫の子供たちの話からです。

◆時間 19:00~20:30 ◆会場 長岡大学
◆受講料 前編...4,000円 後編...3,000円
別途テキスト代2,376円 ※前後編を揃えて同じテキストを使用。

開催日(予定)	前編	後編
6月23日	天孫らす大神神と大国主の神 ①天孫日子	
6月30日	天孫らす大神神と大国主の神 ②國譲り	
7月14日	迦迹張の命 ①天孫日子 ②天孫日子	
7月21日	迦迹張の命 ②木の花の佐久夜良光	
11月10日	日子穂神出見の命 ①海幸と山幸	
11月17日	日子穂神出見の命 ②龍玉鹿光の命	
11月24日	龍玉鹿光不命	

初級簿記講座(日商簿記3級程度)
准教授:中村 大輔

個人商店の簿記(日商簿記3級相当)について学びます。全15回の講義で日常の取引に関する仕訳から、決算書(財務諸表)の作成までを学びます。

◆時間 19:00~21:00 ◆会場 長岡大学
◆受講料 15,000円 別途テキスト代教科書972円 問題集918円

開催日(予定)	テーマ	開催日(予定)	テーマ
9月20日	簿記の基礎	10月25日	試算表
9月27日	商品売買	10月27日	伝票
9月29日	現金預金	11月1日	決算1
10月4日	手形	11月8日	決算2
10月6日	有価証券と固定資産	11月10日	決算3
10月11日	その他の取引1	11月15日	決算4
10月18日	その他の取引2	11月17日	総まとめ
10月20日	帳簿		

外山脩造の足跡と活動
教授:松本 和明

栃尾出身の外山脩造没後100年を記念した特別講座で、外山の生い立ちと足跡をたどることで「地方創生」について考えます。

◆時間 19:00~20:30 ◆会場 栃尾文化センター
◆受講料 5,000円

開催日(予定)	テーマ
11月1日	生い立ちと幼少期・青年期
11月8日	銀行業との関わり
11月15日	ビール業:大坂麦酒の設立と展開(調:アサヒビール)
11月22日	鉄道業:碓氷電氣鉄道の設立と展開
11月29日	活動を支えた人間関係:福沢諭吉、五代友厚、流石栄一

図表6-13-3 高齢者のためのスマホ・タブレット入門



(文部科学省採択)
 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度長岡大学市民公開講座 『高齢者のためのスマホ・タブレット入門』

長岡大学地域連携研究センター

スマートフォンやタブレットPCといわれる新しい情報端末は、携帯電話で利用できた通話や電子メールだけでなく、動画や映画の鑑賞、写真撮影と加工、SNSやブログを使ったコミュニケーション等ができる便利なものです。しかし容易にインターネットを利用できる高機能な機器であるために使い方を間違えると犯罪に巻き込まれる等の危険性も高く、利用には正しい知識が必要です。

この講座では、スマートフォンやタブレットPCを安全に、楽しく利用するための基礎知識を学びます。

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：高橋治道(長岡大学 教授) / 吉川宏之(長岡大学 准教授)

★時間：18:30～20:00

★会場：まちなかキャンパス長岡 5階 502会議室

★受講料：5,000円(全5回) ※初回にお持ちください。

★その他：実際に操作しながら学びますので、スマートフォンやタブレットPCを各自でご用意ください。



★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	6月 6日(月)	スマホ&タブレットって何?
第2回	6月13日(月)	電話とメール
第3回	6月20日(月)	“調べる”を楽しむーネット検索とナビ検索ー
第4回	6月27日(月)	“観る・聴く・読む・撮る”楽しみ
第5回	7月 4日(月)	つながりを楽しむ

締め切り：平成28年5月30日

<申込み・お問合せ>

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原
 TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

氏 名		職 業	
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

平成28年度長岡大学市民公開講座 『記紀神話を読む・前編』

長岡大学地域連携研究センター

古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代の話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいますが、両書の神話には違いがあります。本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら読みます。今期は天孫に大国主の神が地上世界を譲る話から読んでいきます(初心者も歓迎)。

★募集人員:30名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師:小川 幸代(長岡大学 教授)

★時間:19:00~20:30

★会場:長岡大学 4階 第4会議室

★受講料:4,000円(全4回) ※初回にお持ちください。

★使用テキスト:中村啓信・菅野雅雄編『日本神話』おうふう出版 2,376円(税込)

※テキストを注文される方は、代金を初回にお持ちください。テキストは後編にも使用します。

なお、テキスト代はつり銭のないようお願いいたします。

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	6月23日(木)	天照らす大御神と大国主の神 ① 天若日子
第2回	6月30日(木)	天照らす大御神と大国主の神 ② 国譲り
第3回	7月14日(木)	迹迹芸の命 ① 天降り 猿女の君
第4回	7月21日(木)	迹迹芸の命 ② 木の花の佐久夜毘売

※後編開講予定日:11/10(木)、11/17(木)、11/24(木)



締め切り:平成28年6月13日

<申込み・お問合せ>

[申込方法] 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

[申込先] 長岡大学 地域連携研究センター 担当:小田原
TEL:0258-39-1600(代) E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX:0258-39-9566 長岡大学 URL:http://www.nagaokauniv.ac.jp/

氏名		職業	
住所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail		テキスト注文	する ・ しない

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

平成28年度 長岡大学 市民公開講座 メンタルヘルス・マネジメント検定 Ⅲ種・Ⅱ種総合ストレスチェック

ストレスチェック制度の導入は、仕事や職業生活に強い不安や悩み、ストレスを抱える人が増加し、心の健康管理(メンタルヘルス・マネジメント)への取り組みが一層重要になってきた現れとも言えます。働く人たちがその持てる能力を発揮し仕事や職場で生き生きと活躍するためには、自身の心の健康管理(セルフケア)だけでなく、職場全体でのメンタルヘルスの理解・浸透を軸とした、環境の改善や周囲のサポート体制(ラインケア)の整備も必要となってきます。

本講座はストレスへの対処のしかたを中心に、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種とⅡ種の内容をわかりやすく伝え、日常に役立つ実践的なスキルを習得することを目的としています。

- ★募集人員：20名(先着順)
- ★講師：山川 智子(長岡大学 教授)
- ★時間：19:00～20:30
- ★会場：長岡大学 2号館 225教室
- ★受講料：5,000円(全5回)※初回にお持ちください。
- ★シラバス



	開 講 日	テ ー マ
第1回	9月 9日(金)	メンタルヘルスケアの意義とセルフケアの重要性 (Ⅲ種の内容を中心に)
第2回	9月 16日(金)	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 (Ⅲ種の内容を中心に)
第3回	9月 23日(金)	管理監督者の役割と職場環境等の評価改善の方法 (Ⅱ種の内容を中心に)
第4回	9月 30日(金)	個々の労働者への配慮と労働者からの相談の方法 (Ⅱ種の内容を中心に)
第5回	10月 7日(金)	社内外資源との連携と心の健康問題をもつ復職者の支援 (Ⅱ種の内容を中心に)

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成28年9月6日(火)

- 〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。
- 〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
FAX：0258-33-8742 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

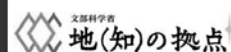
氏 名		職 業	
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6 - 1 3 - 6 初級簿記講座（日商簿記 3 級程度）



(文部科学省採択)
平成 25~27 年度「地（知）の拠点整備事業」
平成 28~31 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」



平成 28 年度長岡大学市民公開講座 『初級簿記講座(日商簿記 3 級程度)』

長岡大学地域連携研究センター

簿記は企業や商店の経営活動をお金の側面から記録するツールであり、全てのビジネスパーソンが身につけておくべきと言っても過言ではありません。本講座は個人商店の簿記（日商簿記 3 級相当）について学びます。全 15 回の講義で日常の取引に関する仕訳から、決算書（財務諸表）の作成までを学びます。簿記は積み上げ型の内容であり、一度つまずくと追いつくのは大変です。また、速習コースでもあるため、自宅での予習・復習時間が十分準備できる方向けの講座です。

★募集人員：30 名（先着順）

★講師：中村 大輔（長岡大学准教授）

★時間：19:00 ~ 21:00

★会場：長岡大学 2 号館 225 教室

★受講料：15,000 円（全 15 回）※初回にお持ちください。

★使用テキスト：滝澤ななみ『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商 3 級 商業簿記』（第 4 版）TAC 出版 972 円（税込）

滝澤ななみ『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商 3 級 商業簿記』（第 4 版）TAC 出版 918 円（税込）

※テキストを注文される方は、代金を初回にお持ちください。

★試験案内：第 145 回 日商簿記 3 級 試験 試験日：平成 29 年 2 月 26 日（日）

窓口申込：平成 28 年 12 月 13 日（火）～平成 29 年 1 月 13 日（金）

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第 1 回	9 月 20 日（火）	簿記の基礎 簿記の基礎、財務諸表、仕訳と転記について学習する。
第 2 回	9 月 27 日（火）	商品売買 商品売買に関する取引の記帳について学習する。
第 3 回	9 月 29 日（木）	現金預金 現金預金に関する取引の記帳について学習する。
第 4 回	10 月 4 日（火）	手形 手形取引に関する記帳について学習する。
第 5 回	10 月 6 日（木）	有価証券と固定資産 有価証券の購入と売却、固定資産の購入について学習する。
第 6 回	10 月 11 日（火）	その他の取引 1 未収金・未払金、貸付金・借入金、前払金・前受金などについて学習する。
第 7 回	10 月 18 日（火）	その他の取引 2 仮払金・仮受金、立替金・預り金などについて学習する。
第 8 回	10 月 20 日（木）	帳簿 仕訳帳などの主要簿と、現金出納帳などの補助簿について学習する。
第 9 回	10 月 25 日（火）	試算表 試算表の役割と作成方法を学習する。
第 10 回	10 月 27 日（木）	伝票 伝票とは何か。3 伝票制および 5 伝票制について学習する。
第 11 回	11 月 1 日（火）	決算 1 決算整理と精算表の仕組み、現金過不足の処理や消耗品の整理について学習する。
第 12 回	11 月 8 日（火）	決算 2 有価証券の評価替えや固定資産の減価償却、売上原価の算定などについて学習する。
第 13 回	11 月 10 日（木）	決算 3 8 折精算表の作成方法について学習する。
第 14 回	11 月 15 日（火）	決算 4 帳簿の締切り、財務諸表の作成について学習する。
第 15 回	11 月 17 日（木）	総まとめ 模擬問題を解きながらこれまでに学習した内容を復習する。

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成 28 年 9 月 13 日（火）

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。

FAX でのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター

TEL：0258-39-1600（代）

FAX：0258-39-9566

担当：小田原、山田

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

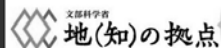
氏 名		職 業	
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 6-13-7 近代東アジアの中の日本-批判的検討



(文部科学省採択)
 平成 25~27 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度 長岡大学 市民公開講座 近代東アジアの中の日本-批判的検討

歴史認識問題、従軍慰安婦問題等が近隣諸国との間で繰り返し問題になるとともに、中国の台頭による軍事的圧力も人々の大きな関心事となっている。東南アジアの国々の中国や日本への対応も様々であり、中露の連携、中韓の関係強化、そして AIIB への EU の積極的な参加等、中国を大きな軸として世界の秩序が大きく変化しつつある。

日本はこの大国と向き合い平和的・建設的関係を築いていく以外に未来はないが、現状ではそれは容易なことではない。本講座では、近代における日中関係を旧「満州」に焦点を当てて考えてみたい。そこで日本帝国主義が引き起こした様々な活動が、日本と周辺諸国の関係を考える出発点になると考えるからである。

- ★募集人員：20名(先着順)
- ★講師：兒嶋 俊郎(長岡大学 教授)
- ★時間：19:00~20:30
- ★会場：長岡大学
- ★受講料：6,000円(全6回)※初回にお持ちください。
- ★シラバス



	開 講 日	テ ー マ
第1回	10月19日(水)	満鉄 - 中国における帝国主義権益の柱
第2回	10月26日(水)	満州事変 - 中国統一化への軍事的対抗
第3回	11月 2日(水)	関東軍と満州国 - 軍事的支配の日常化
第4回	11月 9日(水)	満州国下の労働 - 支配される人々の労働と生活について
第5回	11月16日(水)	日本共産党満州地方事務局 - 日本人の反帝国主義の戦い
第6回	11月23日(水)	近現代の日本はどのような国だったのか

<申込み・お問合せ>

締め切り：平成28年10月12日(水)

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：小田原、山田
 TEL：0258-39-1600(代) E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp
 FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

氏 名		職 業	
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

平成28年度長岡大学市民公開講座
『記紀神話を読む・後編』

長岡大学地域連携研究センター

.....
古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代の話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいますが、両書の神話には違いがあります。本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら読みます。今期は天から降った迹迹芸の命が結婚する話から読んでいきます(初心者も歓迎)。
.....

★募集人員: 30名(先着順)

★講師: 小川幸代(長岡大学 教授)

★時間: 19:00~20:30

★会場: 長岡大学 4階 第4会議室

★受講料: 3,000円(全3回)※初回にお持ちください。

★使用テキスト: 中村啓信・菅野雅雄編『日本神話』おうふう出版 2,376円(税込)

※テキストを注文される方は、代金を初回にお持ちください。

なお、テキスト代はつり銭のないようにお願いいたします。

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	11月10日(木)	日子穂穂出見の命 ① 海幸と山幸
第2回	11月17日(木)	日子穂穂出見の命 ② 豊玉毘売の命
第3回	11月24日(木)	鵜葺草葺不合命



<申込み・お問合せ>

締め切り: 平成28年11月2日(水)

【申込方法】 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

【申 込 先】 長岡大学 地域連携研究センター 担当: 小田原、山田
TEL: 0258-39-1600(代) E-mail: chicken@nagaokauniv.ac.jp
FAX: 0258-39-9566 長岡大学 URL: http://www.nagaokauniv.ac.jp/

氏 名		職 業	
住 所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail		テキスト注文	する ・ しない

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-13-9 外山脩造の足跡と活動



学校法人 中越学園
長岡大学

(文部科学省採択)
平成25~27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

文部科学省
地(知)の拠点

平成28年度 長岡大学 **市民公開講座**

外山脩造の足跡と活動



栃尾・小貫出身の企業家の外山脩造が1916年に死去してから本年度100年をむかえる。大阪のみならず日本全体の工業化・近代化に果たした役割は大きい。

本講座では、外山の生い立ちと幼少期・青年期の足跡をふりかえるとともに、主に活躍した銀行業・ビール業・鉄道業での実績や外山を支えた人間関係について立ち入って解説したい。



講師 **松本 和明**
(長岡大学教授)

- 開催日 **11/1** 曜・**8** 曜・**15** 曜・**22** 曜・**29** 曜
- 会場 **栃尾文化センター**(長岡市中央公園1-36)
- 時間 **19:00~20:30** (募集人員 **100名** (先着順))
- 受講料 **5,000円** (全5回) ※初回にお持ちください。

■後援 長岡市、長岡商工会議所、アサヒビール株式会社 新潟支社

お申込み・お問合せ

申込書に必要事項をご記入の上、**10月25日までに**
TEL、FAX、E-mail、ホームページにて下記までお申込ください。

長岡大学地域連携研究センター
TEL:0258-39-1600(代) FAX:0258-39-9566
e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp
長岡大学 <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>



氏名		所属等	
住所・連絡先	〒		
電話番号	F A X		
E-MAIL			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

14 企業人向けセミナーの開催－社会貢献③－

(1) 方針（申請時）

- ・従来の企業人向けイノベーション人材養成講座を刷新して、地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的にした「新・イノベーション人材養成講座」として企業人講座を開講する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→全体計画策定の上、4 講座を開講する。本学教員 2 名、外部講師 2 名。
- ・また、同講座の 1 つ「ものづくりマネジメント講座」を「長岡市ものづくりインストラクター養成スクール」の連携講座として開講する。
- ・平成 29 年度→テーマは 12 テーマに 3 倍増し、毎年の定番講座（4 テーマ程度）と年度毎の特別講座（4 テーマ程度）を組み合わせ、開講する。担当教員数は、本学教員 6 名程度、外部講師 6 名程度。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・前期(9月～11月)に「管理会計講座」、後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」と「商品企画講座」の計 3 講座を開講。前期に予定していた「経営革新計画講座」は応募者が 3 名に満たず、開講できなかった。また、受講者は管理会計が 3 名、ものづくりが 5 名、商品企画が 6 名で、いずれも募集定員(20 名)を大きく下回った。
- ・いずれの講座も採算がとれていないので(講師謝金カバーできず)、次年度は受講者拡大の工夫を行う必要がある。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・前期(10月～11月)に「商品企画講座」、「人材活用講座」後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」、「管理会計講座」の計 4 講座を開講。ものづくりマネジメント講座では第 1 回に鈴木信貴氏(長岡技大准教授)を迎え、「ものづくりとイノベーションマネジメント」と題する公開講座とした。
- ・受講者は商品企画講座が 4 名、人材活用講座 2 名(事前申込み 3 名)、ものづくりマネジメント(生産向上)講座 4 名、管理会計講座 5 名で、いずれも募集定員(20 名)を大きく下回り、昨年度同様、受講者数確保が今後の大きな課題となった。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・計画した全 4 講座を、次の通り開講した。
 - ★インターネット活用講座→期間：10 月 1 日～11 月 19 日（全 8 回）、講師：今井信太郎（グローバルマーケティング株式会社代表取締役／中小企業診断士）、受講者：3 名
 - ★商品企画講座→期間：10 月 7 日～11 月 25 日（全 8 回）、講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）、受講者：3 名
 - ★管理会計講座→期間：12 月 1 日～2 月 9 日（全 8 回）、講師：中村大輔（長岡大学准教授）、受講者：6 名

★経営承継(後継者)講座→期間：12月8日～2月9日(全8回)、講師：小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)、受講者：3名

★ものづくりマネジメント講座→受講申込み1名のため不開講。第1回公開講座のみ開催。約70名が参加した。

*ものづくりマネジメント公開講座「ものづくりとビジネスモデルの再構築」

日時：平成27年12月7日(月)15:00～17:00

講師：東京大学大学院経済学研究科教授 新宅純二郎

会場：ホテルニューオータニ長岡「桜の間」

【評価】

- ・上記の通り、5講座計画したが、1講座が不開講となった。その他の講座も数名の受講者にとどまった。
- ・受講者の講座の評価は高く、講義、演習とインプット、アウトプットを組み合わせた運営により、当該スキルの向上につながったものと思われる。
- ・受講生の確保が引き続き課題である。講座テーマ、実施時期、実施回数、実施時間について内容を見直す必要がある。

(6) 平成28年度方針・目標

【方針】

- ・企業人セミナーの開講・・・社会人向けの履修証明制度としてイノベーション人材養成講座を制度化し、前半(9月～11月)に2講座(管理会計と原価企画、新事業と経営戦略)、後半(12月～2月)に2講座(組織形成と人材養成、商品開発とマーケティング)を開講する。

【目標】

- ・地域企業および行政等との連携を更に強化し、開講する4コースとも最低10名の受講者を確保する。「地域に欠かせない基幹人材育成講座」としての評価の定着に努める。
- ・平成29年度に申請を予定する職業実践力育成プログラム(文部科学省)の試行期間と位置づけ、内容を見直す。

(7) 平成28年度計画

- a 管理会計と原価企画(8回)・・・中小企業に必要な管理会計、原価企画の考え方について、実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。
- b 新事業と経営戦略(8回)・・・新規事業の立案、経営戦略の考え方、新規事業計画・経営計画の作り方について、実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。
- c 商品開発とマーケティング(8回)・・・マーケティングMIX及びその中心であるProductについて、実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。
- d 組織形成と人材養成(8回)・・・経営組織の基本的な考え方、自社の組織設計、動機づけ理論などについて実務家の講義、ワークショップを組み合わせ、展開する。
- e 各講座は、職業実践力育成プログラムが示す教育方法(実務家教員や実務家による授業、双方向若しくは多方向に行われる討論、実地での体験活動、企業等と連携した授業)の内、2つ

以上を盛り込んだ内容となるよう、努める。

(8) 平成 28 年度の展開

- ・計画した全 4 講座のうち、1 項座は不開講となった。
 - ★実践！商品企画講座→期間：9 月 13 日～10 月 11 日（全 8 回）、講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）、受講者：2 名。図表 6－1 4－1 参照。
 - ★実践！事業承継講座→期間：11 月 9 日～11 月 24 日（全 3 回）、講師：栗井英大（長岡大学准教授／中小企業診断士・事業承継アドバイザー）、受講者：5 組 10 名。図表 6－1 4－2 参照。
 - ★管理会計講座→期間：12 月 1 日～2 月 2 日（全 8 回）、講師：中村大輔（長岡大学准教授）、受講者：10 名。図表 6－1 4－3 参照。
 - ★実践！中小企業の＜1 日新規事業プランづくり＞講座→＜12 月 11 日（土）の 1 日に 3 回講座、講師：今井進太郎（グローバルマーケティング代表取締役／中小企業診断士）＞で募集したが、申込 1 名のため、メンター制度を使い、今井講師による相談・指導に変更した。新事業開発への関心を高めることはできなかった。
- ・講座の広報については、「長岡市市政だより」、「ながおか情報便（長岡商工会議所）」を利用し、一定の効果はあった。
- ・また、今年度より、事業承継講座は NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE と共催し募集を NAZE にお願ひし、受講者を確保できた。今後こうした方策を検討する必要がある。



実践！商品企画講座



実践！中小企業の事業
承継プラン作成講座




管理会計講座


(9) まとめ—成果と課題—

- ・平成 28 年度のイノベーション人材養成講座は上記の通り 4 講座を計画したが、1 講座は申込者が 1 名だったため不開講となった。
- ・NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE と共催する新たな取組みを行い、昨年以上の成果を上げることが出来た。
- ・受講者の参加率は非常に高く、アンケート結果から講座が満足いくものであった事が伺える。また、スキルアップへ繋がった。
- ・これまで、1 講座＝全 8 回で計画してきたが、忙しい方も多く、回数の少ない講座を開講したが、好評であった。こうした工夫を今後も検討する必要がある。
- ・「職業実践力育成プログラム認定制度」を平成 28 年度に申請することは出来なかったが、企業が現在抱える問題を解決できる人材育成のため、次年度は申請の検討が望まれる。
- ・本年度は講座ごとに受講者数に大きな差が出た。今、企業が求めているものを正確に把握し、ニーズにあったものを提供することにより受講者数アップを目指していく。

図表6-14-1 実践！商品企画講座・募集要項



文部科学省 採択 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
文部科学省 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度I期(9月～11月)長岡大学イノベーション人材養成講座

実践！商品企画講座 募集要項

消費が成熟に向かう中、少子高齢化、価値観の多様化を背景に企業環境は、厳しさを増しています。企業戦略の本質は差別化された顧客価値の創造です。新たな商品・サービスと提供方法の開発＝イノベーションによって価値の創造が実現します。本講座では、ヒット商品・人気サービスが出にくい千三つ(1000品目の新商品で3つ当たれば良い方)の時代にあって、どのようにして顧客の支持を得られる商品・サービスを企画するか、その技法を講義、演習、実地調査を組み合わせ会得していきます。消費財企業、生産財・下請企業の内、自社ブランドで市場開拓を目指す企業が対象です。

受講対象者	会社経営者、後継者、経営幹部、商品企画担当者	講師	小松 俊樹 (長岡大学教授／経営コンサルタント)
募集人員	20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。	受講料	30,000円 (初回にご持参ください)
会場	長岡大学教室	時間	18:30～21:00 ※10月8日(土)は10:00～17:30

*裏面の〈長岡市米百俵財団 研修助成制度のご案内〉をご覧ください

	開講日	テーマ
第1回	9月13日(火)	マーケティングとは、商品企画とは
第2回	9月20日(火)	商品企画のための外部環境の整理 〈データ収集の演習〉
第3回	9月27日(火)	商品戦略、価格戦略の理解
第4回	10月 4日(火)	顧客接点を知る 〈店頭実査、レポート作成〉
第5回	10月 8日(土)	コンセプトとは
第6回	10月 8日(土)	コンセプト発想 〈グループ単位で演習〉
第7回	10月 8日(土)	ポジショニングの技法 〈グループ単位で演習〉
第8回	10月11日(火)	商品企画の評価法、成果発表 〈プレゼンテーション〉

申込方法
 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、右記のFAX番号に送信してください。

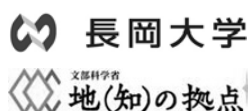
〈申込先〉
FAX:0258-39-9566
TEL:0258-39-1600 (代)
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>
 e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp
 長岡大学地域連携研究センター 担当:小田原、山田
 〒940-0828 長岡市御山町80-8

申込締切 平成28年9月9日(金)

氏 名	所属・会社等
住所・連絡先	
電話番号	F A X
E-mail	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-14-2 実践！中小企業の事業承継プラン作成講座・募集要項



(文部科学省採択)
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度長岡大学イノベーション人材養成講座 実践！中小企業の事業承継プラン作成講座～全3回～ 募集要項

主催：長岡大学地域連携研究センター
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

★講座趣旨：人口減少、事業所減少傾向のなかで、「経営者が築き上げてきた企業を次世代に引き継ぐ」事業承継は長岡地域でも、非常に重要な経営課題です。しかし、事業承継のノウハウは必ずしも知られていません。

本講座は、3回の講座を通して、事業承継のプランを作成する実践的な講座です。新潟県内の事業承継事例約100社を見た、事業承継の現場を知り尽くした講師(栗井英大)が、実際の好事例・失敗事例を交えながら、本講座を進めます。また、座学だけでなく、ワークショップ等による事業承継プランの作成を通じて、短期間で事業承継のポイントを身に付けることができると思います。また、本講座は後継者あるいは後継者候補が確定している企業の経営者・後継者向け講座です。なお、本講座は、長岡大学地域連携研究センターとNPO法人長岡産業活性化協会NAZEが共催して開講します。

- ★受講対象者：後継者あるいは後継者候補が確定している企業の経営者、後継予定者の2名
- ★募集人員：10組(20名)(先着順)
- ★講師：栗井 英大(長岡大学准教授/中小企業診断士・事業承継アドバイザー)
- ★時間：18:00～20:00 ※11/24(木)は18:00～19:30
- ★会場：NICOテクノプラザ会議室 ※11/24(木)は「まちなかキャンパス長岡」 交流ルーム
- ★受講料：10,000円(初回にお持ちください)*裏面を参照してください。
- ★内容：

講座開催日	検討テーマ	検討内容の概要	検討方法	宿題
第1回 11月9日 (水) 18:00～ 20:00	・事業承継の基礎	・事例研究－製造業－ ・事業承継の基礎－事業の承継方法、 承継準備開始時期など－	ワークショップ+ ディスカッション	・自社の事業 概要の再確認 ・財務諸表の確 認
第2回 11月17日 (木) 18:00～ 20:00	・自社の経営状況の把握 ・経営の引継ぎ	・自社の経営状況の把握－SWOT分析、 顧客・経営・財務分析等－ ・経営の引継ぎ－社長の引退と後継者育成、 利害関係者等への周知、経営計画策定等－	講義+ワーク ショップ	・家系図・株主構 成の確認 ・社長の個人資 産の把握
第3回 11月24日 (木) 18:00～ 19:30	・事業用資産の引継ぎ ・個人資産の引継ぎ	・事業用資産の引継ぎ－法人・個人財産の混 同、事業用不動産・連帯保証、自社株の評 価・移転方法など－ ・個人資産の引継ぎ－社長の個人資産の把 握、相続(「争族」)対策、遺言作成など－	講義+ワーク ショップ	

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mailまたは、長岡大学ホームページから
お申込み下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの
下欄に記入し、右記のFAX番号に送信してください。

締め切り 平成28年10月31日(月)

<お申し込み先>

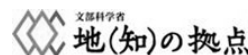
長岡大学地域連携研究センター：担当 小田原
FAX 0258-39-9566
TEL 0258-39-1600(代)
e-mail chicken@nagaokuniv.ac.jp

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、長岡大学及びNAZEの規定に従って厳正に管理します。



(文部科学省採択)
 平成 25~27 年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成 28~31 年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成 28 年度Ⅱ期(12月~2月)長岡大学イノベーション人材養成講座

管理会計講座・募集要項

主催：長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：現在、経済のグローバル化は留まることなく、新潟県の産業経済環境は依然として厳しいものがあります。こうした中で企業の競争力の点検、再構築が問われています。新しい商品・サービスの開発等イノベーションも重要ですが、生産過程における原価低減の方法、利益の出し方も極めて重要です。

こうした状況下では、生産性向上と会計を結びつけて考える管理会計に精通する必要があります。本講座は、その管理会計具体化のノウハウを教授し、生産性を向上させ、企業間競争で優位に立とうとする企業の支援をめざしています。生産性向上-管理会計の導入・具体化をお考えの企業の担当者の方々にぜひ参加していただきたいと思ひます。

- ★受講対象者：会社経営者、経営幹部、財務担当者など
- ★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。
- ★講師：中村 大輔(長岡大学准教授)
- ★時間：18:30~21:00
- ★会場：長岡大学教室
- ★テキスト：吉川武文(2016)『技術屋が書いた会計の本』秀和システム、1,500円+税
- ★受講料：30,000円(初回にお持ちください) *裏面を参照してください
- ★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	12月 1日(木)	利益計画の立て方	中村 大輔
第2回	12月 8日(木)	設備投資計画の立て方	中村 大輔
第3回	12月15日(木)	キャッシュ管理について	中村 大輔
第4回	12月22日(木)	在庫管理の考え方	中村 大輔
第5回	1月12日(木)	コスト・マネジメントの考え方	中村 大輔
第6回	1月19日(木)	業績管理と原価計算	中村 大輔
第7回	2月26日(木)	新しい管理会計の考え方	中村 大輔
第8回	2月 2日(木)	まとめ	中村 大輔

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
 右記のFAX番号に送信してください。

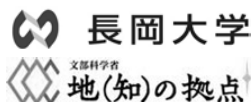
<お申し込み先>

長岡大学地域連携研究センター：担当 小田原
FAX 0258-39-9566
 TEL 0258-39-1600(代)
 e-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp

締め切り 平成28年11月24日(木)

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



(文部科学省採択)
 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



平成28年度長岡大学イノベーション人材養成講座 実践! 中小企業の＜1日新規事業プランづくり＞講座 募集要項

主催：長岡大学地域連携研究センター
 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

★講座趣旨：人口減少、事業所減少傾向のなかで、企業間競争が厳しくなっています。とりわけ、市場ニーズの変化、市場規模の縮小などに対応するためには、イノベーション、なかでも新規事業開発が不可欠であります。しかし、現実対応に追われて、新規事業開発に取り組むことが遅れがちになっているのではないのでしょうか。

本講座は、そうした多忙な経営者の皆様のための＜1日新規事業プランづくり＞の講座であります。とにかく、経営者の皆さんに新規事業づくりの一步を踏み出していただきたいと考え、企画しました。

講師は、新潟県内の若手経営コンサルタント第一人者の今井進太郎先生です。＜1日新規事業プランづくり＞講座に参加してポイントを掴み、ぜひ、社内で、新規事業起しを進めていただきたいと思います。経営者の皆様には、新規事業の「ネタ」を持って参加していただきたいと思います。お待ちしております。

なお、本講座は、長岡大学地域連携研究センターとNPO法人長岡産業活性化協会NAZEが共催して開講します。

★受講対象者：中小企業経営者、経営後継者、新規事業開発担当者

★募集人員：10名(先着順)

★講師：今井進太郎(グローバルマーケティング株式会社代表取締役/中小企業診断士/長岡大学講師)

★時間：12月11日(日)10:00～17:00

★会場：NICOテクノプラザ会議室

★受講料：10,000円(初回にお持ちください) *裏面を参照してください。

★内容：

講座開催日	検討テーマ	検討内容の概要	検討方法
第1回	新事業開発のポイント	・事例に学ぶ新規事業開発のポイント ・事業アイデアの発想法	講義+ワーク ショップ
12月11日 (日) 10:00 ～17:00	ビジネスモデル・シートの作成	・ビジネスモデルの作成方法、 ・ビジネスモデル・シートの作成	講義+ワーク ショップ
第3回	*1回 2時間	新事業プランの発表	・新事業プランの発表・検討
			ワークショップ+ ディスカッション

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mailまたは、長岡大学ホームページからお申込み下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、右記のFAX番号に送信してください。

＜お申し込み先＞

長岡大学地域連携研究センター：担当 小田原
 FAX 0258-39-9566
 TEL 0258-39-1600(代)
 e-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp

締め切り 平成28年12月5日(月)

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、長岡大学及びNAZEの規定に従って厳正に管理します。

15 起業人材養成セミナーの開催－社会貢献④－

(1) 方針（申請時）

- ・従来間欠的に開講されたビジネスプラン講座をこえて、市・会議所と連携し、常設の「新・起業家塾」（女性、シニア、ソーシャルビジネス含む）を開講する。
- ・また、これを通して、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を形成する。

(2) 目標（申請時）

- ・常設のビジネスプラン講座、起業シンポ開催、起業メンターによる日常的起業支援も行き、創業・起業家を輩出する。
- ・平成 25 年度→全体計画策定の上、初級コース（8 週間）を開講。次年度から、初級・上級コース（各 8 週間）を開講する。本学担当教員は 4 名、外部講師 4 名。
- ・平成 29 年度→毎年、5 名程度の創業・起業（女性、シニア含む）をめざす。それを可能にする、長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等が連携した、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を確立する。
- ・また、小中学・高校生の起業家教育にも取り組む。

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・1 月～3 月にかけて社会人対象の創業セミナー(全 8 回)を開講した。参加者は 22 名で、各回の平均出席率も 9 割を下回らず好評を得た。また、セミナーと並行するかたちで創業相談(創業支援メンター制度)を実施。3 月末までに 18 件の利用があった。それらの結果、その後に法人設立など、具体的な事業の立ち上げにつながる事例が 2 件あった。
- ・＜長岡起業家塾＞については、2 月に第 1 回運営委員会を開催。事業の趣旨および計画等について説明、次年度に向けて具体的な構想を協議することを申し合わせた。

(4) 平成 26 年度実績と評価

- ・7 月に「女性のための起業セミナー」（全 5 回、受講者 7 名）、12 月～2 月にかけて「創業セミナー（一般・シニア向け）」（全 8 回、受講者 9 名）を開講。併せて実施した創業支援(メンター制度)を 5 名が活用、のべ 6 回の相談を行った。
- ・上記のセミナーおよび創業支援を経て、2 名の女性が起業し(両者とも個人経営)、その他 5 名が具体的な事業をもって起業を目指している。

(5) 平成 27 年度実績と評価

【実績】

- ・創業・起業の 2 つのセミナーを開講した。その概要は次の通りである。
 - ★女性のための起業セミナー→期間：7 月 14 日～8 月 7 日(全 5 回)、講師：小松俊樹、山田康博、今井信太郎、高橋真由美、平田希望美。受講者：8 名（長岡市・見附市内から）
 - ★創業セミナー(一般・シニア向けコース)→期間：12 月 9 日～2 月 17 日（全 8 回）、講師：小松俊樹、今井信太郎、日本政策金融公庫。受講者：3 名

- ・創業相談・・・平成 27 年度の創業支援メンターを活用した創業相談は、前期が 2 名 2 回、後期は 1 名 2 回の実施にとどまった。

【評価】

- ・夏季の「女性のための起業セミナー」は受講生も多く、出席率も高水準を維持した。今年から開催された長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」へ受講者が応募するものも散見された。
- ・冬季の「一般・シニア向けコース」は受講者数が少なく、数を追う性質のものではないが、内容、広報、実施時期の見直しなど、一定の規模の確保は必要である。

(6) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・地域起業人材セミナーの開講・・・創業セミナー（女性、シニア・一般、学生）（各 5 回講座）の開催、創業支援メンター制度の年間展開、地域連携による創業・起業講演会・シンポジウムの開催と合わせ、起業風土づくりと起業家の輩出（2 件）を目指す。

【目標】

女性、シニア・一般、学生と受講対象を明確にして、各属性を考慮した創業セミナーを企画する。また、昨年度に引き続き、創業支援メンター制度の年間展開を図り、確実な起業家輩出を目指す。

(7) 平成 28 年度計画

- a 創業セミナーⅠ（女性限定、5 回）、・・・昨年度を踏まえて、初級レベルのセミナー 5 回（7 月 14 日～8 月 10 日）とビジネスプラン相談会 3 回（9 月）を開講し、女性起業家の輩出をめざす。
- b 創業セミナーⅡ（シニア・一般向け、5 回）・・・シニア・一般向けの創業セミナー 5 回（11～12 月）とビジネスプラン相談会 3 回（1 月）を開講し、起業家の輩出をめざす。
- c 創業セミナーⅢ（学生向け、5 回）・・・一定の事業アイデアを持った学生・若者を対象にしたビジネスプランづくりセミナーを 5 回開催し、ビジネスプランを仕上げ、長岡市（若者・しごと機構）のビジネスプラン・コンテストに応募する。
- d 講演会・・・国の「すべての女性が輝く社会づくり」を受け、女性の創業・起業に関する講演会を開催する。
- e 以上のセミナー、講演会とともに、引き続き創業支援メンター制度を活用した、創業・起業の促進を図る。

(8) 平成 28 年度の展開

- ・創業、起業セミナーの概要は次の通りである。
 - ★女性のための起業セミナー→期間：7 月 14 日～8 月 10 日（全 5 回）、講師：小松俊樹、新谷梨恵子、今井進太郎、山田康博、高橋真由美。受講者：2 名（長岡市内から）。図表 6-15-1 参照。
 - ★創業セミナー（一般・シニア・女性向けコース）→期間：1 月 21 日～2 月 18 日（全 5 回）、

講師：小松俊樹、今井進太郎、山田康博、日本政策金融公庫。受講者：7名。図表6-15-2参照。

- ・広報については、「長岡市市政だより」への案内掲載を行った。創業セミナーについては、創業希望者に情報が届くように、生活に密着した情報誌の「まるごと生活情報」と「Nアッシュ」に有料で、広告を掲載した。その結果、創業セミナーには7名の参加者を確保できた。
- ・創業メンター制度を活用した創業相談は今年度はなかった。



女性のための起業セミナー



創業セミナー

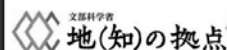
(9) まとめ—成果と課題—

- ・平成28年度の創業セミナーは上記の通り2講座を計画し、予定通り開講した。
- ・しかし、女性のための起業セミナー参加者は、起業支援センターながおか主催の「女性のための起業塾[全3回]」と時期が重なってしまい受講者がそちらに流れたため、2名にとどまった。今後は、長岡市の創業関係セミナーを早期に確認し、同じような講座が重複しないよう対応したい。
- ・広報媒体について、後半の創業セミナーは有料広告の効果が認められたので、今後の広報の方法として位置づける必要があるだろう。何とか、各セミナー参加者10名は確保したい。
- ・創業相談のメンター制度は活用されなかったが、知名度向上の方策も含めて、活用方を具体的に検討する必要がある。

図表6-15-1 女性のための起業セミナー・募集要項



(文部科学省採択)
平成25~27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



女性のための起業セミナー

『私らしく生きる!』— そんなあなたを長岡大学が応援します。

長岡大学では、平成26年度から、<女性のための起業セミナー>を開催し、今年度は3年目になります。過去2年間に、15名が受講し、うち2名の女性起業家が創業しました。また、このセミナーと合わせて、<創業支援メンター>の活用制度も設けております。この起業セミナー終了後も専門の経営コンサルタントが創業・起業の相談等支援を行います。

女性の起業家を輩出することが地域の経済・産業の成長をリードします。多くの女性起業家の皆さんが参加されることを期待します。

★募集対象：起業を予定している女性、および起業後3年以内の女性

★募集人員：10名(先着順) ★時間：18:30~20:30 ★会場：長岡大学

★受講料：無料(ただし、資料代として2,000円)

★講師陣：小松 俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)

今井 進太郎(グローバルマーケティング(株)代表取締役/中小企業診断士)

山田 康博(税理士法人ながおか会計/税理士)ほか <順不同>

★講座シラバス

	開講日	テーマ(予定)	講師
第1回	7月14日(木)	オリエンテーション/自己紹介/魅力ある事業計画の作り方①	小松 俊樹
		女性起業家体験談・農プロデュース リッツ 代表	新谷 梨恵子
第2回	7月21日(木)	創業に効くネット活用法	今井 進太郎
第3回	7月28日(木)	創業財務 ポイントはこれだけ	山田 康博
第4回	8月4日(木)	魅力ある事業計画の作り方②	小松 俊樹
第5回	8月10日(水)	女性起業家体験談・(株)サマンサハート 代表取締役	高橋 真由美
		成果発表	小松 俊樹

【ビジネスプラン相談会】：具体的なビジネスプランの相談に応じます。参加費無料

*セミナー終了後、9月に3回(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このまま送信してください。

〔申込先・問合せ先〕長岡大学 地域連携研究センター TEL：0258-39-1600 (代)担当：小田原

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/


FAX：0258-39-9566


締め切り：平成28年7月13日(水)

氏名		職業	
住所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-15-2 創業セミナー（一般・シニア・女性向け）・募集要項


学校法人 中越学園 **長岡大学**
(文部科学省採択)
 平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
 平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」


文部科学省 **地(知)の拠点**

創業セミナーのご案内

〔一般・シニア・女性向けコース〕

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の1つとして、長岡市の地方創生事業との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。今年も一般・シニア・女性向けコースとして下記のとおり開講します。創業支援メンター制度については裏面をご覧ください。

★募集対象：創業・起業に関心のある方。性別および年齢は問いません。

★募集人員：20名（先着順） ★時間：13：30～16：30 ★会場：長岡大学 ★受講料：無料

★講師陣：小松 俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

今井 進太郎（グローバルマーケティング㈱代表取締役／中小企業診断士）

山田 康博（税理士法人ながおか会計／税理士）ほか <順不同>

★講座シラバス

	開講日	テーマ(予定)	講師
第1回	1月21日(土)	創業・起業 成功のポイント・創業計画シートの説明／自己紹介	小松 俊樹
第2回	1月28日(土)	創業に効くネット活用	今井 進太郎
第3回	2月4日(土)	創業財務と諸手続き	山田 康博
		資金調達のポイント／創業体験談	日本政策金融公庫
第4回	2月11日(土)	実践！売れる仕組みの作り方	小松 俊樹
第5回	2月18日(土)	成果発表／開業プロモーション計画	小松 俊樹

【ビジネスプラン相談会】：具体的なビジネスプランの相談に応じます。 **参加費無料**

*セミナー終了後、3回程度(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

【申込方法】

電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。

FAXでのお申込の場合は、このまま送信してください。

【申込先・問合せ先】

長岡大学 地域連携研究センター（長岡市御山町80-8） 担当：小田原

TEL：0258-39-1600(代) FAX：0258-39-9566

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp 長岡大学 URL：<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>

締め切り：平成29年1月13日(金)

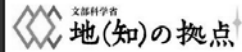
氏名		職業	
住所	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表6-15-3 創業支援メンター活用のご案内



(文部科学省採択)
平成25~27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28~31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



創業支援メンター活用のご案内

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨ー長岡地域起業家塾>をめざしてー

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材=創造人材の育成により地域再生・活性化をめざすものです。

このプログラムの事業として、長岡地域で創業・起業を盛んにする<長岡地域起業家塾>の形成を計画しています。この起業家塾では、創業セミナーの開催とともに、創業、起業前・後の経営等相談ができる<創業支援メンター>制度(*)を設けます。大いに活用してください。

*メンターとは、様々な経営等の課題解決に助言・支援する専門家のこと。

★制度・仕組み

1. 流れ	①電話またはメールで申し込む ②メンターと日程調整 ③相談者に連絡 ④相談実施
2. 相談料	初回は無料。その後は応相談。
3. 相談申込	下記「ご連絡先」あて。
4. 申込時間	毎週月～金曜日の午前10時から午後4時(電話の場合)。
5. 申込事項	①相談事項 ②希望相談日時 ③相談者の連絡先(住所、電話番号など) ※申し込まれた方に「相談シート」をメールでお送りします。

・メンター：小松 俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)
今井進太郎(グローバルマーケティング(株)代表/中小企業診断士)
山田 康博(税理士法人ながおか会計/税理士)

★連絡先 〒940-0828 長岡市御山町80-8
長岡大学地域連携研究センター 担当：小田原
TEL 0258-39-1600(代)
e-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp



Ⅶ <全体>における事業展開

16 推進体制の整備－全体①－

(1) 平成 25 年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、薦めることができた。
- ・FD活動・・・平成 25 年度は以下の通り合計 5 回の FD 活動（うち、2 回は集中 FD 研究会）を行った。

<平成25年>

4月1日 教授会報告「長岡大学 FD 基本ポリシー」

8月21日 集中 FD・SD 研究会

1. 学生の就職力向上への日常的指導
2. 中途退学者を減らすための仕組みの点検と改善について

9月18日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

10月30日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

「長岡市の地域課題について」（講演および質疑応答）

講師：長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村建史 氏

<平成26年>

3月12日 集中 FD・SD 研究会

1. 『効果的なホームページの作り方』（講演および質疑応答）

講師：グローバルマーケティング代表取締役 今井進太郎 氏

2. 学生 FD サミット2014春 参加報告（報告および質疑応答）

3. 平成26年度 COC 方針、予算、調書について

ほか

(2) 平成 26 年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、進めることができた。
- ・FD活動・・・平成 26 年度は以下の通り、合計 5 回の FD 研究会（うち、2 回は集中 FD 研究会）を行った。

<平成 26 年>

6月25日 FD 研究会

「長岡大学経済経営学部経済経営学科設置届出書」（説明および質疑応答）

講師：鯉江康正教授

8月27日 集中 FD/SD 研究会

「理想の大学教育をデザインするワークショップ」（講演および質疑応答）

講師：上智大学経済学部教授 川西諭 氏

11月5日 FD/SD 研究会

「産学連携によるインターンシップ等教育改善について

－新潟大学農学部を取り組みを中心に－」（講演および質疑応答）

講師：新潟大学農学部教授/キャリアジム運営副センター長 箕口秀夫 氏

：新潟大学農学部キャリアジム運営センターコーディネーター 古俣清勝 氏

11月26日 FD研究会

「公的研究費に関するコンプライアンスについて」(説明および質疑応答)

講師：三浦康弘総務課長

<平成27年>

3月11日 集中FD研究会

「PROGテストおよびテスト結果の解説について」(説明および質疑応答)

講師：株式会社リアセック 谷川雅之氏

- ・視察、研修(FD・SD)・・・大学視察とセミナー、フォーラム等へ参加することで当面する課題への対応と先進事例の学習に取り組んだ。

<平成26年>

5月23日 第10回大学トップセミナー(SD) 職員1名参加

7月31日 金沢工業大学視察(FD・SD) 教員1名、職員2名参加

9月13日 岡山大学学生FDイベント「i*See2014」(FD) 教員1名、学生2名参加

10月18日 京都産業大学視察(SD) 職員2名参加

10月19日 京都SDフォーラム(SD) 職員2名参加

<平成27年>

2月28日 京都コンソーシアム主催FDフォーラム(FD) 教員3名参加

3月17日 松本大学視察(FD・SD) 教員1名、職員4名参加

- ・SD全体会・・・全職員対象に大学における諸問題について研修等を3回行った。

<平成26年>

7月30日 「大学の方針・理念について」

11月28日 「学生指導、大学運営について(グループワーク)」

<平成27年>

2月27日 「留学生の就職について」

講師：南行政書士事務所所長/行政書士 南直人氏(講演および質疑応答)

- ・スタッフ会議・・・若手職員を選出して事務局内および大学内全体を視野に入れて解決すべきと思われる問題を話し合った。
- ・地(知)の拠点整備事業シンポジウム

<平成27年>

2月27日 「地(知)の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～

“地(知)の拠点整備から地域創生へ” 教員3名参加

(3) 平成27年度実績と評価

- ・COC事業の推進体制・・・COC運営事務局会議(週1回)、同会議通信の全教職員への配信(週1回)、COC推進本部会議(月1回)の開催を継続するとともに、地域連携研究センターの3部会(市民講座、調査研究、地域連携。月1回開催)も定期的に行われ、事業の円滑な推進を行った。
- ・FD/S D活動・・・平成27年度は、次の通り、4回のFD/S D全体会を開催した。

- 6月24日 第1回全体FD/SD会議(16:30~17:00)
 テーマ「ハラスメント防止対策について」・・・西俣FD部会長、内藤学長、品川事務局長よりハラスメント規程の修正報告検討。
- 7月29日 第2回全体FD/SD会議(16:30~17:45)
 テーマ1「研究倫理教育」・・・村山学部長、文科省の研究不正防止の考え方を説明。
 テーマ2「PROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等について」・・・原田副学長、平成26年度PROGまとめ報告、具体的活用方策を検討へ。
- 8月26日 第3回集中FD/SD会議(13:30~15:40)
 テーマ「中退者の原因分析と対策について」・・・講師・NPO法人NEWVERY代表 山本 繁氏。中退者防止の方策を検討。
- 10月28日 第4回全体FD/SD会議(16:30~18:30)
 テーマ1「授業外学修時間を増やす対策について」・・・西俣FD部会長報告。
 テーマ2「アカデミック・アドバイザー制度について」・・・牧野FD部会員報告。
 テーマ3「アクティブ・ラーニングALについて」・・・西俣FD部会長報告。
 テーマ4「ラーニング・コミュニティについて」・・・関FD部会員報告
 テーマ5「昨年度満足度調査報告書について」・・・西俣FD部会長報告
 テーマ6「PROGの活用方法について」・・・西俣FD部会長報告
 以上のテーマごとに、討論し、方策を検討した
- ・SD活動・・・平成27年度は、次の通り、2回のSD会議を開催した。
 <平成27年>
- 9月11日 第1回SD会議(職員全体会)(15:00~15:40)
 テーマ「大学運営について」・・・品川事務局長から、中期計画、大学の目標等、PDCA、5Sなどについて説明、討論、認識を深めた。
- 11月27日 第2回SD会議(SD研修報告会)(16:00~16:40)
 テーマ1「第13回SDフォーラム(大学コンソーシアム京都)研修報告(10/18)について」・・・研修テーマ「多様な繋がりを育む大学職員」につき、参加者の事務職員・長谷川、山田健報告。質疑応答行う。
 テーマ2「第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015研修報告(11/7)について」・・・テーマ「地域の地域による、地域のための、大学人サミット」の内容について、参加者の事務職員・長谷川、石綿、山田健より報告。質疑応答行う。
- ・研修・視察等・・・
 <平成27年>
- 9月9日 社会人基礎力育成研修会 in 関東(経済産業省主催、於・青山学院大学)・・・事務職員2名(井比、長谷川)参加
- 10月18日 第13回SDフォーラム「多様な繋がりを育む大学職員」(大学コンソーシアム京都主催、於・キャンパスプラザ京都)・・・事務職員2名(長谷川、山田)参加
- 11月7~8日 第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015(松本大学主催、於・同

大)・・・事務職員3名(長谷川、石綿、山田)参加

11月21日 大学・短大トップセミナー「学生の多面的評価を考える」(PROGテスト実施機関・リアセック/河合塾主催、於・東京国際フォーラム)・・・教員1名(村山学部長)参加。文科省の教育改革、高大接続、企業人材ニーズの3つの講演と質疑あり。

<平成28年>

1月29日 第1回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー(新潟青陵大学主催、於・新潟日報メディアシップ)・・・事務職員2名(長谷川、石綿)参加。コミュニティビジネスについての講演と質疑あり。

2月5日 2015年度名古屋学院大学COC学生成果報告会・COC事業中間総括フォーラム(名古屋学院大学主催、於・名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎)・・・教員3名(原田、米山、中村)、職員1名(品川)参加。学生の地学連携の地域活性化事業の成果報告等発表あり。

2月19日 第2回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー(新潟青陵大学主催、於・新潟日報メディアシップ)・・・事務職員2名(長谷川、石綿)参加。龍谷大学の「地域公共政策士」の講演と質疑あり。

3月5～6日 第21回FDフォーラム「大学教育を再考する」(大学コンソーシアム京都主催、於・京都外国語大学)・・・教員1名(牧野)、事務職員1名(本田)参加。大学教育再考の視点、地域貢献、高大接続等の報告あり。

- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・COC事業の推進体制は円滑に機能することができた。FD活動については、その結果として、学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを1～3年生に実施するとともに、学生指導・支援のアカデミック・アドバイザー制度における目標設定に活用する方針を明確にすることができた。今後の活用状況をチェックし、さらなる改善をはかる必要がある。また、学生の能力・資質向上手法として、ALやラーニング・コモンズについて検討し、具体化する方向を明らかにすることができた。これも、今後の活用とチェック、改善に心がける必要がある。

今後の課題として、FD、SDの基本方針づくりについては、十分な検討ができなかった。次年度には具体化をめざす必要がある。また、松本大学や名古屋学院大学の事例や社会人基礎力の養成・評価など、多様な地(知)の拠点のあり方が見え始めており、今後は、本学のFD、SDの内容をこの地(知)の拠点形成へと結びつける方向でより明確に意識して組み立てる必要がある。

(4) 平成28年度方針・目標

【方針】

- ・地(知)の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実・・・COC運営事務局会議(週1回)、同会議通信の全教職員への配信(週1回)、COC推進本部会議(月1回)の開催による推進体制を継続し、事業の円滑な推進を行う。地域連携研究センターの3部会(市民講座、調査研究、地域連携。月1回開催)活動も充実させる。また、教職員のFD/SD活動を通じた事業推進能力の向上を図る。

【目標】

- ・方針に基づき、地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の継続し、充実を図る。
- ・FD／SD・・・教職員の事業推進能力を高めるために、教職員協働というコンセプトを掲げ、教職員両者が参加する全体FDを前年度を上回るレベルで開催する。
- ・FD、SDの基本方針化を検討し、明確な具体化を図る。

（5）平成 28 年度計画

a COC＋事業の推進

- ・COC＋運営事務局会議は、毎週火曜日の午前に開催する。同会議のまとめは、事務局会議通信として、全教職員にメール配信する（週1回）。
- ・COC＋推進本部会議は、毎月1回開催（第2／3火曜日16：20～17：00）し、事業の進捗管理を行い、円滑な推進を図る。
- ・地域連携研究センターの3部会（市民講座、調査研究、地域連携）を月1回開催し、調査研究、地域連携活動の推進を図る。

b FD／SD活動の推進

★全体FD／SD会議では、以下の内容を実施する。

- ・学生情報管理のための情報システム導入についての意見交換
- ・アクティブ・ラーニングの展開と手法について
- ・アカデミック・アドバイザー制度の点検と改善について
- ・満足度調査等の結果共有と意見交換
- ・授業アンケートの改善について
- ・PROGの分析結果報告とその活用方法についての確認と意見交換
- ・COCプラスの進捗状況報告と意見交換
- ・ラーニング・コモンズの展開について状況確認と意見交換（授業外学修時間対策としての視点から検討）

★全体FD／SD会議日程（全てFD／SDとの共同会議とする）

- ・6月：学生情報管理のための情報システム導入についての意見交換
- ・7月：アクティブ・ラーニングの展開と手法について
- ・8月：集中FD／SDとし、アカデミック・アドバイザー制度の点検と改善について
満足度調査等の結果共有と意見交換
授業アンケートの改善について
- ・10月：PROGの分析結果報告とその活用方法についての確認と意見交換
公的研究費の適正な管理・運用及び研究活動における不正行為防止について。
- ・2月：COCプラスの進捗状況報告と意見交換
- ・3月：集中FD／SDとし、ラーニング・コモンズの展開について状況確認と意見交換
（授業外学修時間対策としての視点から検討）

★研修・・・教職員の個人能力を高めるために、積極的に研修会、講習会、他大学の視察等を実施する。

(6) 平成 28 年度の展開

a COC+事業の推進

- ・COC+運営事務局会議は、毎週火曜日の午前に、年間 46 回開催した。同会議のまとめは、事務局会議通信として、全教職員にメール配信した（週 1 回）。
- ・COC+推進本部会議は、毎月 1 回（第 2 / 3 火曜日 16 : 20 ~ 17 : 00）し、年間 11 回開催した。事業の進捗管理を行い、円滑な推進を図った。
- ・地域連携研究センターの運営委員会・3 部会（市民講座、調査研究、地域連携）は、月 1 回開催し、市民公開講座、企業人講座・創業セミナー、調査研究、地域志向教育研究、地域連携活動の推進、さらには地域連携研究センター年報の刊行などを推進した。

b FD/SD活動の推進

- ・FD/SD会議（6 回）を次の通り開催した。

<平成 28 年>

7 月 27 日 第 1 回全体FD/SD会議（16:30~18:30）

テーマ「学習の動機付けと資格取得について」

① LTD : 学習の動機付け ②ディスカッション : 資格取得について

講 師 : 札幌学院大学准教授/長岡大学非常勤講師 橋長 真紀子 氏

内 容 : アクティブ・ラーニングの手法の一つとして、LTD 学習法について講師が講演をした。LTD 学習法の説明後、実際に体験をした。LTD は、必ず予習を必要とするので、学習習慣も身につく、資格取得に向けた学習にも繋がる。また、内発的動機付け、外発的動機付けとやる気を起こす目標設定が必要。

8 月 31 日 第 2 回集中FD/SD会議（10:15~15:20）

テーマ 1 「長岡大学中期計画について」

説 明 : 村山光博学長

内 容 : 長岡大学の現状と中期計画案についての説明があった。出席者からの質問に対して、詳細は今後詰めていくこととなった。

テーマ 2 「ハラスメント防止対策について」

講 師 : パートナーズプロジェクト社会保険労務士法人代表社員/
社会保険労務士高野 洋子 氏

内 容 : セクハラおよびパワハラを中心に様々な事例を交えての説明があった。ハラスメントの明確な境界線はなく、人間関係の構築が重要。

テーマ 3 「コンプライアンス教育」

説 明 : 三浦康弘総務課長

内 容 : 公的研究費は使用ルールに則り、適切に管理することが必要との説明があった。

10 月 26 日 第 3 回全体FD/SD会議（16:15~18:00）

テーマ「職員力とは何かー戦略的の大学職員の養成ー」

講 師 : 新島学園短期大学長/大学経営コンサルタント 岩田 雅明 氏

内 容 : 状況（特に顧客）を認識することで、目指すべき大学（ポジショニ

ング)の姿が決まり、なすべきことがわかるので、後は目標に向かって動きだすことができる組織・風土をつくることが重要であるとの説明があった。途中で事例を用いた大学のポジショニングについてグループワークを行った。

11月30日 第4回全体FD/SD会議(16:30~18:10)

テーマ「災害にいかに向き合うか」

講師：中越防災安全推進機構 地域防災力センター長 諸橋 和行 氏

内容：東日本大震災や中越地震の事例を取り上げて防災対策・防災教育の説明があった。大学・教職員の覚悟として「想定外」は言い訳にならず、普段から最善を尽くすことが大事で、やらなければ怠慢である。途中で事例を用いたグループワークを行った。

<平成29年>

2月15日 第5回全体FD/SD会議(14:30~16:35)

テーマ1「アカデミック・アドバイザー制度の点検と改善について」

説明：牧野智一FD部会員

内容：アカデミック・アドバイザー制度の目的と実施方法について説明があった。また、学生情報管理を一つのデータベースで行いたいので、そのために学生情報システムの導入が必要。

テーマ2「授業アンケートの改善について」

説明：米山宗久FD部会員、村山光博学長、中村大輔FD部会員

内容：FD部会で議論してきた改善案について説明があった。「気づき」には、低い点数の反省点ではなく、工夫した点・改善点を記載する。

テーマ3「ラーニング・コモンズの展開について状況確認と意見交換(授業外学修時間対策としての視点から検討)」

説明：中村大輔FD部会員、関義夫FD部会員

内容：ラーニング・コモンズの現況について説明があった。それぞれのラーニング・コモンズの場所での特色があり、始まって1年ぐらいなので、これから改善していく。

テーマ4「公益財団法人内田エネルギー科学振興財団からの事業費助成及び長岡市市民活動補助金について」

説明：権五景准教授

内容：内田エネルギー科学振興財団の助成金や長岡市の補助金は、申請しやすく、決定されやすいので、応募してみてもどうかとの説明があった。

テーマ5「PROGの分析結果報告とその活用方法についての確認と意見交換」

説明：中村大輔FD部会員、長谷川雅英FD部会員

内容：PROG実施結果、平成29年度における活用方法について説明があった。平成29年度は、平成28年度と同様に活用していくが、平成30年度は、どうするか今後検討が必要。

テーマ6 「長岡大学“三つの方針”（案）について」

説明：村山光博学長

内容：ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの案について説明があった。今後出てきた意見を検討し、3月中完成とする。

3月8日 第6回集中FD／SD会議（15:00～17:00）

テーマ1 「SD義務化について」

説明：品川十英大学事務局長、村山光博学長

内容：SD義務化における一般論の説明後、長岡大学のSD実施方針についての説明があった。SDに関する定義等は、現状はないので、これからやりながら決めていく。

テーマ2 「長岡大学“三つの方針”（案）について」

説明：村山光博学長

内容：前回説明後、特に意見がなかったので、今回再度出席者に意見を求めた。3月中完成とする。

テーマ3 「満足度調査等の結果共有と意見交換」

説明：牧野智一FD部会員

内容：満足度調査結果を教職員に事前配付した。満足度調査結果と昨年度との比較について説明後、出席者に意見を求めた。

テーマ4 「COC+の進捗状況報告と意見交換」

説明：原田誠司地域連携研究センター総括マネジャー

内容：COC+の評価結果と進捗状況、COC事業終了後の大学の方向性について説明後、出席者に意見を求めた。

・教職員対象説明会（2回）を次の通り開催した。

<平成28年>

4月1日 長岡大学平成28年度方針説明会（16:00～17:00）

1. 「平成28年度長岡大学運営方針」

説明：村山光博学長

2. 「平成28年度の基本方針」

説明：土田和弘理事長

9月28日 長岡大学教職員対象説明会（14:40～16:20）

1. 「学校法人中越学園長岡大学中期計画（案）

平成29（2017）年度—平成33（2021）年度」について

説明：村山光博学長

付帯説明「長岡大学中期計画について」

説明：三浦康弘総務課長

2. 平成27年度決算について

説明：土田和弘理事長

3. 決算書（計算書類）の読み方、経営・財務状況の把握・分析について

説 明：土田和弘理事長

- ・学生情報管理システム導入の検討を、次の通り行った。

<平成 28 年>

10 月 5 日 学生情報管理のための情報システム導入についての意見交換 (16:20~17:00)

説 明：株式会社理経 システムソリューション営業部長 角 総一郎 氏

システムソリューション営業部 笠井 克敏 氏

バリエントソフト株式会社 代表取締役 森田 良一 氏

内 容：システム業者からの説明（デモ）後、出席者に意見を求めた。参集対象は、学長、副学長、教務委員、FD部会員とした。

11 月 15 日 FD部会にて、学生情報管理システム導入検討案を教務委員会に提出。

11 月 16 日 教務委員会にて、学生情報管理システム導入検討案を大学運営会議に提出。

12 月 7 日 第 9 回大学運営会議にて、学生情報管理システム導入については検討していくが、業務の洗い出し、費用対効果を調査する必要があることと学生カード（仮称）の活用をしたらどうかとの回答があった。

- ・研修・視察等を次の通り実施した。

<平成 28 年>

8 月 29 日～30 日 第 6 回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム「多様な学びを支える高等教育へ～高大接続改革を考える～」(大学コンソーシアム八王子主催、於・八王子市学園都市センター)

事務職員 2 名 (石綿沙織、小田原弘貴) 参加。

<平成 29 年>

3 月 4 日～5 日 第 22 回FDフォーラム「大学の教育力を発信する」(大学コンソーシアム京都主催、於・京都府立大学下鴨キャンパス内「稲盛記念会館」)

教員 2 名 (栗井英大、鈴木章浩)、事務職員 1 名 (小田原弘貴) 参加。

3 月 6 日～7 日 平成 28 年度COC/COC+全国シンポジウム「地方創生と大学」(高知大学主催、於・ザ クラウンパレス新阪急高知、高知商工会館)

教員 2 名 (高橋治道、小松俊樹)、事務職員 2 名 (品川十英、井比亨) 参加。

(7) まとめ—成果と課題—

- ・COC+運営事務局会議、同推進本部会議および地域連携研究センター運営委員会・3 部会は定期的に行われ、COC+事業を計画的に推進することができた。
- ・今年度はFD・SDを全体FD/SD会議という形で6回開催することができた(内、第2回と6回は集中FD/SD会議とした)。それぞれのテーマごとに一定の結論(方策)をまとめることができた。ただし、内容はSDに関する内容が多く、FDについて、十分な議論が出来たとはいえなかった。
- ・教職員対象説明会では、年度初めの方針説明会があり、9月には平成29年度から5ヶ年の中期計画、大学の決算内容と今後の大学の在り方についての説明があった。

- ・SD及びFD研修会等への参加により、教職員の能力開発に資することができた。
- ・平成29年度から義務化されるSDを確実に実行し、大学の質向上に取り組む。FDを確実に
行い、大学教育の質向上に取り組む。
- ・また、平成29年度のSD及びFDを確実に実行し、中期計画完成に向けた初年度とする。

17 推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－

(1) 平成25年度実績と評価

- ・平成25年10月23日に、平成25年度地（知）の拠点整備事業推進協議会を開催した。
- ・また、地域課題調整部会（長岡市政策企画課、工業振興課、長岡商工会議所および長岡大学2名の計5名）は、10月以降、月1回、開催し、日程等の調整を行った。

(2) 平成26年度実績と評価

- ・平成26年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成25年度アンケート等COC事業に関する諸書類手続き終了後の平成26年6月18日に開催した。
- ・COC事業の進み具合をお知らせする「長岡大学COC通信」（A4版1枚）を作成し、6月から、毎月、協議会委員・組織の方々に送付した。
- ・平成26年度の地域課題調整部会は、平成26年度の毎月月末の月曜日に開催してきた（8月是不開催なので年間11回開催）。学内の推進本部会議での議論をベースに、議論した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・推進協議会、地域課題調整部会ともに、計画通り、開催することができた。しかし、長岡市以外の協議会構成組織との連携が拡大・充実したとは言えない状況にあるといわざるを得ない。次年度は、この点の地域連携の拡大・充実をめざす必要がある。

(3) 平成27年度実績と評価

- ・平成27年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成27年6月25日（木）（16：00～17：00、於・長岡大学第4会議室）に開催した。平成26年度地（知）の拠点整備事業報告（「平成26年度報告書」、「平成26年度実績報告書」、「平成26年度フォローアップ（進捗状況）」、「統一指標COCアンケート調査結果」、「COC大学独自アンケート・全体とりまとめ」）および平成27年度事業計画（「平成26年度調書」、「平成27年度事業計画」等）などを報告し、意見交換を行った。
- ・COC事業を広くお知らせする「長岡大学COC通信」（A4版1枚で長岡大学通信と表裏印刷）は、4、5、6、7、9、10、11、1、2、3月の10回、各月中旬に刊行し、協議会委員、学生・保護者、諸関係者、市民に広く送付、情報提供を行った。
- ・平成27年度の地域課題調整部会は、平成27年度の毎月月末の月曜日（16：00～17：00、於・長岡商工会議所）に開催した。毎月の学内の推進機関である推進本部での報告等をベースに、議論を行った。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・推進協議会、地域課題調整部会は、計画通り開催することができた。順調であったと言えよう。今年度は国・自治体による地方創生事業が始まり、地域連携の内容が拡大した。平成28年度から長岡大学も新潟大学のCOC+事業に参加することになり、より地方創生事業としてのCOC事業として展開することが求められる。この推進体制も変更が必要になる可能性もある。

(4) 平成 28 年度方針・目標

【方針】

- ・地（知）の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催・・・推進協議会は年 1 回開催（6 月）する。地域調整部会で本学・連携機関間の日常的な事業内容・スケジュール等の調整を行う（月 1 回）。

【目標】

- ・推進協議会は前期に 1 回、地域課題調整部会は毎月 1 回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図る。

(5) 平成 28 年度計画

- ・協議会は、6 月中旬に開催し、連携機関等に事業報告を行うとともに、事業進捗についての協議を行う。
- ・地域課題調整部会は、毎月月末の月曜日に開催し、事業の進捗を報告し、協議を行う。

(6) 平成 28 年度の展開

- ・地（知）の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会は、次の通り、開催された。

名称：平成 28 年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会

日時：平成 28 年 6 月 22 日（水）16:00～17:00、於・長岡大学・第 4 会議室

次第：

進行：品川十英事務局長

.....

1 開会に当たって

*当協議会規程について・・・資料 1 長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）協議会規程」

*当事業推進体制について・・・資料 2 「平成 28 年度長岡大学地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進体制について」

*協議会委員ご紹介・・・資料 3 「長岡大学地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）推進協議会委員名簿」

*本日資料確認

2 学長ごあいさつ 長岡大学長／推進本部長 村山 光博

3 平成 27 年度地（知）の拠点整備事業報告 報告：推進副本部長 原田 誠司

(1) 経過報告等について・・・「平成 27 年度報告書」第 II 章 7 頁参照

(2) 平成 26 年度実績報告書について・・・資料 4 「実績報告書」参照

(3) フォローアップ等について・・・資料 5 「平成 27 年度フォローアップ（進捗状況）」、資料 6 「統一指標 COC アンケート調査結果」、資料 7 「COC 大学独自アンケート・全体とりまとめ」参照

4 平成 28 年度地（知）の拠点整備事業計画 報告：推進副本部長 原田 誠司

(1) 平成 28 年度調書について・・・資料 8 「平成 28 年度調書」参照

(2) 平成 28 年度事業計画について・・・資料 9 「平成 28 年度事業計画」参照

(3) 事業計画の補強等について・・・資料 10 「事業計画の補強等について」参照

(4) 当面のスケジュールについて・・・資料 11「当面のスケジュールについて」参照

5 質疑・討論

.....

参加者は、連携機関等委員および長岡大学側委員は、本報告書 頁を参照されたい。

- ・地域課題調整部会は、ほぼ毎月最終週の月曜日 16:00～17:00、於・長岡商工会議所で、年間 10 回開催された。報告・協議事項は、毎月の推進本部会議におけるテーマが中心であった。部会メンバーについては、本報告書 頁を参照されたい。

(7) まとめー成果と課題ー

- ・推進協議会は、COC+事業の全体を報告し、協議を行う場であり、事業の進捗を全体的に把握していただく場として、重要である。この会議をベースに年間の事業展開を推進することができる。
- ・地域課題調整部会は、月々の事業の報告・協議を行う場であり、円滑な事業展開には非常に重要な機会である。

18 本事業の広報の充実—全体③—

(1) 平成 25 年度実績と評価

- ・ 広報については、経費計画にそって、実施することができた。
- ・ しかし、広報体制が未整備のため、十分な広報効果を上げられたとは言えない。次年度はきちんとした広報体制の形成が必要である。

(2) 平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度の広報事業としては、次のような事業を行った。
本学ホームページの更新、本事業広報リーフレット等の作成（事業概要リーフレット、「長岡大学COC通信」、文科省のリーフレット）、本事業案内パネルの作成（地域交流ホール、まちなかキャンパスでの展示等）、広報ブックレット等の刊行（教育ブックレット「資格取得のすすめ」、地域活性化プログラム・10 取組報告書、地域志向教育研究ブックレット・5 テーマ）、新潟県日刊新聞COC事業1面全面広告、地域連携研究センター研究年報の刊行、本COC事業報告書・平成26年度版の刊行などを行った。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）

まず第1に、COC2年目を経て、広報の方法がほぼ固まってきたと言えること。諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信（a）、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行（b）、事業案内パネルの展示（c）、各事業内容ブックレットの発行（d）、センター年報と本事業報告書の刊行（e）、新聞等マスコミ広告（f）に分けてみると、次のように言える。

（a）で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。（b）で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。（c）は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。（d）は各事業の、（e）は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の（f）は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、（b）のホームページと（c）のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要。

第3に、（f）に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、「Eボート試乗会」や「十分杯プロジェクト」などの地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価された。こうした方向を今後も追及する必要がある。

(3) 平成 27 年度実績と評価

- ・ 平成 27 年度の広報事業としては、次のような事業を行った。
本学ホームページの更新、本事業広報リーフレット等の作成（事業概要リーフレットの更新、学生の活動リーフレット3種、「長岡大学COC通信」）、本事業案内パネルの作成（地域交流ホール、まちなかキャンパスでの展示等）、広報ブックレット等の刊行（地域活性化プロ

グラム・8取組報告書、地域志向教育研究ブックレット・2テーマ)、地域連携研究センター研究年報の刊行、本COC事業報告書・平成27年度版の刊行などを行った。

- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・まず第1に、諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信(a)、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行(b)、事業案内パネルの展示(c)、各事業内容ブックレットの発行(d)、センター年報と本事業報告書の刊行(e)、新聞等マスコミ広告(f)に分けてみると、次のように言える。

(a)で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。(b)で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。(c)は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。(d)は各事業の、(e)は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の(f)は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、(b)のホームページと(c)のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要。

第3に、(f)に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、「十分杯プロジェクト」(長岡市)など地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価された。こうした方向を今後も追及する必要がある。

- ・平成28年度4月の行った「平成27年度長岡大学「地(知)の拠点整備事業」=COC事業に関する調査(長岡大学独自)」によると連携機関からは、学生の生の声が聞けるような刊行物および動画等の発信をもっとすべき、長岡市の大型ビジョンを使い興味を持ってもらうための映像を流した方がよいなどの意見があった。こうした方向を今後はより進めていく。

(6) 平成28年度方針・目標

【方針】

- ・本事業の広報の充実・・・本事業の学生・地域社会等への広報を、諸印刷物等(ホームページ、パネル、リーフレット、ポスター、報告書、研究年報等)、メディアなど多様な方法で充実させ、本事業を広く、認識していただく。

【目標】

- ・経費計画にそって、効果的な広報を行う(学生、保護者、地域関係者、企業、市民等にいかにかに本事業を知っていただき、参加していただくか)。

(7) 平成28年度計画

- a 経費計画を踏まえて、次の事業を着実に推進する。
 - ・本学ホームページの更新 随時
 - ・本事業広報リーフレット発行・・・「長岡大学COC通信」毎月1回発行、COC事業概要リーフレットおよび学生の活動リーフレットの発行。
 - ・本事業実績報告パネルの作成(20枚程度)

- ・まちなかキャンパス長岡での本事業パネルの展示（5～6月）
 - ・地域交流センターにおける本事業パネルの作成と展示（6～9月）
 - ・長岡大学祭（悠久祭）における本事業パネルの作成と展示（10月）
 - ・ブックレットの刊行・・・教育ブックレットとして2種類を刊行。
 - ・地域連携研究センター研究年報「地域連携研究」の刊行（11月）
 - ・地域志向教育研究報告書・ブックレットの刊行（3月）
 - ・本COC事業報告書の刊行（3月）
- b マスメディアによる広報については、本COC事業を記事として掲載していただくことを基本に、効果的な新聞広告を検討する。

（5）平成 28 年度展開

平成 28 年度の広報関係事業は次の通りであった。

- a **本学ホームページの更新**・・・次の 30 頁更新した。
- ・教育の取組 6 件－資格取得支援センター長岡大学COS、平成 28 年度学生による地域活性化プログラム取組概要および成果発表会の案内・報告、学生による地域活性化プログラム活動報告書、外部講師授業一覧、起業家塾
 - ・研究の取組 4 件－長岡大学地域連携研究センターシンポジウム案内と報告、長岡大学地域連携研究センター年報「地域連携研究」第 3 号、地域志向教育研究ブックレット 2 冊
 - ・社会貢献の取組 24 件－平成 28 年度長岡大学市民公開講座（「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」、「記紀神話を読む・前編」、「メンタルヘルス・マネジメント 検定Ⅲ種・Ⅱ種 総合ストレスチェック」「初級簿記講座」、「記紀神話を読む・後編」、「近代東アジアの中の日本 - 批判的検討」「外山脩造の足跡と活動」）、悠久祭同時開催イベント「ボランティア・フォーラム」と「子育てシンポジウム」、平成 28 年度 長岡大学地（知）の拠点大学シンポジウム高橋九郎翁生誕 165 周年 記念シンポジウム、第 4 回悠久山・東山フォーラム「お雛さまとお茶会」ご案内、平成 28 年度イノベーション人材養成講座（「商品企画講座」、「実践！ 中小企業の事業承継プラン作成講座」、「実践！ 中小企業の＜1日新規事業プランづくり＞講座」、「管理会計講座」）、平成 28 年度起業人材養成セミナー（「平成 28 年度女性のための起業セミナー」、「平成 28 年度創業支援メンター活用のご案内」、「平成 28 年度 創業セミナー [一般・シニア・女性向けコース]」）、出版物（「長岡地域＜創造人材＞養成プログラムリーフレット」、「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム平成 27 年度報告書」
- b **本事業広報リーフレットの作成**・・・次の 6 点を刊行。
- ・COC＋事業概要リーフレットの更新、長岡大学の教育・学生の活動リーフレット（インターンシップ、就職支援、サークル紹介、起業家塾）の作成を行い、積極的に本学の教育・学生の活動を内外にアピールした。図表 7－18－3～7（177 頁～185 頁）を参照されたい。
- c **長岡大学COC通信の発行**
- ・長岡大学COC通信を、平成 28 年 5 月からほぼ毎月 1 回、計 6 回発行し、学生、保護者、

教職員だけでなく、連携自治体、地域諸団体、住民に広く、配布、広報した。図表 7-18-8（187 頁～193 頁）を参照されたい。

d 本事業案内パネルおよび横断幕の作成・展示

- ・平成 28 年 5～6 月に、「まちなかキャンパス」において、本学 C O C 事業の次のようなパネル展示を行った。A 1 パネル 22 枚（C O C 事業取り組み概要、平成 27 年度地域活性化プログラム活動報告パネル 10 枚、市民公開講座案内等）、その他展示物（平成 27 年度 C O C 報告書等印刷物）、また、平成 28 年 10 月の長岡大学祭「悠久祭」において C O C 事業の活動パネル展を行った。図表 7-18-9（194 頁）を参照されたい。
- ・大学玄関エントランスホールに C O C 事業の横断幕を掲示した。図表 7-18-10（194 頁）を参照されたい。
- ・平成 28 年度本 C O C 事業全体案内（300 部）、ポスター（1 枚）を作成し配布した。図表 7-18-11（195 頁）を参照されたい。

e 広報ブックレット等の作成

- ・学生による地域活性化プログラム報告書および各プロジェクトごとの活動報告ブックレット 9 取組、地域志向教育研究ブックレット 2 取組を発行した。

f 地域連携研究センター研究年報の刊行

- ・C O C 事業の調査研究成果を掲載する地域連携研究センター研究年報『地域連携研究』第 3 号（1,000 部）を刊行し、11 月 18 日の地域連携研究センター・シンポジウムで配布した。年報目次は、図表 7-18-12（196 頁）を参照されたい。

g 本事業報告書の作成

- ・『長岡大学 C O C 事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム 平成 28 年度報告書』を平成 29 年 3 月末に刊行した（1,000 部）。

h 広報の方法・媒体について

- ・本学主催の講座等の広報方法について、次のような媒体の計画的活用、市内諸施設への案内チラシ等の配布及び市内各所でのポスター掲示の 3 つを基本に広報することとし、実施した。

イノベーション人材養成講座等広報計画について（メモ）

2016/6/10 C O C 事業運営事務局

I 原稿・チラシ等広報締切

- ・長岡市広報誌・・・広報誌配布月の前々月 25 日までに申込（例：10 月号は 8 月 25 日まで）
- ・長岡商工会議所「情報便」・・・配布当月 10 日までに印刷物（チラシ）を持込、15～16 日に対象企業等に配布。費用：奇数月 5,500 部、30,000 円、偶数月 3,300 部、20,000 円。

II イノベーション人材養成講座・シンポジウム等

1 イノベーション人材養成講座

- ・ 9 月開始の 2 講座（商品企画、事業承継）・・・市広報誌→7 月 25 日までに申込み
情報便→8 月 10 日までに持込、印刷依頼→7 月末
- ・ 12 月開始の 2 講座（管理会計、新規事業）・・・市広報誌→9 月 25 日までに申込み
情報便→10 月 10 日までに持込、印刷依頼→9 月末

2 創業セミナー

- ・ 7 月開始の創業セミナー（女性向け）・・・市広報誌→5 月 25 日までに申込み
- ・ 1 月開始の創業セミナー（一般・シニア）・・・市広報誌→11 月 25 日までに申込み

3 東部地域講演・シンポジウム

- ・ 10 月 29、30 日悠久祭シンポ・・・市広報誌 8 月 25 日までに申込み
- ・ 3 月 悠久山東山フォーラム・・・市広報誌 12 月 25 日までに申込み

4 地域連携研究センター・ボランティアシンポジウム

- ・ 11 月 18 日「ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！」・・・市広報誌 9 月 25 日までに申込み

III 市民公開講座（市広報誌申込期限日）

- ☆「スマホ・タブレット」と「記紀神話・前編」－4 月 25 日、
- ☆「メンタルヘルス」と「初級簿記」－7 月 25 日、
- ☆「近代東アジア」、「外山脩造」、「記紀神話・後編」－8 月 25 日

以上整理すると、次表（平成 28 年度広報計画一覧）の通り。

講座等	開始月	市広報誌		情報便		印刷 依頼
		刊行月	申込	配布日	持込	
スマホ・タブレット	6月	6月号	4月25日			
記紀神話・前編	6月	6月号	4月25日			
創業セミナー(女性向け)	7月	7月号	5月25日			
イノベ(商品企画、事業承継)	9月	9月号	7月25日	8月15・16日	8月10日	7月末
メンタルヘルス	9月	9月号	7月25日			
初級簿記	9月	9月号	7月25日			
近代東アジア	10月	10月号	8月25日			
悠久山シンポ	10月29・30日	10月号	8月25日			
外山脩造	11月	10月号	8月25日			
記紀神話・後編	11月	10月号	8月25日			
地研シンポ	11月18日	11月号	9月25日			
イノベ(管理会計、新規事業)	12月	11月号	9月25日	10月15・16日	10月10日	10月末
創業セミナー(一般・シニア向け)	1月	1月号	11月25日			
悠久山東山フォーラム	3月	2月号	11月25日			

(5) まとめ—成果と課題—

まず第1に、COC 4年目を経て、本COC事業に関する広報の方法がさらに充実してきたと言えること。「イノベ講座等広報計画について（メモ）」に明らかのように、既存の広報媒体を有効に活用することにより、集客力を高める工夫がなされている。当然、この広報時期に合わせて、案内チラシ等を作成する必要がある。今後、さらにつめる必要があろう。

第2に、広報の分野・性格が次の7つにかたまってきたおり、その評価が必要なこと。

- (a) 諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信・・・学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。
- (b) COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行・・・月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。
- (c) 事業案内パネルの展示・・・学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。
- (d) 各事業内容ブックレットの発行・・・各事業の詳細を知っていただく。
- (e) センター年報と本事業報告書の刊行・・・事業全体の詳細を知っていただく。
- (f) 新聞等マスコミ広告・・・一般市民に事業を知っていただく。

今年度の上記の活動をみると、(c)、(d)、(f)は必ずしも十分とは言えない結果であったと言わざるをえない。

第3に、(f)についてはより考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その意味では、「十分杯プロジェクト」(長岡市)、「高橋九郎翁生誕 165周年 記念シンポジウム」(長岡市神谷)、「ハロウィンみつけ」(見附市)などの実施や参画による地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価され、地域の活性化に役立っていることの要因をきちんと把握しなくてはならない。多くのCOC事業をこれにならって、メディアに紹介していただくように充実させることに注力する必要がある。地方創生事業が始まっているので、次年度以降は、より一層こうした地域活性化に資する事業展開をめざしたい。

図表 7-18-1 新学長 村山光博（平成 28 年 4 月 1 日就任）の記者会見

日 時：平成 28 年 3 月 30 日（水） 会場：長岡大学第 4 会議室
 参 加：朝日新聞長岡支局、毎日新聞長岡支局、新潟日報長岡支社、長岡新聞、
 エヌ・シィ・ティ（日本経済新聞より後日、資料請求あり）
 資 料：1. 長岡大学 第 4 代学長就任（学長、副学長の経歴等）
 2. 学長就任にあたって
 3. COC+（プラス）事業により地方創生への貢献をめざす



図表 7-18-2 平成 28 年度 COC 事業関連のメディアへの掲載（2017 年 1 月末時点）

掲載日	メディア	内容
17. 01. 27	新潟日報	本学地域連携研究センターが企画した起業のノウハウを学ぶ「創業セミナー」（全 5 回）が始まったことについて掲載されました。
17. 01. 14	新潟日報	特集「私の初夢 2017」で本学松本和明教授の 2017 年の長岡づくりについてのコメントが掲載されました。
16. 12. 19	新潟日報	本学西俣先子准教授とゼミの学生 6 人が上越地域でかつて盛んだった麻栽培の歴史を学ぶため、旧麻問屋を訪問したことについて掲載されました。
16. 12. 08	新潟日報	平成 28 年度学生による地域活性化プログラム成果発表会が行われたことについて掲載されました。
16. 11. 17	長岡新聞	越路もみじまつりにあわせて本学地域連携研究センターと越路観光協会の共催でもみじ園を造成した長岡市神谷の高橋九郎についてシンポジウムを開催し、松本和明教授が講演。パネルディスカッションでは松本教授と高橋ゼミナールの今井練さんが参加し議論を深めたことについて掲載されました。
16. 11. 16	新潟日報	新しい地域ブランドの創造を目指し、新商品やサービスの案を募る「NIIGATA ビジネスアイデアコンテスト」の学生部門最終選考が行われ、本学権ゼミナール十分杯チームが第四銀行賞に選ばれたことについて掲載されました。
16. 11. 11	新潟日報	長岡大学地域連携研究センターシンポジウム「ボランティア活動で人の輪（和）をつくろう！」のご案内について掲載されました。
16. 11. 07	新潟日報	本学小松ゼミの学生と県米菓工業協同組合の丸山智理事長との座談会の様子が掲載されました。

掲載日	メディア	内容
16. 10. 28	新潟日報	長岡市栃尾地域出身で、アサヒビールなどの創立に貢献した外山脩造の没後 100 年を記念したシンポジウムが栃尾産業交流センターおりなすで開催され、本学松本和明教授らが意見を交わし、コメントが掲載されました。
16. 10. 20	新潟日報	長岡市小国町横沢の下村集落の集会施設に増築された多目的ルーム「いっぷく処」について紹介され、本学地域交流サークルが集落を盛り立てようと出入りしていることについて掲載されました。
16. 09. 08	新潟日報	長岡市と本学が連携して行う地方創生事業「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」のご案内について掲載されました。
16. 08. 30	新潟日報	大学生が事業計画作りを学ぶ講座「起業家塾」が本学で開催され、3 年生の小林拓史さんのコメントが掲載されました。
16. 07. 30	新潟日報	「ながおか・若者・しごと機構」が募集する、中高生が起業から会社の解散までを体験する「会社経営チャレンジ・プログラム」についてのご案内が掲載されました。 (運営事務局 長岡大学)
16. 07. 14	長岡新聞	7 月 7 日の「ボランティア論」の授業で、損保ジャパン日本興亜 (株) から 17 人を講師として招き、特別講義として「防災ジャパンダプロジェクト」が実施されました。担当教員の米山宗久准教授と中国の留学生ジョカンさんのコメントが掲載。
16. 07. 14	新潟日報	7 月 7 日の「ボランティア論」(担当教員 米山宗久) の授業で、災害から身を守るための知識、行動を身につけるワークショップ「防災ジャパンダプロジェクト」が特別講義として実施され、1 年生の片桐慶太さんのコメントが掲載されました。
16. 06. 15	読売新聞	十分杯で地元を盛り上げようと権五景准教授のゼミ生が試飲イベントや市民向けの講座を開いて広報に務めていることについて紹介され、ゼミ長の 4 年中澤司さんのコメントが掲載されました。
16. 06. 11	新潟日報	まちなかキャンパス長岡で「ながおかニュージェネプロジェクト」の 2016 年度初会合が開かれ、本学の小松俊樹教授が事業計画作りをテーマに講演したことについて掲載されました。
16. 05. 28	新潟日報	まちなかキャンパス長岡で「十分杯を広めるアイデア会議」が開かれ、権五景准教授と 4 年生の中澤司さんのコメントが掲載されました。
村山光博学長就任の記者会見関連		
16. 04. 20	日本経済新聞	新学長に就任した村山光博教授が目指す大学運営や地域貢献など考えを語ったことについて掲載されました。
16. 04. 14	長岡新聞	本学の学長に経済経営学部長の村山光博教授が就任し、記者会見を開き、地域に貢献する大学を目指すなど抱負を述べたことについて掲載されました。
16. 04. 04	毎日新聞	本学第 4 代学長に 4 月 1 日付で村山光博教授が就任し、地域に開かれた大学を目指すことなど抱負を語ったことについて掲載されました。
16. 03. 31	朝日新聞	本学の学長に 4 月 1 日付で経済経営学部長の村山光博教授が就任し、記者会見を開いたことについて掲載されました。
16. 03. 31	新潟日報	平成 28 年 4 月 1 日から村山光博学長のもと新体制で大学運営を行うにあたり、本学で記者会見を開いたことについて掲載されました。

図表7-18-3 長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」リーフレット(1)(平成28年4月更新)



文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学は、平成28年度から、文部科学省
**「地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)」**
に参加し、推進します!

現代の「米百俵の精神」の実現をめざして

長岡地域<創造人材>養成プログラム
※<創造人材>とは、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人

大学改革の方向
<創造人材>養成で地域に貢献する大学
— 地域で役に立ち、頼りになる大学 —

★平成25年8月、長岡大学申請の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC (center of community) 事業に採択されました(平成25~29年度)。以来、3年間にわたり、本学は着実に事業を推進してきました。

★平成27年度から、この事業を引継ぐ、文部科学省「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(COC+)(平成27~31年度)が開始され、新潟県では、新潟大学がCOC+大学として選定され、この事業に取組んでいます。長岡大学も、文部科学省の意向と事業実績を踏まえて、平成28年度から、COC+大学として事業に参加いたします。

★COC+事業とは、<「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとつて魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することと、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的と(文部科学省)としています。

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します!
長岡大学 第4代学長 村山 光博

長岡大学の建学の精神
■ 幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
■ 地域社会に貢献し得る人材の育成

平成28年4月
長岡大学
連絡先 長岡大学地域連携研究センター TEL.0258-39-1600代
U R L <http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>
E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

推進・評価体制(PDCA方式)

長岡大学 地(知)の拠点整備事業推進協議会・地域課題調整部会

教育

地域連携型
キャリア教育

研究

地域課題対応型
連携研究

社会貢献

地域活性化・
人材育成

1 産業活性化
(産業の活性化による
地域経済の発展)
長岡地域の企業・産業の競争力の向上
による、就業機会の維持・拡大、産業空
洞化回避が不可欠。同時に、創業・起業
活性化による新産業育成が地域経済発
展の鍵、産官学連携で推進する。

2 市民協働による社会課題解決
(少子高齢化・環境問題等の
社会課題の解決)
高齢社会の進展に伴う健康、医療、福祉の問題、
教育・文化、国際交流の促進、さらに深化する環
境問題など、多様な社会課題の解決への取組
みが不可欠。行政と連携した市民協働(ボラン
ティア活動等)による対応が不可欠である。

3 地域・コミュニティ活性化
(地域社会の喫緊の課題)
少子高齢化の進行による地域・コミュニティの人口減少
(過疎化)傾向が拡大し、活力が劣化。長岡市内の各地
域・コミュニティの活性化が大きな課題。里山地域から中
山間地まで、<脱疎遠・新しい活性化>を市民協働の牽
引・拡大、ボランティア人材の養成により、活性化を推進
する必要がある。

諸専門能力の養成(上級情報・専門資格)

地域学修科目の拡大

地域学修科目におけるボランティア・スキル、社会人基礎力等の養成

学生起業人材の養成(学生起業家)

地域への研究成果の還元
(創造人材/人口減少/ボランティア活動/産業競争力研究)

地域との共同研究(個人共同研究含む)

地域活性化の推進(コミュニティ・中山間地活性化)

市民講座・企業人セミナーの開催(地域づくり・イノベーション人材養成)

地域起業人材の養成(女性、シニア起業家等)

<創造人材>養成で地域に貢献する大学(地域で役に立ち、頼りになる大学)

図表7-18-3 長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」リーフレット(2)(平成28年4月更新)

文部科学省 地(知)の拠点

主な取組事業① 教育

・実績は、長岡大学ホームページ
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>を参照されたい
 ・印刷物ベースの教育分野の実績は、長岡大学COC事業の「平成25年度報告書」、「平成26年度報告書」、「平成27年度報告書」の「Ⅲ<教育>における事業展開」また、個別の成果物としては、各年度の「学生による地域活性化プログラム活動報告書」や各取組のブックレットなどを参照されたい。

地域連携型キャリア教育

- ①卒業生の60%が上級専門資格取得者(情報・専門資格)実社会で使える専門能力取得。情報系=Excel、Wordの1・2級など、専門系=日商簿記1・2級、販売士1・2級等。
- ②地域の学びを一層拡大
地域学修科目=キャリア科目と位置づけ、現状から拡大する(23科目~33科目へ)。
- ③卒業生の80%がボランティア人=地域の市民協働の担い手
ボランティア体験、Eおよびサークル活動等で、ボランティア活動に積極参加し(ポイント制)、ボランティア・スキルを磨き、ボランティア人・ボランティアリーダーを養成。
- ④地域で毎年100名の学生起業人材を養成
夏季集中の起業家塾(ビジネスプラン講座、3大学単位互換科目)を連年型にグレードアップし、長岡地域で毎年100名の学生起業人材を養成する。勉強会、8月集中、9月県コンテスト応募、3大学1高専学生中心。



高橋ゼミ: Eポート



学生による地域活性化プログラム

※本事業の成果物(報告書・ブックレットなど)につきましてはご連絡下さい。

主な取組事業② 研究

・実績は、長岡大学ホームページ
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>を参照されたい
 ・印刷物ベースの研究分野の実績は、長岡大学COC事業の「平成25年度報告書」、「平成26年度報告書」、「平成27年度報告書」の「Ⅲ<研究>における事業展開」また、個別の成果物としては、各年度の「地域連携研究」や各地域志向教育研究のブックレットなどを参照されたい。

地域課題対応型連携研究

- ⑤地域への研究成果の還元
次の4つの地域課題研究(共同研究)を行い、地域還元を行う。
 - ★長岡地域産業(製造業等)競争力に関する調査研究
企業の競争力の現状を把握し、グローバル経済下の競争に勝つ方策(人材・技術・商品開発・地域産品の販路等)を提言。
 - ★長岡地域<創造人材>に関する調査研究
長岡地域の専門人材の存在と活躍状況を調査、育成方策を提言する。
 - ★少子高齢化・人口減少に関する調査研究
地区別人口動向将来推計と効果、アクションを実施し、対応策・活性化方策(交流人口含む)を提言する。
 - ★ボランティア活動に関する調査研究
市民協働の柱であるボランティア組織・活動の現状を把握し、今後の活躍の方向性・方策を提言する。
- ⑥地域との共同研究
上記の研究に加えて、教員の地域志向教育研究を毎年6件程度実施(例えば、自治体環境報告書の分析、地域の中小企業業績計画、公共施設の老朽対応等)、地域還元する。



ブックレット



シンポジウム

<連絡先>長岡大学地域連携研究センター TEL.0258-39-1600(代) FAX.0258-39-9566

主な取組事業③ 社会貢献

・実績は、長岡大学ホームページ
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>を参照されたい
 ・印刷物ベースの社会貢献分野の実績は、長岡大学COC事業の「平成25年度報告書」、「平成26年度報告書」、「平成27年度報告書」の「Ⅳ<社会貢献>における事業展開」また、個別の成果物としては、地域活性化・人材育成

地域活性化・人材育成

- ⑦地域活性化の推進(コミュニティ・中山間地活性化)
 - ・学生の地域活性化関連プロジェクトと連携して、悠久山地区・東山地区の活性化、長岡市・地域活性化団体との連携、市内他地域(山古志、栃尾地区等)の活性化策を推進する(「地域活性化研究会」設置)。
- ⑧まちづくりを推進する市民公開講座を開催(まちなかキャンパス)企業競争力を支えるイノベーション人材を養成
 - ・長岡市民のニーズに対応し、まちづくりを推進する市民公開講座を「まちなかキャンパス」で開催する(まちづくり・ボランティア講座を積極的に開設)。
 - ・地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的とした、企業対象のイノベーション人材養成講座を開講する。新事業構想、商品企画、農工商連携、事業承継、ものづくりマネジメント、戦略経営、起業家育成、政策づくり(初級、上級)コースなど。
- ⑨毎年、5名の起業家を輩出(ハイテク、女性、シニア起業家等)
 - ・長岡市、長岡商工会議所等と連携し、社会人起業家を育成する常設の「長岡起業家塾」を開設。ハイテク、女性、シニア、ソーシャルビジネスも含めたビジネスプラン作成講座とする。夜間、年2回(5~7月、10~12月)開講。日常的な起業相談・指導、小・中・高



おもひでMAP
(左: 格言、右: 悠久山)



東山フォーラム

<連絡先>長岡大学地域連携研究センター TEL.0258-39-1600(代) FAX.0258-39-9566

図表7-18-4 学生の活動リーフレット「長岡大学 インターンシップ」(1)
(平成28年8月作成)

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学は、平成28年度から、文部科学省「**地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)**」に参加し、推進しています！

現代の「米百俵の精神」の実現をめざして

事業名称 長岡地域<創造人材>養成プログラム

大学の方向 <創造人材>養成で地域に貢献する大学
— 地域で役に立ち、頼りになる大学 —

長岡大学インターンシップ

平成28年度インターンシップ・マッチングフェアは大成功!

平成28年度の「インターンシップ・マッチングフェア」(新潟大学を中心に長岡大学も参加して開催したCOC+事業)が、5月14日(土曜日、於:長岡商工会議所)と5月21日(土曜日、於:新潟日報メディアシップ)に開催されました。フェアは大成功でした。

長岡大学の学生は、74%(マッチングフェア参加者34人/インターンシップ履修希望者46人)がフェアに参加し、そのうちの74%(履修決定者25人/マッチングフェア参加者34人)がインターンシップに参加することを決めました。フェアに参加しなかった学生も含めて、合計35人、76%(インターンシップ参加者35人/インターンシップ履修希望者46人)の学生がインターンシップに参加することになりました。



平成28年度インターンシップ・マッチングフェア

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します！

長岡大学 第4代学長 村山 光博

長岡大学の建学の精神

■幅広い職業人としての人づくりと其学実践教育の推進
■地域社会に貢献し得る人材の育成

平成28年8月 連絡先 長岡大学地域連携研究センター
/ 教職支援室 / 教務学生課
TEL.0258-39-1600ℙ FAX.0258-33-8792
URL http://www.nagaokauniv.ac.jp/
E-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

**COC+事業：インターンシップ・フォーラム
/ マatchingフェアから地方創生へ**

★平成26年度新潟インターンシップ・フォーラム (平成27年3月4日)
地域活性化プログラム「十分杯で長岡を盛り上げよう」 権五郎セミナー

平成27年3月4日、新潟日報メディアシップフォーラムが開かれ、県内10大学、短大の学生がインターンシップ(就業体験)やボランティア活動の成果を発表しました。本学からは「十分杯で長岡を盛り上げよう」テーマで権五郎セミナーの学生3名が発表を行いました。平成26年10月に開催した「十分杯会議」で学生たちが提案した事の中から、JR東日本の観光列車「越乃Shu'Kura」とのコラボレーションが実現したこと等が紹介されました。

★平成27年度インターンシップ・フォーラム・長岡会場 (平成28年3月10日)
地域活性化プログラム
[NPO法人長岡産業活性化協会NAZEのホームページ改善提案]
村山光博セミナー

平成28年3月10日、アオレ長岡市民交流ホールで「インターンシップフォーラム長岡」が開催され、県内5大学の学生がインターンシップ(就業体験)の活動内容を発表しました。本学からは、「NPO法人長岡産業活性化協会NAZEのホームページ改善案」の策定のテーマで村山セミナーの学生3名が発表を行いました。フォーラム終了後に行われた学生交流会に参加した学生からは、「他大学のインターンシップのの様子を知ることができて良かった」と感想が寄せられました。

★平成28年度インターンシップ・マッチングフェア
(平成28年5月14日、21日)

COC+事業として、平成28年度の<インターンシップ・マッチングフェア>が、5月14日(土)、21日(土)の両日、長岡(長岡商工会議所)と新潟(新潟日報社メディアシップ)で、開催されました。午前中はマンナー講座が開催され、午後にはインターンシップ受入企業等(長岡会場30社、新潟会場38社)と参加学生の間で、内容説明・質問・相談が行われました。

本学からは、長岡会場に26名、新潟会場に11名の学生が参加し、熱心な質疑応答のなかで、「新たな企業の情報がわかり、興味のある企業を発見できて、参加してよかったです」の意欲に満ちた感想が寄せられました。このマッチングフェアの成果は表紙をご覧ください。

インターンシップの成果・効果

★平成27年度インターンシップ成果発表会
平成26年度から、インターンシップの成果発表会を開催しています。

平成27年度は、平成27年11月18日に、「平成27年度長岡大学インターンシップ成果発表会」を開催しました。「インターンシップ」を履修する3年生20名と平成27年度新設された「現場体験プログラム」を履修する2年生2名が、4月から卒業研究、研修課題の設定、研修先との調整に取り組み、夏休み中の10日間の実地研修を経て、その成果を修了レポートにまとめ上げたものです。発表した学生は、研修を通して得た新しい発見や体験から身についた社会人基礎力、そして今後の課題について堂々と発表していました。厳正な審査を経て、最優秀賞1名、優秀賞2名が決まり、村山学部長より表彰状が授与されました。

- *最優秀賞 人間経営学科3年 中澤 司
- *優秀賞 人間経営学科3年 山田 里津子
- *優秀賞 人間経営学科3年 ベレンレイ ポロエルテネ
- *審査委員 村山 光博(学部長)、小坂 俊樹(教授)、品川 十英(事務局長)

★平成27年度現場体験プログラムスタート

平成27年度から、課題解決型インターンシップとして「現場体験プログラム」(2年生対象、1単位)がスタートしました。平成27年度は、株式会社美奈で「<美奈のお菓子づくり>(新商品開発)」に2名が参加しました。8月8日~11月1日まで6日間の研修で商品立案、広報、販売を課題として取り組みました。

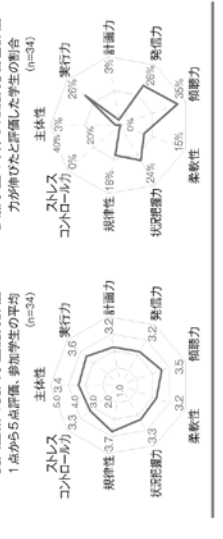
売り場の条件や保存方法などを考慮し、グループで考案した商品を生産して製造してもらい、試食、改善を重ねました。販売のためのポップ広告を作り、美奈大手店とカトウ専科本店の2店舗に分かれて商品を販売しました。目標金額の10万円を大幅に超え、約15万円という売上を達成することができました。

アイデアを絞り出し、そのアイデアを商品にするための大変さを実感しました。

★インターンシップの成果・効果

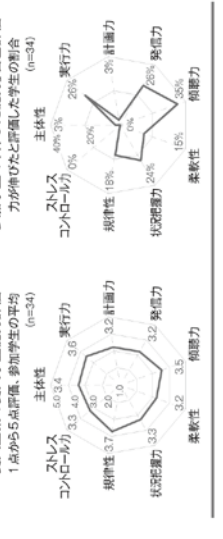
平成27年度のインターンシップ受入企業の受入学生能力評価、参加学生の「伸びた能力」自己評価は、下の図のような成果・効果を示しています。インターンシップ参加学生は4年生前期(9月)までに、全員就職内定を得ています。

<受入企業の受入学生能力評価>
1点から5点評価、参加学生の平均



項目	平均値
主体性	3.4
実行力	3.6
計画力	3.2
柔軟性	3.5
傾聴力	3.2
発声力	3.3
状況理解力	3.2
規律性	3.7
ストレス	5.0
コミュニケーション	3.3

<参加学生の「伸びた能力」自己評価>
力が伸びたと評価した学生の割合



項目	割合
主体性	67%
実行力	26%
計画力	3%
柔軟性	25%
傾聴力	55%
発声力	25%
状況理解力	24%
規律性	18%
コミュニケーション	0%
ストレス	40%

図表7-18-4 学生の活動リーフレット「長岡大学 インターンシップ」(2)
(平成28年8月作成)

長岡大学インターンシップの目的・科目群

① インターンシップの目的・タイプ

- ・目的…学生が自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等に就業体験することで、より実践的な学習への意欲と、主体的な職業選択能力を養成すること。
- ・タイプ…就業体験(集中して、5日、10日間就業体験を行う)と課題解決型(企業等からの課題に取組み改善・解決策を提案する)の2つのタイプがあります。

② 2つのインターンシップ — 狭義のインターンシップ —

- 長岡大学のインターンシップ科目は、次の2科目です。
- ★「インターンシップ」…3年生対象、選択科目、2単位(90時間、8～9月の夏休み中に実施)。この科目は、研修先機関等で、10日間(2週間)の就業体験を行う<就業体験型インターンシップ>で行う。この科目は、平成15年度から開講されています。
 - ★「現場体験プログラム」…2年生対象、選択科目、1単位(45時間)。この科目は、研修先機関等から課題を出してもらいその解決策等を提案する<課題解決型インターンシップ>です。平成27年度から開始しました。



③ 広義のインターンシップ

- 上記の2科目以外に、本学には次の4つの体験型・課題解決型の科目があります。合わせて広義のインターンシップ科目群と言えます。
- ★「ボランティア論」「ボランティア体験」…1年生対象、選択科目、各2単位。ボランティア活動を理論と実践・体験(夏休み中に実施)を行う科目です。インターンシップと同じ体験型の科目です。
 - ★「起業家塾」…2年生対象、選択科目、2単位。夏休み前に4日間の集中授業として、ビジネスプランづくりを行い、審査員の前でプレゼンテーションを行い、表彰する。起業家教育授業です。
 - ★「地域活性化プログラム」…3～4年生対象(2年生も可)、ゼミは必修、各学年2単位。地域(産業)課題を取上げ、その調査・分析等を行い、解決策等をアドバイザーの支援を受けながら、提案・実践する体験型・課題解決型プログラムです。成果発表会で、市民に成果発表を行います。



起業家塾
地域活性化プログラム
「10分枠で疑問を盛り上げよう!」

長岡大学インターンシップの仕組み

- 【履修登録】 毎年、4月に<履修登録>を行う
- 【研修先企業・機関選定】 4～6月に、<インターンシップ・マッチングフェア>への参加等により、インターンシップ先企業・機関を決める(追加選定登録あり)
- 【インターンシップ準備】 4～6月に、インターンシップ準備として、<研修先企業研究・研修課題、研修課題、ビジネスマナー>等事前学習を行う
- 【研修先事前訪問】 7～8月に、事前挨拶・打合せを兼ねて、研修先企業・機関に<事前訪問>を行う
- 【インターンシップ】 8～9月に、<インターンシップ>(集中型就業体験、研修日誌をつける)を行う。但し、課題解決型の場合は別途日程で行われる場合が多い
- 【終了レポート/成果発表】 10～11月に、<終了レポート作成・成果発表会での成果発表>を行う。成果発表会で、表彰あり。

*なお、インターンシップ実施に関する単位の換算(研修先と大学期)、留約書(大学、研修先に対して学生が提出する遵守事項)の提出を行う。また、成績評価は、終了レポートや研修先企業・機関による評価書(社会人基礎力の評価)を助案して担当教員が行う。

研修先企業研究シート



長岡大学インターンシップの実績

★インターンシップ参加実績(平成28年度)
一狭義のインターンシップ参加率は30%—
長岡大学の「インターンシップ」(3年生対象選択科目、2単位)≒狭義のインターンシップは、平成15(2003)年に始まり、現在まで継続開講している。インターンシップ参加率(インターンシップ履修学生数/3年生在籍者数)は、40～50%と非常に高い時期もあったが、ここ数年間は、毎年30%程度で推移している。図表は、平成28年度の3年生のインターンシップ参加状況を整理したものである。

図表 平成28年度インターンシップ参加状況(3年生)

業種	事業所数	構成比	学生数	構成比
製造業等	8	25.8%	12	27.3%
卸・小売業	7	22.0%	12	27.3%
サービス業	7	22.0%	6	13.6%
金融業	1	3.2%	1	2.3%
医療福祉	1	3.2%	1	2.3%
J A	2	6.5%	5	11.4%
経済団体	1	3.2%	1	2.3%
N P O 法人	1	3.2%	1	2.3%
公務	3	9.7%	5	11.4%
計	31	100.0%	44	100.0%

*3年生実参加者数26人、参加率29.6%(3年生数=分母:88人)*学生数計は延べ数

★主なインターンシップ先企業等

一参加業種は製造、卸・小売、サービスが中心—
経済経営系の長岡大学学生のインターンシップ参加(受入)業種は、図表のように、製造、卸・小売、サービスの3業種が多くなっている。その参加・研修先企業等は、以下のように通っている。これは、平成28年度の実績であり、毎年、参加・研修先企業等は変化している。

平成28年度インターンシップ参加(受入)企業等(3年生)

製造業等 正清製菓、越後製菓、サンカ、ナヲム、久保誠電気、サンシン、美松、小柳建設 卸・小売業 アクシアル・リテイリング、ドラッグトップス、レオハス21、スキズ自販所、バーブル金属、三越伊勢丹、タシメント サービス業 ホテルニューオー二長岡、ホテル清風苑、長岡グランドホテル、マナーズ、上記観光開発、NCT、グローバルマーケティング 金融業 第四銀行 医療福祉 まちだ園 J A J A 越後ながわか、JA柏崎 経済団体 長岡商工会議所 N P O 法人 グリーンツーリズムとやま 公務 長岡市役所、村上市役所、三条市役所 (以上31社・機関)

★広義のインターンシップ参加状況

一狭義・広義インターンシップ参加率は約60%—
狭義(就業体験型)に加えて、広義(課題解決型)のインターンシップへの参加状況を見てみる。平成28年度3年生の地域活性化プログラム参加者は35人(8ゼミ)であり、インターンシップと地域活性化プログラムの参加者(重複合計)は61人にのぼる。両科目履修者の重複を除くと、両科目の実参加者は50人となる。3年生の狭義・広義インターンシップ参加率は56.8%(50/88)、約60%となる。上記の狭義のインターンシップ(30%)の倍となる。

図表 7-18-5 学生の活動リーフレット「長岡大学 就職支援」(1) (平成28年10月作成)

文部科学省 地(知)の拠点

長岡大学は、平成28年度から、文部科学省
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCC+)」
に参加し、推進しています！

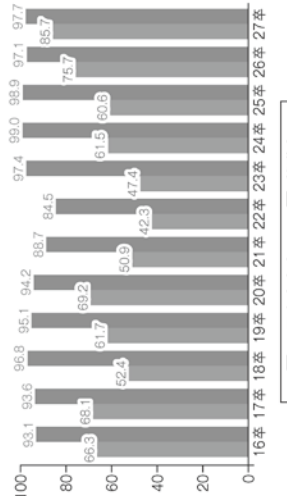
現代の「米百盛の精神」の実現をめざして

事業名称 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
大学の方向 ＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学
― 地域で役に立ち、頼りになる大学 ―

長岡大学 就職支援

長岡大学卒業生の就職率は、5年連続、97%以上を達成！

平成27年度(平成28年3月卒業)の長岡大学卒業生の就職率(卒業生就職者数・就職希望卒業生数)は、97.7%でした。ここ5年間連続して、97%以上の就職率を達成しています。また、4年生前期(9月末まで)で、80%が内定を得ています。後期から、卒業論文仕上げなどを十分できる余裕のある内定状況です。



年度	9月末内定率	就職率
16年	83.1	93.6
17年	66.3	96.8
18年	68.1	95.1
19年	61.7	94.2
20年	52.4	98.7
21年	50.9	98.9
22年	47.4	97.1
23年	42.3	97.1
24年	47.4	97.1
25年	47.4	97.1
26年	47.4	97.1
27年	47.4	97.1

★長岡大学は、「地域で役に立つ大学」として、地方創生に貢献します。
長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の建学の精神
■幅広い職業人としてのふくらみと実践教育の推進
■地域社会に貢献し得る人材の育成

平成28年10月
連絡先 長岡大学就職支援室／教務学生課
TEL.0258-39-1600(内) FAX.0258-33-8792
URL http://www.nagaoka-u.ac.jp/
E-mail shushoku@nagaoka-u.ac.jp

就職活動は就職支援室から

＜就職支援室は次の4つを基本にしています！＞

- ・ワンストップで充実……就活の重要部分が支援室内で完結できます。
- ・学生に合った支援・指導……少数ならではのきめ細かなサポートで支援します。
- ・ホットな情報提供……企業で活躍している多くの先輩を紹介し、選択の幅を広げます。
- ・先輩の紹介……企業で活躍している多くの先輩を紹介し、選択の幅を広げます。

＜就職支援室は3つの【場】を提供します！＞

第1：相談の場……
就職支援室の職員や外部カウンセラーが就職についての相談や指導を行います。

・就活の仕方、フロー、応募等のアドバイス。
・内定をもらった後の入社前の不安や疑問点についてでもサポート。

・卒業後のOB・OGからの相談。

第2：情報収集の場……
求人票や書籍としてインターネットなど通常の情報だけでなく、定期的な企業訪問などによる鮮度の高い企業情報や活躍している先輩方の状況も提供します。

・求人に関する情報収集
(新卒求人票、学校推知求人など)
・イベントに関する情報収集(合脱、会社説明会、学内セミナー、学内選考会など)
・企業概要や企業情報リサーチ(会社概要資料、企業フェア、企業OB・OGの声)
・試験情報のリサーチ(過去問題のファイリング、OB情報、企業訪問などによる情報)

第3：試験対策の場……
試験の後に面接試験となり、それらの試験対策を徹底的に指導いたします。

- ・履歴書などの作成指導と添削。
- ・筆記試験対策(参考書閲覧、過去問題や想定問題の提供、論文対策など)
- ・面接練習(マナー・話し方、身だしなみ、模擬面接、過去質問など)



就職支援室はいつでもオープンです。
気軽に来て下さい。


就職支援室のモットー(学生ファースト)

就職支援室は、＜学生ファースト＞をモットーに、次の3つの点＝信頼関係づくりに入れて、学生支援に取り組んでいます。


★学生との信頼関係づくり★
就職支援室では学生1人1人の顔と名前が一致します。学生との面談や相談をする中で就職に関することだけでなく、適性を含め、考え方や悩みを把握して、就職活動方法を提供します。例えば、面接でのアピール力が不足していると感じたら、徹底的に面接対策を実施し、それらを鍛えます。
学生1人1人と真剣に向き合い信頼関係を築くことで、首尾よく内定を勝ち取れるよう、学生本人が納得いくまで、支援します。

★企業との信頼関係づくり★
企業への定期訪問(情報収集)や新卒訪問(開拓・紹介)を中心しつつ、応募挨拶、内定御礼など長岡大学ならではの様々な場面に対応した企業訪問を行っています。
ONLY(本校だけの)、NEW(鮮度ある)、FAST(いち早く)、SPECIAL(特別な)を意識して、企業訪問を行い、企業の立場になって、そのニーズに合った学生を推薦しているため、企業リユージョンの助けにもなっていると感じています。
継続的な採用や、多くの企業からお声掛けを頂けるよう、今後もより一層力をいれて、企業との信頼関係づくりを行います。

★マッチングによる信頼関係づくり★
卒業後、様々な理由から早期に退職してしまう若者が多く、新卒生の約3割が入社3年以内に離職していることが社会問題となっています。そこで長岡大学では、入社後のミスマッチを失くすためマッチングに力を入れて取り組んでいます。
学生の平面的な情報(HP、求人票)をより立体的に(社風・人柄・雰囲気など)説明し、職場が学生の希望に沿っているかをじっくりと話し合っています。マッチングを的確に行うことで、学生・企業間だけでなく、企業と本学の信頼関係もより深まると思っています。



平成25年入職 農業協同組合 総合職



平成27年入社 自動車販売業 営業職

＜活躍する卒業生＞

長岡大学 就職支援室

連絡先 長岡大学就職支援室 TEL.0258-39-1607(直通)

図表7-18-5 学生の活動リーフレット「長岡大学 就職支援」(2) (平成28年10月作成)

長岡大学の就職支援の進め方

<ゼミ教員ー就職支援室の連携で就職支援>
長岡大学の就職支援は、就職支援室が3・4年ゼミ(必修)(必修)担当教員と連携しつつ、4つの支援(就活前支援、就活支援、入社前支援、入社後支援)を行っています。

<就活前支援(1~3年次2月まで)>
学生7ゼミ担当教員が行う「マンツーマン面談」での情報や、学生が自ら記入する「就職支援カード」の情報をベースに学生全員と支援室が面談します。

<就活支援(3年次3月~)>
就職面接前対策や書類作成指導などを実施し、早期活動を促し多くの企業を幅広く網羅するまで活動してもらうために全力でサポートします。職員の企業訪問による独自の求人紹介や説明会開催等、積極的に実施します。

<入社前支援(4年次1月~卒業まで)>
内定後の不安を解消すべく学生との面談を実施します。社会人としての基礎マナーを身に付けさせ、入社に向けて心身ともに万全の体制で備えられるようフォローしていきます。

<入社後支援>
入社後のミスマッチや将来への不安、仕事の悩みを抱えている卒業生への支援も実施しています。止むを得ず離職してしまった場合でも、要望があれば再就職支援を行います。

<学内合同企業セミナー>
<面接対策講座>

POINT
「卒業生支援」も長岡大学の強みです!

入社後の卒業生や企業に対し、きめ細やかなサポートを行っていることも長岡大学の強みです。就職先企業への定期的訪問により、卒業生の就業状況を把握することも行っています。卒業生から直接相談を受けることで、離職者数の削減に努めています。止むを得ず離職してしまった卒業生に対しては、在校生同様のサポートを行っています。

長岡大学のキャリア教育

<就職支援の仕組み>
★長岡大学の教育は、学力(資格取得)十能力(社会人基礎力等)十学力(大学生の実力)養成に重点をあてて展開しています。
★長岡大学は、社会人基礎力養成教育(ホランティア体験、起業家塾、現場体験プログラム、インターンシップ、地域活性化プログラム)に加えて、キャリア教育(キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ)に取り組み、学生の就職力形成に力を入れております。
★就職活動の準備(自己紹介書作成等就職活動に必要なノウハウ)ハウツー型就職力形成は、3年生のキャリア開発Ⅲ(通年科目)で行い、3年生の学年末3月から本格的な就職活動に入ります。4年生への進路後の4月から内々定を得る学生が出てきます。

講義	1年次(後期)	2年次	3年次	4年次
キャリア開発Ⅰ	キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅳ	地域活性化プログラム
キャリア開発Ⅱ	キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅳ	地域活性化プログラム
キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅳ	地域活性化プログラム
キャリア開発Ⅳ	キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅱ	キャリア開発Ⅲ	キャリア開発Ⅳ	地域活性化プログラム

就職活動期

★ 面接指導
★ 個別指導・相談
★ 面接練習・エントリーシート
★ エントリー
★ 合同企業説明会、会社見学会
★ 採用試験
★ 内定

<社会人基礎力養成>
★起業家塾…起業家塾(2年生)は、夏季集中授業で、新しいビジネスプラン(事業計画)づくりを行い、学外のコンテストに応募して、受賞をめざします。創造力、計画力が養成されます。
★現場体験プログラム/インターンシップ…現場体験プログラム(2年生)は、課題解決型、インターンシップ(3年生)は就業体験型(10日間のインターンシップ)です。
★地域活性化プログラム…3・4年ゼミ(必修)を中心に、課題解決・提案・実践を行うプログラムです。毎年、7~8ゼミが行っています。
卒業生のインターンシップ(現場体験プログラム、インターンシップ、地域活性化プログラム)参加者は卒業生の60%を超え、社会人基礎力が身に付きます。

<キャリア教育>
★キャリア開発Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(必修)…キャリア開発Ⅰ(1年生)は、キャリア形成の考え方や、キャリア開発Ⅱ(2年生)では、企業研究やビジネスマナー等を学びます。そして、キャリア開発Ⅲ(3年生)では、就職活動に直接役立つノウハウ(企業研究、自己紹介書作成、ビジネスマナー、スピーチ、ディスカッション等)を実践的に、学び、身に着けます。

平成28年度 インターンシップの様子

長岡大学就職支援の方針・目標・実績

<方針>
★長岡大学は、学生が自ら望む仕事に就き、卒業後も活躍できる人材を輩出することをめざします。
★次の5つの支援を全力で行っています。
①キャリア教育の支援…社会人基礎力養成を促進し、低学年から就職意識の向上を図る
②マッチング支援…学生(属性・志向)と企業(特性)との最適なマッチングを支援する
③優良企業等への就職支援…学生が望む優良企業、公務員等への就職支援を強化する
④留学生への支援…留学生の就業意欲の向上に努め、日本での就職支援を強化する
⑤卒業生への支援…卒業生の早期離職防止、離職卒業生の再就職支援を行う

<目標>
★就職率…100%(就職者数/卒業生の就職希望者数)達成
★内定時期…4年生前期(9月末まで)に、内定率80%達成

<就職実績>
★製造業、卸・小売業(流通)、サービス業関連の3業種の割合が大きく、職種では、営業職、事務職、製造職の3つが割合を占めています。

平成27年度の就職先業種(割合)

製造業	58%
卸・小売業	31%
サービス業	10%
建設業	4.5%
医療・福祉・運輸業	2%

ここ数年間の主な就職先

第一建設工業株式会社	高松市 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社
株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社
株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社
株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社
株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社	株式会社 高松建設工業株式会社

- 182 -

図表7-18-6 学生の活動リーフレット「長岡大学のサークル活動」(1)
(平成29年2月作成)

写真部



活動日：不定期
活動場所：学内外
部員数：18名
部長名：矢嶋 洋輔

綺麗な風景を見て写真に収める、といった普段の学生生活ではできない体験、活動を得るためのサークルです。私たちと一緒に写真を撮りませんか？
写真部HP <https://nagaokauniv-astly-picture.amebaownd.com/>

軽音部



活動日：不定期
活動場所：部室、ライブハウス
部員数：18名
部長名：榎本 拓真

私たち軽音部は、部室で練習したり、学園内のイベントやライブハウスなどでライブをしています。ライブを通じて他大学の人たちとも仲良くなれますよ。楽器を触ったことなくても音楽が好きなら大歓迎！ Everybody Come on!

アウトドア部



活動日：月1回
活動場所：学内外
部員数：22名
部長名：土田 早穂子

ボランティア活動や野外活動を行っています。全員がバーベキュー検定試験を受験し、日頃のアウトドア活動はもちろん、災害時の炊き出しなどにも役立つ知識や技術を身につけられます。興味がある人はぜひ、入部してください！

学生会執行部



学生会長：小林 拓史 部員数：38名
長岡大学の全ての学生が所属する「学生会」を統括しています。
一年を通じて、各サークルの管理やイベントの企画・運営などの活動をおこなっています。
また、長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学の3大学で合同のイベントを開催し、交流を深めています。

～主な活動内容～
新入生研修、新入生歓迎会、東山スプリングフェスティバル、長岡まつり大民謡流し、悠久祭、3大学合同クリスマス会、球技大会、リーダーズ研修など

悠久祭実行委員会



委員長：小林 拓史 所属人数：35名
平成28年度の悠久祭は、10月29日(出)、30日(日)に開催されます。
今年度は「ETERNAL」をテーマに、日々準備を進めております。皆様、是非、長岡大学悠久祭にお越しください！

●長岡大学サークル一覧

1 学友会執行部	2 悠久祭実行委員会
体育系サークル	
1 男子ソフトボール部	4 バスケケットボール部
2 フットサル部	5 バドミントン部
3 テニス部	
文化系サークル	
1 茶道部	7 ボランティアサークル部
2 軽音部	8 クリエイティブ部
3 写真部	9 販売士検定試験合格研究会
4 麻雀部	10 KFC
5 アウトドア部	11 マナー部
6 地域交流サークルひまわり	12 TRPG部
同好会	
1 卓球同好会	4 そうだ！旅行に行き隊
2 ゲーム部	5 Gastronomy 一真食-
3 ゼンぶ舞のせいで!	

販売士検定試験合格研究会



活動日：毎週火曜日4限(2級)、毎週水曜日4限(3級)
活動場所：ラーニング commons
部員数：9名
部長名：新保 敦弘

リテールマーケティングの資格取得を目的としたサークルです。自主学習では足りない、わからないところを一緒に解決しながら理解を深めます。1級、2級合格を目指し、一緒に勉強しませんか？

地(知)の拠点

文部科学省
長岡大学は、平成28年度から、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加し、推進しています！

平成28年度 長岡大学のサークル活動

サークル活動で学生生活を充実させよう！

長岡大学ではサークル活動への参加を積極的に推奨しています。本学の調査ではサークル活動への参加学生は企業への内定時期が早いというデータも出ています。私たちはサークル活動が社会人基礎力アップに大きく影響すると考えています。
さあ、皆さんはどのサークルに所属し学生生活を充実させますか？




●長岡大学の教育目的●

- 毎日の大学生活で充実感を！
- 能力アップを確かめて達成感を！
- 卒業のとき4年間を振り返り満足感を！

入部や見学を希望される方は下記までご連絡ください。

平成28年10月
長岡大学
お問合せ先 長岡大学 教務学生課 担当:近藤
TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-33-8792
URL <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
E-mail kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp



左: [販売士]リテールマーケティング2級に合格した2年生の江口さん
右: [麻雀部]山城麻雀交流会の様子

図表7-18-6 学生の活動リーフレット「長岡大学のサークル活動」(2)

(平成29年2月作成)

<h3>男子ソフトボール部</h3>  <p>目標はインカレ出場!!!</p>	<p>活動日：毎週火・木(土・日) 活動場所：市営グラウンド、長岡大学体育館 部員数：19名 顧問名：近藤 弘康(教務学生課) 部長名：村木 仰巳(経済経営学部2年、新潟青陵高出身)</p>	<p>平成28年度より大学ソフトボール連盟に加盟し、インカレ出場を目標に活動しています。全体練習日は週2日と恵まれた環境とはいえませんが、授業の空き時間に個人練習を行い、土日には積極的に練習試合を行うことでカバーしています。ソフトボール経験者はもちろん、野球経験者、未経験者も大歓迎です。多くの皆様の入部をお待ちしています!</p>	<p>＝平成28年度の主な戦績＝ 5月 全日本総合男子ソフトボール大会新潟県予選 <1回戦> vsビッグバン(三奈市) ●0-16 1回戦敗退 5月 北信越大学ソフトボール選手権大会 <予選リーグ> vs福井大学 ○18-6 / vs信州大学 ●1-16 <決勝トーナメント> vs金沢大学 ●13-24 第3位入賞 8月 東日本大学ソフトボール選手権大会 <1回戦> vs早稲田大学 ●0-26 1回戦敗退 10月 北信越大学新人ソフトボール選手権大会 出場</p>	
<h3>茶道部</h3>  <p>一緒にお茶の心を学びませんか?</p>	<p>活動日：毎週水曜日 活動場所：和室(長岡大学内) 部員数：13人 顧問名：小川 幸代教授 部長名：林 鉄朗(経済経営学部4年、鹿島学園高出身)</p>	<p>流派は裏千家です。毎週水曜日の午後には先生にお越しいただき、指導を受けています。茶道を通じ、おもてなしの心や日本文化なども学べる場となっています。また、着付けの練習もしています。部員のほとんどが未経験者ですが、先生が優しく丁寧に教えてくださるため、楽しく稽古をすることができます。是非、一度見学にお越しください。</p>	<p>＝平成28年度の主な活動＝ 5月 新入生歓迎茶会 7月 七夕茶会 10月 悠久茶寮(学園祭) 11月 こらほde茶会(新潟県立美術館) 12月 クリスマス茶会 1月 初釜 3月 送別茶会 ※その他、多くのお茶会に参加しています。</p>	
<h3>フットサル部</h3>  <p>フットサルを楽しもう!!!</p>	<p>活動日：毎週水曜日15時～18時 活動場所：長岡大学体育館 部員数：21名 顧問名：丸田 一嗣(入学課) 部長名：土佐 謙太(経済経営学部3年、新潟東高出身)</p>	<p>大学フットサル北信越大会および全国ビーチサッカーに出場するため、毎週水曜日の15時から18時まで体育館で練習しています。初心者から経験者まで部員全員が楽しみながらも一生懸命にフットサルをしています。是非、長岡大学フットサル部に入部してください。きっと楽しい学生生活が待っていますよ!皆様の入部をお待ちしています。いつでも見学可能です!</p>	<p>＝平成28年度の主な戦績＝ 5月 全日本大学フットサル大会新潟県予選 <1回戦> vs新潟大学 ●3-4 1回戦敗退 ※その他、多くの練習試合等を行っています。</p>	

図表7-18-7 学生の活動リーフレット「長岡大学 起業家塾」(1) (平成29年2月作成)

長岡大学「起業家塾」

各ビジネスプランコンテストで最優秀賞等獲得!

★起業家塾について
長岡大学夏期集中講義「起業家塾」は、長岡地域の学生・高校生に参加を呼びかけ、開かれたビジネスプラン作成講座として平成17年度から開講し、参加者はこれまで多くの賞(詳細は中面)を獲得してきました。長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学の単位互換科目でもありです。

★起業家塾の目的について
チームによるビジネスプラン作成と発表を通して、起業家精神、人間力、社会人基礎力を養成することで「社会で生き抜く力」を身につけること。
作成したビジネスプランをさらにブラッシュアップして、ビジネスプランコンテストに応募し、最優秀賞等獲得をめざすこと。
学生ベンチャー企業を起業することで地域活性化に貢献すること。



長岡大学 第4代学長 村山 光博

■幅広い職業人としての人づくりと実践教育の推進
■地域社会に貢献し得る人材の育成

連絡先 長岡大学教務学生課
TEL.0258-39-1600内 FAX.0258-39-9566
URL http://www.nagaokauniv.ac.jp/
E-mail kyoumu-g@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学「起業家塾」発アイデアの諸ビジネスプランコンテスト受賞実績

○長岡市主催「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト(アイ・コイ)」【起業家塾】でのプランをブラッシュアップしたもの
★平成28(2016)年度 優秀賞 古民家de古体験(代表:長岡大学3年 横田 百合江)・写真1
◎優秀賞 れんこんで中之島を元気に!(代表:長岡大学3年 小林 拓史)
優秀賞 20歳1年に限定し日本酒を無料で試飲させる居酒屋(日本酒20)(代表:長岡大学2年 栗原 泰章)
奨励賞 小規模限定のTVCM活用支援事業(代表:長岡大学2年 高橋 広守)
★平成27(2015)年度
◎優秀賞 日本古来の文化を味わえる神社ホテルの運営(代表:長岡大学2年 橋次 梨紗)
◎優秀賞 長岡の情報なら何でもわかるよ、そよ、「ながかなう」ならね。(代表:長岡技術科学大学3年 笠巻 昇太)

○十日町市主催「トオコン」
★平成27(2015)年度 本選出場 扇除けしたっけ?幸せを停ホーレ(代表:長岡大学 中野 紗貴美)
★平成26(2014)年度 本選出場 米粉精進ヒカリ(代表:長岡大学 佐藤 知佳)
★平成25(2013)年度 本選出場 地域密着型イベント事業(代表:長岡大学 志田 尚斗)
★平成23(2011)年度 最優秀賞 着飾りシスの販売-リメイクナー-ビス事業(代表:長岡大学 渡邊 瑞穂)・写真2
★平成22(2010)年度 本選2位 火花を楽しむ男「ゆかた」の提案(代表:長岡大学 伊藤 良樹)

○(公財)にいがた産業創造機構主催「ビジネスグランプリin新潟(NB-1グランプリ)」 ※平成25(2013)年度以降開催
★平成24(2012)年度 県知事賞(最優秀賞) 米粉マヨクロビ食育レストラン事業(代表:長岡大学 石井 麗夢)・写真3
★平成23(2011)年度 県知事賞(最優秀賞) 第二のJF(消費協同組合)(代表:長岡技術科学大学 杉原 隆央) 長岡花火「ミニフェニックス」(代表:長岡大学 廣川 佳苗) イラスト掲載サイトの運営およびイラストグッズの中介販売(代表:長岡工業高等学校 塚原 壮) 奨励賞 防炎コンジエルトジェ(代表:長岡工業高等学校 竜島 尚子)
★平成22(2010)年度 優秀賞 電子デバイスによる新しい名刺の提案(代表:長岡工業高等学校 山藤 廣貴) 写真1

長岡大学「起業家塾」の成果・効果

平成28年度起業家塾 社会人基礎力診断アンケート

●自己評価 (学んだ知識・スキル等)
2016起業家塾・社会人基礎力自己診断 平均(n=18) 開始前 開始後



●自由記述
見の大切さ、起業するうえでの大切なこと
・事業プランを作る要点
・考察力、思考力、創造力
・商品としての差別化ではなく、自分たちが他とどう差別化するかのということ
・事業を立ち上げる時に大切な部分(差別化、エピソード)を知ること

平成28年度起業家塾アンケート集計結果 回収数15

起業塾に参加したきっかけ



事前の参加意欲



この講座は楽しかったですか?



この講座はためになりましたか?




この講座の開催時期(8月中旬の夏休み期間)は適切でしたか?



今後はこのような講座に参加したいと思いませんか?



この講座は今年も継続的に開講したほうがよいと思いませんか?



起業家塾アンケートの自由記述
・記事のしくみを学び、起業することがいかに大変かを学んだものの、難しい事柄についてもグループで深め合えたことが楽しかった。
・向かのプランを立て、それをプレゼンまでもつめていく過程が思った以上に充実していて、よかった。
・自分が起業するとときに役に立つと思った。

図表7-18-7 学生の活動リーフレット「長岡大学 起業家塾」(2) (平成29年2月作成)

長岡大学「起業家塾」の仕組み

【開 修 登 録】……………4月に、長岡大学生が「履修登録」を行う

↓

【追 加 募 集】……………6～7月に、長岡地域の学生、高校生を対象に(追加募集)を行う(特に長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校)

↓

【事前セミナー・事前説明会】……………7月に、学生起業家等による(事前セミナー)と担当教員による(事前説明会)を行う

↓

【集中講義「起業家塾」】……………8月に、プログラムに沿って、「(起業家塾)」を行う

↓

【ブラッシュアップ】……………8～10月に、「(起業家塾)」で作成したビジネスプランの(ブラッシュアップ)を行う

↓

【ビジネスプランコンテスト】……………(ブラッシュアップ)したビジネスプランを(ビジネスプランコンテスト)に応募する

平成28年度長岡大学「起業家塾」プログラム

<第1日>8月22日(月)

I 開講にあたって

- 9:30～9:45 起業家塾開講にあたって
- 9:45～10:00 ・社会人基礎力事前評価
- 10:00～10:30 ・プログラムの進め方について

担当教員 長岡大学教授 小松 俊樹

II プログラム展開

- 1. チーム編成と役割検討 10:40～12:00
- 2. ビジネスプランとその作成方法 13:00～16:10

*特別講演 (15:00～16:10)

特別講演をめぐって「創業とは」

マナー創業者/株式会社ハルメツ社長 松原 亨氏



特別講演 松原 亨氏

<第2日>8月23日(火)

3. アイデア出し 9:00～12:00

4. アイデア2案の中間発表と1案への絞り込み 13:00～16:10

*雑に(顧客、何を(商品・サービス)、どのようにして提供するか(提供方法)の3つ(ビジネスモデル)を明確に





18名の参加者が5チームに分かれてアイデア出しから1案への絞り込みまで活発に意見を交わしました

<第3日>8月24日(水)

5. 絞り込み案のニーズ等調査 9:00～12:00

6. ビジネスプランの作り直し 13:00～16:10





コンピュータ室にて絞り込んだ案の調査を行いました

<第4日>8月25日(木)

7. 発表用シート、資料の作成 9:00～12:00

8. ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価 13:00～16:30

*審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰しました。

株式会社ハルメツ社長 松原 亨氏 長岡技術科学大学教授 田辺 郁男氏
長岡造形大学教授 馬場 省吾氏 長岡工業高等専門学校教授 菅原 正義氏
長岡大学長 村山 光博

評価項目	評価内容・基準
1 事業内容	事業内容・商品等が明確になっているか
2 事業の新規性	事業の独創性、新規性があるか
3 事業の実現可能性	事業・商品等の実現可能性があるか
4 事業の社会的意義	事業・商品等の社会的有用性など社会的意義があるか
5 プレゼンテーション	プレゼンテーションに説得力があるか

9. 表彰式

厳正な審査の結果、次のように表彰を行いました。

賞	会 社 名
最 優 秀 賞	RGナカノシマ
優 秀 賞	株式会社ちんまげ
社 会 貢 献 賞	株式会社乾杯!
盛り上げ賞	株式会社ホイツス
クールジャパン賞	ハロー・ジャパン株式会社

<第5日>8月26日(金)

10. 最終発表会 9:00～12:00

11. 表彰式 13:00～16:30




平成28年度長岡大学「起業家塾」各校ビジネスプラン概要

事業名: 十日町畜物のペット産業への活用 会社名: 株式会社乾杯!

社 長 阿波 慶弘(長岡大学3年)

総務部長 須田 深介(長岡大学3年)

部 長 岩崎 奈津美(長岡大学3年)

部 長 内藤 淳志(長岡大学3年)

秘 書 武士 大智(長岡大学2年)

専務部長 外石 直輝(長岡大学2年)

コンセプト: 大切な家族と「和」をつむぐ

対象顧客: 50代以上富裕層、独身、ペットに念をにかけている人等

提供価値: 伝統技能と融合した高級ペット商品



事業名: 茨城県海外観光客へのおもてなし 会社名: ハロー・ジャパン株式会社

社 長 周 天奇(長岡大学3年)

副社長 孔 韻(長岡大学3年)

コンセプト: 来日海外観光客へのおもてなし

対象顧客: 来日する1人～4人の少人数観光客(中国・台湾・韓国)

提供価値: ネイティブなガイドによる特別サービス



事業名: スポーツBAR 会社名: 株式会社ホイツス

社 長 殖業 卓(長岡大学2年)

営業部長 永井 想(長岡大学2年)

社 員 渡邊 友貴(長岡大学2年)

コンセプト: 女性でも気軽に楽しめるSPORTS BAR

対象顧客: 長岡市内のサッカー好き女性、スポーツに興味がある人

提供価値: 長岡市になかった盛り上がりされるSPORTS BAR



事業名: 古民家活用高級旅館プロジェクト 会社名: 株式会社ちんまげ

社 長 榎田 百合江(長岡大学3年)

総務部長 小松 綾乃(長岡大学3年)

経理部長 青木 流(長岡大学2年)

営業部長 ヴォティフォン タオ(長岡大学4年)

コンセプト: 一日一組限定プレミアム古民家旅館

対象顧客: 首都圏に住む年収1,000万以上の30～40代女性

提供価値: 地元の魅力を存分に取入れた高級宿泊体験



事業名: れんこんで中之島を元気に! 会社名: RGナカノシマ

社 長 小林 拓史(長岡大学3年)

副社長 長 水濱 隆哉(長岡大学2年)

副社長 山口 尊広(長岡大学2年)

コンセプト: れんこんの真面目!おいでよ、れんこんの町なかのしま

対象顧客: 中之島外の10代～50代女性、日本全国の女性

提供価値: 大口れんこんの料理、イベント等



長岡大学COC通信 5^{2016年}月号



長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

高齢者のための 長岡大学市民公開講座 スマホ・タブレット入門のご案内

スマートフォンやタブレットPCといわれる新しい情報端末は、通話や電子メールだけでなく、動画や映画の鑑賞、写真撮影、SNSやブログを使ったコミュニケーション等ができる便利な機器です。しかし使い方を間違えると犯罪に巻き込まれる等の危険性も高く、利用には正しい知識が必要です。

この講座では、スマートフォンやタブレットPCを安全に楽しく利用するための基礎知識を学びます。(全5回)

日程 | 6/6(月)、6/13(月)、6/20(月)、6/27(月)、7/4(月)

時間 | 各回 18:30～20:00

講師 | 高橋治道(長岡大学教授)
吉川宏之(長岡大学准教授)



会場 | まちなかキャンパス長岡
5階 502会議室

定員 | 20名(先着順)

受講料 | 5回で5,000円

実際に操作しながら学びますので、スマートフォンやタブレットPCをご用意ください。

※お問合せは下記までご連絡ください。

5/14長岡、5/21新潟会場 インターンシップ マッチングフェアに参加しました。

COC+事業として、平成28年度の<インターンシップ・マッチング・フェア>が、5月14日(土)、21日(土)の両日、長岡(長岡商工会議所)と新潟(メディアシップ)で、開催されました。午前中はマナー講座が開講され、午後にはインターンシップ受入企業等(長岡会場30社、新潟会場38社)と参加学生の間で、内容説明・質問・相談が行われました。

本学からは、長岡会場に26名、新潟会場に11名の学生が参加し、熱心な質疑応答のなかで、「新たな企業の特徴がわかり、興味のある企業を発見できて、参加してよかった」との意欲に満ちた感想が寄せられました。



長岡大学市民公開講座 「記紀神話を読む・前編」のご案内

古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいます。両書の神話には違いがあります。本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら読みます。今回は天孫に大国主の神が地上世界を譲る話から読んでいきます。(全4回)

日程 | 6/23(木)、6/30(木)、7/14(木)、7/21(木)

時間 | 各回 19:00～20:30

講師 | 小川幸代(長岡大学教授)



会場 | 長岡大学 第4会議室

定員 | 30名(先着順)

受講料 | 4回で4,000円 ※初回にお持ちください。

別途テキスト代が必要です。『日本神話』おうふう出版後編を11月に予定しています。 2,376円(税込)

申込 6月13日(月)までに下記までご連絡ください。

まちなかキャンパス長岡で 長岡大学のパネル展示をしています。

まちなかキャンパス長岡4階PRコーナーで長岡大学の取り組みや学生の活動を紹介しています。



村山光博新学長の紹介や長岡大学COC事業の活動を展示しています。また、「学生による地域活性化プログラム」の各取組ごとの活動報告書も配布しています。

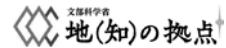
展示は6月末までです。お気軽に足をお運びください。

めざせ、上級資格！ これからのスケジュール

	団体申込メチ	試験日
福祉住環境コーディネーター 検定2、3級	▶ 5月25日(水)	試験7月10日(日)
eco検定(環境社会検定)	▶ 6月10日(金)	試験7月24日(日)
Word/Excel1～3級	▶ 6月3日(水)	試験7月2日(土)
TOEICテスト	▶ 6月17日(金)	試験7月16日(日)
リテールマーケティング (販売士)検定2、3級	▶ 6月13日(月)	試験7月9日(土)

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 6月号



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成28年度 長岡大学講演会

目指せ！学生起業家

社会に向けて新しいチャレンジを始めたい人にオススメ!

日時 | 7月12日(火) 16:30～18:00

会場 | 長岡大学 217教室

対象 | 学生(高等専門学校、短期大学、大学、大学院) 高校生

※参加は無料ですが、事前申し込みが必要です。

日常生活の中で解消したい不満がある、自分の故郷を盛り上げたい、ニュースで見たあの社会課題は解決すべきだ、自分の町の素晴らしい商品を世界に広めたい。若者独自の着眼点や思いには非常に価値があります。若い今だからこそエネルギーを注いで新しいことを始めたいと思いませんか？

勇気を持って一歩を踏み出せば、今までの自分に出来なかったような挑戦が出来る世界が広がってきます。この機会を有効活用して挑戦者としての一歩を踏み出そう!

第1部 起業家塾事前セミナー

講演 若者世代で社会を動かす!

自らの行動で社会を変える

大森 裕貴 氏

一般社団法人CYE 代表理事
任意組織Young Entrepreneurs運営委員会 代表
慶應義塾大学環境情報学部 2015年卒業



福田 恭子 氏

一般社団法人CYE 理事
任意組織Young Entrepreneurs運営委員会 副代表
慶應義塾大学総合政策学部 4年



第2部 起業家塾説明会

起業家塾の進め方について

小松 俊樹

長岡大学教授(起業家塾担当)



平成28年度 起業人材養成セミナー

女性のための起業セミナー

私らしく生きる！そんなあなたを応援します

- 起業に興味があるけれど、何から始めたらよいかわからない方。
- 起業した事業を軌道にのせて、もっと向上させたい方。(起業後3年以内の女性)

定員 | 10名限定 先着順

対象 | 起業を予定している女性、起業後3年以内の女性

時間 | 18:30～20:30

講師 | 小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)
今井進太郎(グロ-カルマーケティング® 代表/中小企業診断士)
山田康博(税理士法人ながあか会計/税理士) ほか

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の1つとして、平成26年度から「女性のための起業セミナー」を開講し、3年目になります。過去2年間に15名が受講し、2名の女性起業家が創業しました。

また、セミナーと合わせて＜創業支援メンター制度＞も設けております。セミナー終了後も専門の経営コンサルタントが支援を行います。多くの女性の皆さまの参加をお待ちしています。



会場 | 長岡大学

受講料 | 無料(ただし資料代として2,000円)

締切り | 7月13日(水)

1	7月14日(木)	オリエンテーション/自己紹介/魅力ある事業計画の作り方① 女性起業家体験談・農プロデュース リッツ代表	小松 俊樹 新谷 梨恵子
2	7月21日(木)	創業に効くネット活用法	今井 進太郎
3	7月28日(木)	創業財務 ポイントはこれだけ	山田 康博
4	8月 4日(木)	魅力ある事業計画の作り方②	小松 俊樹
5	8月10日(水)	女性起業家体験談・(株)サマンサハート 代表取締役 成果発表	高橋 真由美 小松 俊樹

ビジネスプラン相談会

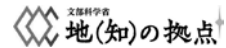
【参加費無料】

具体的なビジネスプランの相談に応じます。セミナー終了後、9月に3回(予定)開催。日時は参加希望者と相談の上、決定します。

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 7 2016年 月号



長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

長岡大学市民公開講座

メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種・Ⅱ種総合ストレスチェックのご案内

メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種ラインケアコースとⅢ種セルフケアコースの内容に沿って、メンタルヘルス、ストレス対策を学びます。(全5回)



日程 9/9(金)、9/16(金)、9/23(金)、9/30(金)、10/7(金)

時間 19:00～20:30

会場 長岡大学 定員 20名(先着順)

講師 山川智子(長岡大学教授)

受講料 5回で5,000円 申込締切 9月2日(金)

長岡大学市民公開講座

初級簿記講座のご案内 (日商簿記3級相当)

個人商店の簿記(日商簿記3級相当)について学びます。全15回の講義で日常の取引に関する仕訳から、決算書(財務諸表)の作成までを学びます。(全15回)



日程 9/20(火)～11/17(休)の火・木曜日
(9月22日、10月13日、11月3日を除く)

時間 19:00～21:00

会場 長岡大学 定員 20名(先着順)

講師 中村大輔(長岡大学准教授)

受講料 15回で15,000円 申込締切 9月13日(火)

テキスト代 教科書 972円(税込)、問題集 918円(税込)

若者の地方創生(人口減少対策)アイデアを募集します! ながおか仕事創造アイデア・コンテスト

長岡市では、地方創生(人口減少対策)の取り組みの一環として、平成27年度から、長岡大学の協力を得て、若者の魅力あるまちづくりや起業のアイデアを募る「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト」を開催しています。この取り組みをきっかけに、若者の豊かな発想や興味を伸ばし、志を持って長岡の魅力づくりを支えてくれる若者が市の内外から集まり、そして、「将来の長岡の産業を担う多様な若者起業家」が生まれ、高めあうことを期待しています。ふるってご応募ください。



平成27年度の表彰式

詳細はこちら



主催 **ながおか・若者・しごと機構**
共催 長岡市、北越銀行、長岡大学(企画・運営)
後援 新潟県教育委員会、長岡市教育委員会、長岡商工会議所、長岡地域商工会連合、長岡公共職業安定所、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、長岡造形大学、日本政策金融公庫長岡支店 他

いいね!アイデア部門

長岡の地域資源(長岡花火、米百俵まつり、信濃川等)を活用したもの・ことで、住んでいる人々が「あればいいな」、市外に住んでいる人々が「行ってみたいな」と思うもの・ことのアアイデア

〈事例〉新しい観光ルートや留学生との交流アイデアの提案など

応募資格 両部門とも、居住地・通学先・通勤先のいずれかが長岡広域圏(長岡市、見附市、小千谷市、出雲崎町)もしくは長岡市出身で、以下の対象区分に該当する方

- ① 小学校高学年(5・6年生)・中学生
- ② 高校生
- ③ 学生・院生(専門学校、高等専門学校、短期大学、大学、大学院)
- ④ 概ね40歳までの社会人

最優秀賞 5万円(1件) 北越銀行賞 5万円(1件) 優秀賞 2万円(9件)

募集期間 平成28年7月1日(金)～平成28年9月14日(木)

起業アイデア部門

起業につながる新しい事業・商品に関するアイデア(既存企業から技術やノウハウなどの協力を得た起業計画も可)

〈事例〉地域資源の新しい活用法やICT(情報通信技術)を活用したビジネスの提案など

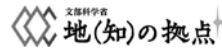
- ① 高校生
- ② 学生・院生(専門学校、高等専門学校、短期大学、大学、大学院)
- ③ 概ね40歳までの社会人

最優秀賞 10万円(1件) 北越銀行賞 10万円(1件) 優秀賞 5万円(4件)

※お問合せは下記までご連絡ください。

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 9月号



長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

悠久祭と同時開催する長岡大学COC事業のイベントのご案内

ボランティアフォーラム

ボランティア活動で自分発見！

科目「ボランティア体験」(担当:米山)を履修した学生たちが、体験の成果を発表します。コメンテーターより講評をいただきます。



開講日時 10月29日(土)
13:00～15:00

会場 長岡大学 217教室

講師 長岡市社会福祉協議会栃尾支所
ボランティアコーディネーター
阿部 奈津実 氏

NPO法人市民協働ネットワーク長岡 事務局長
高橋 秀一 氏

高齢者関係、
子ども関係、
環境関係、
生活支援など
のボランティア
体験を発表。

※ どちらも入場無料、申し込み不要です。入退場も自由です。お気軽にご参加ください。



プラレールで遊ぼう! (米山ゼミ)

両日とも10:00～16:00 1号館3階 多目的室



綿あめ
プレゼント

子育てシンポジウム

子育ては、親育ち、人育ち！

親が育ち、人が育つための
子育てを、一緒に考えませんか。



開講日時 10月30日(日)
13:00～15:00

会場 長岡大学 217教室

話題提供 「子育ては楽しい」 長岡大学准教授
米山 宗久

パネルディス
カッション 「子育ての現状」

パネリスト 子育てコンシェルジュ
ファミリーサポートセンター
子育て中のお父さん、お母さん
長岡大学学生

長岡大学市民公開講座

近代東アジアの中の日本-批判的検討



近代における日中関係を「旧・満州」に焦点を当てて考えます。

今日の日中関係の歴史的背景理解の助けになればと思っています。

開講日時 10月19日(水)～11月23日(水)
全6回 時間19:00～20:30

講師 兒嶋 俊郎 長岡大学教授

会場 長岡大学

受講料 6,000円 申込締切 10月12日(水)

講座内容	1回 10月19日(水)	満鉄-中国における帝国主義権益の柱
	2回 10月26日(水)	満州事変-中国統一化への軍事的対抗
	3回 11月 2日(水)	関東軍と満州国-軍事支配の日常化
	4回 11月 9日(水)	満州国下の労働 -支配される人々の労働と生活について
	5回 11月16日(水)	日本共産党満州地方事務局 -日本人の反帝国主義の戦い
	6回 11月23日(水)	近現代の日本はどのような国だったのか

長岡大学市民公開講座

外山脩造の足跡と活動



栃尾出身の外山脩造没後100年を記念した特別講座で、外山の生い立ちと足跡をたどることで「地方創生」について考えます。

開講日時 11月1日(火)～11月29日(火)
全5回 時間19:00～20:30

講師 松本 和明 長岡大学教授

会場 栃尾文化センター(長岡市中央公園1番36号)

受講料 5,000円 申込締切 10月25日(火)

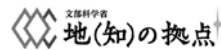
講座内容	1回 11月 1日(火)	生い立ちと幼少期・青年期
	2回 11月 8日(火)	銀行業との関わり
	3回 11月15日(火)	ビール業:大阪麦酒の設立と展開 (現・アサヒビール)
	4回 11月22日(火)	鉄道業:阪神電気鉄道の設立と展開
	5回 11月29日(火)	活動を支えた人間関係: 福沢諭吉・五代友厚・渋沢栄一

※ お問合せ、申し込みは下記までご連絡ください。

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 10月号



長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

悠久祭と同時開催する長岡大学COC事業のイベントのご案内

お申込み不要
入退場自由

ボランティア・フォーラム

ボランティア活動で自分発見!

科目「ボランティア体験」(担当:米山)を履修した学生の代表が、体験の成果を発表します。

コメンテーターより講評をいただきます。

開講日時 10月29日(土)
13:00～15:00

会場 長岡大学 217教室



高齢者関係、子ども関係、環境関係、生活支援など分野別に発表。

子育てシンポジウム

子育ては、親育ち、人育ち!

親が育ち、人が育つための子育てを、一緒に考えませんか。

開講日時 10月30日(日)
13:00～15:00

会場 長岡大学 217教室

話題提供 「子育ては楽しい」

パネルディスカッション 「子育ては、親育ち、人育ち!」



平成28年度 長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウム

～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～



近年多くの観光客が訪れる“もみじ園”(旧越路町)をひらいた高橋九郎翁の生き方は、地方の時代と言われる現代に生きる私たちに何かを語りかけてくれるのではないのでしょうか。“もみじ園”は、国の登録有形文化財に指定されました。このシンポジウムは地域の方々のご協力をいただき、開催いたします。お気軽にご参加ください。

とき 11月6日(日)13:00～16:00

会場 もみじ園 登録有形文化財(長岡市朝日600番地)

先着50名
入場無料

第1部/講演 13:00～14:00

「高橋九郎の足跡と活動」 講師:長岡大学教授 松本 和明

第2部/パネルディスカッション 14:30～16:00

「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは!」

(パネリスト)	越路神谷区長	白井 湛 氏
	長岡市役所越路支所産業建設課課長	新保 浩一 氏
	越路もみじの会長	廣川 篤 氏
	ながおか生活情報交流ねっと理事長	桑原 眞二 氏
	長岡大学教授	松本 和明
	長岡大学学生	高橋ゼミナール学生
(コーディネーター)	長岡大学教授	高橋 治道

※お申込み、お問合せは下記までご連絡ください。

2016長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

ボランティア活動で 人の輪(和)をつくろう!



本シンポジウムでは、ボランティア活動に関する調査結果を報告するとともに、ボランティア活動を推進する方々をパネリストに迎えて、長岡地域におけるボランティア活動の活性化・発展の方向を議論したいと考えます。

長岡地域でボランティア活動を推進し、関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

とき 11月18日(金)14:00～16:30

会場 長岡市新社会福祉センター(長岡市表町2-2-1)

先着100名
入場無料

第1部/基調報告

「ボランティア・NPO活動の現状と課題」

長岡大学教授 米山 宗久

第2部/パネルディスカッション

「ボランティア活動で人の輪(和)をつくろう!」

(パネリスト)	長岡市社会福祉協議会	宇佐美信久 氏
	NPO法人市民協働ネットワーク長岡事務局局長	高橋 秀一 氏
	長岡傾聴ボランティアサークル会長	田所 典子 氏
	フードバンクにいがた長岡センター	山崎 一雄 氏
	長岡大学准教授	米山 宗久
(コーディネーター)	長岡大学地域連携研究センター運営委員長	原田 誠司

※お申込み、お問合せは下記までご連絡ください。

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信11月号

2016年

文理科学省
地(知)の拠点

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業＝COC+事業」に参加いたします。

学生による地域活性化プログラム 平成28年度 成果発表会のご案内

学生による地域活性化プログラムは、学生が地域の課題を対象に調査研究を行い、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を目指すプログラムです。この教育プログラムは10年目を迎えました。

今年度に活動した8取り組みの成果を発表いたします。

日時 平成28年12月3日(土) 入場無料
13:00～16:30 (受付開始12:30)
会場 ホテルニューオータニ長岡 NCホール



- 1 権ゼミ(1) 十分杯で長岡を盛り上げよう!
- 2 村山ゼミ 企業ホームページの改善による効果の確認
- 3 橋長ゼミ 未来の農業革新III
- 4 高橋ゼミ 地域の文化と伝統をつなぐ
- 5 山川ゼミ 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信
- 6 広田ゼミ グラスルーツグローバリゼーション
- 7 権ゼミ(2) 酒粕で長岡を盛り上げよう!
- 8 鯉江ゼミ 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献

※お問い合わせは下記までご連絡ください。

高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウムを開催しました。

11月6日、紅葉真っ盛りのもみじ園(旧越路町)に於いて、もみじ園を造った高橋九郎翁の生誕165周年を記念するシンポジウムを開催しました。当日は松本和明教授による講演「高橋九郎の足跡と活動」とパネルディスカッション「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは!」を行いました。

肌寒い日でしたが、定員50名の会場いっぱいの方々が最後まで参加してくださいました。会場からは「とても興味深い内容だった」、「長岡地域全体を対象にした事業として今後も継続し、長岡大学が地域の魅力発掘の先頭に立ってほしい」といった意見が多数寄せられました。



もみじ園(長岡市朝日)
もみじやカエデなどが色鮮やか



「高橋九郎の足跡と活動」
講師:長岡大学教授 松本和明



パネルディスカッション「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは!」

ボランティア・フォーラムを開催しました。

ボランティア活動で自分発見!

10月29日、長岡市内の施設など11カ所でボランティア体験(担当教員:米山宗久)をした学生40名が報告を行いました。

当日はボランティア受け入れ先の施設の方からも参加していただき、「学生が一回り大きく成長した姿が見られました」「また来年度も来てください」等の感想をいただきました。



悠久祭と同時開催の
COC事業のイベント

子育てシンポジウムを開催しました。

子育ては、親育ち、人育ち!

10月30日、現在子育て中のお父さん、お母さんと経験豊かな子育てコンシェルジュ、子育てアドバイザーの皆様と一緒に、子育てに関する悩みや仕事との両立で困っていることなどを話し合いました。自分一人だけではなく、地域社会や家族とのつながりを大事にしながら子育てをしていくアドバイスや心構えをお聞きしました。



お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 1月号

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。引き続き平成28～31年度は新潟大学の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業=COC+事業」に参加いたします。

長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

第4回 悠久山・東山フォーラムのご案内

日時 2月25日(土) 13:00~16:00 会場 長岡大学

お雛さまとお茶会

一日日本の伝統文化を受け継ぐー

長岡大学では、平成25年度から悠久山・東山フォーラムを開催しております。今年度は、地域の皆様と一緒にできることとして、「お雛さまとお茶会」を楽しむフォーラムを企画いたしました。普段着でもお着物でも、お気軽にご参加ください。



講演 13:00~14:00 217教室(無料)

内裏様はどっち? 長岡大学教授 小川幸代

雛茶会 14:00~16:00 3階学生ホール

長岡大学茶道部(茶席券:300円、親子券500円)

締切り 2月22日(水) ※申し込みは下記までご連絡ください。当日参加も歓迎いたします。

プラレールで、ママ友、パパ友を作ろう!

平成28年度長岡大学悠久山祭でプラレール遊びを行い、2日間とも大盛況でした。

今回は子供たちはもちろん、ママやパパたちも楽しめるプラレール空間を企画いたしました。奮ってご参加ください。



プラレール 13:00~16:00 3階多目的室(無料)

◆当日は、長岡大学写真部による写真展示も行います。13:00~16:00 3階学生ホール(無料)

◆このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として行うものです。

主催:長岡大学地域連携研究センター 共催:長岡市

インターンシップフォーラム長岡

学生の発表を聞きに行こう!

インターンシップを通して、主体的な学びの力をつけることを目標として取り組んだ、学生の自己成長と成果を発表します。長岡大学からは現場体験プログラムを履修した学生が発表します。



日時 | 2月21日(火) 13:00~16:30 100名 会場 | アオーレ長岡 1階 交流ホール 入場無料

発表大学

長岡大学 新商品開発チーム
「秋のイベントに向けた新商品開発(ケーキ・マカロン等)」
長岡造形大学、新潟工科大学、新潟産業大学、新潟経営大学

「インターンシップフォーラム新潟」は、2月24日(金)にメディアシップ2階 日報ホールで開催されます。
発表大学:新潟大学、新潟県立大学、新潟国際情報大学
新潟薬科大学、新潟青陵大学、敬和学園大学

※お申込みは2月10日(金)までに下記までご連絡ください。

平成28年度

本学教員による

<地域志向教育研究>成果発表会

本学教員による地域課題解決を目指す<地域志向教育研究>の平成28年度成果発表会を次の要領で開催します。お気軽にご参加ください。



日時 | 2月22日(水) 13:30~15:30 226教室

はじめにー地域志向教育研究についてー

長岡大学学長
村山光博

発表テーマ

発表者

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1 発達段階による「子育て」に関する親の意識変化 | 米山宗久 |
| 2 新潟県内中小企業における事業承継の現状と課題 | 栗井英大 |
| 3 長岡地域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究(継続) | 中村大輔 |
| 4 新潟における戦争の記憶 | 兒嶋俊郎 |

※お問い合わせは下記までご連絡ください。

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

図表 7-18-9 まちなかキャンパス長岡でのパネル展示



まちなかキャンパス長岡は、長岡駅前にある「学びと交流の拠点」で、市民の多様化、高度化する学びのニーズに対応するとともに、世代や地域を越えた交流をより盛んにすることを目指し、多数の講座やイベントを開催している。5月のパネル展示では大勢の来場者に見ていただくことができた。

図表 7-18-10 長岡大学エントランスホールの横断幕による学内広報



長岡大学のエントランスホール（玄関ホール）は全学生、来客、教職員が行き来し、展示物などが目に留まりやすい場所である。建学の精神の掲示やブックレット、広報誌等が置かれている。

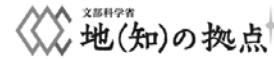


平成 28 年度は新潟大学の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参加にともない、新しい横断幕を作成した。

図表7-18-11 長岡大学COC事業全体案内



文部科学省採択
平成25～27年度「地(知)の拠点整備事業」
平成28～31年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」



現代の「米百俵の精神」の実現をめざして 連携自治体：長岡市、新潟市、新潟県

長岡地域<創造人材>養成プログラム

※<創造人材>とは、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人

平成28年度
実績

大学改革
の方向

<創造人材>養成で地域に貢献する大学 - 地域で役に立ち、頼りになる大学 -

事業の概要・目的

地域の課題 連携自治体<長岡市>

- 産業活性化** (平成25年度申請時点)
グローバル経済下の競争に勝つ(産業空洞化回避)ための企業競争力の強化と新産業創出の方策を考える。
- 市民協働による社会課題解決**
高齢化に伴う健康、医療、福祉、環境等多様な課題解決を市民協働でどう進めるかを考える。
- 地域・コミュニティの活性化**
少子高齢化に伴う人口減少下で、どう地域・コミュニティの活性化を行うか、を考える。

課題解決のための大学の取組

教育

諸専門能力(上級情報・専門資格取得)、地域志向科目の拡大・進化による社会人基礎力、起業人材の養成。

研究

産業競争力、創造人材、人口減少、ボランティアの4つの調査研究と課題解決に貢献。地域志向調査研究も推進。

社会貢献

地域活性化の推進(中山間地等、市民講座や企業人養成講座、起業人材の養成(女性等)による社会貢献)。

人材育成の取組

人材育成像

- 専門資格と社会人基礎力を有する仕事積極推進人
地域企業活動等の若者担い手
- ボランティア・スキルを身につけたボランティア人
地域の市民協働の担い手
- 起業ノウハウを身につけた学生起業人材
地域の新産業の担い手
- 企業競争力を支えるイノベーション人材
専門ノウハウを有する企業人
- 女性・シニア等起業家 地域の新産業の担い手

目指す人材育成のためのカリキュラム改革

■ 専門等資格取得のしくみ構築
資格取得支援センターによる、資格対応型専門教育プログラム(専門演習・受験対策講座-相談・指導)を強化。

■ 地域志向科目の拡大と進化

地域志向科目の拡大、地域課題解決プログラムの充実。

■ 起業家塾の充実

夏季集中の起業家塾授業を年間継続開催に拡大。



これまでの成果

■ 資格取得相談者・取得者

平成27年度資格取得支援センターへの相談者数は延べ1,780人。取得者数延べ104人、合格率42.8%。

■ 地域志向科目の拡大

16から36科目に拡大した(平成27年度から)。

■ 地域活性化プログラムの拡大・充実

地域の課題解決をテーマとする、学生による地域活性化プログラム(3・4年生必修ゼミ)は、8プロジェクト。

学生による地域活性化プログラム
平成28年度 成果発表会



■ 人材育成の取組事例

事例1 (2・3年インターンシップ科目)

秋のイベントで新商品(創作菓子)の開発・販売

平成28年度のインターンシップ(対象科目=2年対象の現場体験プログラム、3年対象のインターンシップ)は、COC+事業である受入企業とのマッチングフェア(5月)により大幅に参加学生が増え、35名で行われた。11月の成果発表会では、4名が最優秀賞、優秀賞を受賞。創作菓子は13万円も売り上げた。



事例2 (3・4年生必修ゼミ:学生による地域活性化プログラムより事例紹介)

地域の文化と伝統をつなぐ～高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム～

平成28年度地域活性化プログラム高橋治道ゼミの地域活性化活動として、地元の偉人に焦点を当て、その足跡・功績をたどり、11月には越路もみじ園での資料展示・シンポジウムを開催した。学生は資料展示の解説を行い、シンポジウムは地元の支援もあり、大盛況となった。



課題に対する大学の取組	25年度	28年度	29年度最終年度(目標値)
地域志向科目の履修科目数(学生数)	19 (680)	35 (1,800)	35 (1,000)
地域活性化プログラム(授業)参加学生割合	40%	41%	80%

卒業後の学生のイメージ

- 1 情報・専門的資格(能力)をもち、かつ事業を主体的・創造的に推進する意欲をもち、職場のリーダーとして活躍できる人材
- 2 地震等災害や地域活性化の諸活動に積極的に参加し、かつ、そうしたボランティア活動を中心になって担い、人口減少社会への貢献を行える人材

カリキュラムマップ

	1年	2年	3年	4年
地域志向科目				
社会人基礎力養成科目				
専門科目(資格取得)				

地域産業界・社会から求められている能力=専門性・社会人基礎力とボランティア・スキルを4年間で養成し、地域企業・社会のリーダーとして活躍できる能力を養成する授業を行う。

地域志向カリキュラムの特徴

地域志向科目36科目

平成26年度から地域志向科目を35科目に拡大し、地域を学び、地域課題解決に取り組む領域を大幅に拡大した。

社会人基礎力養成科目

● ボランティア・スキルの養成
1年生から、ボランティア論・体験授業(4単位)と地域の諸ボランティア活動を行う。

● インターンシップ/現場体験プログラム

平成27年度から、インターンシップ(就業体験型)に、現場体験プログラム(課題解決型)を加えて、地域企業等でのインターンシップの拡大・充実を図った。

● 学生による地域活性化プログラム
主として3・4年生ゼミ(必修)を対象にして、<学生による地域活性化プログラム>を実施。同プログラム推進協議会(連携自治体長岡市等)で地域の取組課題(産業、環境、福祉、コミュニティ、文化、国際等)を各ゼミごとに設定し、連携アドバイザーとゼミ担当教員の指導のもとに、文献調査・フィールドワーク等を行い、課題解決提案を行うPBL型プロジェクトである。平成28年度は8プロジェクトが参加した。

平成28年度 本学教員による「地域志向教育研究」

研究テーマ	平成29年2月22日成果発表会開催
1 発達段階による「子育て」に関する親の意識変化	米山宗久
2 新潟県内中小企業における事業承継の現状と課題	栗井英大
3 新潟県の中小・地域金融機関による環境金融の現状と県内企業の環境金融活用の現状を探るための調査	西俣先子
4 長岡市域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究(継続)	中村大輔
5 新潟における戦争の記憶	兒嶋俊郎
6 長岡市近郊及び新潟県内の温泉における地域資源としての活用の傾向分析	山川智子

第4回 悠久山・東山フォーラム 共催:長岡市

2017年2月25日(土)開催

「お雛さまとお茶会」-日本の伝統文化を受け継ぐ-

- 講演「内裏様はどっち?」
講師:長岡大学教授 小川 幸代
- 雛茶会
長岡大学茶道部
指導・講話:今井 恵子氏
- お雛さま展示



ブラールで、ママ友、パパ友を作ろう!

- ブラール空間
- 写真展示
長岡大学写真部



地域連携研究 年報

地域連携研究 第3号

ごあいさつ —地域連携研究センター年報・第3号発刊にあたって—

…………… 長岡大学長/長岡大学地域連携研究センター所長 村山光博

特集 2015長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 人口減少時代と長岡地域活性化の方向—長岡地方創生への視点—

—主催者の開会ご挨拶— …… 長岡大学教授/長岡大学地域連携研究センター運営委員長 原田誠司 2

第1部 基調報告は論稿19～64頁に掲載

第2部 パネルディスカッション

「人口減少時代と長岡地域活性化の方向—長岡地方創生への視点—」

…………… 大森政尚、栗原里奈、小柳 徹、長谷川和明、中村英樹、鯉江康正 3

論稿

<平成27年度長岡大学COC事業・調査研究成果>

人口減少時代と長岡地域活性化の方向

—「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」から— …… 鯉江康正 19

<平成27年度長岡大学COC事業・地域志向教育研究成果>

新潟県内企業の環境の取組みと環境金融に関する調査結果(中間報告) …… 西俣先子 65

<平成27年度長岡大学COC事業・地域志向教育研究成果>

先進国になるための必要条件と十分条件

—新潟県長岡市の機械工業の事例を通じて— …… 権 五景 95

<平成27年度長岡大学COC事業・地域志向教育研究成果>

北越製紙と小林宗作

—長岡地域の産業史・企業家史に関する資料(Ⅲ)— …… 松本和明 105

大学・短期大学の学生支援における情報システムの利用状況と課題 …… 村山光博 119

アイゼンハワー政権の国際政治戦略

—1950年代の冷戦と米国の国際政治戦略のマクロとミクロ— …… 広田秀樹 143

長岡大学地域連携研究センターご案内 …… 155

センター口誌 …… 156

長岡大学地域連携研究センター規程 …… 157

Ⅷ <COC事業の各年度評価（文部科学省への提出文書）>

19 平成25年度

(1) 平成25年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）

H25 アンケート結果 集計表(文部科学省統一指標)			
アンケート対象者(基礎データ)			
	全学生数	210	
	有効回答数	196	
	割合	93.3%	
	全教員	24	
	有効回答数	23	
	割合	95.8%	
	全職員	29	
	有効回答数	29	
	割合	100.0%	
	全連携自治体	1	
	有効回答数	1	
	割合	100.0%	
アンケート結果の集計			
全学生対象			
1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。			
		人数	割合
	はい	124	0.63265306
	いいえ	53	0.27040816
	わからない	19	0.09693878
2. 当該大学が「地域のための大学」として実施する授業科目等(〇〇(選択・必修、対象年次、対象学部)←各大学が個別に記載する)を受講したことがありますか。			
		人数	割合
	はい	28	0.14285714
	はい(複数科目)	56	0.28571429
	いいえ	112	0.57142857
(「2.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)			
3. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。			
		人数	割合
	はい	55	0.6547619
	いいえ	7	0.08333333
	わからない	22	0.26190476
(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)			
4. その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思えますか。(自由記述)			
自由記述は【全学生対象の「問4」の自由記述欄の集計結果】を参照下さい。			

全教員対象			
1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。			
		人数	割合
	はい	22	0.95652174
	いいえ	1	0.04347826
	わからない	0	0
2. 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。			
		人数	割合
	教育・研究とも実施	11	0.47826087
	教育のみ実施	9	0.39130435
	研究のみ実施	1	0.04347826
	いいえ	2	0.08695652
全職員対象			
1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。			
		人数	割合
	はい	29	1
	いいえ	0	0
	わからない	0	0
全連携している自治体(代表)対象			
1. 当該大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。			
○	大いに満足	(市と連携して着実にやっている)
	満足	()
	不満	()
	大いに不満	()
※自由記述に限り、適宜行を追加いただいて構いません。			

全学生対象の「問4」の自由記述欄の集計結果

長岡大学COC推進本部事務局

*全学生対象の「問4」の自由記述欄の集計結果は以下の通りです。

対象学生は、2～4年生です。平成26年度の新入生は対象にしていません。

また、この学生の回答は並び替え（就職関係を後半に）はしましたが、原文のまま掲載しております。

<学生の自由記入回答結果>

- ・地域の人口の減少について知った。
- ・学んだことを地域に還元し、活性化に繋げていこうと思う。
- ・講義等で出された問題を自分なりに考え実行にうつせたらと思う。
- ・地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う。
- ・地域のボランティア活動などに参加する
- ・教授からの知識を実施しようと思う。
- ・長岡市民なのでもっと長岡のことを知っていきたい。
- ・地域の人たちと何かイベントをしたい
- ・さらに知識を深めていきたい。
- ・地域活性化について皆はよく気にしないですが、これからイベントとかをやって深くしようと思う。
- ・地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う。
- ・地域を見る目が変わり、自分の行動も変化した。
- ・まちの駅としてもっと活動して欲しい。
- ・今後、様々な場面で活かしていけるようなら活かしていきたい。
- ・日本の文化を学びました。
- ・参加しようと思う。
- ・地域への貢献に使う。
- ・保育関連の講義もしてほしい。
- ・地域活性化のために何かをやりたいと思う
- ・就職活動に役立てたい
- ・就職して家族や世話になった人たちに恩返し
- ・地域に密着した取組みのある地元企業に就職して地域貢献したい。
- ・長岡市の企業に就職したい。
- ・就職活動の時や就職したときに活かしたい。
- ・就職に役立つ
- ・地域を活性化できる企業に就職したいと思う。
- ・企業に就職する際、面接や履歴書の内容としていかしていきます
- ・地域の企業に就職し、学んだ知識を還元しようと思う。
- ・就職活動に活かしていきたいと思う。
- ・地域の企業に就職しようと思えた
- ・地域の企業等に就職したいと思います
- ・地域に就職しようと思った

(2) 平成25年度フォローアップ(学長としての事業総括及び採択の際に通知した別紙における対応状況)

H25 フォローアップ(学長としての事業総括及び採択の際に通知した別紙における対応状況)		FU様式
大学等名: 長岡大学 学長氏名: 内藤 敏樹 事業名称: 長岡地域<創造人材>養成プログラム		
【学長としての事業総括】		
学長としての自己評価	→	自己評価を踏まえた今後の展開等
本事業の実施によって、これまで教員・職員がそれぞれの立場から独自に取り組んできたものが、相互に連携性を持ったものとして取りまとめることを要求されるようになってきた。このことは一部で立場・姿勢の違いによる軋轢を生じさせたが、これはかえって雨降って地固まるようになった。地域志向の方向性がより強固になったという意味で極めて有意義である。さらに外部の評価、意見等をさまざまな活動の中で聞くことができ、今後に向けてのよい材料となっている。	→	今後さらに地域各団体・組織等とのさまざまな意味における「キャッチボール」が進展することが予期される。それを通してより「地域のためになる」存在に近づかなければならない。
【採択の際に通知した別紙における対応状況】		
別紙における指摘事項	→	その対応状況
①目標に対し、取組内容と地域志向科目の内容の整合性を明確にすること。また、地域志向科目への履修指導の実施、同科目の必修化を進めること。	→	【H25年度での対応】 整合性については、次年度調査踏まえて、検討することとした。履修指導はオリエンテーションで実施。平成26年度地域志向・学修科目を35科目(図表1)とし、必修8科目とした。 【H26年度以降の計画】 平成26年度に「創造人材調査」を実施し、その結果を踏まえて、目標と取組内容・科目内容の整合性を具体的に検討する。
②地域志向科目以外の科目でも地域関係の学修を取り入れること。また、シラバスでその旨明示すること。	→	【H25年度での対応】 上記の通り、担当教員の意向に基づき、平成26年度地域志向・学修科目を35科目に拡大した。 【H26年度以降の計画】 上記35科目の授業を実施し、地域志向科目と地域学修科目の異同、授業内容・方法の違い等を明確にし、平成27年度の計画に反映させる。
③地域志向教育研究経費は、公募で公平な審査で配分するとともに、実績・成果評価を行うこと。	→	【H25年度での対応】 基本方針(「手引き」等)を作成し、公募を行い、5名(件)を選定した。年度末に報告書はまとめたが、成果報告は次年度にもち越した。 【H26年度以降の計画】 平成25年度の成果報告を行う。平成26年度は公募により、さらに多くの教員(7~8名)が当教育研究に従事し、成果をあげるように努力する。
④全学的な地域志向教育研究のFD/SDを実施すること。	→	【H25年度での対応】 採択後、取組推進のための全学的FD/SDを4回開催して、当事業の推進合意を図った。 【H26年度以降の計画】 平成26年度は、FD、SDともに、2ヶ月に1回づつ、それぞれ会議・研修等を開催し、教育方法の改善・高度化、考える力の養成等を図り、COC事業に資することをめざす。
⑤事業補助期間の5年間、多方面からの事業評価アンケートを行う。	→	【H25年度での対応】 COC協議会、地域課題調整部会では、連携自治体等連携機関の意向・評価は聞くことができた。その他では、文部科学省指示の調査以外はできなかった。 【H26年度以降の計画】 平成26年度は、学生には満足度調査の改訂版(COC評価項目追加)で行い、教職員及び連携自治体等へのアンケート調査・ヒアリング等を実施し、COC事業の改善点を探る。
⑥広報・フォーラム時には地(知)の拠点整備事業助成事業であることを明確にする。	→	【H25年度での対応】 企業講師授業、パネル、案内リーフレット、ブックレット、講座やシンポジウム・フォーラム等にはシンボルマークを掲示し、COC助成事業であることを明示した。 【H26年度以降の計画】 平成26年度も前年度実績を踏まえ、年間を通して広報を行う。
⑦公平・最小の費用で最大限の効果が上がるように経費を使うこと。	→	【H25年度での対応】 備品や一定基準以上の印刷費等は、相見積もり等で価格をできるだけ抑えるよう努力している。 【H26年度以降の計画】 平成26年度も前年度以上に、費用対効果の観点から、経費支出の効率化に努力する。
⑧次年度以降、補助金減額はありうる。縮小・中止事業は相談すること。	→	【H25年度での対応】 縮小・中止事業はなかった。 【H26年度以降の計画】 推進体制をきちんと整備し、縮小・中止事業が出ないよう努める。
⑨人件費について、継続性の観点から、事業実施を可能にする方策を検討すること。	→	【H25年度での対応】 人件費の上昇を抑えるよう、時間外作業は行わないようにした。 【H26年度以降の計画】 平成26年度も前年度と同様の考え方で、経費の上昇を回避する努力を行う。
⑩人件費・謝金は高額なので、必要性・効率性・成果等を検討し、費用対効果を確認なものとする。	→	【H25年度での対応】 人件費だけでなく、謝金についても、費用対効果の観点から検討して、抑制的に支出を行った。 【H26年度以降の計画】 平成26年度も同様の考え方で、抑制的に支出を行うよう努力する。
※別紙に記載されている事項について、すべて記載してください。(必要に応じて行を追加して構いません) ※別添資料を添付することも差し支えありません。 ※H25年度に実施した内容を記入してください。(「〇月に〇科目開講した」等、できるだけ具体的に記載してください) ※H26年度以降の計画を記入してください。(「〇年〇月までに実施する」等、できるだけ具体的に記載してください)		

20 平成26年度

(3) 平成26年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）

H26 アンケート結果 集計表(文部科学省統一指標)	
・「集計表」シートは、集計用に使いますので、編集・削除等は絶対にしないでください。	
アンケート対象者(基礎データ)	
全学生数	200
有効回答数	161
割合	80.5%
全教員	24
有効回答数	24
割合	100.0%
全職員	31
有効回答数	31
割合	100.0%
全連携自治体	1
有効回答数	1
割合	100.0%
アンケート結果の集計	
教育活動の状況	
1. 地域志向科目※を何科目設置していますか。現在開設している科目数と、平成26年度新規に開設した科目数をそれぞれお答えください。	
現在開設している科目数	35 科目
うち、平成26年度新規に開設した科目数	21 科目
2. 地域志向科目にアクティブラーニングを導入している科目を何科目開設していますか。	
アクティブラーニングの科目数	31 科目
当該科目の履修者数(実数)①	1,363 人
当該科目の履修者数の全学生に対する割合 (当該科目の履修者数①/全学生数)	451.3 %
自県内入学者及び自県内就職者の状況について	
1. 本項目に加えて、別添1の入学・就職状況調査票(03[別添1][〇〇大学]入学及び就職状況)についても記入願います。	
2. 平成26年度末日における全就職者数のうち、COC事業の協力先企業(共同研究、インターンシップ、PBL等)に就職した数をお答えください。	
COC事業の協力先企業就職者数	0 人
うち、共同研究連携	人
うち、インターンシップ	人
うち、PBL	人
うち、その他	人

連携自治体等からの支援の状況

1. 大学COC事業を進めるにあたり、連携する自治体や企業等とのコストシェアの状況についてお答えください。

①人的支援について

	教員			職員	その他
	教授	准教授	講師・助教・助手		
自治体					
企業等					

②物的支援について

自治体	・(記載例) サテライトオフィスとして、自治体所有の施設を3カ所無償で貸与。
企業等	・〇〇〇〇

③財政的支援について

自治体名	金額
長岡市	649,000 円

企業等名	金額
	円

連携自治体や企業等からの相談状況

地域との連携強化に資する組織により(又は当該組織を通じて)連携自治体や企業から受けた相談件数をお答えください。

連携自治体からの相談件数	11 件
地域活性化等	6 件
委員	2 件
講座等	2 件
会場提供	1 件
企業等からの相談件数	14 件
うち、大企業	件
うち、中小企業	5 件
うち、小規模企業	件
うち、その他	9 件

全学生対象

1. あなたの出身(出生地)について、当てはまるもの1つを選んでください。

現在通っている大学がある都道府県(地元の大学へ進学)	122	人
現在通っている大学がある都道府県以外	7	人
分からない	0	人
その他	32	人

2. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	102	0.63354037
知らない	34	0.21118012
わからない	25	0.1552795

3. 当該大学が「地域のための大学」として実施する授業科目等(〇〇(選択・必修、対象年次、対象学部)←各大学が個別に記載する)を受講したことがありますか。

	人数	割合
はい	55	0.34161491
はい(複数科目)	30	0.1863354
いいえ	105	0.65217391

55

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

4. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

	人数	割合
はい	36	0.42352941
いいえ	2	0.02352941
わからない	16	0.18823529

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

5. 上記科目の受講が、大学のある地域(都道府県)の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

	人数	割合
そう思う	11	0.12941176
ややそう思う	13	0.15294118
どちらでもない	15	0.17647059
あまりそう思わない	1	0.01176471
そう思わない	3	0.03529412

(「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。)

6. その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思いますか。(自由記述)

- ・地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う。
- ・大学の地域活性化プログラムの活動に活かしたい。
- ・少しでも自分の住んでいる地域に対して何かできればよいと思う。
- ・地元の企業に就職して地元の活性化に役立ちたい。
- ・地域振興の仕事に就きたい。 ・地域の特色を生かせるようにしていきたい。
- ・地域の人と関わる際に活かしたい。

全教員対象

1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	24	1
知らない	0	0
わからない	0	0

2. 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

	人数	割合
教育・研究とも実施	12	0.5
教育のみ実施	11	0.45833333
研究のみ実施	1	0.04166667
いいえ	0	0

全職員対象

1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	31	1
知らない	0	0
わからない	0	0

全連携している自治体の代表を対象

1. 当該大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。
(理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合
はい	1	1
いいえ	0	0
わからない	0	0

2. 当該大学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。
(理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合
はい	1	1
いいえ	0	0
わからない	0	0

3. 当該大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。
(理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)

	自治体数	割合
大いに満足	1	1
満足	0	0
不満	0	0
大いに不満	0	0

H26 自県内入学者及び自県内就職者の状況について

		大学名:		長岡大学		
		学部		修士課程	博士課程	
		入学定員		80名		
1. 学部の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数	71	60	87	112		
②うち自県内入学者数	50	54	72	96		
③うち連携自治体入学者数	11	18	19	36		
自県内入学率(②+③)/①	70.42%	90.00%	82.76%	85.71%	#DIV/0!	#DIV/0!
自県内入学者数: 大学が所在する都道府県の入学者数を計上するものとする。						
連携自治体入学者数: 大学が所在する都道府県以外の自治体とも連携している場合に、当該連携自治体からの入学者数を計上するものとし、②の外数を計上するものとする。						
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数	103	93	68			
②うち自県内就職者数	92	78	62			
③うち連携自治体就職者数	16	17	9			
自県内就職率(②+③)/①	89.32%	83.87%	91.18%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
自県内就職者数: 大学が所在する都道府県に就職した学生数を計上するものとする。						
連携自治体就職者数: 大学が所在する都道府県以外の自治体とも連携している場合に、当該連携自治体に就職した者の数を計上するものとし、②の外数を計上するものとする。						
2. 大学院(修士課程)の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数						
②うち自県内入学者数						
③うち連携自治体入学者数						
自県内入学率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数						
②うち自県内就職者数						
③うち連携自治体就職者数						
自県内就職率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
3. 大学院(博士課程)の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数						
②うち自県内入学者数						
③うち連携自治体入学者数						
自県内入学率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数						
②うち自県内就職者数						
③うち連携自治体就職者数						
自県内就職率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(4) 平成26年度長岡大学「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業

大学独自調査結果・全体とりまとめ

平成27年6月 長岡大学COC事業推進本部

長岡大学COC事業推進本部は、平成27年4月に、「平成26年度長岡大学「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業に関する調査(長岡大学独自)」を実施しました。学生、教職員、連携機関の皆様のご協力で実施することができました。厚く御礼申し上げます。ここに「全体とりまとめ」を報告します。

1 COC事業情報の交流・共有状況について(学生・教員・事務職員・連携機関の間)

様々なCOC事業情報の交流・共有状況について聞いた。図表1は、学生、教職員、事務職員、連携機関の方々がホームページ等を「見る」(「よく見る」+「時々見る」)人の割合をまとめた表である。

これによれば、第1に、学生は、チラシ、COC通信、パネルは40%程度の学生が見ているが、長岡大学ホームページは30%弱とやや低くなっている。

第2に、これに対し、教員と事務職員は、チラシとCOC通信はほぼ100%が見ている。とくに、事務職員はホームページ、パネルともに約80~90%が見ており、教員を上回っている。

第3に、連携機関の方も、チラシやCOC通信は90%程度以上の方々が見ており、ホームページも70%弱が見ている。

第4に、ブックレット・研究年報などの印刷冊子は教員と事務職員は70%前後が見ているが、学生、連携機関の方で見ている人は非常に少なくなっている。

以上から、チラシ、COC通信、学内パネルは引き続き充実させ、ホームページも魅力あるものに変えていく必要がある、ことがわかる。

図表1 各種COC情報を「見る」人の割合

	学生	教員	事務職員	連携機関
ホームページ	27.30%	70.90%	83.90%	66.70%
事業案内チラシ等	41.60%	95.80%	100.0%	100.0%
COC通信	41.60%	95.80%	96.80%	88.90%
学内設置パネル	39.80%	83.30%	87.10%	-
ブックレット等	1.20%	75.00%	67.80%	11.10%

(注) 回答者は、学生161人、教員24人、事務職員31人、連携機関9人

※結果の詳細については、4ページ以降の参考図表を参照

2 COC事業で関心ないし評価できる事業等について

(1) 学生が関心を持った、あるいは評価できる事業等(学生の間)

学生が関心を持った、あるいは評価できる事業の主なものは、次の4つである。

- ・資格取得対策講座(21.1%)
- ・地域活性化プログラム(18.6%)
- ・企業見学(10.0%)
- ・企業講師の授業(4.4%)

(2) 教職員・連携機関が評価できる事業等（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・COC通信、市民公開講座、地域志向研教育究・『地域連携研究』の刊行、東山活性化関係。
- b 事務職員・・・地域活性化活動への地域の方の参加（マップづくり）、COC通信、ホームページ掲載、チラシ、市広報誌掲載。
- c 連携機関・・・東山地区での住民・学生のワークショップの取組が成果を上げている、継続されたい。

(3) もっと力を入れて取り組むべき事業（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・地域・住民とのかかわりを持った事業が消極的なので教員が積極的にかかわりを持つシステム作りが必要、地域活性化プログラムの革新、地域志向教育研究の拡大、新聞への広報拡大。
- b 事務職員・・・もっと魅力的なパネルづくり、もっと薄いブックレット・研究年報、ホームページの充実、プレスリリース・ホームページ掲載数を多く、学生の資格取得。
- c 連携機関・・・長岡中心市街地まで情報提供の手立てがほしい、学生の意見の刊行物で発信されたい（例：市外学生による地域課題の解決方法提案）。

(4) 新しい情報交流・共有の事業（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・広報としての記者懇談会、CATV企画、前期・後期の第1回授業における当事業の説明、マスメディア・ローカルメディアでの情報発信拡大。
- b 事務職員・・・既存事業に重点、フェイスブックの活用、COC通信内容を分かり易く（1取組み1枚程度）、留学生・日本人学生の交流の地域貢献イベント等、情報アクセスの改善（全教職員アクセス可能）。

3 COC事業全般で評価・改善が必要な事業について（学生・教員・事務職員の間3）

- a 学生・・・地域活性化プログラムはもっと学外で情報発信すべき（大学イメージの向上のためにも）、県外企業の見学したい、ボランティアなど決まった人以外にも拡大して、資格取得にもっと力を入れる、事業を学内にわかりやすく掲示する。
- b 教員・・・資格取得学生の拡大、起業関心学生の拡大（以上は履修登録前のアピール必要）、地域活動ゼミの予算増、地域志向科目の再検討、地域志向教育研究発表会への外部参加者の拡大、悠久山・東山地域活性化の中味と意味をはっきりさせること、産業界・地域コミュニティとの連携拡大、担当部局以外の市役所への横断的展開、COC先進地視察・研修、広報の強化。
- c 事務職員・・・市民公開講座の受講者拡大、資格取得支援、地域活性化の推進、ホームページの充実、資格取得支援センターの充実・資格取得拡大（資格ハンドブックは良い）、会社見学の拡大、PROG導入・アピール、＜長岡大学＝地域貢献、地域密着＞のイメージ、イノベーション人材養成講座・創業セミナーの拡大・創業（後含め）支援体制度の拡充。

4 連携機関・長岡大学の連携事業等について－地方創生推進の観点で－（連携機関の間3）

- ・連携事業・産学連携活動の一層の拡大・充実

- ・学生の意見を吸い上げる仕組みの構築（ながおか・若者・しごと機構の構築、推進）
- ・人口減少による地域社会における影響分析（地方財政、インフラ維持管理、地域経済への影響等）
- ・U・Iターンの推進事業（卒業生で県外企業に勤務者への長岡地区の就職情報の提供等）
- ・長岡市の「オーリーブ構想プロジェクト」について連携して推進
- ・学生主体の長岡大学COC通信の編集・刊行が必要
- ・地方（中越、「特に中越大震災被災地」の今を情報発信ー被災地を支えた様々なNPO等が参画する知のプラットフォームを形成
- ・産学官間でのネットワークを生かした創業セミナーや融資相談体制作り

5 全般的意見欄（教員・事務職員・連携機関の間4）

- a 教員・・・地域志向教育研究の成果の活用（オムニバス授業や市民講座などで学生・地域への還元を行う）、クラブ活動を活発に、COC事業取組みの一層の工夫（全教員の参加）、本事業終了後（補助金終了後）のビジョンを。
- b 事務職員・・・効率的な事業展開をいかに図るか、学生主体の活動を拡大、全員参加（教職員全員が最低1つの事業の直接担当者になる）を、COC事業終了後のビジョンは（既存事業との融合を）、地域活性化プログラムの成果発表前のプレゼンテーション指導、多様な学生をカバーする教育プログラムの構築、教職員の参加意識の高揚を図る。
- c 連携機関・・・若い感覚と力・柔軟な発想が必要（提案活動）、長岡大学と長岡市の距離感が縮まっている、長岡地区起業家塾運営会議の今後の計画は、長岡大学COC通信は学生編集が必要、情報発信機能の強化が重要（長岡大学独自の具体的なプロジェクトの提案と実践、例えば「元気な集落を救う、長岡大学プロジェクト」など）。

6 推進体制について

(1) COC諸情報の共有について（教員・事務職員の間2の(1)）

- ・毎週の「COC事業運営事務局会議通信」の教職員への送信・・・「よい」が教員 87.5%、事務職員 96.8%

(2) 地（知）の拠点整備事業推進本部について（以下、教員・事務職員・連携機関の間1）

- a 月1回開催で十分か・・・「十分」→教員 75%、事務職員 64.5% *不明あり
- b 地域連携研究センター3部会は機能しているか・・・「機能」→教員 66.5%、事務職員 48.4% *不参加のため不明多し

(3) 地（知）の拠点整備事業推進協議会について

- a 年1回で十分か・・・「十分」→連携機関 66.7%
*但し、必要に応じて開催すべきとの意見あり

(4) 地域課題調整部会について

- a 月1回で十分か・・・「十分」→連携機関 44.57%
*但し、「隔月に減らしてもよい」が 33.3%あり

2 1 平成 27 年度

(5) 平成 27 年度アンケート結果集計表（文部科学省統一指標）

H27 アンケート結果 集計表(文部科学省統一指標)	
・「集計表」シートは、集計用に使用しますので、編集・削除等は絶対にしないでください。	
アンケート対象者(基礎データ)	
全学生数	255
有効回答数	231
割合	90.6%
全教員	22
有効回答数	22
割合	100.0%
全職員	25
有効回答数	25
割合	100.0%
全連携自治体	1
有効回答数	1
割合	100.0%
アンケート結果の集計	
教育活動の状況	
1. 地域志向科目※を何科目設置していますか。現在開設している科目数と、平成27年度新規に開設した科目数をそれぞれお答えください。	
現在開設している科目数	36 科目
うち、平成27年度新規に開設した科目数	1 科目
2. 地域志向科目にアクティブラーニングを導入している科目を何科目開設していますか。	
アクティブラーニングの科目数	36 科目
当該科目の履修者数(実数)①	1,567 人
当該科目の履修者数の全学生に対する割合 (当該科目の履修者数①/全学生数)	476.3 %
自県内入学者及び自県内就職者の状況について	
1. 本項目に加えて、別添1の入学・就職状況調査票(03【別添1】【〇〇大学】入学及び就職状況)についても記入願います。	
2. 平成27年度末日における全就職者数のうち、COC事業の協力先企業(共同研究、インターンシップ、PBL等)に就職した数をお答えください。	
COC事業の協力先企業就職者数	0 人
うち、共同研究連携	人
うち、インターンシップ	人
うち、PBL	人
うち、その他	人

連携自治体等からの支援の状況

1. 大学COC事業を進めるにあたり、連携する自治体や企業等とのコストシェアの状況についてお答えください。

①人的支援について

	教員			職員	その他
	教授	准教授	講師・助教・助手		
自治体					
企業等					

②物的支援について

自治体	
企業等	

③財政的支援について

自治体名	金額
長岡市	1,062,000 円
企業等名	金額
	0 円

連携自治体や企業等からの相談状況

地域との連携強化に資する組織により(又は当該組織を通じて)連携自治体や企業から受けた相談件数をお答えください。

連携自治体からの相談件数	14 件
地方創生	3 件
地域活性化	1 件
委員	9 件
会場提供	1 件
企業等からの相談件数	10 件
うち、大企業	件
うち、中小企業	10 件
うち、小規模企業	件
うち、その他	件

全学生対象

1. あなたの出身(出生地)について、当てはまるもの1つを選んでください。

現在通っている大学がある都道府県(地元の大学へ進学)	183	人
現在通っている大学がある都道府県以外	7	人
分からない	4	人
その他	37	人

2. 当該大学、短大、高専（以下、「大学」とする）が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	169	0.73160173
知らない	40	0.17316017
わからない	21	0.09090909

3. 当該大学が「地域のための大学」として実施する授業科目等（〇〇（選択・必修、対象年次、対象学部）←各大学が個別に記載する）を受講したことがありますか。

	人数	割合
はい	39	0.16883117
はい（複数科目）	78	0.33766234
いいえ	112	0.48484848

（「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。）

4. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

	人数	割合
はい	87	0.74358974
いいえ	8	0.06837607
わからない	20	0.17094017

（「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。）

5. 上記科目の受講が、大学のある地域（都道府県）の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

	人数	割合
そう思う	17	0.14529915
ややそう思う	45	0.38461538
どちらでもない	29	0.24786325
あまりそう思わない	7	0.05982906
そう思わない	5	0.04273504

（「3.」の質問で「はい」を選択した方はご回答ください。）

6. その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思えますか。（自由記述）

- ・インターンシップに参加して自分に合った企業を見つけたい。
- ・地域の企業に就職し能力を活かしたい。
- ・長岡市以外の地域の地域活性化活動との相違点を見つけて地域貢献につなげたい。
- ・コミュニケーション能力を高め、いろいろな場で交流を深めたい。
- ・他の地域に就職したときの問題解決に役立てたい。
- ・地域のボランティアに参加してみたいと思った。

全教員対象

1. 当該大学、短大、高専（以下、「大学」とする）が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

	人数	割合
知っている	22	1
知らない		0
わからない		0

2. 「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

	人数	割合
教育・研究とも実施	12	0.54545455
教育のみ実施	9	0.40909091
研究のみ実施	1	0.04545455
いいえ		0

全職員対象		
1. 当該大学、短大、高専(以下、「大学」とする)が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。		
	人数	割合
知っている	25	1
知らない		0
わからない		0
全連携している自治体の代表を対象		
1. 当該大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。 (理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)		
	自治体数	割合
はい	1	1
いいえ		0
わからない		0
2. 当該大学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。 (理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)		
	自治体数	割合
はい	1	1
いいえ		0
わからない		0
3. 当該大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。 (理由は、「入力用(自治体理由)」シートに記載願います)		
	自治体数	割合
大いに満足	1	1
満足		0
不満		0
大いに不満		0

H27 自県内入学者及び自県内就職者の状況について

		大学名:		長岡大学		
		学部		修士課程	博士課程	
		入学定員		80名		
1. 学部の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数	71	60	87	112	85	
②うち自県内入学者数	50	54	72	96	76	
③うち連携自治体入学者数	11	18	19	36	30	
自県内入学率(②+③)/①	70.42%	90.00%	82.76%	85.71%	89.41%	#DIV/0!
自県内入学者数: 大学が所在する都道府県の入学者数を計上するものとする。						
連携自治体入学者数: 大学が所在する都道府県以外の自治体とも連携している場合に、当該連携自治体からの入学者数を計上するものとし、②の外数を計上するものとする。						
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数	103	93	68	44		
②うち自県内就職者数	92	78	62	36		
③うち連携自治体就職者数	16	17	9	20		
自県内就職率(②+③)/①	89.32%	83.87%	91.18%	81.82%	#DIV/0!	#DIV/0!
自県内就職者数: 大学が所在する都道府県に就職した学生数を計上するものとする。						
連携自治体就職者数: 大学が所在する都道府県以外の自治体とも連携している場合に、当該連携自治体に就職した者の数を計上するものとし、②の外数を計上するものとする。						
2. 大学院(修士課程)の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数						
②うち自県内入学者数						
③うち連携自治体入学者数						
自県内入学率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数						
②うち自県内就職者数						
③うち連携自治体就職者数						
自県内就職率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
3. 大学院(博士課程)の状況について						
(1) 自県内入学者数の推移(各年度5月1日時点)						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
①入学者数						
②うち自県内入学者数						
③うち連携自治体入学者数						
自県内入学率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
(2) 自県内就職者の推移(各年4月1日時点)						
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
①就職者数						
②うち自県内就職者数						
③うち連携自治体就職者数						
自県内就職率(②+③)/①	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

(6) 平成 27 年度長岡大学「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業

大学独自調査結果・全体とりまとめ

平成 28 年 6 月 長岡大学COC事業推進本部

長岡大学COC事業推進本部は、平成 28 年 4 月に、「平成 27 年度長岡大学「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業に関する調査（長岡大学独自）」を実施しました。学生、教職員、連携機関の皆様のご協力で実施することができました。厚く御礼申し上げます。ここに「全体とりまとめ」を報告します。

1 COC事業情報の交流・共有状況について（学生・教員・事務職員・連携機関の間）

様々なCOC事業情報の交流・共有状況について聞いた。図表 1 は、学生、教員、事務職員、連携機関の方々がホームページ等を「見る」（「よく見る」＋「時々見る」）人の割合をまとめた表である。

これによれば、第 1 に、学生は、チラシ、COC通信、パネルは概ね 40%程度の学生が見ているが、長岡大学ホームページは 25%強とやや低くなっている。

第 2 に、これに対し、教員と事務職員は、チラシとブックレット等ほぼ 100%が見ている。COC通信とパネルについては、教員はほぼ 100%、事務職員も 80%以上が見ている。これに対し、ホームページを見る割合は、両者とも 70%台でやや低くなっている。

第 3 に、連携機関の方は、ホームページを見ている割合は 50%台でやや低いが、チラシやCOC通信は 100%見ていただいている。

第 4 に、ブックレット・研究年報などの印刷冊子は、教員、事務職員、連携機関ともに、100%程度でほとんどの人が見ている。学生も 40%強が見ており、他の媒体より高くなっている。

以上から、チラシ等各媒体を引き続き充実させる必要があるが、とくに、ホームページの魅力を高め、アクセス度合いを高めていく必要がある、ことがわかる。

図表 1 各種COC情報を「見る」人の割合

	学生	教員	事務職員	連携機関
ホームページ	25.50%	77.20%	72.00%	55.60%
事業案内チラシ等	41.10%	95.40%	92.00%	100.00%
COC通信	40.70%	95.40%	88.00%	100.00%
学内設置パネル	36.80%	95.40%	80.00%	-
ブックレット等	45.00%	95.40%	100.00%	100.00%

(注) 回答者は、学生 231 人、教員 22 人、事務職員 25 人
連携機関 9 人

2 COC事業で関心ないし評価できる事業等について

(1) 学生が関心を持った、あるいは評価できる事業等（学生の問 1）

学生が関心を持った、あるいは評価できる事業の主なものは、次の 4 つである。

- ・資格取得対策講座（60、26.0%）
- ・地域活性化プログラム（41、17.7%）
- ・企業講師の授業（21、9.1%）
- ・企業見学（15、6.5%）

(2) 教職員・連携機関が評価できる事業等（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・COC通信、十分杯、東山活性化関係。
- b 事務職員・・・COC通信は読みやすくてよい、情報共有（配布物、メール利用で）、地域各種団体・機関との連携事業、悠久山・東山フォーラム。
- c 連携機関・・・多様な活動を評価できる、市民に開かれた事業は地域還元で評価できる。

(3) もっと力を入れて取り組むべき事業（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・発信力（全般、十分杯）、地域志向教育研究ブックレット、COCパネル（更新）。
- b 事務職員・・・パネル展示の学生への声掛け、市民向け情報発信、資格講座への受講学生の拡大、メール配信によるホームページ・パネル展示等の告知。
- c 連携機関・・・学生の生の声が聞ける刊行物、動画等の発信。

(4) 新しい情報交流・共有の事業（教員・事務職員・連携機関の間2の(3)）

- a 教員・・・研究成果の授業化（学生、地域への還元、情報の共有）、学長メルマガ（外部へのCOC事業PR）、他大学との交流。
- b 事務職員・・・学生の諸活動状況の情報発信。
- c 連携機関・・・アオーレやまちなかの大型ビジョンを使い映像での情報発信を行い関心を持ってもらう。

3 COC事業全般で評価・改善が必要な事業について（学生・教員・事務職員の間3）

- a 学生・・・COCや各事業について学生へのもっと詳しい情報発信が必要、ボランティア活動についての窓口を整備する、資格関係職員がいなくなったのはよくない。
- b 教員・・・資格取得講座等についての危機感の共有と改善（体制等）が必要、販売士検定カリキュラムの見直しが必要。
- c 事務職員・・・資格取得支援の体制整備（教員、職員）が必要、地域への情報発信の強化。

4 連携機関・長岡大学の連携事業等についてー地方創生推進の観点でー（連携機関の間3）

- ・ながおか・若者・しごと機構との共催イベント等の企画、開催（地域交流、人材育成）
- ・地域起業人材、学生起業家の養成にかかる事業で連携したい。
- ・留学生との連携強化、会員企業訪問、学生アイデアを活かす事業を検討。
- ・大学との連携事業は他地域活性化のヒントの好事例となる。
- ・若い人の柔軟なアイデアは高齢化地域にとって貴重なもの。
- ・大学生対象の中越メモリアル回廊視察アワー（課外学習）
- ・大学生による小中学校への防災学習サポート

5 全般的意見欄（教員・事務職員・連携機関の間4）

- a 教員・・・ボランティア関連の強化、地域と留学生をもっと結びつけることが必要、サークル活動支援資金が必要。
- b 事務職員・・・よりわかりやすい、伝わりやすいPRが必要、各種メディア利用による情

報提供に注力、高校（高校生）にCOC事業を上手くアピールする方法はないか、COC事業は全教職員が担うべき。

- c 連携機関・・・COC事業を通じ大学と市が密接に連携しており、今後も地域課題解決に向け協力し取り組んで行きたい。学生と地域の一層の連携、企業の課題解決に向けた提案をお願いしたい。地域志向大学として、各事業や研究教育を通じ地域に大いに貢献していると感じる。長岡市の地域創生、人材育成に参加したい。村山新学長のもと、新しい展開、発展を期待します。

6 推進体制について

(1) COC諸情報の共有について（教員・事務職員の問2の(1)）

- ・毎週の「COC事業運営事務局会議通信」の教職員への送信・・・「よい」が教員 95.4%、事務職員 84.0%

(2) 地（知）の拠点整備事業推進本部について（教員・事務職員・連携機関の問1）

- a 月1回開催で十分か・・・「十分」→教員 59.1、事務職員 84.0% *不明あり
- b 地域連携研究センター3部会は機能しているか・・・「機能」→教員 90.8%、事務職員 80.0% *不参加のため無回答あり

(3) 地（知）の拠点整備事業推進協議会について（連携機関の問1）

- a 年1回で十分か・・・「十分」→連携機関 77.87%

(4) 地域課題調整部会について（連携機関の問1）

- a 月1回で十分か・・・「十分」→連携機関 66.77%

*但し、「隔月に減らしてもよい」が 22.2%あり。

(7) 平成27年度フォローアップ(選定時の申請書における達成目標の進捗状況)

H27 フォローアップ(選定時の申請書における達成目標の進捗状況)													
大学名:長岡大学													
事業名:長岡地域<創造人材>養成プログラム													
選定時の申請書において、教育・研究・社会貢献の各項目ごとに達成目標を設定していただいておりますが、これに関するフォローアップとして、当該年度での達成状況を記載願います。													
【教育】													
		H25達成状況(H25年度末)		H26達成状況(H26年度末)		H27現状(H27年度始め)		H27達成状況(H27年度末)		H28達成目標		最終年度達成目標	
諸専門能力の養成<情報系資格取得者数・割合>	28 (31)	% 人	38 (31)	% 人	26 (17)	% 人	35 (19)	% 人	4年生の40	%	卒業生の60	%	
諸専門能力の養成<専門資格取得者数・割合>	6 (7)	% 人	20 (16)	% 人	8 (5)	% 人	9 (5)	% 人	4年生の20	%	卒業生の40	%	
地域志向・学修科目数及び履修・単位取得学生数	14 (702人)	科目 人	35 (1094人)	科目 人	36 (1567人)	科目 人	36 (1331人)	科目 人	36 (1500人)	科目 人	33 (1000人)	科目 人	
ボランティア体験等科目履修学生数・割合	10 (12)	% 人	27 (22)	% 人	33 (22)	% 人	29 (16)	% 人	4年生の50	%	卒業生の80	%	
地域活性化プログラム履修学生数・割合	35 (43)	% 人	44 (36)	% 人	44 (29)	% 人	53 (29)	% 人	4年生の50	%	卒業生の80	%	
課題解決型インターンシップ履修学生数・割合	新設科目として検討		現場体験プログラムの平成27年度カリキュラム新設決定		2 (2)	% 人	2 (2)	% 人	2年生の5	%	卒業生の20	%	
集中型インターンシップ履修学生数・割合	18 (22)	% 人	25 (20)	% 人	24 (16)	% 人	29 (16)	% 人	4年生の30	%	卒業生の60	%	
学生起業家塾履修学生数・割合	16 (20)	% 人	20 (16)	% 人	23 (15)	% 人	24 (13)	% 人	4年生の20	%	卒業生の30	%	
学生満足度調査(全学生対象)実施	年度最終授業で実施予定		H26新調査票で実施済み		調査票の改定・改善を行う		新調査票で実施済み		調査結果による諸改善実施		学生満足度向上指標の開発・実施		
学生基礎力(PROG)テスト実施	未実施		H26 1~3年全学生実施済み		実施を予定		H27 1~3年全学生実施/能力向上目標の設定推進		能力向上度分析・改善指導方策のとりまとめ		学生の能力向上計測指標開発・実施		
【研究】													
		H25達成状況(H25年度末)		H26達成状況(H26年度末)		H27現状(H27年度始め)		H27達成状況(H27年度末)		H28達成目標		最終年度達成目標	
平成27年人口減少問題に関する調査研究	次年度研究の準備		H26調査・シンポジウムでの公表実施済み		人口問題調査結果・シンポジウムで公表予定		人口問題調査結果・シンポジウムで公表済み		ボランティア活動の調査・シンポジウムでの公表予定		5年間の調査研究とりまとめ		
平成27年度地域志向教育研究	5件実施		8件実施		7件・人の研究実施・公表予定		7件・人の研究実施・成果を公表済み		7件・人の研究実施・公表予定		5年間の調査研究とりまとめ		
【社会貢献】													
		H25達成状況(H25年度末)		H26達成状況(H26年度末)		H27現状(H27年度始め)		H27達成状況(H27年度末)		H28達成目標		最終年度達成目標	
地域活性化の推進	地域活性化方針・目標の設定		東山地区等マップづくり方針の明確化		マップ完成・地区配布・フォーラムで公表済み		マップ活用・地区交流・地区フォーラム実施済み		東山等活性化・ネットワーク化		東山等地域活性化ネットワーク形成		
市民公開講座・セミナー	講座開講方針・計画の検討		5講座開講等計画を検討		5講座開講・受講100名・学外講座も開講済み		7講座開講・受講140名・学外9講座も開講済み		7講座開講・学外講座も開講		年間10講座の開講		
企業人セミナー	4講座計画		4講座計画		4講座開講(受講16名)済み		4講座開講・受講15名		新講座めざした4講座開講・プログラム見直し		年間8講座の開講		
起業人材養成セミナー	創業セミナー・創業メンター制度の計画化		女性・一般創業セミナー・メンター制度計画		女性等創業セミナー・メンター実施(起業2名)済み		女性等創業セミナー・メンター実施/11名受講		女性等創業セミナー・メンター実施/起業3名		毎年5名の起業家を輩出		
※選定時に設定した達成目標は全て記載してください。													
※必要に応じて行を追加してください。													

IX <平成28年度評価>

2.2 書面審査資料①—平成28年度進捗状況報告書

(様式1)

1. 機関番号 33110

平成28年度評価 進捗状況報告書

2. 選定年度	平成25年度		3. 事業期間	平成25年度～平成29年度
4. 大学等名称	長岡大学			
5. 所在地	〒940-0828	住所	新潟県長岡市御山町80-8	
6. 事業名称	長岡地域〈創造人材〉養成プログラム			
7. 申請者	氏名 土田 和 弘		職名 学長事務取扱	
8. 事業者	氏名 土田 和 弘		職名 理事長	
9. 事業担当者	氏名 原 田 誠 司		職名 副学長	
10. 連携する自治体	長岡市			
11. 企業、NPOの各種団体・機関等	長岡商工会議所 日本政策金融公庫長岡支店 公益社団法人中越防災安全推進機構 株式会社北越銀行 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE NPO法人市民協働ネットワーク長岡 公益財団法人山の暮らし再生機構			
12. 事業の一部を協力する大学				
13. 共同申請大学				

14. 学部・研究科等名	経済経営学部	
	総入学定員	80名

15. 本事業担当課の連絡先			
課名	事務局	所在地	新潟県長岡市御山町80-8
責任者	氏名 品川 十 英		職名 事務局長
担当者	氏名 三浦 康 弘		職名 総務課長
	TEL	0258-39-1600	FAX 0258-33-8792
	E-mail①	shinagawa@nagaokauniv.ac.jp	
		E-mail②	v-miura@nagaokauniv.ac.jp

16. WEBサイト	: http://www.nagaokauniv.ac.jp/coc/
------------	---

17. 事業の概要 (※400字以内)
<p>本プログラム＝長岡地域〈創造人材〉養成プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝〈創造人材〉の養成を通して、この地域課題に応えようとするものである。教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。以上の事業の推進を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【395字】</p>

(様式2)

※Ⅰ～Ⅵは平成25～26年度の状況を、Ⅶ～Ⅷは平成27年度以降の状況と計画を記入してください。

※申請時の計画を踏まえ、これまでに事業をどのように実施し、今後どのような見通しを立てているのかについて、具体的かつ簡潔に記入してください。その際、適宜定量的な指標を用いて客観的にその進捗状況が確認できるようにしてください。

※当初の計画を超える成果がある場合も記載してください。

※定量的な指標について、達成状況の根拠となるエビデンスを【別添資料】として添付してください。

※下記記入欄より改ページし、指定のページ数で作成してください。

I. 達成目標の進捗状況<説明文は消さないこと> (2ページ以内)

※地域志向科目（シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目）数及び同科目における人材育成について、当初掲げた目標の達成に向けた進捗状況を具体的に説明してください。

※その他申請時の達成目標に向けた進捗状況を具体的に説明してください。

*** 進捗状況のエビデンスは別添資料の資料1を参照されたい**

1 <教育>分野における達成目標に向けた進捗状況

経済経営系学部の長岡大学の教育プログラムは、専門能力養成（専門教育＝資格対応型教育）と社会人基礎力養成（キャリア教育＝体験型・課題解決型教育）を大きな柱としている。

(1) 専門能力養成

- ・最終年度目標（平成29年度）を「卒業生の60%が上級情報系資格、40%が上級専門系資格をそれぞれ取得すること」に設定した。「実社会で使える専門能力を養成する大学」が目標。
- ・上級情報系資格（Word・Excel 1・2級、ITパスポート等）の取得率（取得者数／卒業生数、以下同じ）は、平成25年度28%、平成26年度38%であった。
- ・上級専門系資格（日商簿記・販売士1・2級、経済学・経営学検定等）の取得率は、平成25年度6%、平成26年度20%であった。
- ・目標達成を目指して、資格取得率向上を支援する資格取得支援センターCOSを平成26年度に発足させ、資格参考書等の整備、学生の資格取得日程等の情報提供、資格取得相談・指導、資格試験対策講座などを行った。
- ・平成26年度の取得率は、上記の通り情報系、専門系ともに、上昇し、COSの支援活動の成果が一定に表れたと言える。しかし、目標との乖離は大きく、取得率向上の仕組みづくりが大きな課題となっている。そのポイントは、<情報系は1年生で初級資格（Word・Excel 3級）、2・3年生で上級資格取得>、<専門系は1・2年生で初級資格（日商簿記・販売士3級）、3年生で上級資格取得>を可能にする支援・指導にある。とくに、資格取得への動機付けが重要である（上級資格取得者の就職状況は極めて良好）。

(2) 社会人基礎力養成

- ・社会人基礎力養成は、地域志向科目（企業・外部講師等授業、ボランティア論・体験、起業家塾、インターンシップ、地域活性化プログラム）の展開を通して進めている。
- ・地域志向科目・・・最終年度目標を「33科目、履修学生延べ1000人」とした。平成26年度に、教員アンケート等を踏まえて、35科目に拡大し、延べ履修学生数は1094人で、目標を超えた。
- ・企業・外部講師等授業（1～4年生担当）・・・企業・外部講師等授業（＝地域志向科目）は、企業・外部講師の招聘授業等（企業等見学含む）により、学生の現場感覚・知識習得を目指す。各授業の受講学生アンケート結果によれば、「わかった」94.2%、「ためになった」92.3%と、理解度、役立ち度ともに非常に高く評価されている（平成26年度）。
- ・ボランティア論・体験（1年生担当、2単位×2）・・・卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成し、<ボランティア大学>を目指す。最終年度目標は、「論、体験どちらか履修学生割合が卒業生の80%」とした。平成26年度は27%で、在学生への履修拡大が課題。
- ・起業家塾（2年生担当、夏季集中授業、2単位）・・・長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成を目指す。最終年度目標は、「起業家塾履修学生割合が卒業生の30%」、「全国ビジネスプラン・コンテスト応募・入賞」とした。平成26年度は20%で、地域（十日町市）のコンテストに応募したが受賞は逃した。ビジネスプランの質的向上が課題。
- ・インターンシップ（3年生担当、集中10日間、2単位）・・・インターンシップは就業体験型・集

中型インターンシップであり、就業体験により仕事・職業観を養成し、就職力の充実を目指す。最終年度目標は、「インターンシップの履修学生割合が卒業生の60%」とした。平成26年度は25%で、次年度3年生への履修促進が課題。なお、課題解決型インターンシップ科目の新設が必要との認識に至り、平成27年度から、「現場体験プログラム（2年生担当、集中5日間、1単位）」を新設することとした。

- ・地域活性化プログラム（2～4年担当、2単位）・・・3・4年ゼミナール（必修）に2年生履修希望者を加えたプログラム。年間を通じた地域活性化課題解決型プログラムであり、卒業後も通用する社会人基礎力を養成し、＜社会人基礎力養成大学＞を目指す。最終年度目標は、「地域活性化プログラム履修学生割合が卒業生の80%」、「社会人基礎力育成グランプリ決勝大会入賞」とした。平成25年度は35%、26年度は44%で、履修学生数割合は上昇したが、目標にはまだ届かない。3・4年ゼミの地域活性化プログラム参加と学生参加拡大が今後の課題。

（3）学生の事業評価・能力測定

- ・学生満足度調査・・・毎年1月に全学生対象に、学生の満足度に関する調査（施設、授業、学生生活、就職等）を行い、改善につなげる。平成26年度は新調査票で実施した。
- ・PROGテスト・・・学生の基礎力（リテラシーとコンピテンシー）評価（PROG）テストを平成26年度から毎年、1～3年生対象に、学生の能力評価と能力向上支援・指導を行うこととした。

2 <研究>分野における達成目標に向けた進捗状況

- ・地域課題解決に向けた研究・・・申請書で提起した長岡地域の地域課題解決に向けた研究課題に対する取組は、平成25年度「新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向」、平成26年度「新潟・長岡地域における創造人材の現状と育成の方向」として、着実に実施された。シンポジウムで報告し、報告書も作成されている。
- ・地域志向教育研究経費・・・教員の地域志向教育研究経費は指針（専任教員対象、1件50万円程度、申請書審査）にのっとり、平成25年度は5件・人、平成26年度は8件・人が採択されて実施された。成果発表会での発表を経て、ブックレットとして刊行されている（一部）。

3 <社会貢献>分野における達成目標に向けた進捗状況

- ・社会貢献分野では、地域活性化、市民公開講座、企業人セミナー、起業人材養成セミナーの4事業を展開している。
- ・地域活性化は、東山等地域活性化ネットワークをめざして、東山地区マップづくりを行った。市民公開講座は、年間10講座開講を目指し、平成25、26年度とも4講座開講した。企業人セミナーは、年間8講座開講を目指し、両年度とも4講座開講した。起業人材養成セミナーは、毎年5名の起業家輩出を目指し、女性・一般創業セミナー、創業メンター制度を展開している。

II. 留意事項への対応状況<説明文は消さないこと> (1 ページ以内)

※採択時に付された留意事項への対応状況について、具体的に説明してください。

【留意事項①】目標（創造人材養成）に対し、地域志向科目の立て方・内容等取組の整合性を明確にすること。また、地域志向科目の履修指導、同科目の必修化を進めること。→**【対応状況①】**地域志向科目は、平成 25 年度開講 8 科目（計画は後期開講の 14 科目）であったが、平成 26 年度は 35 科目に拡大した。目標（課題解決等）達成は、主として、地域活性化プログラム等社会人基礎力養成科目で対応し、地域志向科目として必修化したのは、8 科目（キャリア 6、専門 2 科目）である。目標と地域志向科目の内容等との整合性については、創造人材調査（平成 26 年度）の結果も踏まえて、整理することとした。

【留意事項②】地域志向科目以外の科目でも地域関係の学修を取り入れること。また、シラバスでその旨明示すること。→**【対応状況②】**地域志向科目以外の科目についても、外部・企業講師による授業等（会社見学等）も担当教員に推奨している。

【留意事項③】地域志向教育研究経費は、公募での公平な審査で配分するとともに、実績・成果評価を行うこと。→**【対応状況③】**平成 25 年度に、学長名の地域志向教育研究推進に関する指針を定め、推進している（平成 25 年度 5 件・人、平成 26 年度 8 件・人）。

【留意事項④】全学的に地域志向を進める F D / S D を実施すること。→**【対応状況④】**平成 25 年度は 3 回（地域課題、地域志向教育研究の進め方等）、平成 26 年度も 3 回（A L、インターンシップ、留学生）開催し、対応策を検討した。

【留意事項⑤】事業補助期間の 5 年間、多方面からの事業評価アンケートを行う。→**【対応状況⑤】**毎年、学生、教職員、連携自治体（長岡市）、連携機関（長岡商工会議所等 7 団体）に対して、共通指標と独自項目による事業評価アンケートを行い、公表している。

【留意事項⑥】広報・フォーラム時等には地（知）の拠点整備事業助成事業であることを明確にする。→**【対応状況⑥】**大学エントランス、案内・リーフレット、事業案内パネル、報告書・ブックレット、地域志向科目外部講師テーマ紹介横幕、講座・シンポジウム等すべての事業等をロゴマーク等で、C O C 事業であることを広報している。

【留意事項⑦】公平・最小の費用で最大限の効果が上がるように経費を使うこと。→**【対応状況⑦】**物品購入等規程（支出目的の適正性、決裁金額の上限設定、稟議・相見積もり等）によるチェックなどにより、費用対効果の観点から経費支出の効率化を図っている。

【留意事項⑧】次年度以降、補助金減額はありうる。縮小・中止事業は相談すること。→**【対応状況⑧】**平成 25～27 年度は縮小・中止事業はない。平成 28 年度は C O C 人件費による教職員は減少したが、事業の縮小・中止はない。

【留意事項⑨】人件費について、継続性の観点から、事業実施を可能にする方策を検討すること。→**【対応状況⑨】**年度ごとの調書記載の人件費に収める努力（残業の抑制）を行い（平成 25～27 年度）、平成 28 年度からは C O C 人件費による教職員を縮小し、既存教職員に科目・業務を移行し、ソフトランディングを目指している。

【留意事項⑩】人件費・謝金は高額なので、必要性・効率性・成果等を検討し、費用対効果を確実なものとする。→**【対応状況⑩】**給与規程（教職員、アルバイト賃金等）、起案－決済手続きにより、良好な費用対効果実現を行っている。

Ⅲ. 教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組＜説明文は消さないこと＞

(2 ページ以内)

【教育改革】

※地域志向科目を履修する教育カリキュラムの改革が進んでいるかについて事業の趣旨に照らしながら、具体的に説明してください。

【事業の成果と改善】

※事業により、学生の能力向上・学修行動の変化等にどのような成果がみられるか、どのような方法・指標を用いて成果を測っているか、また、成果の客観的なデータに基づいた分析結果をどのように事業の改善に反映させているか、具体的に説明してください。

【教育改革】

1 地域志向科目の設定

*** 地域志向科目のエビデンスは別添資料の資料2を参照されたい**

平成 25 年度の地域志向科目は 19 科目を設定したが、選定後の同年度後期開講科目は 11 科目であった（ボランティア論・体験、起業家塾、インターンシップは前期科目のため除く）。別表の指摘に対応するためにも、平成 26 年度以降の地域志向科目の拡大作業を行った。具体的には、次の通りである。

- ・地域志向科目の定義・・・次のように定義した。「地域志向科目とは、学生が地域経済社会（新潟県を中心とした地域）の現状・課題等のより深い認識や現場感覚の醸成を通じたより深い知識・専門性の獲得、あるいは、自ら地域課題解決等に取り組むことにより社会人基礎力の向上・充実を図ること、を目指す科目群を指す。また、その旨はシラバスに明示する科目群である。」（平成 26 年 1 月教授会）
- ・地域志向科目の設定・・・地域志向科目は、全学生対象の共通科目群（キャリア、教養、専門、ゼミの各科目）と、専門 6 コース科目群（各コース 2～3 科目）から、地域と関連が深い科目群を担当教員の意向を踏まえて抽出した。必修科目は、共通科目群を中心に抽出した。
- ・平成 26 年度以降の地域志向科目・・・この結果、地域志向科目 35 科目、うち、必修科目はキャリア 6 科目、専門 2 科目の計 8 科目となった。また、選択科目は、ゼミ 2 科目（地域活性化プログラム採用の 3・4 年ゼミ）、教養 2 科目、専門 3 科目、コース科目 21 科目の計 27 科目となった。平成 26 年度から、地域志向 35 科目がスタートした。シラバスへの明記は、平成 27 年度から行った（地域志向科目の拡大決定が平成 25 年度末であったため）。

2 地域志向科目の展開

- ・地域志向科目群は、企業・外部講師招聘科目群、ボランティア論・体験、起業家塾、インターンシップ、地域活性化プログラム（3・4 年ゼミ）。
- ・企業・外部講師招聘科目群・・・1～4 年生対象。地域の外部講師授業（企業見学含む）により現場感覚・知識の学修を目指す。地域志向科目以外でも積極的に外部講師の招聘を奨励している。
- ・ボランティア論・体験・・・1 年生配当科目（2 単位×2 科目）。まず、1 年生から、ボランティアの現状・理論を学び、かつ、実際に長岡地域でのボランティアを体験することにより、ボランティアのスキルを身につける。卒業後に地域でのボランティア活動ができる人材を養成する＜ボランティア大学＞を目指す。
- ・起業家塾・・・2 年生配当科目（夏季集中授業、2 単位）。長岡地域の起業家のアドバイスや実務家講師の指導のもと、学生の柔軟な頭脳から発する多様なアイデアの取捨選択によるビジネスプランを作成し、専門家審査委員にプレゼンを行い、表彰を行う、起業家教育である。地域における＜学生起業家輩出の拠点＞を目指す。
- ・インターンシップ・・・3 年生配当科目（夏季 10 日間集中、2 単位）。就業体験型・集中型のインターンシップであり、地域（新潟県内）の企業の現場を体験することにより、地域の企

業を知り就職活動に円滑に入れるスキルを身につける。＜就職に強い大学＞を目指す。

- ・地域活性化プログラム（3・4年ゼミ、2単位×2）・・・3・4ゼミ（ゼミは必修、2年生の希望者も参加可能）において、地域課題（産業活性化、社会課題解決、地域・コミュニティ活性化）のなかから具体的なテーマ（課題）を定めて、調査・分析・課題解決提案を行い、さらには課題解決実践にも参加する課題解決型プログラムである。1年以上の長期で課題に取り組むことにより、社会人基礎力（主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の力）を向上させ、卒業後も役に立つ能力・資質を身につける。＜社会人基礎力養成大学＞を目指す。

3 アクティブラーニング（AL）の導入 *ALのエビデンスは別添資料の資料2を参照されたい

平成26年度には、地域志向科目を中心に、アクティブラーニング（AL）導入の検討を行った。

- ・AL科目の定義・・・アクティブラーニング（AL）科目とは、「授業における、学生の参加型・能動型学修を行う科目」である。従来の知識伝達型授業から学生が能動的に参加する学修への転換による能力向上を目指す。
- ・ALの3類型・・・教員への授業形態アンケート結果を踏まえて、ALのタイプを知識定着・確認型AL、協同学修型AL、課題解決型ALの3タイプ（平成28年度）に分けて特徴を明確にした。
- ・ALの導入・・・以上の検討を踏まえて、平成27年度からALの導入が開始され、平成27年度シラバスにも明記された。

【事業の成果と改善】

地域志向科目の展開による成果と改善は次の通りである。

- ・企業・外部講師招聘科目群・・・受講学生の評価（授業ごとアンケート合計）は、理解度＝「わかった」94.2%、役立ち度＝「ためになった」92.3%で、非常に高く評価されている（平成26年度、25年度もほぼ同じ）。外部講師招聘実施科目は22で地域志向科目35の60%超にとどまった、担当教員に改善を促した（平成26年度）。
- ・ボランティア論・体験・・・平成26年度の履修学生割合は30%に届かなかったが、大学側の取組の弱さが原因であった。ボランティアの意義の広報やボランティア体験の連携先との関係の強化を次年度に行い、学生参加の向上を図ることとした。
- ・起業家塾・・・平成26年度は参加学生数が本学学生のみ10名と少なく、4チームでのビジネスプランづくりとなった。外部コンテストにも入賞できなかった。しかし、事前・事後評価では学生の社会人基礎力は上昇しており、好評であった。次年度は本学、単位互換の長岡技術大学、長岡造形大学などの学生参加を拡大するよう、学内外で広報に注力することとした。
- ・インターンシップ・・・平成26年度の参加学生は16名にとどまり、参加率は25%台に低下した。初めての成果発表会は好評であった。次年度は、参加学生拡大の広報と課題解決型インターンシップの新設を行うこととした。
- ・地域活性化プログラム・・・平成26年度の参加ゼミは9ゼミ、9ゼミ学生参加率45.3%（分母は在籍3・4年生数）。学生の社会人基礎力の自己評価は上昇しており、成果が確認できる。成果発表会での一般参加者の「取組への興味度」は78%で非常に高い。当プログラム参加ゼミの拡大、興味度より「地域活性化への役立ち度」を評価してもらうべき、の2点の改善が今後、必要である。

IV. 自治体等との連携・評価<説明文は消さないこと> (2ページ以内)

【ステークホルダーの支援の実施】

※自治体からの支援（財政支援、建物の無償貸与、人員派遣等）が本事業の目的・各自治体の規模等から適切に実施されているか、また、地元企業、NPOの各種団体・機関等との連携の実施状況について、具体的に説明してください。

【外部評価等の実施と反映】

※外部評価や教職員、学生、自治体や企業、NPOの各種団体・機関等を対象としたアンケートや聞き取り調査をどのように実施しているか、また、評価結果や調査結果を踏まえどのように事業の改善が図られているかを具体的に説明してください。

【ステークホルダーの支援の実施】

1 連携自治体からの直接的支援

連携自治体＝長岡市からの人的、物的支援は平成 25、26 年度とも実施されていない。財政的支援は、平成 26 年度に約 65 万円（市内在住高校生の入学金助成）の財政支援が実施された。

2 自治体等との連携状況

長岡大学の地域連携は、連携協定等をベースに形成されている。本学は、長岡市（平成 19 年）、長岡商工会議所（平成 17 年）、北越銀行（平成 17 年）、日本政策金融公庫長岡支店（平成 19 年）と連携協定を結んでいる。この 4 機関は後述の C O C 推進協議会委員に参加いただいた。他の委員の公益財団法人山の暮らし再生機構では本学学長が理事、N P O 法人産業活性化協会 NAZE と公益社団法人中越防災安全推進機構は、本学教員が理事をそれぞれ務めている。N P O 法人市民協働ネットワーク長岡とは、事業での連携関係が形成されている。

また、長岡市と市内 3 大学 1 高専（長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校）の包括連携協定が締結され（平成 25 年）、大学間連携（単位互換等）や地学連携の基盤となっている。

3 諸分野・事業の連携状況

上記の組織間の連携に対し、諸分野・事業レベルの連携状況は次の通りである。

- ・教員の自治体政策形成参加・・・本学教員が専門性を活かして、自治体の政策形成の委員として参加した。具体的には、長岡市の情報、環境、福祉、開発等 17 件の委員会委員 17 人（平成 25 年度）、同 16 件の委員会委員 16 人（平成 26 年度）。また、新潟県の環境、産業、開発等 14 件の委員会委員 14 人（平成 25 年度）、同 11 件の委員会委員 11 人（平成 26 年度）。
- ・N P O 法人等の役員就任・・・長岡産業活性化協会 NAZE、中越防災安全推進機構、山の暮らし再生機構、ながおか情報交流ねつとの理事に本学教員・学長が就任している（平成 25、26 年度）。
- ・その他諸団体運営参加・・・長岡商工会議所、まちなかキャンパス事業への本学教員の委員等で 4 人の教員が参加した（平成 25、26 年）。
- ・企業からの相談等・・・商店街活性化、新製品開発、ホームページ改善等 5 件の相談・支援を行った（平成 26 年度）。
- ・自治体からの委託調査等・・・長岡市から企業研究開発、地域活性化の 2 件の委託調査を行った（平成 26 年度）。
- ・C O C 事業における連携状況・・・①企業・外部講師を平成 25 年度 33 人、平成 26 年度 71 人（延べ）を授業に招聘した、②地域活性化プログラムのアドバイザー（長岡市、N P O 等）18 人（平成 25 年度）、21 人（平成 26 年度）にプロジェクトの支援・指導を依頼した、③シンポジウム・パネラーに経営者・有識者 6 人（平成 25 年度）、4 人（平成 26 年度）を招聘した。

【外部評価等の実施と反映】

1 平成 25 年度事業に関するアンケートによる評価（統一指標）

平成 25 年度の C O C 事業に関するアンケートによる評価は、次の通りであった。

- ・「地域のための大学」としての活動の認識度・・・「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることの認識度について、学生、教員、職員の評価を聞いた。全学生（平成 26 年度の 2～4 年生、有効回答率 93.3%）は、「知っている」が 63.2%で、約 3 分の 2 であった。全教員（100%回答）は「知っている」が 95.7%、全職員（100%回答）は「知っている」が 100%であった。
- ・全学生の授業科目等への評価・・・「地域のための大学」として実施する授業科目等については、「受講した」が 42.7%にのぼった。そのうち、地域の現状把握と課題解決に役立つ知識・理解・能力が深まった者は 65.5%を占めた。そして、その知識等をどのように活かしていきたいか、を聞いたところ、地域活性化への参加や就職活動に活かしたい、などの意見が多く見られた。
- ・全教員の地域志向教育・研究の評価・・・地域を志向した教育・研究への参加度合いは、「教育・研究とも実施」が 47.8%、「教育のみ実施」39.1%、「研究のみ実施」4.3%であった。
- ・連携自治体の評価・・・当該大学の取組が「地域のための大学」として満足するものかとの間に対し、「大いに満足」（市と連携して着実にやっている）と評価していただいた。

2 平成 26 年度事業に関するアンケートによる評価（統一指標）

平成 26 年度の C O C 事業に関するアンケートによる評価は、次の通りであった。

- ・「地域のための大学」としての活動の認識度・・・「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることの認識度について、学生、教員、職員の評価を聞いた。全学生（平成 27 年度の 2～4 年生、有効回答率 80.5%）は、「知っている」が 63.4%で、前年度と同じ割合であった。全教員（100%回答）、全職員（100%回答）ともに、「知っている」が 100%であった。
- ・全学生の授業科目等への評価・・・「地域のための大学」として実施する授業科目等については、「受講した」が 34.2%で、前年度よりやや低下した。そのうち、地域の現状把握と課題解決に役立つ知識・理解・能力が深まった者は 65.5%で前年度と同じ割合であった。そして、その受講の結果、大学のある地域（都道府県）での就職しようとするきっかけになったか、を聞いたところ、「そう思う」が 43.6%にのぼった。また、その知識等をどのように活かしていきたいか、を聞いたところ、地域活性化への参加や就職活動に活かしたい、など前年度とほぼ同じ意見が多く見られた。
- ・全教員の地域志向教育・研究の評価・・・地域を志向した教育・研究への参加度合いは、「教育・研究とも実施」が 50.0%、「教育のみ実施」45.8%、「研究のみ実施」4.2%であった。
- ・連携自治体の評価・・・当該大学の取組が「地域のための大学」として満足するものかとの間に対し、「大いに満足」（市と連携して着実にやっている）と評価していただいた。

3 評価のフィードバック

まず、学生の「地域のための大学」の認識度向上を目指して、C O C 諸事業の広報を充実させる（授業時紹介やパネル等の拡大）。平成 26 年度から A 4 版「C O C 通信」を毎月刊行し、学生、教職員、保護者、連携機関に配布。第 2 に、地域志向科目の充実により（平成 26 年度から地域志向科目を 35 科目に拡大）、学生の地域認識を深め、地元就職意識の向上を図った。第 3 に、C O C 諸事業の評価を把握するため、次年度から大学独自アンケートを実施することとした。

V. 実施体制・事業の継続発展<説明文は消さないこと> (1ページ以内)

【全学的なマネジメント体制の構築】

※学長(校長)を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、役割分担の明確化や教職員の配置、各分担との連携等について、また、教職員の意識に変化が見られるかなど、全学的な取組となっているかについても具体的に説明してください。

【全学的なマネジメント体制の構築】

1 COC事業のPDCA

長岡大学のCOC事業のPDCAは、次年度調書(計画・予算)作成(3月、文部科学省提出)→当年度事業計画・役割分担等体制の作成・確立(5月COC推進本部)→事業展開(5月～3月)→COC推進協議会で報告・検討(6月)→当年度事業報告書作成(3月)→前年度実績報告書・評価アンケート実施・作成(4～5月)→COC推進協議会で報告・検討(6月)、のように展開している。

2 COC事業運営事務局

このPDCAサイクルを担っているのは、COC事業運営事務局である。同事務局は、教員3名(学長、COC総括マネジャー、教員)、幹部事務職員3名で構成され、毎週1回(火曜日午前中)会議を開催し、運営事務局会議通信(A4×1枚)を全教職員向けにメール送信を行い、情報共有を行っている。これにより、学長指示、運営事務局との調整、教職員との情報共有が円滑に行われている。

3 事業担当者・推進部署等

長岡大学のCOC事業は全体で18の事業から成っており、これを4層で推進している。直接の事業担当(第1層)を教員と事務職員各1名、大学の運営組織(8教育事業=教務学生課・資格取得センター、3研究事業=総務課、4社会貢献事業と3推進体制等=地域連携室。第2層)、地域連携研究センター(教育以外の研究、社会貢献事業の進行管理を担当する部会3つ。第3層)、及びCOC事業推進本部(第4層)、の4層である。

第1層は事業の直接推進担当者であり、第2層は事業を担当する大学の事務組織である。第3層は教育以外の事業の進行管理を行う調査研究、市民公開講座、地域連携の3部会(毎月開催)である。第4層は、第1～3層の事業担当者(平成25年度19名、26年度22名)を委員とし、学長が主宰し、毎月の進捗管理を行う。平成25年度は、地域連携研究センター運営委員会=推進本部(上記の総括マネジャーが双方の運営の中心)としたが、平成26年度から、推進本部を分離し、同センター内に上記第3層の機能を残し、連携させる体制とした(同センターには独自機能が拡大しているため)。

この4層担当形成により、日常的な事業推進と毎月の進行管理、年度始めの事業計画作成、そして年度末の報告書作成が円滑に行われている。また、平成26年度から、COC事業の広報には注力し、COC通信の毎月刊行、パネル展示、ブックレット刊行など、学生から保護者、諸団体、市民・住民に向けた情報発信を行っている。

4 COC推進協議会

本学は、長岡市との連携(連携自治体=長岡市)を基本に、長岡地域の産官学金が連携するCOC推進協議会を設立し、地域連携を推進している。具体的には、長岡市(政策企画課=連携窓口、工業振興課)、長岡商工会議所、北越銀行、日本政策金融公庫長岡支店、NPO法人産業活性化協会NAZE、NPO法人市民協働ネットワーク長岡、公益社団法人中越防災安全推進機構、公益財団法人山の暮らし再生機構の代表者9名と、本学の推進本部委員全員が加わり、協議会を構成している。同協議会は、年1回(6月)開催し、前年度の総括と当年度の事業計画等を検討している。また、長岡市(長岡商工会議所含め)とは毎月の事業調整会議で、進行管理を実施し、各機関・団体との直接的な連携も推進している。

VI. 補助金の執行状況<a・bの説明文は消さないこと>

【経費の適切な執行】
 ※これまでの執行経費の内容は妥当であり、事業目的を達成する上で必要不可欠なものへの支出となっているか。

1. 平成25年度の実施状況（2ページ以内）※平成25年度選定校のみ

a. 事業実施計画（平成25年度交付申請書「本年度の補助事業実施計画」より転載）
 平成25年度の補助事業の目的を達成するための事業計画は、以下の通りである。

I 教育

- ① 9月～3月 ボランティア・スキルの養成（リーダー研修、ボランティア・アドバイス）
- ② 9月～2月 学生起業人材の養成（ビジネスプラン・コンテスト、起業家塾セミナー）
- ③ 10月～2月 諸専門能力の養成（資格対策講座等の実施）
- ④ 10月～12月 現場感覚・知識の養成（地域学修科目の開講）
- ⑤ 10月～2月 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム（ゼミ）の実施）
- ⑥ 10月～2月 社会人基礎力の養成（課題解決型インターンシップ）
- ⑦ 1月～3月 学生満足度調査の実施

II 研究等

- ⑧ 9月～3月 新潟・長岡地域産業競争力調査研究の実施
- ⑨ 9月～3月 地域志向教育研究の実施（5件程度）
- ⑩ 12月～3月 平成26年度の長岡地域<創造人材>に関する調査研究の準備作業実施

III 社会貢献

- ⑪ 9月～2月 企業人セミナーの開講
- ⑫ 10月～3月 地域活性化の推進
- ⑬ 10月～3月 市民公開講座の開講
- ⑭ 12月～3月 地域起業人材セミナーの開講

IV 全体

- ⑮ 9月～11月 地域連携研究センター立ち上げ等推進体制の整備
- ⑯ 10月～3月 地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催
- ⑰ 3月本事業報告書作成

b. 補助対象経費別内訳表（平成25年度実績報告書「費目別収支決算書の「補助事業に要した補助対象経費の額等」」及び「補助対象経費別内訳対比表の「実支出額」」より転載）

経費区分	金額（円）	実支出額
物 品 費	6,010,998 円	【設備備品費】 4,758,915 円 パソコン等一式 571,305 円 教室備え付けプロジェクター 3,402,000 円 展示用ボード、ケース 785,610 円 【消耗品費】 1,252,083 円 パソコンソフト 164,430 円 図書・書籍等資料 165,584 円 事務・消耗品等 922,069 円

人件費・謝金	12,399,808 円	【人件費】 10,511,276 円 教員 2,444,183 円 事務員等 8,067,093 円 【謝金】 1,888,532 円 情報・専門資格対策講座講師謝金 877,200 円 情報・専門授業用学生 TA 謝金 69,832 円 外部・企業講師謝金 384,000 円 シンポ・セミナー等講師謝金 527,500 円 F D / S D 会議講師謝金 30,000 円
旅 費	772,294 円	【旅費】 772,294 円 情報・専門資格対策講座講師旅費 18,900 円 外部・企業講師旅費 146,600 円 地域活性化活動等旅費 136,534 円 企業訪問等旅費 117,830 円 シンポ・セミナー等講師旅費 138,840 円 S D 研修等旅費 66,490 円 新採用教員赴任旅費 147,100 円
そ の 他	8,891,164 円	【外注費】 1,637,500 円 調査集計費一式 1,592,500 円 シンポ文字起こし 45,000 円 【印刷製本費】 4,099,924 円 シンポ等ポスター・チラシ印刷 408,292 円 シンポ等資料印刷 285,180 円 アンケート等調査票印刷 62,790 円 報告書等印刷 2,393,527 円 封筒印刷 134,400 円 広報リーフレット等印刷 185,535 円 広報パネル等印刷 630,200 円 【その他】 1,555,155 円 会議費 303,530 円 通信運搬費 725,730 円 その他諸経費 525,895 円 【地域志向教育研究経費】 1,598,585 円 5 件 1,598,585 円
合計	28,074,264 円	

2. 平成26年度の実施状況（2ページ以内）

a. 事業実施計画（平成26年度交付申請書「本年度の補助事業実施計画」より転載）

平成26年度の補助事業の目的を達成するための事業計画は、以下の通りである。

I 教育

- ① 4月～2月 諸専門能力の養成（資格対策講座等の実施）
- ② 4月～1月 現場感覚・知識の養成（地域志向・学修科目の開講）
- ③ 4月～1月 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラムの実施）
- ④ 4月～2月 ボランティア・スキルの養成（リーダー研修・ボランティア等）
- ⑤ 4月～1月 社会人基礎力の養成（インターンシップ）
- ⑥ 6月～2月 学生起業人材の養成（起業家塾等）
- ⑦ 1月～3月 学生満足度調査の実施

II 研究等

- ⑧ 5月～3月 長岡地域＜創造人材＞調査研究の実施
- ⑨ 5月～3月 地域志向教育研究の実施
- ⑩ 9月～3月 平成27年度の少子高齢化・人口減少に関する調査研究の準備作業

III 社会貢献

- ⑪ 5月～3月 地域活性化の推進
- ⑫ 6月～2月 企業人セミナーの開講
- ⑬ 6月～2月 市民公開講座の開講
- ⑭ 6月～3月 地域起業人材セミナーの開講

IV 全体

- ⑮ 4月～3月 地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実
- ⑯ 5月～2月 地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催
- ⑰ 4月～3月 本事業の広報の充実

b. 補助対象経費別内訳表（平成26年度実績報告書「費目別収支決算書の「補助事業に要した補助対象経費の額等」」及び「補助対象経費別内訳対比表の「実支出額」」より転載）

経費区分	金額（円）	実支出額
物品費	2,316,332円	【消耗品費】2,316,332円 図書・書籍等資料 147,759円 事務消耗品等 2,168,573円
人件費・謝金	29,584,243円	【人件費】25,904,143円 教員 6,570,170円 事務員等 19,333,973円 【謝金】3,680,100円 情報・専門資格講師謝金 933,300円 情報・専門授業用学生TA謝金 111,000円 外部・企業講師謝金 1,228,800円

旅 費	2,096,750 円	シンポ・セミナー等講師謝金	1,347,000 円
		FD/S D 会議講師謝金	60,000 円
そ の 他	13,875,521 円	【旅費】 2,096,750 円	
		外部・企業講師旅費	409,058 円
		地域活性化活動等旅費	304,333 円
		ボランティア活動旅費	80,284 円
		企業訪問等旅費	464,901 円
		シンポ・セミナー等講師旅費	167,660 円
		S D 研修等旅費	670,514 円
		【外注費】 2,336,760 円	
		調査集計費一式	1,728,000 円
		社会人基礎力テスト PROG	563,760 円
		シンポ文字起こし	45,000 円
		【印刷製本費】 6,159,636 円	
		シンポ等ポスター・チラシ印刷	544,274 円
		シンポ等資料印刷	245,160 円
		アンケート等調査票印刷	148,489 円
		報告書等印刷	4,136,292 円
封筒印刷	182,757 円		
広報リーフレット等印刷	766,152 円		
広報パネル等印刷	136,512 円		
【その他】 5,379,125 円			
会議費	408,999 円		
通信運搬費	1,037,170 円		
その他諸経費	1,594,826 円		
地域志向教育研究経費	2,338,130 円		
合計	47,872,846 円		

Ⅶ. 平成 27 年度の取組と今後の見通し＜説明文は消さないこと＞（4 ページ以内）

※Ⅰ～Ⅴの観点を参照しながら、具体的に説明してください。

① 達成目標の進捗状況

1 <教育>分野における達成目標に向けた進捗状況

(1) 専門能力養成

- ・平成 27 年度の上級情報系資格（Word・Excel 1・2 級等）の取得率は 35%で、前年度をやや下回った。上級系専門資格（日商簿記・販売士 1・2 級等）の取得率は、平成 27 年度は 9%で前年度を下回った。最終年度目標（情報系 60%、専門系 40%）とは大きく乖離している。
- ・資格取得支援（資格取得支援センター）を行ったが、なかなか成果がでない結果となった。平成 26 年度で指摘したように、<情報系は 1 年生で初級資格（Word・Excel 3 級）、2・3 年生で上級資格取得>、<専門系は 1・2 年生で初級資格（日商簿記・販売士 3 級）、3 年生で上級資格取得>を可能にする支援・指導の仕組みを構築することに注力する必要がある。

(2) 社会人基礎力養成

- ・社会人基礎力養成を目指す地域志向科目は、平成 27 年度に 1 科目（「現場体験プログラム」）加え、36 科目とした。履修学生も 1331 人で、前年度、最終年度目標を大きく上回った。
- ・企業・外部講師等授業・・・各授業の受講学生アンケートでは、「わかった」94.4%、「ためになった」90.7%と、理解度、役立ち度ともに非常に高く評価されている（平成 27 年度）。
- ・ボランティア論・体験・・・平成 27 年度の履修学生割合は 29%で、最終年度目標とは大きく乖離しており、在学生への履修拡大が依然として課題である。
- ・起業家塾・・・平成 27 年度の履修学生割合は 24%で、前年度をやや上回ったが、まだ不十分。長岡市起業アイデア・コンテストで、1 件が優秀賞を受賞した。
- ・インターンシップ・・・平成 27 年度の履修学生割合 29%で、やや上昇したがまだ不十分。課題解決型の現場体験プログラム受講者は 2 名にとどまった。
- ・地域活性化プログラム・・・平成 27 年度の履修学生割合は 53%で、前年に比べ上昇したが、まだ目標に届かない。ゼミ参加と学生参加拡大が課題だが、プログラムとしては順調。

(3) 学生の事業評価・能力測定

- ・学生満足度調査・・・平成 27 年度新調査票の調査の分析、改善方策のまとめを行っている。
- ・PROGテスト・・・平成 27 年度から、テスト結果を返却し、ゼミで、各学生の能力改善・向上目標を設定し、改善を図るアカデミック・アドバイスを開始した。

2 <研究>分野における達成目標に向けた進捗状況

- ・地域課題解決に向けた研究・・・成果を、平成 27 年度「人口減少時代と長岡地域活性化の方向」シンポジウムで報告し（100 名参加）、報告書も作成した。
- ・地域志向教育研究経費・・・平成 27 年度は 7 件・人、平成 28 年度は 6 件・人が採択されて実施された。平成 27 年度は一部ブックレットとして刊行された。

3 <社会貢献>分野における達成目標に向けた進捗状況

- ・平成 27 年度に地域活性化は、東山地区マップ活用で、地区フォーラム開催。市民公開講座は、年間、7 講座開講した。企業人セミナーは、年間 4 講座開講した。起業人材養成セミナーは、女性・一般創業セミナー、創業メンター制度を展開した。

②留意事項への対応状況 * 留意事項①と③のエビデンスは別添資料の資料3を参照されたい

【留意事項①】目標に対し、地域志向科目の立て方・内容等取組の整合性を明確にすること。また、地域志向科目の履修指導、同科目の必修化を進めること。→【対応状況①】目標と地域志向科目の内容等との整合性については、平成26年度の「創造人材調査」および平成27年度の地域志向教育研究「新潟・長岡地域の産業界・企業における人材ニーズ等の現状と課題」の結果を踏まえ、「若者個人に求められる成果をあげるための〈能力・資質〉」を整理した。平成28年度にこの整理をカリキュラムに組み込む検討を行い、平成29年度から実施に移す計画である。

また、地域志向科目は、平成27年度に、課題解決型インターンシップ科目として、「現場体験プログラム」（2年生担当、1単位）を加え、36科目となった。しかし、平成27年度の地域志向科目のうち企業・外部講師等招聘授業が21科目に低下したため、地域志向科目の再設定が必要と判断し、平成28年度に検討（アンケート調査等）し、平成29年度に地域志向科目の再設定を行うこととした。

【留意事項②】地域志向科目以外の科目でも地域関係の学修を取り入れること。また、シラバスでその旨明示すること。→【対応状況②】実施済みである。

【留意事項③】地域志向教育研究経費は、公募での公平な審査で配分するとともに、実績・成果評価を行うこと。→【対応状況③】平成27、28年度も、地域志向教育研究推進に関する指針にそって推進した。

【留意事項④】全学的に地域志向を進めるFD/SDを実施すること。→【対応状況④】平成27年度は5回（ハラスメント、AL、満足度調査、PROG等）開催した。平成28年度も、開催予定。

【留意事項⑤】事業補助期間の5年間、多方面からの事業評価アンケートを行う。→【対応状況⑤】平成27年度も前年同様の事業評価アンケートを行った。平成28年度の事業評価も同様に行う予定。

【留意事項⑥】広報・フォーラム時には地（知）の拠点整備事業助成事業であることを明確にする。→【対応状況⑥】平成27年度も前年度と同様、広報に注力した。平成28年度はCOC+の広報を実施予定。

【留意事項⑦】公平・最小の費用で最大限の効果が上がるように経費を使うこと。→【対応状況⑦】引き続き、平成27、28年度も、費用対効果の観点から経費支出の効率化を図る。

【留意事項⑧】次年度以降、補助金減額はありうる。縮小・中止事業は相談すること。→【対応状況⑧】平成28年度にCOC人件費による教職員は減少したが、事業の縮小・中止はない。

【留意事項⑨】人件費について、継続性の観点から、事業実施を可能にする方策を検討すること。→【対応状況⑨】平成28年度からCOC教職員を縮小し、既存教職員に科目・業務を移行し、軟着陸を目指す。

【留意事項⑩】人件費・謝金は高額なので、必要性・効率性・成果等を検討し、費用対効果を確実なものとする。→【対応状況⑩】平成26年度と同様の努力を行っている。

③教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組

【教育改革】 * 地域志向科目、AL等の科目別指定状況のエビデンスは別添資料の資料4を参照されたい

1 地域志向科目の拡大

・平成27年度に、1科目（課題解決型科目「現場体験プログラム」）を加えて、36科目となった。

2 アクティブラーニング（AL）の導入

・平成27年度から、アクティブラーニング（AL）の3類型（知識定着・確認型AL、協同学修型AL、課題解決型AL）が導入され、シラバスにも明記された。

【事業の成果と改善】

平成27年度の成果と今後の改善は次の通りである。

- ・企業・外部講師招聘科目・・・受講学生の評価は、上記のように、非常に高く評価された（平成 27 年度）が、企業・外部講師招聘実施科目の見直し・再設定を行うこととした。
- ・ボランティア論・体験・・・平成 27 年度の履修学生割合は 29%で、改善がみられない。平成 28 年度から担当教員が変わり、学修方式の刷新が行われ、履修学生数が向上している。
- ・起業家塾・・・平成 27 年度の長岡市起業アイデア・コンテストでの優秀賞受賞もあり、平成 28 年度の起業家塾受講学生数が拡大している。
- ・インターンシップ・・・平成 27 年度の成果発表会は好評であった。平成 28 年度はCOC+事業のなかでの広域事業展開のなかで、履修学生数が拡大している。
- ・地域活性化プログラム・・・平成 27 年度の成果発表会の一般参加者（200 名）の評価＝当プログラムが「地域活性化に役立っている」70%という高い評価を受けたことは心強い。ほぼ順調。

*** 地域活性化プログラム評価のエビデンスは別添資料の資料 5 を参照されたい**

④自治体等との連携・評価

【ステークホルダーの支援の実施】

1 連携自治体からの直接的支援

長岡市の人的、物的支援は未実施だが、平成 27 年度の財政的支援は、約 106 万円（市内在住高校生の入学金助成）であった。

2 自治体等との連携状況

自治体等との連携、大学間連携関係は平成 27、28 年度も、維持継続されている。

3 諸分野・事業の連携状況

上記の組織間の連携に対し、諸分野・事業レベルの連携状況は次の通りである。

- ・教員の自治体政策形成参加・・・長岡市の委員会委員に就任の本学教員は、18 委員会の委員に 18 人（平成 27 年度）、14 委員会の委員に 14 人（平成 28 年度）であった。新潟県の委員会委員に就任した本学教員は、10 委員会委員に 10 人（平成 27 年度）、同 3 委員会委員に 3 人（平成 28 年度）。
- ・NPO 法人等の役員就任・・・平成 27、28 年度も継続して、本学教員が 4 団体の理事に就任した。
- ・その他諸団体運営参加・・・まちなかキャンパス事業等に本学教員が委員等で 8 人（平成 27 年度）、6 人（平成 28 年度）の教員が参加している。
- ・企業からの相談等・・・新製品開発、ホームページ改善等 3 件の相談・支援を行った（平成 27 年度）。
- ・自治体からの委託調査等・・・長岡市から市民意識調査 1 件の委託調査実施（平成 27 年度）。長岡市の地方創生事業である「ながおかアイデア・コンテスト」事業等も長岡市と連携して実施した。
- ・本学COC事業における連携状況・・・企業・外部講師 62 人（延べ）を授業に、シンポジウム・パネラーに経営者・有識者 5 人を招聘した（平成 27 年度）。地域活性化プログラムのアドバイザー（長岡市、NPO等）20 人（平成 27 年度）にプロジェクトの支援・指導を依頼した。

【外部評価等の実施と反映】

1 平成 27 年度事業に関するアンケートによる評価（統一指標）

平成 27 年度のCOC事業に関するアンケートによる評価は、次の通りであった。

- ・「地域のための大学」としての活動の認識度・・・全学生（平成 28 年度の 2～4 年生、有効回答率 90.6%）は、「知っている」73.2%で、前年度を上回り、教員・職員も 100%回答であった。
- ・全学生の授業科目等への評価・・・「地域のための大学」として実施する授業科目等を「受講した」が 51.6%で、前年度より大幅に上昇した。地域の課題解決等に役立つ知識等が深まった者は 74.4

%で、これも前年度を大きく上回った。その受講の結果、大学のある地域（都道府県）での就職しようとするきっかけになったかという問いに対し、「そう思う」が53.0%にのぼり、これも前年度を大幅に上回った。また、その知識等をどのように活かしていきたいか、を聞いたところ、地域活性化への参加や就職活動に活かしたい、など前年度とほぼ同じ意見が多く見られた。

- ・全教員の地域志向教育・研究の評価・・・地域を志向した教育・研究への参加度合いは、「教育・研究とも実施」が54.5%、「教育のみ実施」40.9%、「研究のみ実施」4.5%であった。
- ・連携自治体の評価・・・当該大学の取組が円滑、かつ満足できるものかとの問いに対し、「円滑」、「大いに満足」と評価していただいた。

2 評価のフィードバック

平成27年度は、学生の「地域のための大学」の認識度は大幅に向上し、地域志向科目の評価も大幅に向上した。地域志向教育研究への取組も進んだ。今後も、広報・授業等取組をさらに充実させ、満足度を高めていく必要がある。

⑤実施体制・事業の継続発展

COC、COC+事業の平成27年度以降の実施体制は次の通りである。

1 PDCAサイクルの継続

まず、事業のPDCAサイクルを平成27、28年度とも前年度と同様、継続展開している。平成28年度からCOC+に参加したので、名称はCOC+推進本部、COC+推進協議会に変更した。

2 COC+事業運営事務局

平成28年度以降も継続して、COC+事業運営事務局がPDCAを回す。同事務局会議のメンバー、情報提供方法も同様に、継続している。

3 事業担当者・推進部署等

COC+事業は平成27年度までのCOC事業と同様、全体で18の事業から成る。これを平成28年度以降も引継ぎ、4層で推進している。

4 長岡大学COC+推進協議会

平成28年度から、本学はCOC+事業に参加し、連携自治体は、長岡市に新潟県、新潟市が加わり、3自治体となった。COC+の全体協議会参加に加え、従来の長岡地域の産官学金連携のCOC+推進協議会の継続開催も行う。メンバー、開催頻度等は同様である。毎月の事業調整会議も開催している。

⑥これまでのCOCをいかして、COC+の目標に対してどのように取り組んできたか。また今後、どのように取り組んでいくのか。 ***COC事業のエビデンスは別添資料の資料6を参照されたい**

- ・地（知）の拠点大学の整備・・・COC事業は、大学の教育・研究・社会貢献を地域志向に転換することが課題である。地域志向の仕組みができた授業科目と未達の科目があり、地域志向科目の再編も進める。具体的には、地域活性化プログラムは、ゼミの年間通じた課題解決の取組で、学生の能力向上、地域連携（評価）も定着した。ボランティア論・体験、起業家塾、インターンシップ等は単発科目で、今後の仕組みづくりが課題である。
- ・COC+事業への方向・期待・・・平成27年度から長岡市と連携して地方創生の取組が始まり（ながおか・アイデア・コンテスト事業等）、28年度から本学もCOC+事業に参加した。そのなかで、すでに、ボランティア、インターンシップ、起業家塾の展開に良好な効果が見られ、地域活性化プログラムでも活動領域が拡大し、地（知）の拠点大学としての新たな展開も期待できる。今後は、各事業の地域連携の拡大・充実を図り、長岡・新潟地域における地方創生・地域活性化を推進する。

Ⅷ. 平成 27 年度以降の補助金の執行状況<a・bの説明文は消さないこと>

【経費の適切な執行】

※これまでの執行経費の内容は妥当であり、事業目的を達成する上で必要不可欠なものへの支出となっているか。

1. 平成 27 年度の実施状況（2 ページ以内）

a. 事業実施計画（平成 27 年度交付申請書「本年度の補助事業実施計画」より転載）

平成 27 年度の補助事業の目的を達成するための事業計画は、以下の通りである。

I 教育

- ① 4 月～2 月 諸専門能力の養成（資格対策講座等の実施）
- ② 4 月～1 月 現場感覚・知識の養成（地域志向・学修科目の拡大・開講）
- ③ 4 月～1 月 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラムの実施）
- ④ 4 月～2 月 ボランティア・スキルの養成（リーダー研修・ボランティア等）
- ⑤ 4 月～2 月 社会人基礎力の養成（インターンシップ、現場体験等）
- ⑥ 5 月～2 月 学生起業人材の養成（起業家塾等）
- ⑦ 1 月～3 月 学生満足度調査・PROGテストの実施

II 研究等

- ⑧ 4 月～3 月 新潟・長岡地域<少子高齢化・人口減少>調査研究の実施
- ⑨ 4 月～3 月 地域志向教育研究の実施
- ⑩ 9 月～3 月 平成 28 年度のボランティア活動に関する調査研究の準備

III 社会貢献

- ⑪ 5 月～3 月 地域活性化の推進
- ⑫ 5 月～2 月 企業人セミナーの開講
- ⑬ 5 月～2 月 市民公開講座の開講
- ⑭ 6 月～3 月 地域起業人材セミナーの開講

IV 全体

- ⑮ 4 月～3 月 地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実
- ⑯ 5 月～2 月 地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催
- ⑰ 4 月～3 月 本事業の広報の充実

b. 補助対象経費別内訳表（平成 27 年度実績報告書「費目別収支決算書の「補助事業に要した補助対象経費の額等」」及び「補助対象経費別内訳対比表の「実支出額」」より転載）

経費区分	金額（円）	実支出額
物品費	1,642,984 円	【消耗品費】 1,642,984 円 図書・書籍等資料 66,848 円 事務消耗品等 1,576,136 円
人件費・謝金	32,103,937 円	【人件費】 28,218,287 円 教員 7,046,789 円 事務員等 21,171,498 円 【謝金】 3,885,650 円 情報・専門資格講師謝金 991,050 円 情報・専門資格授業用 TA 謝金 139,000 円

旅 費	1,591,216 円	外部・企業講師謝金 1,008,000 円 シンポ・セミナー講師謝金 1,639,600 円 F D / S D 会議講師謝金 108,000 円 【旅費】 1,591,216 円 外部・企業講師旅費 299,220 円 地域活性化活動等旅費 432,952 円 ボランティア活動旅費 89,008 円 企業訪問等旅費 157,360 円 シンポ・セミナー等講師旅費 32,400 円 研修等旅費 580,276 円
そ の 他	10,612,674 円	【外注費】 2,094,960 円 調査集計費 799,200 円 社会人基礎力テスト PROG 1,144,260 円 シンポ文字起こし 97,500 円 会場写真撮影 54,000 円 【印刷製本費】 5,214,132 円 シンポ等ポスター・チラシ印刷 711,364 円 シンポ等資料印刷 212,976 円 アンケート等調査票印刷 83,592 円 報告書等印刷 3,453,440 円 封筒印刷 174,420 円 広報リーフレット等印刷 568,620 円 広報パネル等印刷 9,720 円 【その他】 3,303,582 円 会議費 473,786 円 通信運搬費 788,812 円 その他諸経費 300,086 円 地域志向教育研究経費 1,740,898 円
合計	45,950,811 円	

2. 平成28年度の実施予定（2ページ以内）

a. 事業実施計画（平成28年度補助金調書「（別添1）4. 平成28年度の事業実施計画」より転載）

平成28年度の補助事業の目的を達成するための事業計画は、以下の通りである。

I 教育

- ① 4月～2月 諸専門能力の養成（資格対策講座等の実施）
- ② 4月～2月 現場感覚・知識の養成（地域志向・学修科目の拡大・開講）
- ③ 4月～2月 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラムの実施）
- ④ 4月～2月 ボランティア・スキルの養成（リーダー研修・ボランティア等）
- ⑤ 4月～2月 社会人基礎力の養成（インターンシップ、現場体験等）
- ⑥ 5月～2月 学生起業人材の養成（起業家塾等）
- ⑦ 1月～3月 学生満足度調査・PROGテストの実施

II 研究等

- ⑧ 4月～3月 新潟・長岡地域＜ボランティア活動＞調査研究の実施
- ⑨ 4月～3月 ＜新潟県内自治体の将来人口動向＞調査研究の実施
- ⑩ 4月～3月 地域志向教育研究の実施

III 社会貢献

- ⑪ 5月～3月 地域活性化の推進
- ⑫ 5月～3月 企業人セミナーの開講
- ⑬ 5月～3月 市民公開講座の開講
- ⑭ 5月～3月 地域起業人材セミナーの開講

IV 全体

- ⑮ 4月～3月 地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実
- ⑯ 4月～3月 地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催
- ⑰ 4月～3月 本事業の広報の充実

3. 平成29年度の実施予定（2ページ以内）

a. 事業実施計画（平成28年度補助金調書「（別添1）9. 参考資料」より転載）

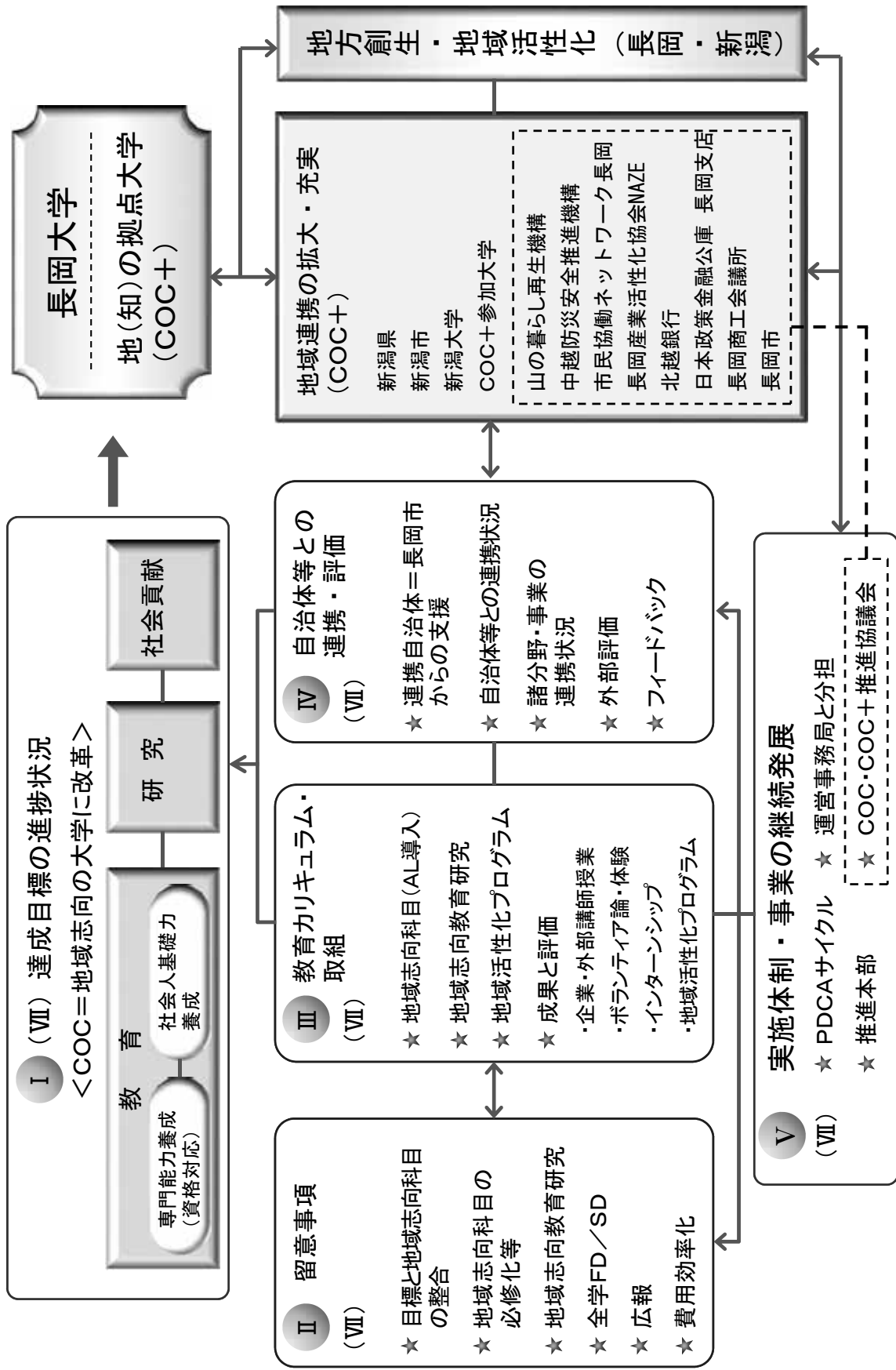
本事業プログラムにおいては、複数年度に渡って実施する事業はありませんので、本欄は記入事項はありません。

4. 平成30年度の実施予定（2ページ以内）※平成26年度選定校のみ

a. 事業実施計画（平成28年度補助金調書「（別添1）9. 参考資料」より転載）

- ①
- ②

長岡大学COC・COC+事業概要資料



別添資料

事業名称：長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

大学等名：長岡大学

資料1 フォローアップ（選定時の申請書における達成目標の進捗状況）

大学名：長岡大学

事業名：長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

選定時の申請書において、教育・研究・社会貢献の各項目ごとに達成目標を設定していただいておりますが、これに関するフォローアップとして、当該年度での達成状況を記載願います。

【教育】

	H25達成状況 (H25年度末)	H26達成状況 (H26年度末)	H27現状 (H27年度始め)	H27達成状況 (H27年度末)	H28達成目標	最終年度達成 目標
諸専門能力の養成<情報系資格 取得者数・割合>	28 % (31) 人	38 % (31) 人	26 % (17) 人	35 % (19) 人	4年生の % 40	卒業生の % 60
諸専門能力の養成<専門資格取 得者数・割合>	6 % (7) 人	20 % (16) 人	8 % (5) 人	9 % (5) 人	4年生の % 20	卒業生の % 40
地域志向・学修科目数及び履修・ 単位取得学生数	14 科目 (702人) 人	35 科目 (1094人) 人	36 科目 (1567人) 人	36 科目 (1331人) 人	36 科目 (1500人) 人	33 科目 (1000人) 人
ボランティア体験等科目履修学生 数・割合	10 % (12) 人	27 % (22) 人	33 % (22) 人	29 % (16) 人	4年生の % 50	卒業生の % 80
地域活性化プログラム履修学生 数・割合	35 % (43) 人	44 % (36) 人	44 % (29) 人	53 % (29) 人	4年生の % 50	卒業生の % 80
課題解決型インターンシップ履修 学生数・割合	新設科目として検 討	現場体験プログラムの 平成27年度カリキュ ラム新設決定	2 % (2) 人	2 % (2) 人	2年生の5 %	卒業生の % 20
就業体験型インターンシップ履修 学生数・割合	18 % (22) 人	25 % (20) 人	24 % (16) 人	29 % (16) 人	4年生の % 30	卒業生の % 60
学生起業家塾履修学生数・割合	16 % (20) 人	20 % (16) 人	23 % (15) 人	24 % (13) 人	4年生の % 20	卒業生の % 30
学生満足度調査(全学生対象)実 施	年度最終授業で 実施予定	H26新調査票で 実施済み	調査票の改定・ 改善を行う	新調査票で実施 済み	調査結果による 諸改善実施	学生満足度向上指 標の開発・実施
学生基礎力(PROG)テスト実施	未実施	H26 1~3年全学 生実施済み	実施を予定	H27 1~3年全学生実 施/能力向上目標の 設定推進	能力向上度分析・改 善指導方策のとりま とめ	学生の能力向上計 測指標開発・実施

※地域活性化プログラム参加
ゼミ数

7ゼミ

9ゼミ

8ゼミ

9ゼミ

【研究】

	H25達成状況 (H25年度末)	H26達成状況 (H26年度末)	H27現状 (H27年度始め)	H27達成状況 (H27年度末)	H28達成目標	最終年度達成 目標
平成27年人口減少問題に関する 調査研究	次年度研究の準 備	H26調査・シンポジ ウムでの公表実施 済み	人口問題調査結果・ シンポジウムで公表予 定	人口問題調査結 果・シンポジウムで 公表済み	ボランティア活動の調 査・シンポジウムでの公 表予定	5年間の調査研究と りまとめ
平成27年度地域志向教育研究	5件実施	8件実施	7件・人の研究実 施・公表予定	7件・人の研究実 施・成果を公表済 み	7件・人の研究実 施・公表予定	5年間の調査研究と りまとめ

【社会貢献】

	H25達成状況 (H25年度末)	H26達成状況 (H26年度末)	H27現状 (H27年度始め)	H27達成状況 (H27年度末)	H28達成目標	最終年度達成 目標
地域活性化の推進	地域活性化方 針・目標の設定	東山地区等マップ づくり方針の明確 化	マップ完成・地区配 布・フォーラムで公 表済み	マップ活用・地区交 流・地区フォーラム 実施済み	東山等活性化・ ネットワーク化	東山等地域活性化 ネットワーク形成
市民公開講座・セミナー	講座開講方針・ 計画の検討	5講座開講等計 画を検討	5講座開講・受講100 名・学外講座も開講 済み	7講座開講・受講 140名・学外9講 座も開講	7講座開講・学外 講座も開講	年間10講座の開講
企業人セミナー	4講座計画	4講座計画	4講座開講(受講 16名)済み	4講座開講・受講 15名	新講座めざした4講 座開講・プログラム見 直し	年間8講座の開講
起業人材養成セミナー	創業セミナー・創業 メンター制度の計画 化	女性・一般創業セミ ナー・メンター制度計 画	女性等創業セミナ ー・メンター実施(起業2 名)済み	女性等創業セミ ナー・メンター実施/ 11名受講	女性等創業セミ ナー・メンター実施 /起業3名	毎年5名の起業家を 輩出

※選定時に設定した達成目標は全て記載してください。

※必要に応じて行を追加してください。

(出所) 文部科学省に提出した長岡地域＜創造人材＞養成プログラムの平成27年度フォローアップ、長岡大学、2016年

資料2 平成28年度シラバス内の【科目特性】の記載内容について

【地域志向科目】

地域志向科目とは、「地域の実態把握、現場・企業の体験および地域課題解決等を行う授業科目」です。

次の科目を地域志向科目として、設定しています。

年次	科目名
1年次	キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場を知る1、経済・経営の現場を知る2、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論
2年次	キャリア開発Ⅱ-1、キャリア開発Ⅱ-2、起業家塾、地域活性化プログラム、現場体験プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習2、生活経済論1、生活経済論2、会計学1、プレゼンテーションソフト利用技術
3年次	キャリア開発Ⅲ-1、キャリア開発Ⅲ-2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析
4年次	ゼミナールⅣ

【アクティブラーニング（AL）】

ALとは、「大学の授業における、学生の参加型・能動型学修を行う科目」です。

そのALは、次の3つの形態＝類型に分けられます。

AL 類型	内容
知識定着・確認型AL	知識の定着・確認を目的としたAL。質問・コメントペーパー、小テスト（授業中）・小レポート、フィードバック、振り返り等。
協同学修型AL	知識や意見を相互発信する協同学修によって知識を深掘りし、幅広い知識や多様な視点の獲得を図ることを目的としたAL。教養・専門科目等の「知識定着・確認型AL」によって定着した知識を協同学修によってより発展させ、社会人基礎力の醸成も図る。グループワーク、ディスカッション、ブレインストーミング、ディベート、プレゼンテーション、演習・実習等。
課題解決型AL	知識の高度な活用を目的としたAL。「協同学修型AL」で発展させた知識を課題解決のために活用させ、さらなる社会人基礎力の強化を図る。課題探求等学修、フィールドワーク、ケースメソッド、PBL等。

【外部講師招聘科目】

外部講師招聘科目とは、「大学に専門家講師等を招聘して主として地域に関連する授業を行う科目」です。この授業を通して、社会における現場感覚および知識を身に付けることを目的としています。

（出所）『CAMPUS MANUAL2016, 29頁』（長岡大学, 2016年度）

資料3

資料3-1 若者個人に求められる成果をあげるための〈能力・資質〉

- A 共通基礎資質(必須)**・・・〈誠実さ、規律性、責任感、明るさ〉の4つは仕事というよりは人間・若者の社会生活に共通する必須の基礎資質である。これに、健康(体力)、マナー、倫理(道徳)観を加えて、人間力に磨きをかける必要がある。
- B 重視する能力・資質**・・・若者個人が成果を上げるために必要な能力・資質の重要度は、次のように言うことができよう。
- 第1位：コミュニケーション(傾聴、発信)力**・・・最も重要なのは、相手(上司・同僚等)の意見・指示等をよく聞くとともに(傾聴力)、自らの意見も明確にして(発信力)、良好なコミュニケーションをとって仕事を進めること。
- 第2位：主体性・実行力**・・・次いで重要なのは、主体的に業務を実行する力(主体性・実行力)である。そのためには、チームで協働して(働きかけ力、協調性)、業務の段取りを明確にして(業務の段取り力)、柔軟に対応しながら(柔軟な対応力)進める必要がある。
- 第3位：専門知識・ノウハウ**・・・さらに、良好なコミュニケーションを可能にし、業務を着実に実行・推進するための裏づけとしての専門知識・ノウハウが必要とされる。専門知識・ノウハウを活用して、課題を発見し(課題発見力)、創造力を働かせながら(創造力)、課題解決の方策を明確にする(計画力)、という新専門知識・ノウハウを身につける必要がある。
- 第4位：若者としての心がまえ**・・・上記の3つの能力・資質は若者が仕事を行う上での必須条件であるが、成果をあげるためにはその先の準備となる心がまえが必要になる。まず、チームで仕事をするなかで不可欠にたまるストレスをコントロールする術(ストレスコントロール力)を編み出しておく必要がある。他方で、情報を分析し自分なりに先を読む(情報収集・分析力、先を読む力)、またそこから、新しい事業等へのチャレンジ(チャレンジ精神)の可能性も探る、というような心がまえもしておきたい。

(注)平成26年度の創造人材調査の回答企業154社、同年度長岡大学卒業生(20才台)109名及び平成27年度人材ニーズ調査回答企業115社の回答結果分析から作成した。

(出所)平成27年度長岡大学地域志向教育研究ブックレット『新潟・長岡地域の産業界・企業における人材ニーズ等の現状と課題』(原田誠司、平成28年3月刊)

資料3-2 平成28年度地域志向教育研究経費に関する指針

平成28年度長岡大学「地域志向教育研究」の推進について(改訂版)(抜粋)

平成28年4月19日 学長

長岡大学の「地(知)の拠点整備事業」(「長岡地域<創造人材>養成プログラム」)における平成27年度の<地域志向教育研究>については、当面、次の方針に沿って、進めることとする。

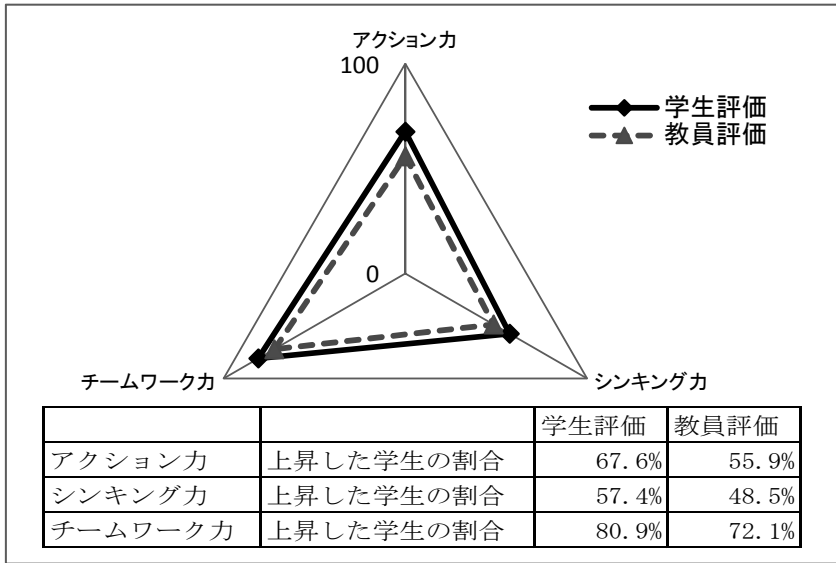
- 1 地域志向教育研究の意義について
 - ・「地域志向教育研究」は、大学教員の地域志向の教育研究の促進をめざしたものである。
- 2 地域志向教育研究の対象等(受給資格)について
 - ・地域志向教育研究の推進者は、教育・研究・社会貢献を地域志向に改革しようとする本学専任教員とする。
- 3 地域志向教育研究の受給等推進手続きについて
 - ・地域志向教育研究の受給等推進手続きは、別紙「長岡大学研究費使用の手引き」にのっとり、次の通り進めることとする。
 - ※地域志向教育研究計画申請書の提出(平成28年度公募期間平成28年4月19日～5月10日)、申請書の審査、取組実施、取組成果報告(年度後期に中間報告、年度末に成果発表を行うとともに、成果報告書を提出する。)
- 4 申請書審査方法について
 - ・審査項目等・・・取組内容の有効性(地域課題との関連)、取組期間(年度末までに成果をあげられるか。支給契約は単年度)、推進体制と経費(体制、費用面で円滑に推進できるか)の3点で、審査を行う。選定人数は、平成28年度の選定人数は5～10件程度とする。
 - ・審査・・・COC推進本部長(学長)、同副本部長(副学長)、副本部長(地域連携研究センター総括マネジャー)の3名で審査。審査を経て、学長が決定する。
- 5 受給条件について
 - ・平成28年度の支給金額の上限を50万円/件とする。

(注)地域志向教育研究経費に関する指針は平成25年9月に策定され、毎年若干の改訂を行ってきたが、この抜粋部分は変化していない。平成25年度の指針は、『長岡大学COC事業＝長岡地域<創造人材>養成プログラム 平成25年度報告書』を参照されたい。

資料5 学生による地域活性化プログラム評価

(『平成27年度学生による地域活性化プログラム』より作成)

資料5-1 平成27年度社会人基礎力の上昇度



社会人基礎力の上昇度は、アクションカ、シンキングカ、チームワークカについて、学生は自己評価を、教員は学生を評価するものである。

それぞれの項目の指標（合計12の力）は次のとおり。

<アクションカ>

= 主体性、働きかけ力、実行力

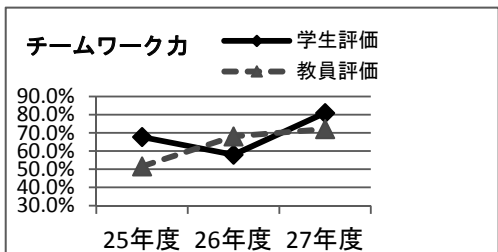
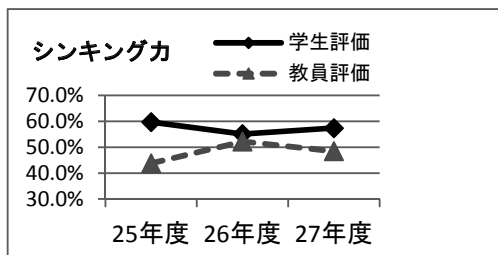
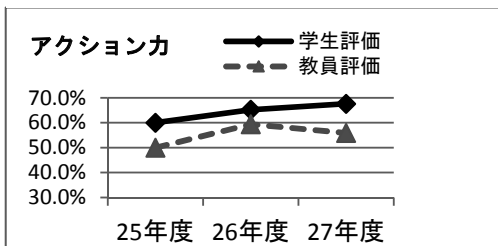
<シンキングカ>

= 課題発見力、計画力、創造力

<チームワークカ>

= 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力

資料5-2 平成25~27年度社会人基礎力の上昇度の推移



資料5-3

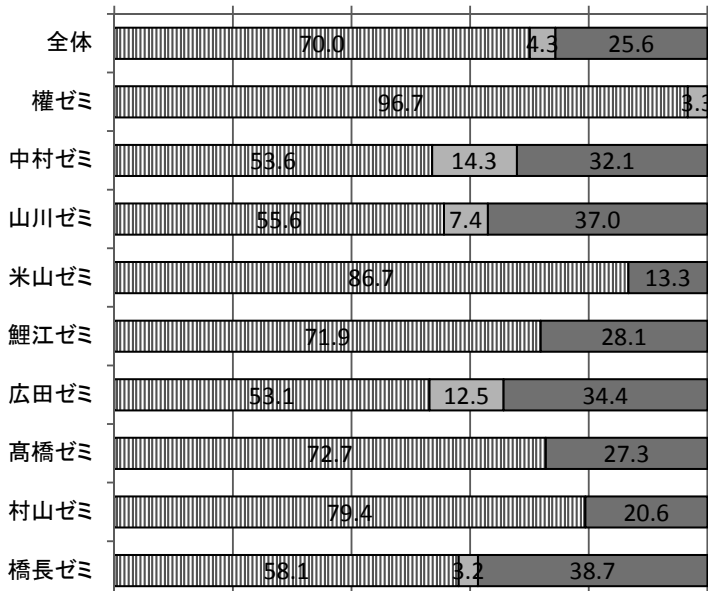
平成27年度成果発表会一般参加者の意見

<この取組は地域活性化に役立ちますか>

n=277 (9ゼミ)

□1. 役に立つ □2. 役立たない □3. どちらともいえない

(%) 0 20 40 60 80 100



資料6 COC事業のエビデンス

COC事業のエビデンスは、長岡大学のホームページ <http://www.nagaokauniv.ac.jp/> のトップページ「長岡大学COC事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム」、「地方創生」を参照されたい。

面接審査資料③—面接評価事前質問票・ご回答

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」平成28年度評価 面接評価事前質問票

整理番号	大学等名	取組名称
37	長岡大学	長岡地域<創造人材>養成プログラム

評価項目ごとの面接評価事前質問

1. 達成目標の進捗状況 (評価要項2. I. 及びVII. ①)

2. 留意事項への対応状況 (評価要項2. II. 及びVII. ②)

- ・留意事項⑤について:事業評価アンケートと外部評価はそれぞれ異なるものとして実施しているのか説明いただきたい。

3. 教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組 (評価要項2. III. 及びVII. ③)

4. 自治体等との連携・評価 (評価要項2. IV. 及びVII. ④)

- ・平成25年度及び平成26年度の連携自治体のアンケートでの評価がどのようなものであったのか説明いただきたい。
- ・自治体とのコストシェアをどのように考えているのか説明いただきたい。
- ・評価の総括について説明いただきたい。
- ・評価指標のうち、社会貢献部分等(申請書18ページにおける評価指標のうち、研究及び社会貢献)について記載がないため、説明いただきたい。

5. 実施体制・取組の継続発展 (評価要項2. V. 及びVII. ⑤)

- ・PDCAサイクルを踏まえて、次年度へ改善が活かされているのか説明いただきたい。
- ・教職員の意識変化に関する全学的な取組について説明いただきたい。

6. 補助金の執行状況 (評価要項2. VI. 及びVIII)

- ・経費(教員・事務員の人件費)の妥当性について説明いただきたい。

加点要素に係る面接評価事前質問

1. COC+の目標に対する平成27年度中の取組(評価要項2. VII. ⑥)

2. COC+の目標に対する平成28年度以降の取組(評価要項2. VII. ⑥)

その他

- ・本事業で新たに検討されている教育カリキュラム改革の基本的な考え方及びコアがどこにあるのか説明いただきたい。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」平成 28 年度評価

面接評価事前質問票へのご回答

平成 28 年 9 月 29 日 長岡大学

< 2. 留意事項への対応状況（評価要領 2. 2. 及び VII. ②） >

- ・留意事項⑤について、事業評価アンケートと外部評価は異なるものとして実施しているか→基本は、事業評価アンケートのなかに外部評価も含めて実施している。外部評価をお願いしている機関等は、COC 推進協議会を構成する次の 9 つの連携諸機関である（報告書 10 頁）。

< 4. 自治体等との連携・評価（評価要領 2. IV. 及び VII. ④） >

- ・平成 25・26 年度の連携自治体のアンケート評価→平成 25 年度の「全連携している自治体」＝長岡市に対し、当該大学＝長岡大学の取組が「地域のための大学」として満足するものか、との間に対し、「大いに満足」（市と連携して着実にやっている）と評価していただいた。平成 26 年度には、次の 3 つの質問と回答がなされた（文部科学省調査「統一指標」）。

第 1：当該大学の取組が副申した事業計画どおりに進捗しているか、の問いに対し、長岡市は「はい」と評価していただいた。その理由を「・東山マップ作成、プログラミング教室等と協力して実施できたため。・事業報告書で計画通り事業が進捗していることが確認できる。」とご指摘いただいた。

第 2：当該大学の取組が円滑な連携のもとに実施されていると思うか、との問いに対し、「はい」と評価していただいた。その理由を「・月 1 回の会議や通信など十分な情報交換ができているため。・地域課題についての情報交換を密に行っており、COC 事業の周知 PR 等、連携して行っている。」とご指摘いただいた。

第 3：当該大学の取組が「地域のための大学」として満足するものか、との間に対し、「大いに満足」と評価していただいた。その理由を「・学術研究だけでなく、地域課題の解決のため、常に地域に目を向けた取り組みを市と連携して進めているため。・市内企業や住民を巻き込んだ事業を実施しており成果が上がっている。」とご指摘いただいた。

本学としては、このように高く評価していただき、大変、光栄に思っております。

- ・自治体とのコストシェアの考え方→連携自治体＝長岡市とのコストシェアは、平成 25 年度は、人的、物的及び財政的支援ともに無かったが、平成 26 年度は財政的支援（市内進学学生への入学支援）が行われた（同上「統一指標」）。平成 27 年度以降も同様である。本学は私立大学であり、自治体からの人的、物的、財政的支援を組み込んだ事業等計画は作成していない。「各種連携事業における役割分担に応じて費用（コスト）を負担する」という基本的な考え方で、全ての連携事業に望むことをモットーとしている。今後も、この考え方で連携事業を推進します。
- ・評価の総括の説明→自治体等との連携の評価については、上記の長岡市に高い評価をいただいたが、同様の評価は長岡市以外の他の連携 7 団体には、要請していなかった。平成 26 年度取組から本学独自調査で長岡市含む連携 9 団体へのアンケート調査を実施した。自由記入欄で、「まちづくりには若い感覚と力が必要」、「産学連携、産学官金ネットワークの活用」（平成 26 年度）、「地域志向大学として、各事業や研究教育を通じ地域に大いに貢献していると感じる」（平成 27 年度）などのご意見をいただいたが、情報共有や連携可能事業等が中心のアンケートであり、本学の取組みに対する評価を求める項目は欠けていた。今後は、正面から評価と課題を問うアンケートとしたい。同時に、全ての連携事業の連携相手側／第三者側からの評価を行うこととしたい。

- ・研究・社会貢献部分の評価指標の説明→研究成果（産業競争力、創造人材）についてはシンポジウムでの発表に対し、参加者（約50名）の90%が「参考になった」と評価。申請時の共同研究相手の自治体等による評価はできず（両年の研究は本学単独実施）。地域志向研究も同様。社会貢献活動は、地域活性化活動（マップづくり等）では地区住民の好評の感想は得たがアンケートは実施しなかった。市民公開講座は5講座（平成26年度）総計で、受講者（71人）の94.4%（67人）が「満足＋やや満足」と評価（平成25年度は1講座開講のみ）、企業人セミナーでは7講座（平成25、26年度合計）総計で、受講者（29人）の89.7%（26人）が「大いに満足＋まあまあ満足」と評価、起業人材セミナーでは、1講座開講（平成26年度）、受講者（16人）の93.8%（15人）が「大いに満足＋まあまあ満足」と評価していただいた。平成28年度から評価アンケート項目等の見直しを行う。

<5. 実施体制・取組の継続発展（評価要領2.V. 及びVII. ④）>

- ・PDCAサイクル踏まえた次年度改善への活かし方→COC事業は毎年度、同様の項目で、報告書を作成している（報告書10頁）。最新の平成27年度報告書は、各事業（18事業）に、方針（申請時）→目標（申請時）→平成25年度実績と評価→平成26年度実績と評価→平成27年度方針・目標→平成27年度計画→平成27年度展開→平成27年度まとめ－成果と課題－の順に整理して（毎年3月）作成する（文部科学省に提出する実績報告書等はこの報告書をベースに作成する）。最新の平成28年度の事業計画は、この平成27年度の事業・結果を「平成27年度実績と評価」としてまとめ、これに「平成28年度方針・目標」と「平成28年度計画」を加えて、作成する。書き手は、第1層（直接の事業担当の教員、事務2名）が担い、5月の推進本部会議で決定し、以後毎月の推進本部会議で進捗をチェックする。年度報告書の「まとめ」を踏まえて、次年度計画に改善が提案される。
- ・教職員の意識変化の全学的取組→COC事業の情報共有（毎週の「COC通信」メール送信、毎月の推進本部会議資料配布、毎年度COC事業報告書配布等）とCOC事業（18）への参加促進により、教職員の参加意識が高まっている（報告書10頁）。平成26年度には、「地域のための大学」の教育・研究活動への参加教員は100%となった（平成25年度は90%。文部科学省統一指標アンケートによる）。同「地域のための大学」の認知度は、全教職員の回答「はい」が100%であった。

<6. 補助金の執行状況（評価要領2.VI. 及びVII）>

- ・経費（人件費）の妥当性→教員1名（「ボランティア大学」実現めざしたボランティア分野の専門教員）、事務職5名（資格取得等、地域活性化プログラム、地域連携分野各1名の事務職、ボランティア、地域連携分野各1名のコーディネーター）を雇用した（報告書12頁）。これにより、COCの18の事業を現場で推進する点に重点を置き事業の円滑・効率的な推進が可能になった。

<その他>

- ・教育カリキュラム改革の基本的考え方及びコアの説明→産業界の人材ニーズに応え、学生の将来像を支える学士力を、＜専門能力（専門教育＝資格対応型教育）＋社会人基礎力（キャリア教育＝体験型・課題解決型教育）＞の養成と設定し、その能力の養成をめざす（報告書3頁）。専門能力養成については、情報、専門資格の取得率向上だけでなく、学生の将来像を支える資格（専門能力）の観点で、仕組みを再構築する。社会人基礎力養成については、地域志向科目での体験型・課題解決型教育を地域連携の拡大による充実を図るとともに、学生個々人の能力向上評価指標・方式（AL等）の更なる開発を追求する。

評価結果資料④－平成 28 年度評価 評価結果及び評価要項

平成28年度評価 評価結果

選定年度	平成 2 5 年度	整理番号	3 7
大学等名称	長岡大学		
事業名称	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム		

（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価）

<p>（総合評価）</p> <p>B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</p>
<p>【コメント】</p> <p>【優れている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡市から本事業の実施により大学が地域に溶け込んできたという評価を得ており、今後の具体的な連携の深化が期待される。 <p>【改善を要する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で目標値を下回っている項目（専門能力養成〈資格試験合格率〉等）が見られることから、適切な改善策を講じることが望まれる。 ・地域志向性の涵養のための教育内容や養成する人材像の設定について、地域のニーズを反映させるように一層の検討が望まれる。 ・「専門能力養成」と地域志向カリキュラムをより関連付けていくことが望まれる。

平成28年度評価 評価結果

選定年度	平成25年度	整理番号	37
大学等名称	長岡大学		
事業名称	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム		

（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価）

<p>（総合評価）</p> <p>B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</p>
<p>【コメント】</p> <p>【優れている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡市から本事業の実施により大学が地域に溶け込んできたという評価を得ており、今後の具体的な連携の深化が期待される。 <p>【改善を要する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点で目標値を下回っている項目（専門能力養成〈資格試験合格率〉等）が見られることから、適切な改善策を講じることが望まれる。 ・地域志向性の涵養のための教育内容や養成する人材像の設定について、地域のニーズを反映させるように一層の検討が望まれる。 ・「専門能力養成」と地域志向カリキュラムをより関連付けていくことが望まれる。

平成28年度評価 評価要項

平成28年6月7日

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会

1. 平成28年度評価の体制、方法

1) 体制

評価に当たっては、a. 各事業の選定に係る審査状況、審査経過等を熟知している有識者 b. 当該事業の分野に関する高い知見を有する有識者等から構成される地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会（以下「事業委員会」という。）において実施する。

2) 方法

①平成28年度評価については、事業を実施する各大学等が作成する「進捗状況報告書」に基づき、2. に示す項目毎の観点等に基づき書面評価及び面接評価（必要に応じ現地調査の実施を含む。）での評価を行う。なお、評価に当たっては、文部科学省において実施した「地（知）の拠点整備事業におけるフォローアップ」の結果も勘案する。

②「進捗状況報告書」の書面評価は、事業委員会委員長の指名により選任するペーパーレフェリーが評価項目毎に以下の5段階の区分により評価を行う。

区分	評価
S (5点)	非常に優れている
A (4点)	優れている
B (3点)	妥当である
C (2点)	やや不十分である
D (1点)	不十分である

③評価項目毎の評点の取扱いは、別紙のとおりとする。

④書面評価を基に事業委員会による面接評価（必要に応じ現地調査の実施を含む。）を行い、総合評価を行った上で、以下の区分により評価の結果を決定する。

区分	評価
S	計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、事業計画の抜本的な見直しが必要である。
D	現在までの進捗状況に鑑み、本事業の目的を達成できる見通しが無いと思われるため、採択事業への財政支援を中止することが必要である。

⑤その他、評価の実施に必要な事項は事業委員会において定める。

2. 平成28年度評価の観点

1) 書面評価の観点

I. 達成目標の進捗状況（平成26年度末までの状況）

・地域志向科目（シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目）数及び同科目による人材育成は、当初掲げた目標の達成に向けて進捗しているか。また、当初掲げた目標を達成できる見込みはあるか。

・その他の達成目標について、当初掲げた目標の達成に向けて進捗しているか。また、当初掲げた目標を達成できる見込みはあるか。

II. 留意事項への対応状況（平成26年度末までの状況）

・採択時に付された留意事項への対応は進捗しているか。また、事業最終年度までに対応を完了できる見込みはあるか。

III. 教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組（平成26年度末までの状況）

・地域志向科目を履修する教育カリキュラムの改革が進んでいるか。その内容は、事業の趣旨に照らして適切か。【教育改革】

・取組により、学生の能力向上・学修行動の変化等の成果が見られるか。どのような方法・指標を用いて成果を測っているか。また、成果の客観的なデータに基づいた分析結果を事業の改善に反映させているか。【事業の成果と改善】

IV. 自治体等との連携・評価（平成26年度末までの状況）

・自治体からの支援（財政支援、建物の無償貸与、人員派遣等）が、本事業の目的、自治体の規模等から照らして適切に実施されているか。また、地元企業、NPO等各種団体・機関との連携が申請時に計画されている場合は、計画どおり実施されているか。【ステークホルダーの支援の実施】

・外部評価や教職員、学生、自治体や企業、NPOの各種団体・機関等を対象としたアンケートや聞き取り調査を実施しているか。また、評価結果や調査結果を踏まえて事業の改善が図られているか。【外部評価等の実施と反映】

V. 実施体制・事業の継続発展（平成26年度末までの状況）

・学長（校長）を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、役割分担の明確化や教職員の配置、各分担との十分な連携等が図られているか。また、教職員の意識に変化が見られるなど、全学的な取組となっているか。【全学的なマネジメント体制の構築】

VI. 補助金の執行状況（平成26年度末までの状況）

・これまでの執行経費の内容は妥当であり、事業目的を達成する上で必要不可欠なものへの支出となっているか。【経費の適切な執行】

VII. 平成27年度取組と今後の見通し

①達成目標の進捗状況 I.と同様の観点。

②留意事項への対応状況 II.と同様の観点。

③教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組 III.と同様の観点。

④自治体等との連携・評価 IV.と同様の観点。

⑤実施体制・事業の継続発展 V.と同様の観点。

⑥これまでのCOCを踏まえ、COC+の目標に対してどのように取り組んできたか。また今後、どのように取り組んでいくのか。

・COC+の目標に対しCOCの取組をいかして平成27年度で取り組んだものがあるか。（加点要素）

・COC+の目標に対し、COCの取組をいかして平成28年度以降に取り組んでいく内容に具体性があるか。（加点要素）

VIII. 平成27年度以降の補助金の執行状況

・執行経費の内容は妥当であり、事業目的を達成する上で必要不可欠なものへの支出となっているか。

2) 面接評価の観点

書面評価で不明確な事項について面接により確認する。

3) 現地調査の観点

- ・面接評価においても不明確な事項や現地で確認すべきと判断された事項がある場合には、必要に応じて現地調査を実施する。

3. 平成28年度評価結果の決定

書面評価及び面接評価（必要に応じ現地調査の実施を含む。）の結果を基に総合評価を行い、評価結果（案）を作成する。評価結果（案）において評価が「C」又は「D」とされた場合には当該事業に対し、評価結果（案）を提示して意見申立ての機会を設けた上で、評価の結果を決定する。

4. その他

1) 開示・公開等

(1) 事業委員会の審議内容等の取扱いについて
評価に係る審議は原則非公開とする。

(2) 評価結果の公表等について

評価結果は文部科学省へ報告されるとともに、各大学等から提出された「進捗状況報告書」のうちの事業概要と合わせて公表する。そのうち他大学等への波及効果がある事例として紹介する取組がある場合には、その内容についてホームページへの掲載やフォーラムの場等を活用し広く社会へ周知する。

(3) 委員等の氏名について

事業委員会の委員の氏名等については、評価結果の決定後に公表することとする。

2) 利害関係者の排除等

事業に以下の利害関係がある委員（以下の①～③に該当）は、事務局にその旨申し出ることとし、当該事業の評価には参加させないこととする。

（利害関係があるとみなされる場合）

- ① 委員が当該事業を実施する大学等の専任又は兼任として在職（就任予定を含む）又は3年以内に在職していた場合
- ② 委員が当該事業を実施する大学・学校法人等の役員として在職（就任予定を含む）又は3年以内に在職していた場合
- ③ その他、委員が中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される場合

3) 情報の管理、守秘義務、事業結果報告書の用途制限

(1) 評価の過程で知り得た個人情報及び対象大学等の評価内容に係る情報については、外部に漏らしはならない。

(2) 委員として取得した情報（「進捗状況報告書」等の各種資料を含む）は、他の情報と区別し、善良な管理者の注意義務をもって管理する。

(3) 評価にかかる資料等は、本事業の評価を行うことを目的とするものであり、その目的の範囲内で

使用する。

4) 評価結果の補助金配分額への反映

平成28年度評価の評価結果は文部科学省に報告され、今後国会の議決を経て決定される平成29年度以降の予算の範囲内で文部科学省が行う補助金の適正配分に資する。

以上

平成28年度評価 書面評価の評点の取扱いについて

平成28年度評価 評価要項（以下「評価要項」という。）に基づく、書面評価における評点の取扱いについては、以下のとおりとする。

【評点の考え方】

- 各評価項目については、その重要性に鑑み、項目毎に係数をかけて重み付けをする。
- 加点要素による加点がある場合は、合計が100点を上回った場合は、100点として取り扱う。

【100点 満点】

評価項目	係数	S (5点)	A (4点)	B (3点)	C (2点)	D (1点)
1. 達成目標の進捗状況 ＜評価要項2. 1) I. 及びVII. ①＞	5.0	25	20	15	10	5
2. 留意事項への対応状況 ＜評価要項2. 1) II. 及びVII. ②＞	2.0	10	8	6	4	2
3. 教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組 ＜評価要項2. 1) III. 及びVII. ③＞	4.0	20	16	12	8	4
4. 自治体等との連携・評価 ＜評価要項2. 1) IV. 及びVII. ④＞	3.0	15	12	9	6	3
5. 実施体制・事業の継続発展 ＜評価要項2. 1) V. 及びVII. ⑤＞	5.0	25	20	15	10	5
6. 補助金の執行状況 ＜評価要項2. 1) VI. 及びVIII. ＞	1.0	5	4	3	2	1

＜加点要素＞

加点要素	係数	S (5点)	A (4点)	B (3点)	C (2点)	D (1点)
1. COC+の目標に対する平成27年度中の取組 ＜評価要項2. 1) VII. ⑥＞	2.0	10	8	6	4	2
2. COC+の目標に対する平成28年度以降の取組 ＜評価要項2. 1) VII. ⑥＞	2.0	10	8	6	4	2

評価結果資料⑤－COC事業「平成28年度評価」結果について

COC事業「平成28年度評価」結果について

2017/03/08 長岡大学COC事業推進本部（原田）

COC事業の「平成28年度評価」の結果が、平成29年2月14日に公表された。評価結果についてのコメントは、以下の通りである。

1 平成28年度評価の結果について

- ・COC事業の「平成28年度評価」の結果は、図表1のとおりであった。
- ・図表1によれば、長岡大学はB評価であり、S評価、A評価に届かなかった。

図表1 COC・平成28年度評価・結果一覧(2017/0214公表)

A 平成25年度選定

S評価	千葉	信州	岐阜	高知	兵庫県立	大分県立看護	園田学園女子	7大学
A評価	小樽商科	岩手	山形	福島	金沢	福井	島根	26大学
	宮崎	札幌市立	横浜市立	富山県立	山梨県立	神戸看護	山口県立	
	長崎県立	東北公益	東海	杏林	芝浦工業	金沢工業	名古屋学院	
B評価	広島修道	聖徳短	京都工芸他	島根県立他	佐賀他			
	宮城教育	鳥取	香川	琉球	滋賀県立	奈良県立	高崎商科	12大学
C評価	長岡	松本	和歌山短	大阪府・市				
	秋田	宇都宮	京都	広島	吉備国際	広島高専		6大学

B 平成26年度選定

S評価								0大学
A評価	弘前	茨城	山形	愛媛	熊本	熊本県立	稚内北星学園	14大学
	東北学院	千葉科学	日本福祉	皇学館	京都文教	西日本工業	日本文理	
B評価	鹿児島	静岡県立	東北工業	東北芸術工科	共愛学園前橋	十文字学園女子	四日市	11大学
	四国	今治明德短	八戸高専	倉敷芸術科学他				
C評価								0大学

*平成29年度補助金上限→S評価23,400千円、A評価20,000千円、B評価18,500千円、C評価17,500千円

2 長岡大学の評価結果について①

*別添「平成28年度評価 評価結果」（上記の評価結果資料④）を参照されたい。

- ・評価→B評価。 *B＝「妥当である」、S＝「非常に優れている」、A＝「優れている」

★公開評価（ホームページで公開）

- ・＜総合評価＞→「一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である」

- ・＜コメント＞

【優れている点】→「長岡市から本事業の実施により大学が地域に溶け込んできたという評価を得ており、今後の具体的な連携の深化が期待される。」

・【改善を要する点】

→①「現時点で目標値を下回っている項目（専門能力養成＜資格試験合格率＞等）が見られることから、適切な改善策を講じることが望まれる。」

→②「地域志向性の涵養のための教育内容や養成する人材像の設定について、地域ニーズを反映させるように一層の検討が望まれる。」

→③「専門能力養成」と地域志向カリキュラムをより関連付けていくことが望まれる。」

★大学限り開示

- ・留意事項として、上記【改善を要する点】の①、②があげられている。これは、「COC+全体における中間評価等において、参加校としての対応状況を確認することがあります。」と記されている。 *COC+全体の中間評価→平成29年度実施予定

- ・参考意見として、上記【改善を要する点】の③があげられている。これは、対応状況の確認の趣旨ではなく、参考にとのこと。

3 評価方法・結果について②

*「平成28年度評価 評価要項」と「平成28年度評価 書面評価の評点の取扱いについて」（上記の評価結果資料④の評価要項等）を参照されたい。

- ・上記の改善を要する点は、「評点の取扱いについて」で見ると、「1 達成目標の進捗状況」と「2 留意事項への対応状況」の評価が低く、また、「3 教育カリキュラム改革を含む事業目標達成のための各種取組」があまり高くなかった、ことを示している。
- ・【優れている点】→これは、「平成28年度評価 進捗状況報告書」（上記書面審査資料①参照）の地域連携・貢献の項に加えて、面接審査時の長岡市（学長）の発言も評価された結果と思われる。
- ・【改善を要する点】①→資格等の目標未達は、上記進捗状況報告書別添資料（書面審査資料②のフォローアップ資料）でも正直に、資格取得率の伸び悩みを記述したので、この指摘は当然ではある。振返ってみると、目標値が高すぎた（卒業生の60～80%取得率等。上記のフォローアップ資料参照）ともいえ、今後は、もっと現実的、かつ計画的な目標設定と実現の仕組み・方式を検討する必要があると言える。
- ・【改善を要する点】②→この点は当初のCOC事業選定時の留意事項で指摘された事項である。創造人材育成と地域志向科目教育の有機的関連如何という指摘であった。これも、上記進捗状況報告書に記したように人材ニーズの把握（書面審査資料②の資料3-1参照）はできた段階であり、その教育方法への反映は未実施である。この点の改善の必要を指摘された。これは、ALの具体化により実現可能である。
- ・【改善を要する点】③→参考意見→専門能力養成と地域志向カリキュラムの関係は、今後の取組み課題として強く意識する必要がある。つまり、地域活性化プログラム等に既に内包されているのではあるが、社会人基礎力のシンキング力の課題発見力、計画力、創造力を専門科目の学習と地域志向科目の進め方を明示的に関連させたALの仕組みを構築することにより、学生の専門的・実践的能力を涵養することである。同時に、教育と学生の能力向上測定の方法も詰める必要がある（社会人基礎力測定、PROGテストの活用方法等）。この点は、COC+全体の中間評価には取り上げられないが、創造人材養成という点では、重要なポイントであり、フレームの具体化を検討する必要があるだろう。

4 その他

- ・以上の検討とともに、推進本部会議に提出された「COC事業終了後の大学の方向性について（メモ）」（後述）も参考資料として、検討いただければ幸いである。

*本文書は、ほぼ全文、全体FD/SD会議（2017/03/08）に報告されたものである。

<参考資料>

COO事業終了後の大学の方向性について（メモ）

2016/10/11 原田誠司

COO事業の助成は、来年度平成29年度で終了する（COO+は継続するが）。ソフトランディングに向けて、COO事業のプラス面をうまく引き継いで、長岡大学の特徴・強みを明確にする必要があると思う。以下、今後の大学の方向性についての私案である。検討されたい。

1 大学の目的と目標設定について

1-1 目的

- * 目的→「長岡・新潟地域の地（知）の拠点大学としての発展をめざす」
- * 現在、長岡大学の目指す目的は設定されていない。COOに選定されたのは、県内では、長岡大学だけであり、県内の大学間競争の観点からは、優位性を示すことになる。
- * また、COO事業は大学の教育・研究・社会貢献をまるごと地域志向に改革するという先端の大学改革事業であり、それは、国立大学（文部科学省）の機能分類の1つである「地域貢献」大学（新潟大学、長岡技術科学大学等）に比肩する県内の唯一の私立大学であることを示すものと強く意識する必要がある（その意味で、新潟大、長岡技大とは競合）。
 - ★ 国立大学の「地域貢献」大学類型は、「地域貢献+専門の強み」大学である（原文は「主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする」国立大学。出所：「第3期中期目標期間における国立大学法人運営交付金のあり方について（中間まとめ）」、平成27年4月8日）。
 - ★ 経済経営系の私立大学の長岡大学の類型は、「地域貢献+企業家養成」に特徴があると言える。専門の強み=企業家養成。企業家養成とは地域産業活性化の最大の課題である、<起業家教育・起業家養成・経営後継者養成>の取組みにあると言えると思う。

1-2 目標

a 大目標

- * 大目標→「地域密着型大学 Relationship University」づくりに取組む
- * 「地域の地（知）の拠点大学」を実現するためには、地域密着型取組みが不可欠であることがこの間の事業展開のなかで明確になった。その意味で、地域密着型大学 Relationship University づくりを大目標に掲げる。

b 3つの目標

上記の大目標を実現するため、の3つの目標掲げる。

- * 第1：学生の希望を叶える大学・・・何よりも教育面で、保護者・学生の希望に応えるとともに、地域人材ニーズに応える大学を目指す。学生の希望をかなえ、ニーズに応える学士力=学力（資格等）+社会人基礎力を養成する。
 - ★ これまでの「充実感、達成感、満足感」は、学生の希望の叶え具合を示すフレーズとして位置づけるのがよいのではないか。

* 第2：地域の課題解決に取り組む大学・・・教育・研究・社会貢献全てにわたり、地域の課題を発見し、調べ、そして解決策を示し、実践することをモットーとするシンクタンク機能を持った大学を目指す。とくに、地学連携による教員＝研究者の知的創造・課題解決策提示が大きな鍵となる。

* 第3：地域の生涯学習に貢献する大学・・・地域の企業・自治体等との連携を充実させ、企業・自治体等の活動を創造的に担いうる実践的人材を養成する大学を目指す。地域における経済経営系の社会人向けの生涯学習機能の充実に注力する。なかでも、地域経済活性化の中心的課題である起業家養成、経営後継者養成の取組みは重要である。

2 目標達成に向けた事業・取組について

上記3つの目標実現のための方策・取組みを考えると、次の通り。

2-1 学生の希望を叶える大学

a 地域人材ニーズに応える

→本学学生の就職先企業等の人材ニーズ、および卒業生個人への活動状況のアンケート調査（2年に1回）を実施し、学士力（学力＋社会人基礎力）の養成内容に反映させる。

*結果は、就職等のマッチング、同窓会運営にも活用できる。

→社会人基礎力養成のための教育プログラムはこれまで未形成であった。学生の各基礎力の自己評価からPROGテスト活用に進んできたが、＜共通基礎資質→コミュニケーション力→主体性・実行力→専門知識・ノウハウ→若者としての心がまえ＞（平成27年度地域志向教育研究ブックレット vol.1『新潟・長岡地域の産業界・企業における人材ニーズ等の現状と課題』）が求められているとの若者が成果をあげるための能力・資質の調査結果を踏まえた教育プログラム＝AL（アクティブラーニング）の開発が必要である。

→事業承継が地域経済の大きな課題になっており、企業家・起業家コースを設けて、経営後継人材の育成に注力する。

b 学生の希望を叶える

→入学時の学生の進路等希望、後述の学生支援センターやキャリアセンターでの相談・支援、マンツーマン面談の3つを連携させた情報整理、さらに個人別支援方策を明確にし、学生の人材育成を徹底支援する。

c 学士力養成の仕組みづくり

→学士力＝学力（資格等）＋社会人基礎力の養成を可能にする授業等の次のような改革を行う。

ア：授業時間割の改革

→1～3限に集中、4・5限は資格、クラブ活動、地域連携の時間にあてる。

→3限には、現場見学等学外活動がやりやすいように地域志向科目、ゼミを配置する。

*半期授業をフルに履修すると、3限×5日×2単位＝15限×2単位＝30単位取得できるので、3年間で卒業単位は十分取得できる。

イ：教員勤務時間の使い方

→上記時間割を実現するためには、教員の勤務時間を、1～3限授業＋4・5限地域連携・資格支援・クラブ活動支援とする必要がある。

→教員の午後の学生指導・支援を可能にするためには、担当コマ数を6コマから4コマに減らす必要がある（カリキュラム改革＝科目の見直し・統合）。

*上記を可能にするためには、教員の勤務時間の改善が必要・・・9～5時は大学勤務。1～3限の授業時間割には文句を言わない。4・5限は、学生対応（資格講座等）と地域連携にあてる。4日勤務1日研修日制度は維持する。

d 学生支援センター

- ・学生支援センターSCS（Support center for students）の目的→学生の希望を叶える大学を実現するため、学生の相談にのり、学生のニーズ実現・問題解決の橋渡しを行うことを目的とする。
- ・SCSの機能→資格、学習（大学での勉強の悩み）、学生生活（サークル等）の3つの相談・支援（問題解決・橋渡し）を行う。
- ・ネットワーク形成→学生の相談に対応した解決を行う＜学生－SCS－教員（マンツーマン面談）・担当部門－教員の情報流通・問題解決のネットワーク＞を創る。
- ・案内の作成→学生支援センター案内（リーフレット等）を毎年作成し、配布する。
- ・推進組織→学生支援センターは、センター長＝教務学生課長、メンバーは教務学生課職員で構成する。相談員は教務学生課職員が当たり、相談・支援カード（仮）に記入し、ゼミ担当教員に送付するとともに支援（橋渡し）を行う。資格取得は、必要に応じて資格担当教員会議を開催する（方針、講座開講等）。SCSは、教務委員会、学生委員会の共管とし、教授会にはセンター長が報告。

e キャリアセンター

就職支援室をキャリアセンターに、次のように、改組・発展させる。

- ・キャリア科目の内容検討と推進→1～2年生のキャリア科目（キャリア開発Ⅰ、Ⅱ－1、2、現場体験プログラム）、3年生のキャリア科目（キャリア開発Ⅲ－1、2、インターンシップ）の内容、講師を検討し、推進する。
- ・キャリア科目シラバスの検討→キャリア科目のシラバスは、必要に応じて、担当教員に、講師や外部有識者（企業人事担当者、コンサル等）も加えて、検討する。
- ・学生の進路相談→ゼミと連携して、1～2年生の進路相談に取り組む。
- ・学生の就職相談→ゼミと連携し、3年生の就職相談（個人面談）を計画的に行い（進路アンケート、就職カード）、就職活動支援の充実を図る。
- ・就職活動支援→3～4年生の就職希望者には、情報提供（求人、合同企業説明会等）、就職エントリーシート指導、模擬面接指導、マッチングなど多面的な就職活動支援・指導を行う。
- ・就職活動情報の提供→年間計画、就職活動案内（リーフレット等）、企業現場見学、先輩の活躍状況など就職関連情報の充実を図る。
- ・推進組織→キャリアセンターは、センター長＝就職支援室長、メンバーは就職支援室職員で構成する。相談については、同職員及び外部依頼専門家が担当し、相談カード等に記入し、

結果はゼミ担当教員に送付する。就職委員会はキャリアセンター運営委員会に改組する。キャリア科目担当教員は同委員会委員として参加する。教授会にはセンター長が報告。

f 地域連携研究センター

地域連携研究センターは、上記の「第2：地域の課題解決に取り組む大学」と「第3：地域の生涯学習に貢献する大学」の諸事業を担う。

- ・年間地域課題調査研究テーマの設定→COC事業の場合と同様、今後も、年間のセンターとして取組地域課題テーマを設定し、産学連携チームで取組む。11月にその成果発表のシンポジウムを開催する。
- ・地域志向研究の継続→地域志向研究も継続して実施し、本学教員の課題解決の情報発信を充実させる。取組テーマに対応した多様な地域の方々が参加できる成果発表会を工夫して開催する。
- ・センター年報等の継続刊行→地域連携研究センター年報の継続刊行とともに、地域志向研究ブックレットの刊行も行う。
- ・地域連携事業の推進→地域活性化に向けた長岡市等との連携事業を今後とも、推進し社会貢献の充実を図る。この間の経緯から、起業家教育・起業家輩出の連携事業（本学の創業・女性セミナー含め）などは長岡大学の強みを発揮し、社会貢献できる事業であろう。他方で、この間取組んできた地域の活性化の活動（例えば、東山フォーラム等）は、今後の取組の具体化可能性を検討し、再設定する必要がある。
- ・市民公開講座の推進→市民公開講座はCOC事業を通じて、市民の生涯学習ニーズに応える講座として、復活・発展させることができた。これをさらに充実させるよう推進する。
- ・イノベーション人材養成講座の改革推進→受講者が少ない現状を、企業人の学習・人材育成ニーズを再把握し、企業人の生涯学習の仕組みを再構築する必要がある。また、事業承継と起業家養成のセミナー・支援の仕組みづくりに注力する。

3 組織の充実・強化について

- ・上記の方向を具体化するためには、教職員の主体性、積極性、意識共有が不可欠である。以前提起したFD/S Dの改善に、上記を加えて、組織の充実・強化を図る必要がある。

編集後記－平成 28 年度報告書の構成について－

平成 28 年度報告書をお届けします。本報告書は、平成 27 年度報告書と次のような諸点で異なる構成になっております。

- ・まず第 1 に、平成 28 年度から、本学の C O C 事業は、文部科学省の地方創生推進事業である「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）」に、文部科学省の指示により、参加することになりました。したがって、報告書名は、「長岡大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）平成 28 年度報告書」となりました。
- ・しかし、平成 28～29 年度の事業内容は、C O C 事業として展開しますので、C O C 事業と C O C + 事業が重なっている状態になりますので、次のよう表記することとしました。
- * 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学 C O C 事業（平成 25～29 年度）
- * 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）」（平成 28～31 年度）
- ・平成 28 年度報告書は、平成 27 年度版に比べ、次の章が加わっております。そのため、約 100 頁分増頁となりました。
- * < II 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）」への参加 >
これは、C O C + 事業への参加申請等の文書です。
- * < VIII C O C 事業の各年度評価（文部科学省への提出文書） >これは、文部科学省に提出した各年度の C O C 事業に関する評価等の文書です。
- * < IX 平成 28 年度評価 >これは、平成 28 年度に実施された C O C 事業の中間評価の書面・面接審査資料（提出）と評価結果についての資料です。本学の評価は B 評価でしたが、全面公開します。ご一読いただければ幸いです。

（文責：推進本部副本部長 原田誠司）

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学 C O C 事業（平成 25～29 年度）
文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（C O C +）」（平成 28～31 年度）

平成 28 年度報告書

【発行日】平成 29 年 3 月 28 日

【発行】長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部
長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町 8 0 - 8

TEL 0258-39-1600（代）

FAX 0258-39-9566

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

